

第335圖 ヤマハクカハチマミ



ヤマハクカ *Plectranthus inflexus* VAHL. の生長端部の葉，特に嫩葉が甚しく卷縮したものが之である。葉の裏面，稀には表面の皺褶間にはヤマハクカコブアブラ *Myzus plectranthio* SHIN. が寄生蕃殖してゐる。此のアブラムシの春，秋宿主は別種の植物で，ヤマハクカは夏季宿主と思はれるが，未だ春秋宿主は詳でないが，ヤマハクカ上に見られる時期は7月2)日頃より8月20日頃までの約1ヶ月間である。

第336圖 ヤマボクチハナヒラフシ



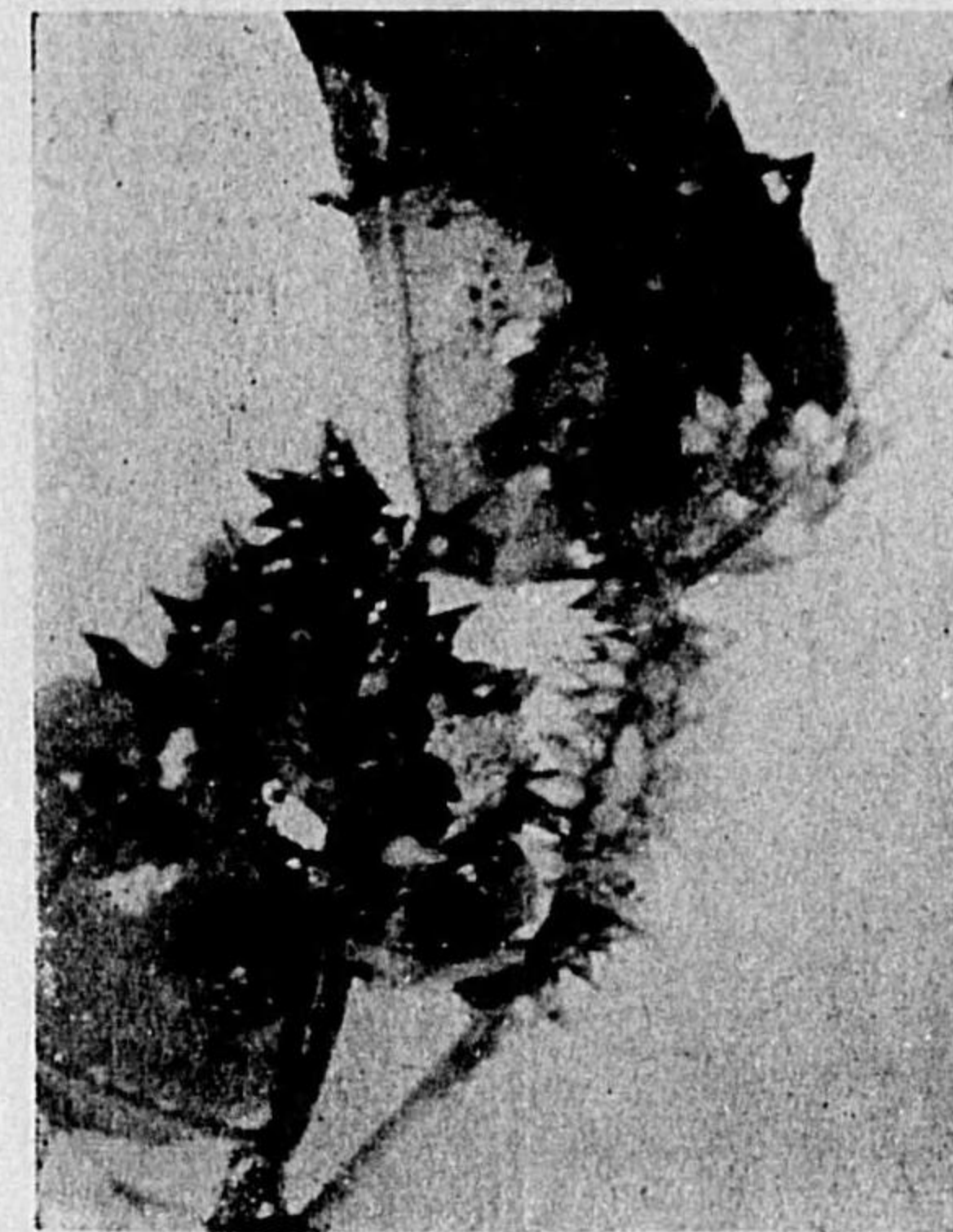
「ヤマボクチ」 *Centaurea atriplicifolia* DC. の花瓣のみの1個乃至數個に寄生する種である。寄生された花瓣は肥大して「スグリ」の實大の漿質蟲瘻となり，此準球状圓の頂點から避雷針状に1個の棘状體が突出して居る。日蔭に生ずる蟲瘻は綠色であるが，日當の良い場所に生じたものは赤色乃至紅色を呈する。表面は一般に平滑で，直径は8耗内外，高さは6耗，棘の長さ2耗，棘の色は蟲瘻のものと同じである。採集季節は8月乃至11月，幼蟲の有様で越冬する。

第337圖 ヤマナラシハクボミ



ヤマナラシ *Populus Sieboldiz* MIQ. の葉裏に蚜蟲科の1種ヤマナラシケアブラ *Chaitohorus yamanarashi* SHIN. が寄生するために形成されるところである。葉全體は裏面を内側として杯状をなして窪み且卷縮する。此の蚜蟲の無翅蟲は一般に煉瓦褐色であるが，多量の白色綿絮物を常に分泌するために一般には灰白色を添へてゐる。風通しの悪い場所に生育するドロに此種の蟲瘻が多く形成せられる。

第338圖 ヤマブダウエバウシフシ



ヤマブダウ *Vitis Coignetiae* PULLIAT. の葉の主として葉裏稀には葉表に形成される烏帽子形の小蟲瘻である。蟲瘻は表面平滑にして紅色を呈し高さ5耗内外，葉面に接する部分の底面の徑3.5耗を測り，壁は漿質にして1耗内外の厚さを有し，内部には縦走する蟲房がありて1頭の黄樺色なる瘻蠅科の幼蟲が棲んでゐる。幼蟲の有様にて地中に越冬し，翌年6月に羽化し出る。*Dasyneura vitis* O. S. によく似てゐる。

第339圖 ヤマブダウコブフシ



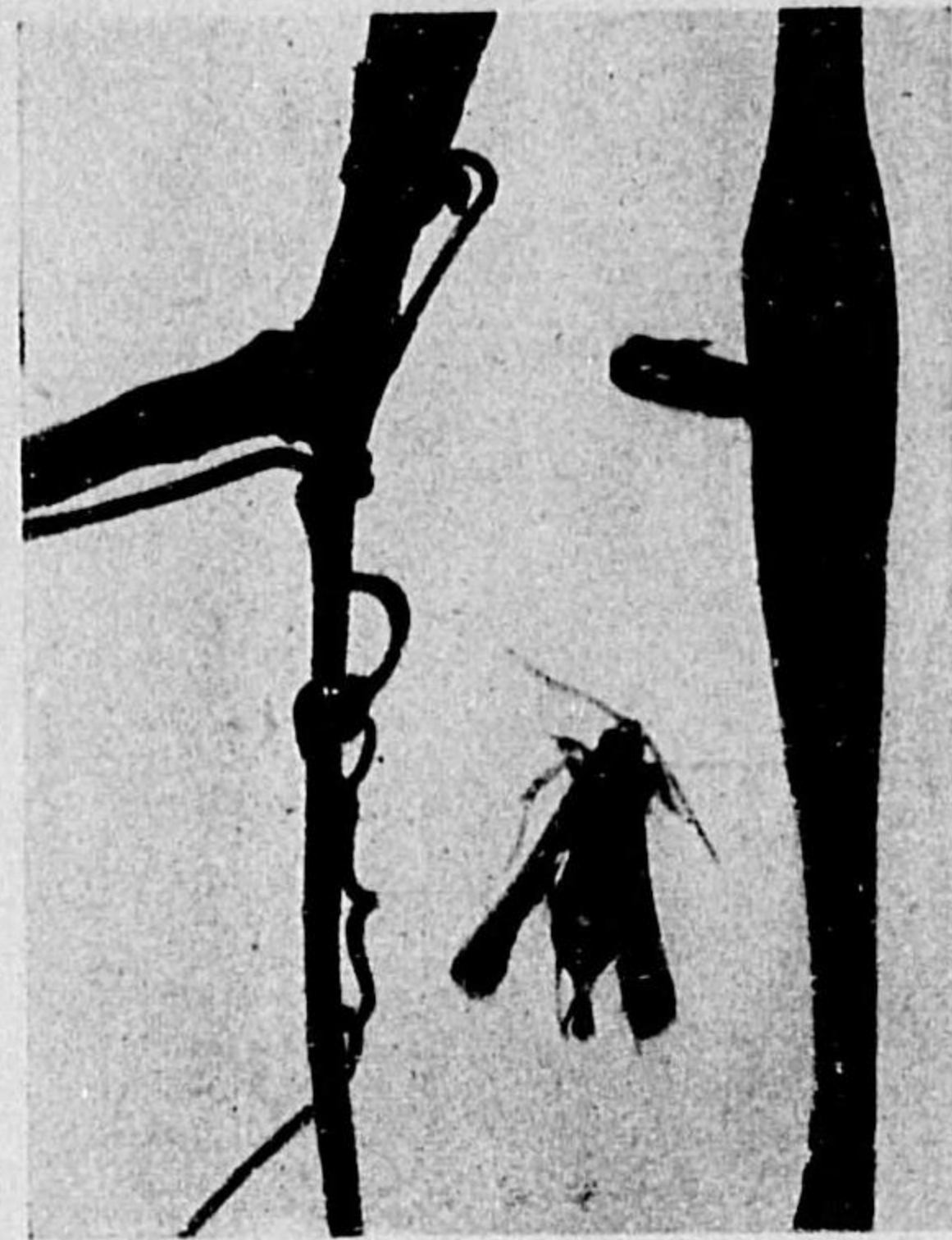
ヤマブダウ *Vitis Coignetiae* PULLIAT. の葉の表裏両面に亘つて形成せられる半球形の蟲瘻である。葉裏に突出する部分の先端は尖り且つ全表面が林檎色を帯びてゐる。之等蟲瘻は葉表面へは僅かに腫れ上る許りにして先端も尖つて居ない。8月には蟲瘻内の鮮赤色なる幼蟲は蟲瘻の先端部に1孔を穿つて脱出して地中に入り、其儘越冬する。本邦全土に互り汎く分布してゐる。

第340圖 ヤマブダウツルフレ



ヤマブダウ *Vitis coignetiae* PULLIAT. の蔓が一侧へ半球形状に膨れ出て形成したものである。大きさは形成されたる部分の蔓の肥厚如何によりて異なるが、小なるものにては短徑2.5 耗、長徑3.5 耗、著者の得た標本中の最大なるものは長徑6 耗短徑5 耗を測つてゐる。表面は平滑にして綠色、多くの場合には林檎紅色を呈してゐる。内肉は漿質性、内に稍髓性の白色部があり、これに1頭の赤色なる斑瘻蠅屬 *Dasyneura* sp. の幼蟲が住んでゐる。東京、靜岡附近で得られる。

第341圖 ヤマブダウスキフシ



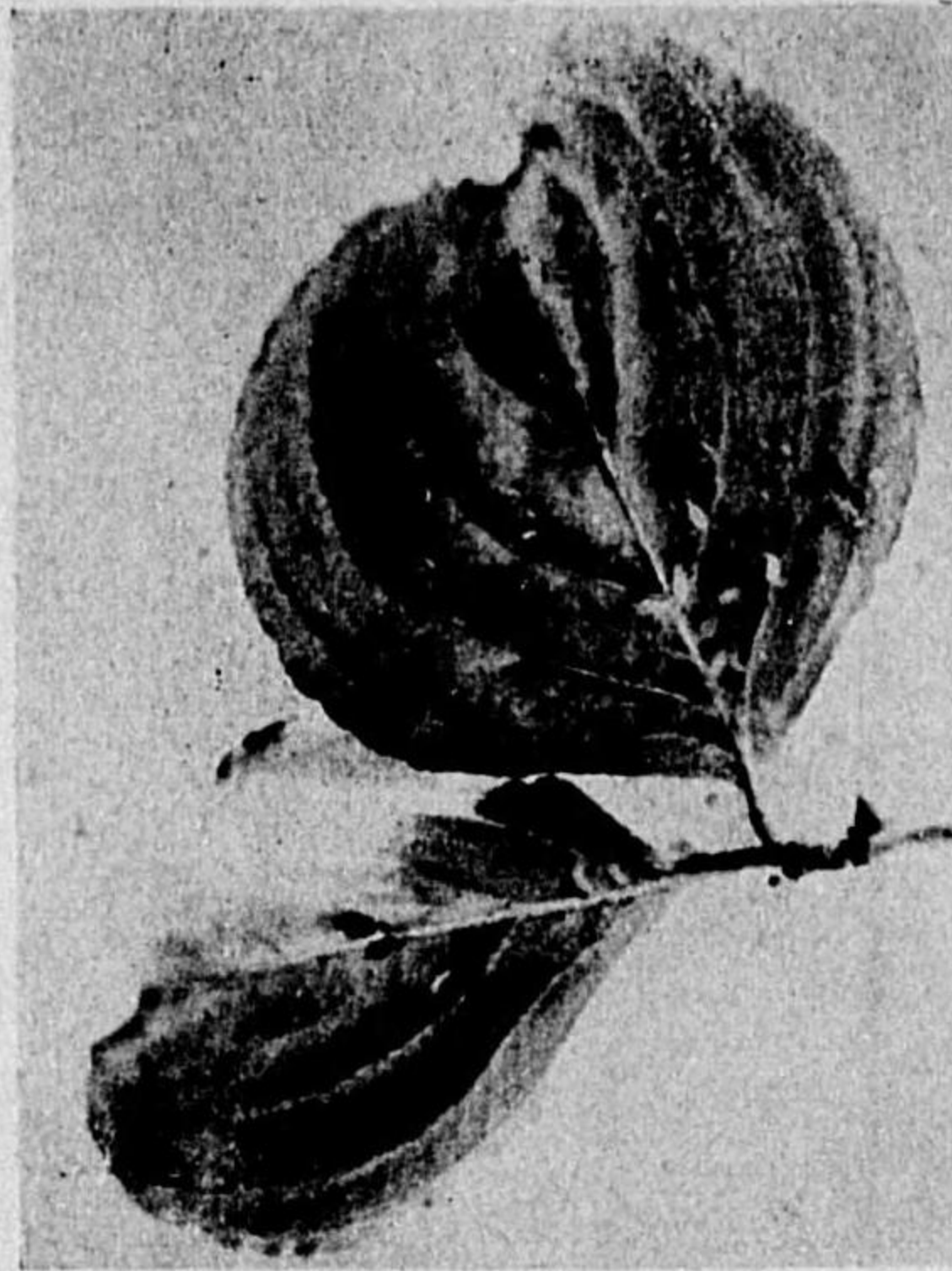
ヤマブダウ *Vitis coignetiae* PULLIAT. の蔓の節間部が長苞形に膨大したものが之である。蟲瘻は直徑普通には15 耗内外、長さ60 耗内外あり、内肉は5 耗内外の厚さにして其の内部は蟲房をなし、こゝに鱗翅目硝子蛾の1種の幼蟲が棲み、これは幼蟲態にて越冬し、翌年6月下旬にスカシバガとなつて羽化し出る。此の蛾はブダウスカシバガと同1種である。全国的の分布をなしてゐる。

第342圖 ヤマブダウツルフシ



ヤマブダウ *Vitis Coignetiae* PULLIAT. の蔓及び葉柄が不正形に膨大したもので、大なる蟲瘻は長さ20 耗、幅10 耗内外を測る。表面は平滑にして紅色若しくは綠色地に紅色を帯びてゐる。内壁は漿質性にして多量の汁液を含蓄し、其の所所に小形の蟲房が1瘻に數個あつて、各房に1頭宛の紅桿色なる幼蟲が居る。此の幼蟲は *Dasyneura vitis* FELT. の幼蟲で、共有様で地中に越冬し、翌年6月に成蟲が出現する。

第343圖 ヤマバウシハクボミ



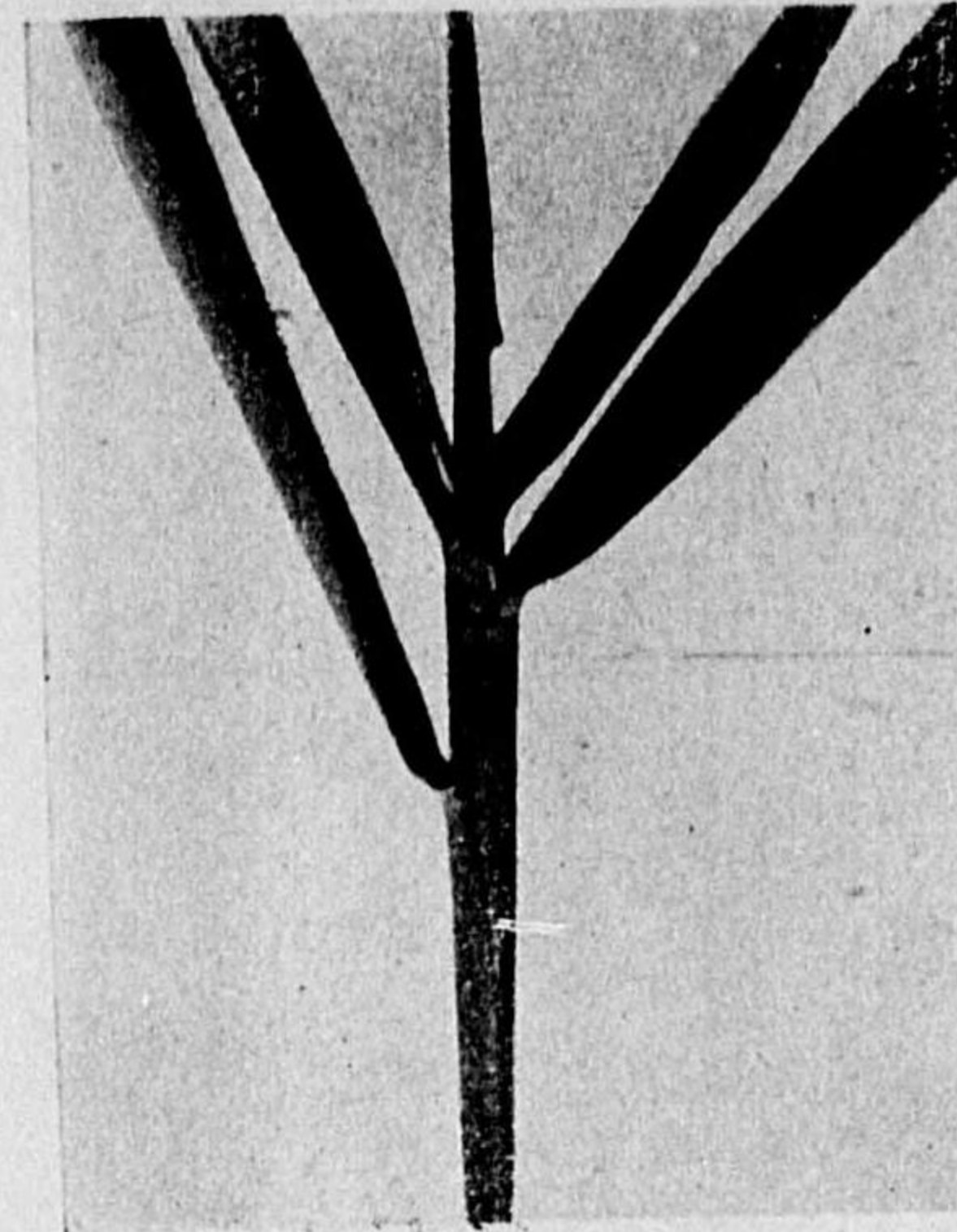
ヤマバウシ *Cornus Kousa* BU-
ERG. の葉の裏面が窪み且つ幾分縮
れたものである。此の種の葉裏には
淡緑色で半透明な大型の蚜蟲が多数
寄生してゐて旺んに稀薄な蜜様汁液
を分泌し、此の液には黒黴が発生し
て葉の呼吸を阻止し、樹木を枯死に
誘くものである。此の蚜蟲をヤマバ
ウシヒゲナガアブラ *Macrosiphum*
cornifoliae SHIN. と云ひ、全国的
の分布をなして居る。夏宿主がない
ので蚜蟲は春、夏、秋の3季を通じて
同1宿主上にて蕃殖するが故に樹木
の蒙る害は甚大である。

第344圖 ユキヤナギハマキ



ユキヤナギ *Spiraea Thunbergii*
SIEB. の葉特に生長端部の稚葉が
卷縮するのは、葉裏に小形で且つ淡
緑色であるリンゴアブラ *Aphis*
pomi DE. GEER が寄生し、蕃殖
してゐるためである。此のアブラム
シは單に葉裏のみならずして、花梗
にも花蕾にも群生する。また單にコ
ゴメウツギのみならず、ウツギ類、
ナシ、リンゴ等の果樹にも寄生して
大害をなすものであり、之が駆除法
として石鹼除蟲菊の合劑、デリス劑
又は單に煙草の煮出汁を稀釋して噴
霧するにある。

第345圖 ヨシシントメフシ



葦 *Phragmites communis* TRIN.
の生長端部が肥大して紡錘形の蟲瘻
となつたものである。内部にはヨシ
ハナバへ *Anthomyia* の幼蟲が1頭
棲み、この爲めに最先端部に生ずる
嫩葉は全く開舒するに先ちて枯死し
終ることが多いから此種の寄生が察
知され得る。年には1回の發生で、
蛹の状態で越冬し、翌年5月下旬に
成蠅が羽化し出る。北海道、九州、四
國、本州に分布してゐる。(p.313)

第346圖 ヨメナシントメズキフシ



ヨメナ *Aster indicus* LINNE'
の直立莖の末端が喰切られたるが如
くに生長しなくなり幾分肥大してな
れる蟲瘻である。表面は緑色の莖に
ありては緑色なるが多く、帯紅色の
莖にありては帯紅色なるが普通であ
る。此の蟲瘻は6月下旬より7月上
旬へかけて顯著であり、此の部には
縦に走る長さ10耗、幅4耗内外の
蟲房が1個あり、内に淡黄色の家蠅
の幼蟲が1頭棲む。この蛆には蟲瘻
から脱れ地中に入るものと、瘻内で
褐色の蛹に變じたまゝにて越冬する
ものがある。

第347圖 ヨメナハオクレ



ヨメナ *Aster indicus* L. の嫩葉が開舒期の前後に於て縦に巻き且つ縮れて相互に抱合してゐる。生長部の生長につれて各葉は徐々に分離するが、猶ほも縦に巻縮した儘になつてゐ、此の部分の褶皱間にはヨメナコブアブラ *Myzus astericola* SHIN. の白色幼蟲が繁殖してゐる。本邦全土に産し6月—10月に互り此の種の蟲癭は隨所に見られる。

第348圖 ヨメナハチバミ



8月以後ヨメナの生長端部の葉が甚だしく巻縮して糸状を呈するのは、此の縦に巻縮せる褶内に多数の葉蟬、多分ヨメナハダニ *Eriphyes opitholius* NAL. (?) が蕃殖して居るためであらう。東京地方にては陣馬山々麓地帯に此の種の蟲癭が見受けられる。

第349圖 ヨメナメフシ



ヨメナ *Aster indicus* LINNE' の葉腋に形成される。もと芽に發育すべきものがヨメナメフシタマバへ *Dasyneura procera* RÜBS. に寄生されて蟲癭化したものである。蟲癭は準球形にして表面は細毛を生じ、綠色、周囲よりは3、4個の小葉を生じてゐる。内部には1—3個の蟲房があり、各1頭の幼蟲が棲み、之は黄樺色である。本邦各地に分布してゐるが、東京附近に特に多産する。

第350圖 ヨモギエバウシフシ



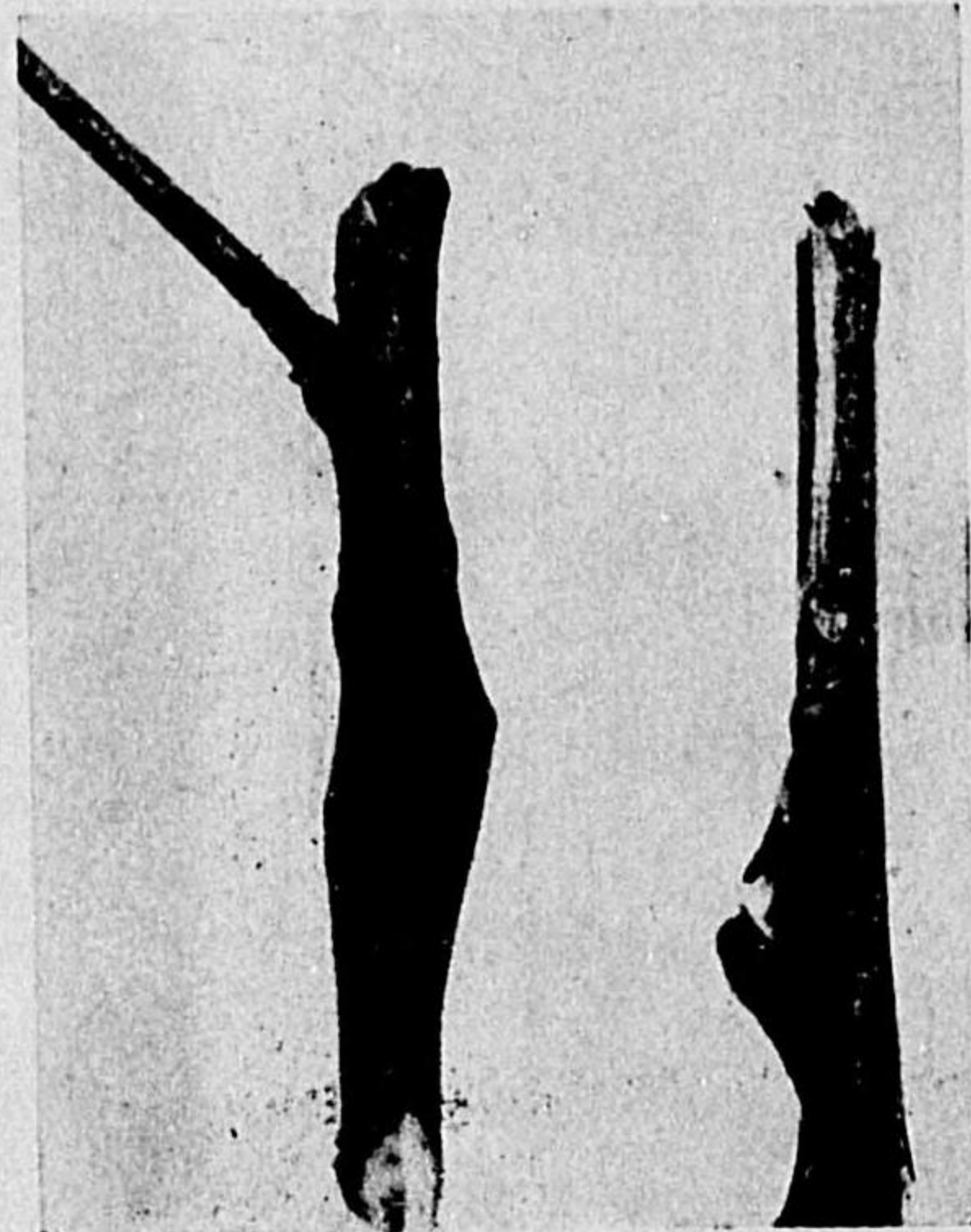
ヨモギ *Artemisia vulgaris* L. var. *indica* MAXIM. の葉裏及び葉縁に形成せられる鳥帽子状で幾分彎曲せる棘状乃至疣状の蟲癭である。蟲癭は高さ3—4耗、底部の直径3耗内外を測り、綠色乃至帶紅色にして表面には短毛を生じてゐる。蟲壁の厚さは約1耗にして中部は空室を成し、内に黄色なるヨモギエバウシタマバへ *Rhopalomyia foliorum* KIEFFER の幼蟲が1頭棲む。蛆の有様にて越冬し、翌春5月10日前後に蛆は蟲壁に穿孔して前半身を現はし直ちに羽化して成蟲となる。

第351圖 ヨモギシントメズキフシ



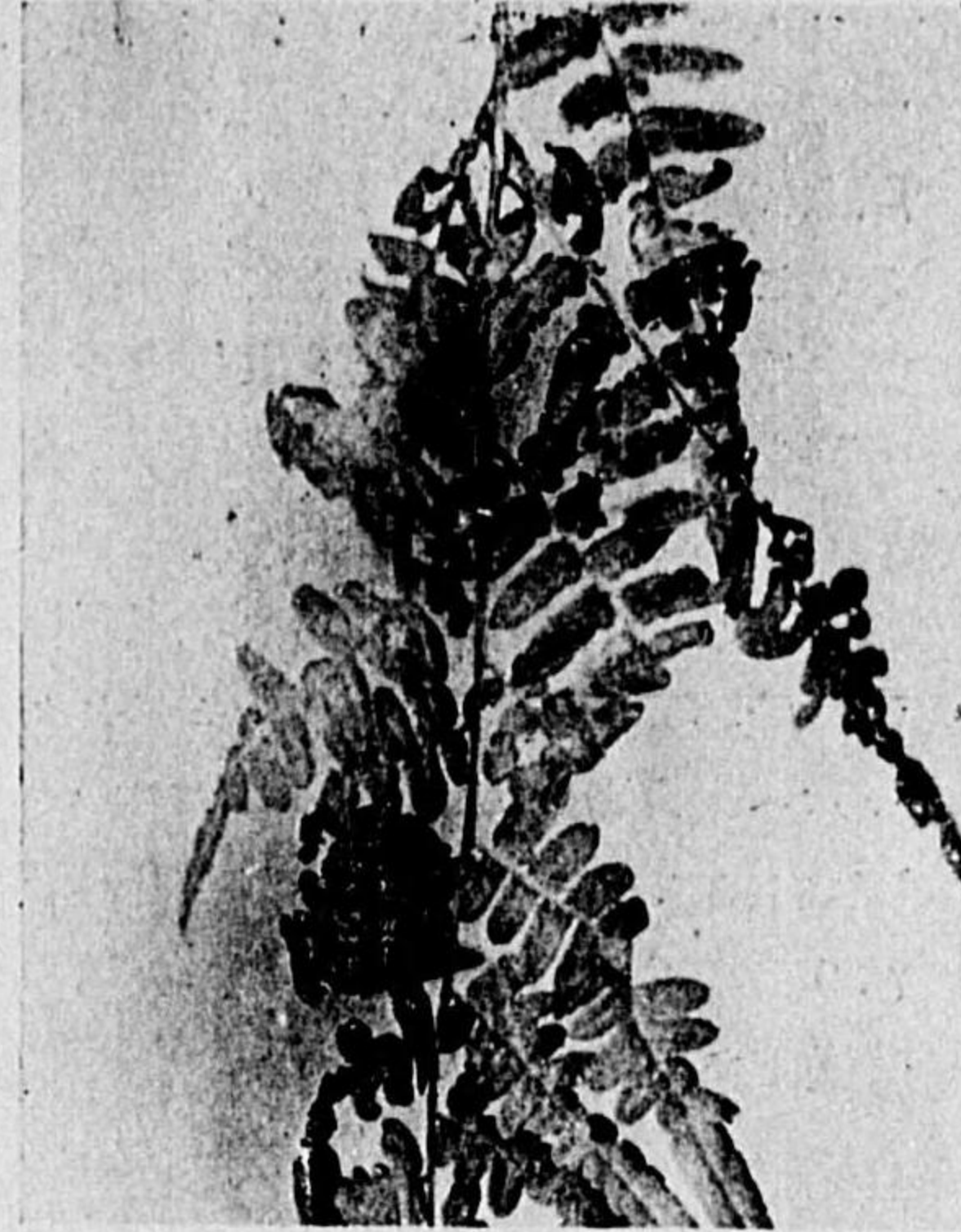
ヨモギ *Artemisia vulgaris* var. *indica* MAXIM. の生長端が出穂時代に枯死してゐるにもかゝらず、周囲の花穂は緑色を呈してゐるのでこの蟲瘻の存在は遠方よりも知られ得る。蟲瘻は準紡錘形にして両端が幾分細くなつてゐる。長徑 15 耗内外、内部なる蓬の髓質部は廣潤なる蟲房をなし、こゝには體は黄色、頭部は黒色なる蛾の幼蟲が1頭棲んでゐる。幼蟲の有様にて越年し、翌年5月に成蟲が現はれる。岩手、青森、宮城、東京、愛知、宮崎諸縣にて採集した。

第352圖 ヨモギカハズキフシ



「ヨモギ」*Artemisia vulgaris* LINNE var. *indica* MAXIM. 及び「ヲトコヨモギ」*Artemisia japonica* THUMB の莖が膨大して成れる蟲瘻にして、準楕圓狀乃至紡錘狀、長軸 20 耗内外、短軸 10 耗内外、表面は平滑にして帯紅色、一般に小葉を生じてゐる。門前氏は「ヲトコヨモギズキフシ」と「ヨモギズキフシ」との名を用ひてゐる。もと「ヨモギハナノミ」なる甲蟲が産卵寄生するによりて生じたもので、成蟲は純黒色である。

第353圖 ワラビハマキフシ



ワラビ *Pteridium aquilinum* KUHN. の葉の小葉が葉裏の方に卷縮し且つ其部分の葉脈が肥厚したるものである。蟲瘻の長さは 5—10 耗、幅 1 耗内外ある。内部に黄褐色の蛆がゐ、之はワラビタマフシ (*Porrissiafili*) *sinaüt* KIEF. である。幼蟲は7月上旬に地中に入り、其儘越年する。各地に普通である。

第354圖 ヨモギクキズキフシ(蓬莖髓瘻)



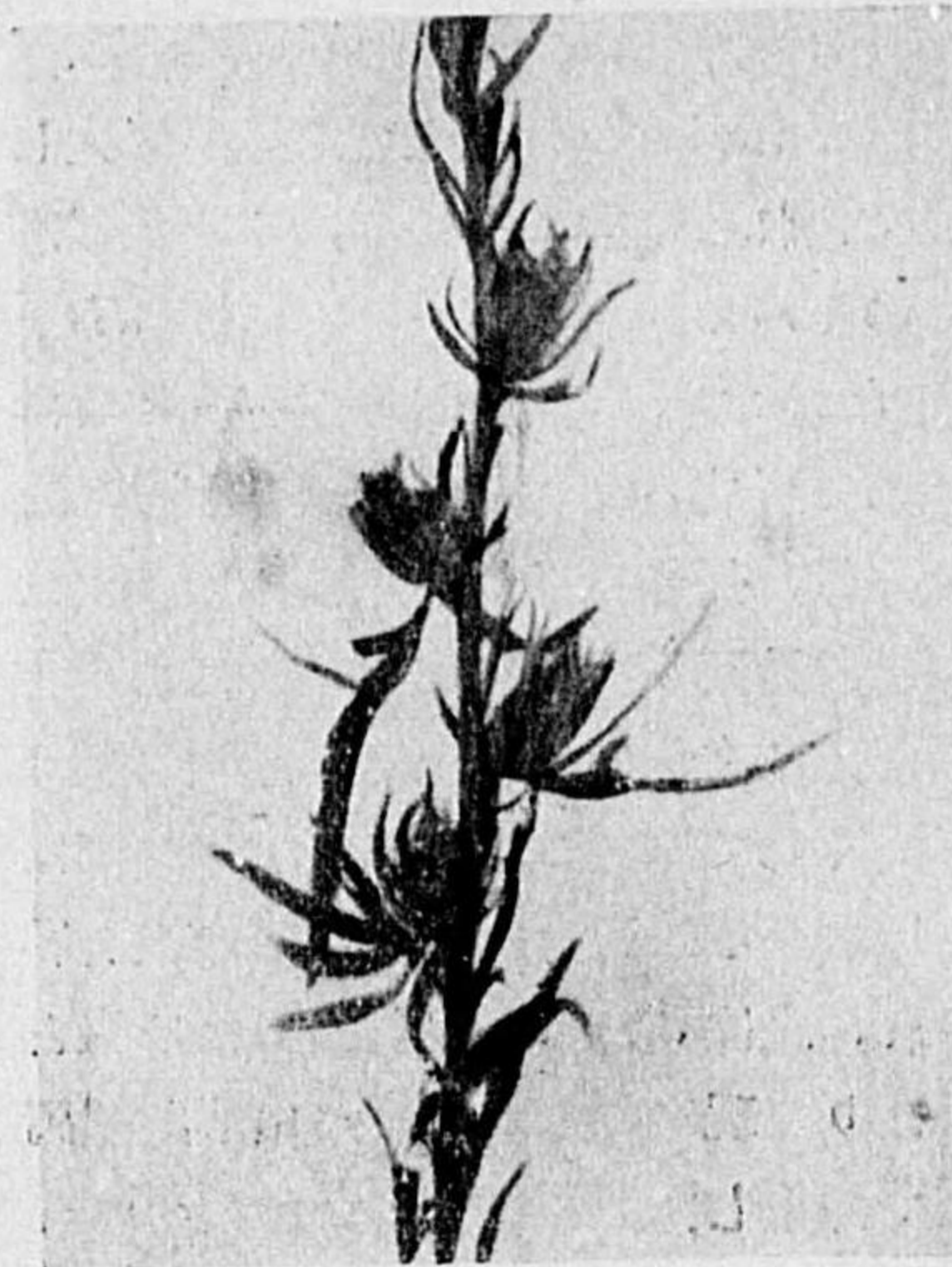
ヨモギ *Artemisia vulgaris* L. var. *indica* の地上直立莖が膨大してなれる蟲瘻であつて、もと果實蠅のキバネマダラバへ *Tephritis fluvimaculata* SHIN. が寄生するために形成される。蟲瘻は直徑 10 耗内外、長さ 18 耗内外にして表面は緑色乃至は少しく赤色又は紅色を帯び、蒼白色の長き毛茸を密生し壁は薄くして厚さ 2 耗を出せず、内部は廣潤なる蟲房をなして1頭の蛆を容れ、之は8月10日前後には成蟲となりて現はれる。盛岡、山形、静岡で採集した。

第355圖 ヨモギシロケフシ



ヨモギ *Artemisia vulgaris* L.
var. *indica* MAXIM. の葉裏特に葉脈上に生ずる球形灰褐色の蟲癭である。これは直径8耗内外を測り、外部には蒼白色の毛茸を密生して蒼白色觀を與へる。毛茸内には核の如き蟲癭があり、之の壁は1耗内外の厚さを有し内に1頭の黄色なる蛆が棲む。此の蛆は瘦蝨の1種ヨモギケタマバへ *Rhopalomyia buccarum* WACHLT. であり、年には6月及び9月の2回の發生をする。各地に普通である。(p.337)

第356圖 ヨモギマルツボフシ



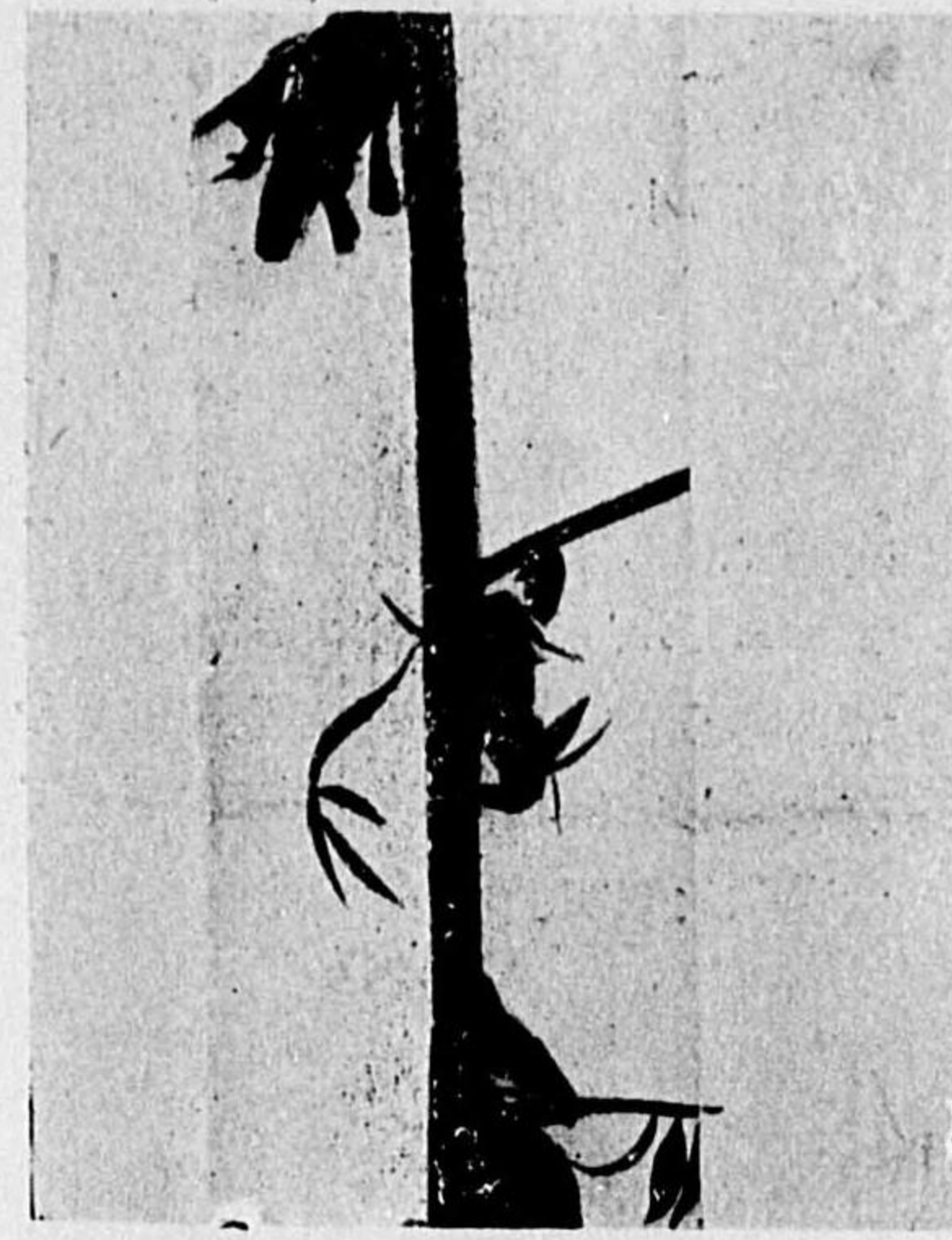
ヨモギ *Artemisia vulgaris* L.
var. *indica* MAXIM. の葉腋に生ずる壺形の蟲癭である。これはもと芽に發生すべき蕾の中にタマバへの1種が卵子を各1個づつ産付し、これより孵化し出た幼蟲が内部の蟲室の底部に棲むために形成せられたものであるが、ナガツボフシ、ツボフシ等のタマバへと異りこれはマダラバネ屬 *Dassyneura* のものであるのは奇異とするところである。蟲癭は6月中には緑色であるが、7月下旬に蛆が成蟲となつて脱出した後には褐色に變ずる。盛岡市の郊外瀧澤で採集した。(p.332)

第357圖 ヨモギワタフシ



ヨモギ *Artemisia vulgaris* var. *indica* MAXIM. の地上主莖竝に側枝面上に生ずる徑1輦乃至25耗大の球形にして白色綿絮物にて蔽はれたる蟲癭である。此の綿塊の中下部にして蟲癭が莖面に接する部分は厚き準木質部をなし、其の内部には1乃至數頭の黄色なる幼蟲が棲む。これはヨモギワタタマバへ *Rhopalomyia lutkemulleri* THOMAS の幼蟲にして7, 8, 9の3箇月間には羽化して成蟲となるが、6月25日以後のものは幼蟲態にて越年し、翌年5月15日前後に羽化し出でて産卵する。

第358圖 ヨモギツボフシ



「ヨモギ」*Artemisia vulgaris* L.
var. *indica* の莖の葉腋に生ずる。即ち稚芽の變形したのものにして壺形、高さ15耗内外、大なる直径は7耗内外を測り、下端部即ち莖に接する部分は閉ぢ、末端部には白色の毛茸が多數に生じて中腔の幼蟲房を閉鎖し、壁は2耗内外にして内部には幼蟲室(蟲房)があり、こゝに通常1個の黄色なる幼蟲即ちヨモギツボタマバへ *Rhopalomyia tubifer* KIEFFER が棲む。年には4月10日前後と9月1日前後との2回に發生をなす。蟲癭の表面は緑色。

第359圖 ヨモギイボフシ



ヨモギ(蓬) *Artemisia vulgaris*
LINNE の主莖乃至側莖の皮面に形成せられる直徑 3 耗乃至 5 耗大の球形の蟲癭である。蟲癭は一般に綠色地に紅色味を帯び髓質部は準漿水性で柔く、質内に 1 乃至數個の幼蛆を含む。蟲癭はまた屢々裂開して髓質部を曝晒し、此部は黃褐色を帯びる。全國的に極めて普通の種にして、6 月より 11 月に亘りて蟲癭を採集し得べく、7, 8 兩月間に採集するものは數日にして成蟲を生ずるが、10 月初旬以後に採集する蟲癭は皆幼蟲のみを含む。

第360圖 ヨモギシロケフシ



ヨモギ *Artemisia vulgaris* var. *indica* の葉裏に生ずる。徑 1.5 耗内外を測る小形圓形の蟲癭にして綠色、表面には銀白色の毛茸を密生して白色觀を呈してゐる。壁薄く、内部には長楕圓狀の癭蠅が棲む。此の癭蠅は恐らく歐洲産のヨモギチビフシダニ *Eriophyes artemisiae* CAN. であらうと察せられる。全國的の分布をなしてゐ、8 月—10 月に亘りて大發生をなす。

第361圖 ヨモギナガツボフシ



ヨモギ *Artemisia vulgaris* L. var. *Indica*. の葉腋に生ずる。もとヨモギナガツボタマバへ *Mesopatha* (*Rhopalomyia*) *longitubific* SHIN. の幼蟲が葉腋の芽の部に寄生したために形成されたもので、蟲癭は長さ 20 耗内外、幅 7 耗内外、表面には微細な葉が幾つか生じてゐる。綠色で壁は約 1 耗厚く、木質で、内部には底部より末端まで走る蟲房があり、其の末端は開口してゐ、毛茸が生じてゐて塞いでゐる。幼蟲は赤樺色、7 月より 8 月にかけて成蟲となつて現はれる。(p.337)

第362圖 ヨモギハチバシ



ヨモギ(蓬) *Artemisia vulgaris* var. *indica* MAXIM. の嫩葉が卷縮し且つ捻旋し、加之、色彩も一般に紅色を帯びたものである。もとヨモギクダナシアブラ *Cryptosiphum gallarum* KALT. と云ふ蚜蟲が葉裏に寄生するために形成されたものである。此の蚜蟲は歐羅巴及び亞細亞に汎く分布し、晩春の候より蓬の生長端部の葉裏に寄生し、晩秋 10 月初旬には雄と産卵性の雌蟲とが出現し、其結果雌蟲は蓬の地に接する莖上に産卵し、卵は中春に孵化して幼蟲となり、次で成蟲となる。

第363圖 ヨモギハチビミ (蓬葉卷縮)



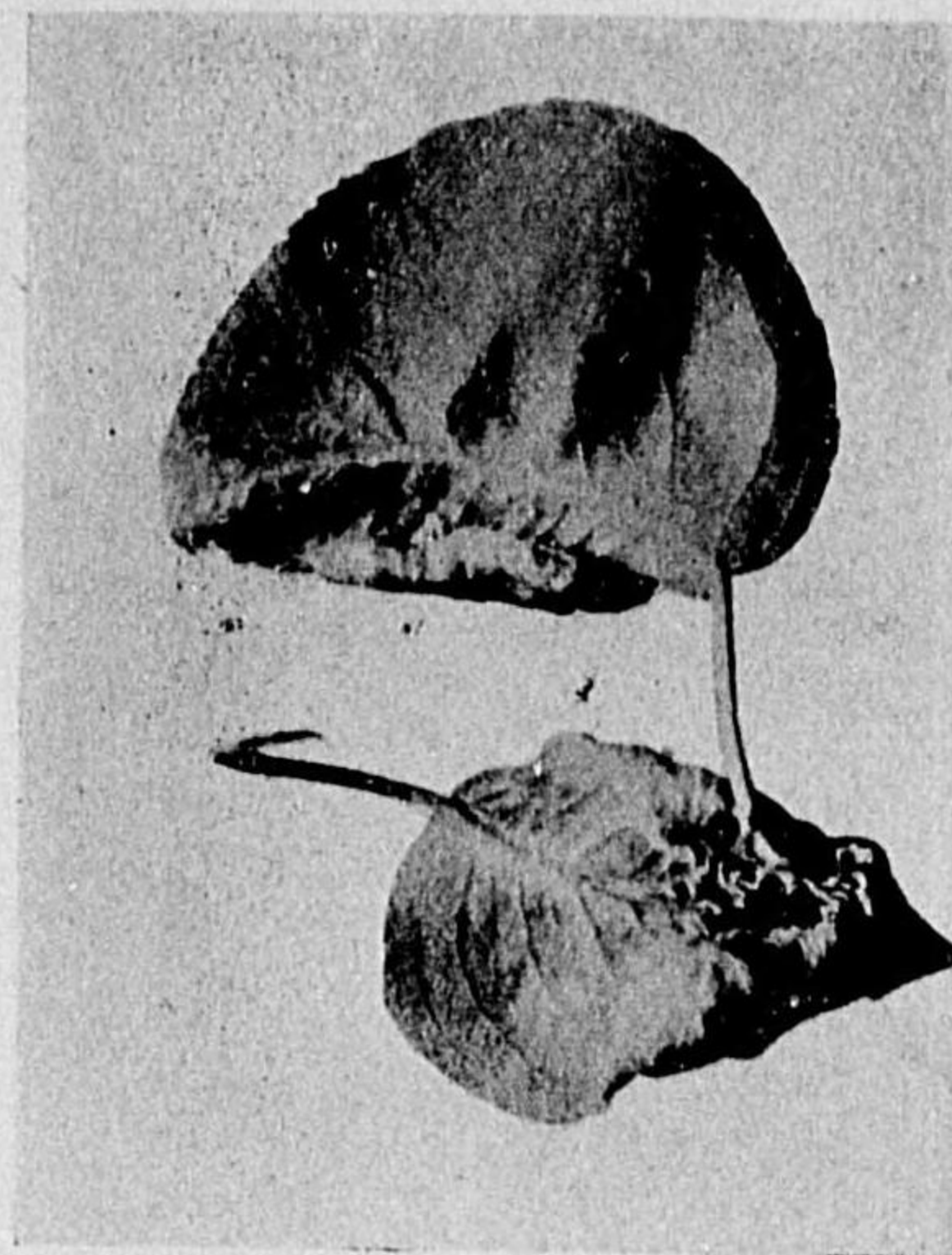
ヨモギ *Artemisia vulgaris* L.
var. *indica* の葉の表面の部の縁が裏面の方へ折れ曲り、且つ全葉身が収縮して充分に發育を遂げ得ず収縮し、その爲めに全葉が卷縮状態を呈するに至り、蓬本來の葉の状態を呈してゐる下位の健全葉と對照して奇觀を呈するものである。葉裏特に中筋に沿うては多數の綠色乃至綠色地に白粉を裝着してゐる蚜蟲が寄生してゐる。此のアブラムシはヨモギアヲヒメヒゲナガアブラ (蓬青姫長角蚜) *Mderosiphonielle yomogifoliae* SHIN. である。

第364圖 ヨモギナガスキフシ



「ヨモギ」*Artemisia vulgaris* L.
var. *indica* MAXIM. の直立莖の1部が肥大膨厚して準卵狀乃至紡錘形の蟲癭を成したものである、成蟲の出現は6月1日前後にして、蟲癭の1側に穿孔して出て来る。蟲癭は長楕圓形にして中空、長徑27耗内外、短徑7耗内外、表面には毛茸を生じ、内部は廣潤なる蟲房をなし、こゝに蛾の幼蟲が1頭棲む。東北地方に稀でない。

第365圖 リンゴハマキフシ

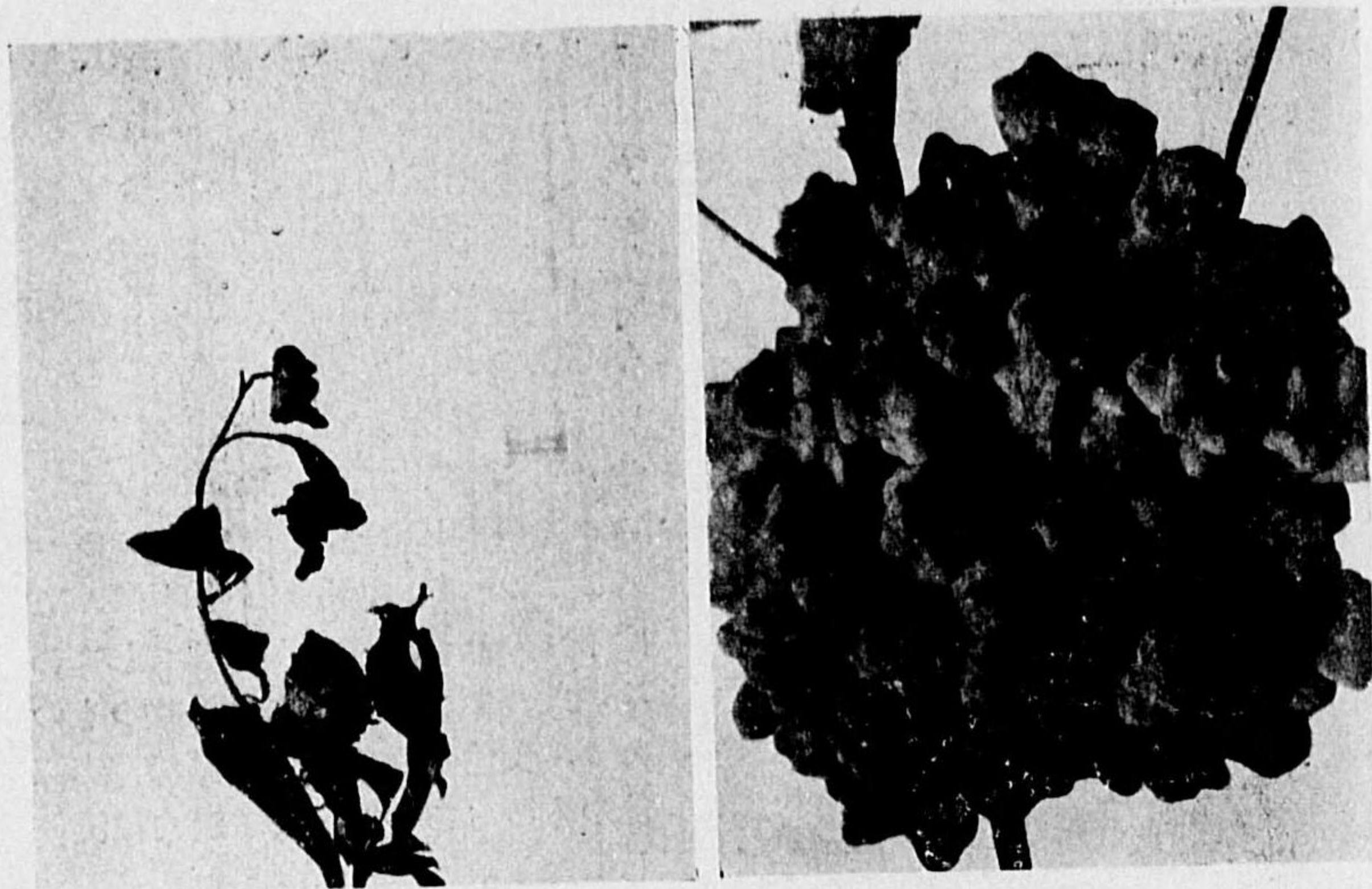


リンゴ *Malus pumila* MILL. var. *domestica* SCHM. の葉が葉裏上へ折れ重なり肥厚した蟲癭であり、折り返されてゐる部分は葉縁に沿ふ數耗部域である事があり、或は葉身の1半部なる事もあつて一定してゐない。折り重なつた葉縁部は全く癒着せずして内部に寄生蕃殖するアブラムシを包覆してゐ、此等コツホマルアブラ *Anuraphis kochi* KALT は子孫の若干を縁部から現はしてゐる。此のアブラムシには綠色のものあり、黄色のものあり、更に帶赤樺色のものもあつて、皆1癭内に混棲してゐる。

第366圖 ワラビハベリフシ



ワラビ *Pteridium aquilinum* KUHN. の小葉の基部にして一般には下方の葉縁が小葉筋に沿うて巻き込まれて成れる蟲癭が之れである。蟲癭は楕圓形にして米俵形、長さは幅の約3倍長、表面は平滑にして黒色であるから葉の他の部分が綠色なるに對照して顯著であるが、大きさは長徑8耗内外、短徑4耗内外であり、内部には蟲房があり、黄色なる蠅の幼蟲が棲んでゐる。未だ成蟲を得ないので種の同定はできてゐない。6月30日前後に成蟲が羽化し出る。



第三篇 蟲癭形成昆蟲の地位

動物界は一般に下記 12門 に大別される：

- 第 1 原生動物門 Phylum 1, Protozoa 例, アメーバ・ザウリムシ
 - 第 2 海綿動物門 Phylum 2, Porifera 例, アミツボ・ツリガネ・モク
ヨクイメン
 - 第 3 腔腸動物門 Phylum 3, Cnidaria 例, ヒドラ・クラゲ・イソギ
ンチャク
 - 第 4 有櫛水母門 Phylum 4, Ctenophora 例, カブトクラゲ・オビク
ラゲ
 - 第 5 蠕形動物門 Phylum 5, Scolecida 例, プラナリヤ・條蟲・蛔蟲
 - 第 6 體節動物門 Phylum 6, Annelida 例, ゴカイ・ミミズ・ヒル
 - 第 7 擬軟體動物門 Phylum 7, Molluscoidea 例, クサゴケ・ハウキム
シ
 - 第 8 棘皮動物門 Phylum 8, Echinodermata 例, ウニ・ナマコ・ヒト
デ
 - 第 9 軟體動物門 Phylum 9, Mollusca 例, ツノガヒ・ホラガヒ・カタ
ツムリ
 - 第 10 節足動物門 Phylum 10, Arthropoda 例, カニ・イナゴ・ムカデ・
クモ
 - 第 11 毛顎動物門 Phylum 11, Chaetognatha 例, ヤムシ
 - 第 12 背索動物門 Phylum 12, Chordata 例, 魚・鳥・獸
- 即ち昆蟲は蟹・蜘蛛等と共に節足動物門に屬してゐる。

第一 節足動物の類縁關係

節足動物とは體が 20 節以下の異規的環節より成りて兩側相稱であり且つ各體環節は概して相稱的に 1 對の附屬肢を有し、附屬肢は有節にして幾つかの部分に屈折せられ得る動物である。節足動物門は他の動物門とは上記の特徴によりて次表の如くに區別せられ得る。

1. 動物界各門の檢索表

(此の表竝に本書中隨所に掲げる檢索表は總べて特徴の有無を對照して作製したものなるが故に、使用に際しては、先づ第 1 行目の 1a 行より読み初め同時に同定せんとする動物が其の特殊特徴を有するや否やを検す可きであつて、若し記載されてゐる特徴が其の動物に見出される時は其の動物は其末端に記されてゐる動物部門のものであるか、乃至其特征を有する部門の 1 であることが知れる。此場合には行末に 2, 3 等の數字が記してある故に、其の數字下の行へ移つて読み続け、最後に部門名の記しあるに至つて其の部門のものであると同定すればよいし、また 1a 下の特徴を有せざる場合には、其の反對なる特徴を有する 1b に移り其の行末に記載されてゐる部門名を見出すまで前記の方法によつて實物を檢して行けばよいのである。)

- 1a 單細胞其のものにして組織的分化が認められ得ない……原生動物門
- 1b 多細胞より成り、組織的に分化してゐる……2
- 2a 背索を有してゐる……背索動物門
- 2b 背索が無い……3
- 3a 2 層を成して配列する細胞より成つてゐる……4
- 3b 3 層を成して配列する細胞から成つてゐる……5
- 4. 體は多數の小孔を有し、海綿質又は骨片を具へてゐる……海綿動物門

- 4b 體は 1 個の孔を有し、海綿質又は骨片を具へない……腔腸動物門
- 5a 體は胸鰭と尾鰭とを具へてゐる……毛顎動物門
- 5b 體は胸鰭も尾鰭をも具へてゐない……6
- 6. 體は放射相稱にして棘狀の外骨骼を具へてゐる……7
- 6b 體は兩側相稱にして棘狀の外骨骼を具へない……8
- 7a 體には概ね 8 經線に沿つて楕狀體が具はつてゐる……有櫛水母門
- 7b 外骨骼は棘狀を呈し、楕狀體を具へてゐない……棘皮動物門
- 8. 體には外套膜と介殼若しくは骨片が存在してゐる……軟體動物門
- 8b 體は外套膜と介殼若しくは骨片とを缺いてゐる……9
- 9a 體は環節を示してゐる……10
- 9. 體は環節を示さない……11
- 10a 體は多數の同規的環節より成り、環節は有節附屬肢を缺いてゐる……體節動物門
- 10b 體は異規的環節より成り、環節の附屬肢は有節である……節足動物門
- 11a 口と肛門とは相接近して體外に開き、口縁には觸手がある……擬軟體動物門
- 11b 體腔は狭小にして、口縁には觸手が無い……蠕形動物門

2. 節足動物相互間の類縁關係

節足動物門は 1. 甲殼綱 Class I Crustacea 2. 蜘蛛綱 Class II Arachnoidea 3. 有爪綱 Class III Onychophora 4. 多足綱 Class IV Myriapoda 5. 昆蟲綱 Class V Insecta に分類 Classify されてゐ、次記檢索表によりて夫々識別され得る。

節足動物の分網表

- 1. 鰓にて呼吸する……甲殼綱

- 気管にて呼吸する……………2
 2. 觸角がある……………3
 觸角が無い……………蜘蛛綱
 3. 成蟲の體は頭・胸・腹の3部に分割されてゐる……………昆蟲綱
 成蟲の體は頭及び胴の2部分に分れてゐる……………4
 4. 體節動物に於ける如くに各體節に體節器(腎管)がある……………有爪綱
 所謂體節器なるものが無い……………多足綱

第二 蟲瘦昆蟲類の分類

昆蟲綱の目への分類法は Packard, Riley, Comstock, Sharp, Imms, Crapton, Woodworth, Kellog, Handlirsch 皆其の軌を1にせざれども、多くは原始的なるものの分類の精粗如何によるものにして、蝶・蛾の類を鱗翅目、甲蟲類を鞘翅目とするが如き所謂主要群の分類に関しては殆んど異なる所がない。本書に於ては Comstock, Woodworth, Kellog 及び Imms 氏の長短を參酌取捨して下記 22 目制を採用することとした。

第一 無翅亞綱 SUBCLASS APTERYGODA

此の類は元來よりの無翅蟲にして、翅を有したる形跡すらも認め得ない。著しき變態をしない。

- 第一 衣魚目 Thysanoptera……………シミの類
 第二 彈尾目 Collembola……………トビムシの類

第二 有翅亞綱 PTERYGOTA

成蟲は有翅なるか若しくは翅が幾分乃至全く退化したる類であり、變態は完全若しくは不完全である。

(イ) 外翅類 翅は最初より幼蟲體の外部に發生し、變態は不完全である。

- 第三 直翅目 Orthoptera……………イナゴ・バッタ・ケラ・カマキリの類。
 第四 疊翅目 Dermaptera……………ハサミムシの類。
 第五 積翅目 Plecoptera……………カハゲラの類。
 第六 等翅目 Isoptera……………シロアリの類。
 第七 嘴蟲目 Psocoptera……………チャタテムシの類。
 第八 羽蝨目 Mallophaga……………ハジラミ・ケジラミの類。
 第九 蝨目 Siphunculata……………シラミの類。
 第十 蜉蝣目 Ephemera……………カゲロフの類。
 第十一 蜻蛉目 Odonata……………トンボ・ヤンマの類。
 第十二 總翅目 Thysanoptera……………アザミウマの類。
 第十三 口吻目 Rhyachota……………カメムシ・ウンカ・アブラムシの類。

(ロ) 内翅類 翅は内積析法によりて先づ體内に發生し初め、變態は完全である。

- 第十四 脈翅目 Neuroptera……………クサカゲロフ、ウスバカゲロフの類。
 第十五 蝸蟲目 Mecoptera……………シリアゲムシの類。
 第十六 先翅目 Trichoptera……………トビゲラの類。
 第十七 鱗翅目 Lepidoptera……………テフ、ガの類。
 第十八 摺翅目 Strepsiptera……………ネヂレバネの類。
 第十九 膜翅目 Hymenoptera……………ハチの類。
 第二十 雙翅目 Diptera……………カ、ハエ、アブの類。
 第二十一 微翅目 Aphaniptera……………ノミの類。
 第二十二 鞘翅目 Coleoptera……………カミキリ・ハムシの類。

第三 首目 SUPERORDER

目中の関係深きものを類別して首目となす事がある。昆蟲綱の首目は概しても Sharp が目となせしものにして、共數 10 内外なれば、初學者には先づ之より分類するを便とし従つて中等學校の教科用書等に「類」として採用せられてゐる所である。依つて本書に於ては之れを分類の基礎とし、次で 22 目制を採らんとした。次に記す検索表に於ても對照式を採用してゐる故に、讀者は先づ 1 の最初の行より読み初め、其の行に記せる特徴を讀者の識らんとする標本に見られ得るや否を檢されたい。若し讀者の手にしてゐる標本が第 1 行の記事に合致する特徴を有してゐるならば、其の標本は其の行乃至記事の末端に記してある首目のものであるか、若しくは其の終りに記してある數字下に顯はれる首目のものであるが故に、其の數字下の記事に移つて檢し行き、行末に首目名が表はれるを俟つて、其の首目の昆蟲と同定す可く、また、最初の行に記せる特徴を有せざる事を知る時は、第二行即ち第一行の對照行を読み續けて、最後に、行末に首目名を見出すに及んで、其首目のものと同定すればよいのである。

(1) 昆蟲綱の首目の検索表

- 1 のイ 無翅にして第一腹環節に腹管を有するか、若しくは咀嚼口を有し且つ體には鱗を着けてゐる。(無翅亞綱)……………無翅首目 Aptaera
- 1 のロ 有翅、若しくは無翅にして腹管を缺き且つ體鱗を有するものは咀嚼口具を有しない(有翅亞綱)…………… 2
- 2 のイ 翅は 2 對とも膜質にして上下運動にのみ適してゐる……………蜻蛉首目 Odonota
- 2 のロ 翅は上下竝に斜にも動き、翅なき個體にあつては前胸部の前背板は中背板と密接に癒合してゐて頭部とは明かに分離してゐる…………… 8
- 2 のハ 前・中の兩背板は癒合せず、胸部は頭部に密着してゐる…………… 3

- 3 のイ 口具は吸収刺通に適してゐるか、若しくは缺けてゐる……………
……………口吻首目 Rhynchota
- 3 のロ 口吻は咀嚼に適してゐる…………… 4
- 4 のイ 前胸背板は頭部よりも短いか、若しくは長くして有翅且つ翅は膜質である…………… 6
- 4 のロ 前胸背板は頭部と同長、若しくはより長くして且つ前翅は肥厚してゐる…………… 5
- 5 のイ 腹環節の背板は胸板よりも幅大である……………直翅目 Orthoptera
- 5 のロ 腹環節の背板は胸板よりも幅が狭い……………鞘翅目 Coleoptera
- 6 のイ 觸角は前肢よりも短い……………蜻蛉首目 Ephemera
- 6 のロ 觸角は前肢よりも長きか同長である…………… 7
- 7 のイ 附節は 5 節より成るか若しくは 5 節以下より成り、後翅は前翅に等しきか又は大にして變態は完全である……………
……………脈翅首目 Neuroptera
- 7 のロ 附節は 2~4 節よりなり變態は不完全である……………
……………嚙蟲首目 Psocoptera
- 8 のイ 體は鱗を着けてゐる……………鱗翅首目 Lepidoptera
- 8 のロ 體は鱗を缺き、有毛又は無毛である…………… 9
- 9 のイ 4 翅を有するか、無翅ならば咀嚼口具を有する……………
……………膜翅首目 Hymenoptera
- 9 のロ 2 翅若しくは無翅にして咀嚼口を有しない……………雙翅首目 Diptera
- 以上の首目中、蜻蛉・鞘翅・膜翅の 3 首目は各々僅かに 1 目より成つてゐるが、他の首目は次記検索表によりて更に目に分ち得られる。
- (2) 昆蟲の目の検索表
- イ 無翅首目の分目表

1のイ 腹部には突出する吸盤を具へ、尾端には1箇の剣状跳躍器がある.....彈尾目 C. lembola

1のロ 腹部には吸盤を缺き、尾端には鞭状の附屬器がある.....衣魚目 Thysanura

ろ 直翅首目の分目表

1のイ 翅には縁毛を有し、肢端には爪の代りに1種の吸盤を具へて所謂胞脚をなし、上顎の1方のものは針状體化してゐる.....總翅目 Thysanoptera

1のロ 翅は縁毛を缺き、肢端には1個1對の爪を具へ、上・下の兩顎は針状體化してゐない.....2

2 前翅は短くして體の半長に達せず、後翅は静止時には扇狀に疊まれて前翅下に隠蔽せられ、尾端には1對の鈎狀體を具へてゐる.....疊翅目 Euplexoptera

2のロ 前翅は一般に長く、後翅は縦に疊まれて層斜狀に置かれる前翅下に保たれ、尾端の附屬體は鈎狀でなひ.....直翅目 Orthoptera

は 口吻首目の分目表

1のイ 無翅にして人畜に外部寄生をする.....蝨目 Siphunculata
有翅若しくは無翅にして人畜に寄生しない.....2

1のロ 肢端には1個若しくは1對の爪を有し、翅には縁毛がない.....3

2のロ 肢端には爪の代りに吸盤を具へ、翅には縁毛がある.....總翅目 Thysanoptera

3のイ 翅は前・後兩對共に膜質、口吻は胸部の腹面より生じたる如くに見える.....同翅目 Homoptera

3のロ 前翅の基半部は肥厚して半翅鞘となり、口吻は頭端より生じてゐる.....異翅目 Hemiptera

に 鞘翅首目の分目表

1 前翅は肥厚して鞘翅をなして飛翔に適せず、後翅は大にして膜質飛翔に適する.....鞘翅目 Coleoptera

1 前翅は退化して短小、後翅は静止時には撚旋せられ展開する時は扇形を呈する.....撚翅目 Strepsiptera

1 頭部は管状をなして突出する事が無い.....脈翅目 Neuroptera

ほ 鱗翅首目の分目表

3 翅に毛を有し、幼蟲は水棲である.....毛翅目 Trichoptera
翅には鱗を有し幼蟲は陸上の植物を食ふ.....鱗翅目 Lepidoptera

へ 雙翅首目の分目表

1 體は1見無翅にして側偏、後肢は發達して跳躍に適してゐる.....微翅目 Aphaniptera

1 體は側偏ならず、後肢は跳躍に適してゐない.....雙翅目 Diptera

第三 雙翅目の分類

(1) 雙翅目の亞目の檢索表

1. 蛹は蛹皮の背面に長き裂隙を生じて羽化し出る.....直裂亞目 ORTHORHAGA

蛹は蛹皮の前部に圓き横裂を生じて、こゝより成蟲が羽化し出る.....圓裂亞目 CYCLORRHAPHAGA

(2) 直裂亞目の類の檢索表

1. 觸角は絲狀にして6~16節より成り、鬚は長くして主に4節より成り、前翅の第三脈以下の縱脈は一般に分枝してゐる.....

.....長角類 NEMATOCERA
觸角は概して3個の形異なるものより成り、第三節は分割せられるか、

若しくは短毛乃至剛毛を生じ，鬚は普通には2節より成り，翅脈には分枝するものがあるが，第二脈は分枝することがない……
……………短角類 BRACHYCERA

(3) 圓裂亞目の類の検索表

- 1a. 觸角は3節より成りて末端が膨れ且つ背面に剛毛を生じ，上顎は之を缺き，顔面部の月狀體は不明瞭である……………無瓣類 ASCHIZA
- 1b. 觸角は3節より成りて，1側に剛毛を生じ，剛毛は先端へ向つてゐる。顎は節を成さない，上下の兩顎なく，縦脈には分岐したものでなく，月狀體は顯著である…有瓣類(家蠅型 Muscoidea) Sizophora
- 1c. 鳥獸類に寄生してゐる……………蛹生類 Pupipara

(4) 長角類の科の検索表

- 1. 前翅に圓盤室を具へてゐる……………2
前翅に圓盤室がない……………3
- 2. 楯板にV字形の褶襞がある……………大蚊科
楯板にV字形の褶襞が無い……………蚊蠅科
- 3. 前翅には脈の他に網狀の褶皺がある……………網蚊科
前翅には脈の他に網狀の翅皺が無い……………4
- 4. 翅脈数は普通にして横脈を缺き，體は小さく，樹癭を營む……………瘿蠅科
翅脈数は普通には5以上である……………5
- 5. 體及び翅は長毛を生じて蛾の如く，翅の末端は尖つてゐる……………蝶蠅科
體及び翅は長毛を密生せず，翅の末端は尖つてゐない……………6
- 6. 前翅には鱗が生じてゐる……………蚊科
前翅には翅が生じてゐない……………7
- 7. 前縁脈は翅を1周してゐる……………細蚊科
前縁脈は翅を1周してゐない……………8

- 8. 單眼がある……………9
單眼を缺いてゐる……………10
- 9. 肢の基節は長く脛節端は棘を生じてゐる……………蠶蠅科
肢の基節は普通にして，觸角は胸部より短い……………毛蠅科
- 10. 肢は短大，觸角は頭部よりも短い……………蚋科
肢は長く，觸角は頭部よりも長い……………搖蚊科

(5) 有瓣蠅類の科の検索表

- 1. 口具は退化してゐる……………牛蠅科
口具は退化してゐない……………2
- 2. 腹・背には長き剛毛が多數生じてゐる……………寄生蠅科
腹・背には長き剛毛が生じてゐない……………3
- 3. 觸角類の端半部には毛が生じてゐない……………縞蠅科
觸角類の端半部にも毛が生じてゐる……………4
- 4. 第五徑脈と第一中脈とは翅端附近にて殆んど接觸してゐる……………家蠅科
第五徑脈と第一中脈との距離が大きい……………花蠅科

(5) 無瓣蠅類の科の検索表

- 1. 口吻は曲折し，外觀は蜂に似てゐる……………眼蠅科
口吻は曲らず外觀は蜂に似てゐない……………2
- 2. 觸角の剛毛は羽狀にして，翅には斑紋を缺いてゐる……………3
觸角の第三節は短小，翅には斑紋が多い……………果實蠅科
- 3. 圓盤室と第二基室は癒合してゐる……………葉溝蠅科
圓盤室と第二基室とは癒合してゐない……………狸々蠅科

第四 瘿蠅科の成蟲の外貌

體は他の昆蟲に於けるが如くに，頭・胸・腹の3部に劃されてゐる。

頭部の器官中、最も顯著なるは複眼にして、概して頭部の背側縁の大部分を占め、多数個眼の集合體である。左右の兩眼は殆んど接觸する例が多いが、レストレミン、ヘテロペザ(異脚亞科)等にありては狭く分離してゐる。要するに複眼の比較的大なるは進化の度高きを示唆するものである。

單眼は僅かにレストレミン亞科にのみ存在し、中眼が頂點を占めるが如き正三角形の三角に各1個存在してゐる。

觸角は絲状なれども、長短及節數は1定してゐない。前額片に接する基部の2節は約同大にして且つ各長幅概して同大である。此の2節は一般に柄節と稱せられる。第3節以後の諸節は概して幅よりも長く、總じて絲状をなしてゐる。従つて此の部は鞭狀部と稱せられてゐる。

原始的癭蠅の觸角節數は16節なりしならんと思惟せられるが、現存種中にはケラトミア屬の如く6節より成るもの。ステホヂプロシス屬に於ける12節、針尾癭蠅族の14節、ラシオブテラ屬の39節、フィキオミア屬の41節の如きものもある。

各觸角節の形狀もまた1定でない。原始的と思はれる屬のものは圓筒形であるが、次では後端部乃至後半部が細長く伸長して柄狀を呈するに至り、幹部 Stem と區別するために柄狀部 Stalk と命名され得るに至つてゐる。更に癭蠅族のものになると、幹部は中央が縊れて亞鈴狀を呈してゐる。

觸角節には感覺器がある。感覺器の機能は恐らく聽覺兼嗅覺であらうとされてゐる。感覺器の單純なものは剛毛及び基部の感覺窩であり、感覺剛毛は多くの場合には輪狀配列をなしてゐる。獨ほ1種の感覺器 Circumfilia は所謂纏繞器にして、之は縦走乃至横走する場合もあり、或は觸角節を離れて突出し環絲をなす場合もある。

顎は無顎族に缺如してゐるを除いては各亞科のものに見られ、4節より成るを基本型とすれども3、2又は1節よりなる場合もありて、分類學上重要な

る1特徴をなしてゐる。

胸部と其の附屬器

胸部の構成は他の蠅類に於けると大同小異であり、前胸部は概して發達せず、中胸は1對の翅を生ずるを以て良く發達し、背面は概して平滑なれども、或種にあつては前・側兩縁に剛毛乃至鱗を生じてゐる。後胸部もまた平均棍と後肢とを着くるを以て相當發達し、後小楯板には剛毛乃至鱗を生ずる例がある。

脈相は分類學上の重要な特徴をなしてゐる。縁脈は翅の前縁の肥厚したるものにして後縁にまで微かに伸びるか、若しくは第三脈との交點に於て終つてゐる。一般には毛を生じてゐるが、鈎尾屬・針尾屬等にては鱗を生じてゐる。亞縁脈は短小にして普通には翅の基半部稀には4分の1に到らずして縁脈と交つてゐる。縁脈と共に鱗を生ずる事もあり、或は第三脈と1横脈によつて連結されてゐる。所謂第三脈は實際には徑脈の主要部にして、レストレミン亞科・ボウリコンデリア族にあつては1横脈によりて亞縁脈に連結されてゐる。之は翅頂に達する事もあり、鈎尾屬に於けるが如くに翅頂に達せざる事もあり、或は基半部に於て縁脈に合する事もある。鈎尾屬にありては本脈もまた鱗を生じてゐる。

第四脈は形態學上よりすれば、徑脈の第4及び第5枝脈に相當し、レストレミン亞科にあつては、痕跡的にして且つ分枝してゐる。

第五脈は比較的平直にして後縁の3分の1乃至4分の1域に於て結合されてゐる。

第六脈は一般に單1なれども、癭蠅亞科のものにありては基部近くに於て第五脈に合して分枝狀を呈する事がある。

翅膜は概して長毛を生じ、鈎尾屬のもの如きは鱗をも生じてゐる。

平均棍は概して小形にして毛又は鱗を生じてゐる。肢脚は細長にして毛又

は鱗を生じ、附節は5節より成り、第1節はレストレミン属にては甚だ長い。爪は2個が對をなし、或属のものにては分枝し、稀に櫛状を呈する事もある。

腹部

腹部は雌蟲にては長紡錘形を呈し、雄蟲にては準圓筒状である。9環節を示し、第九節は雄蟲にては生殖板をなし、雌蟲にては産卵管の基部をなしてゐる。

生殖板 Genitalia は背部へ突出せる1對の管状器官である。生殖板の基部を成すは相握基節であつて、一般には頑丈にして毛を生じ、生殖板の大部分を成してゐる。之に次ぐは鋸子状を呈する相握端節であり、一般にはキチン質の齒状體を具へ、齒状體は甚だ多數の齒に分れてゐる事がある。陰具の上部には別に陰具上板、下部には陰具下板を具へてゐるが、此の二者は相握器に比すれば、あまり顯著ではない。雌蟲の場合には第七—第十腹環節が多少とも産卵管の構成に寄與してゐる。最簡單なる産卵管にありては尾端に2個の葉状體を具へるに過ぎないが、稍や複雑なるものにありては第七及び第八腹環節に1對のキチン質體を具へて此部の強力を致し、鉤尾屬のものにありては第八腹環節の側面にまた多數の鉤状體及び特化せる鱗を具へてゐる。産卵管はまたウネルチア屬に於けるが如くに、體と同長なる程長きことあり、針尾屬に見られるが如く針状に長き場合もある。

第五 瘦蠅科の分類

E. P. FELT 氏は Phil. Journ. Sci. XIII, P. 296 及び N. Y. S. Mus. Bull. 256: P. 136 に於て ITONIDIDAE を下記の諸亞科族に分つてゐる。

(1) 瘦蠅科の亞科及び族の検索表(フェルト氏による)

- 1a 後附節は次の附節よりも長く、附節数は5、前翅には少くとも4脈あり、一般には横脈を具へてゐる……レストレミン亞科 LESTREMIINAE
 - 1a² 後附節は次附節よりも長きか、若くは短く、前翅には3脈以上の縦脈を具へず、横脈と纏繞器とは共に缺けてゐる……ヘテロペザ亞科 HETEROPEZINAE
 - 1a³ 後附節は他附節よりも短く前翅には3乃至4條の縦走脈がある……イトニス亞科 ITONIDIDINAE
- Lestremiinae 亞科は前翅の脈数によつて下記2族に分たれる。

(2) レストミン亞科の族の検索表

- 1 第4脈が2分支してゐる……レストレミン族 Lestremiariae
 - 第4脈は單1で分支しない……キャンピロミア族 Campylomyriariae
- レストレミン族には7屬あつて、下記は其の検索表である。

レストレミンの屬の検索表

- 1. 觸角は11~16節より成り、第2節は異状に膨大してゐない……2
- 觸角は短小にして8~11節より成つてゐる……3
- 2. 縁脈が翅頂を超えて伸びてゐる……カトチャ屬 Catocha
- 縁脈は翅頂に達せず、概して第3脈に會する點に於て消滅してゐる……レストレミア屬 Lestremyia
- 3. 第二觸角節は甚しく膨大し鞭狀節は極めて短小である……5
- 第二觸角節は普通である……4
- 4. 鞭狀節は甚しく短小でない……ネプチュニミア屬 Neptunimyia
- 鞭狀部の成す節は無柄にして長さは直徑よりも僅かに大きい……
- ……ネオカトチャ屬 Neocatocha
- 5. 亞縁脈と第三脈とは1個の横脈の如きものに依つて連絡し、第四

- 脈の2分脈は約同長……………マイクロセラタ属 *Microcerata*
 亞縁脈は第三脈には癒合せず、又、横脈も缺けてゐる……………6
 6. 第四脈の2分支は同大である……………コニソミア属 *Konisomyia*
 第四脈の2分支は不同である……………トリトヂガ属 *Tritozya*
 本亞科のものは蠅科に酷似してゐるが、脛節端に2個の長大なる距刺を
 缺く點に於て容易に區別し得られる。

(3) ヘテロペザ亞科 SUBFAM. HETEROPEZAE

本亞科はレストレミン科に似る所があるが、常に横脈を缺いてゐるから兩
 科の區別は容易である。本科に屬する邦産種は未だ本邦からは報告されてゐ
 ないが、屬の檢索表だけを、茲に揚げて置くことにする。

ヘテロペザ亞科の屬の檢索表

1. 後附節は次附節よりも長い……………2
 後附節は次附節よりも短い……………6
2. 附節は4節より成る……………4
 附節は3節より成り、2本の長脈がある……………3
3. 各觸角節は圓筒状である……………ヘテロペザ属 *Heteropeza*
 各觸角節は準球状である……………モノヂクラナ属 *Monodierana*
4. 翅には3長脈がある……………5
 翅には1長脈があり、翅は甚だ長い……………
 ………………ネオステノプテラ *Neosteroptera*
5. 鬚は4節より成る……………メウニエラ属 *Meuniera*
 鬚は3節より成る……………スバニオセラ属 *Spaniocera*
 鬚は2節より成る……………ミアスタ属 *Miaster*
 鬚は1節より成る……………プロミアスタ属 *Promiaster*

6. 附節は2節より成る……………オリガリセス属 *Oligarices*
 附節は4節より成る……………7
7. 前翅の膜部に細毛を多数生ずる……………10
 前翅の膜部に鱗毛がある……………8
8. 第五脈は2分し、鬚は4節を數へる……………レドミエラ属 *Ledomyiella*
 第五脈は單1である……………9
9. 縦脈數は4、鬚は2節、雌の觸角は有柄……………クロノミア属 *Klonomyia*
 縦脈數は3、鬚は3節……………ブラキネウラ属 *Brachyneura*
10. 第三脈は翅頂に達する……………13
 第三脈は翅頂に達してゐぬ……………11
11. 鬚は2節より成る……………フリレニア *Frirenia*
 鬚は3節より成る……………12
12. 第五脈と爪とは單1、雄蟲の生殖器は複雑……………エビミア属 *Epimya*
 第五脈は分支し、爪は1齒を生じ、雄蟲は未知……………
 ………………ギオリエラ属 *Gioriella*
 鬚は4節よりなる……………14
 鬚は3節より成る……………マイネルトミア属 *Meinertomyia*
 鬚は1節より成る……………レプトシナ属 *Leptosyna*
14. 第五脈は分支してゐる……………ハプルシア属 *Haplusia*
 第五脈は單1である……………ジョンソノミア *Johnsonomyia*
 ヘテロペザ亞科にはミアステル属の如く幼蟲生殖をなすを以て有名なるも
 のがあるが、確實なる種は未だ本邦からは知られてゐない。

(4) イトニッド亞科 SUBFAM. ITONIDIDINAE

本亞科は更に下記の諸族に分れる。

イトニッド亜科の族の検索表

1. 明瞭なる横脈が第三脈と亜縁脈とを連ね、一般には縁脈に並行してゐる……………ポウリコンヂラ族 *Prrricondylariae*
第三脈と亜縁脈との間には横脈が無い…………… 2
2. 縁脈には鱗が密生し且つ第三脈は翅の前縁に密着し、觸角節は短くして無柄圓筒状である……………ラシオプテルス族 *Lasiopterariae*
縁脈は概して鱗を缺き、第三脈は縁脈とは離れ、觸角節は直径よりも長い…………… 3
3. 雄蟲の觸角節は長く、2部分より成り、曲線狀の纏繞器を具へてゐる……………イトニッド族 *Itonididae*
觸角は2部型でなくして圓筒形である…………… 4
4. 爪は有齒である……………ダッシネウラ族 *Dasyneuridae*
爪は單1である…………… 5
5. 觸角各節は圓筒状乃至準圓筒状にして甚しく長からず、雄にあつては有柄であり、雌蟲の産卵管は長く且つ長い針狀化した部分がない……………オリゴトロフス族 *Oliogotrophariae*
雄蟲の觸角節は圓筒状にして細長無柄にして、産卵管は長い針狀部を有してゐる……………アスフオンヂリア族 *Asphondylariae*

(5) ポウリコンヂラ族の屬の検索表

1. 横脈は縁脈と平行ならずして著しき角度を成してゐる…………… 2
横脈は縁脈と約平行にして1見第三脈の延長と見られ得る…………… 12
2. 4長脈あり第五脈は分岐せず、第六脈は自在…………… 3
3長脈を具へ、第六脈は第五脈の1支脈をなすか、若くは缺けてゐる…………… 5

3. 第五脈は横脈近くに於て第三脈より生じ、亜縁脈の基部3分の1域に過剰脈がある……………ヂアラクテス屬 *Diallactes*
第五脈は翅の基部より生じ、亜縁脈の基部3分の1域には過剰脈が無い…………… 4
4. 第五脈は顯著に發達し、纏繞器は變化して節の反対面に於て馬蹄狀體を成してゐる……………ウインネルチア屬 *Winnertia*
第五脈は痕跡的に基末兩部が不明……………ゴニオクレマ屬 *Gonoclema*
第五脈を缺き、鬚は2節、纏繞器はウインネルチアに於けると同様……………ウインネルチオラ屬 *Winnertiziola*
5. 翅は細長で、横脈は縁脈とは斜角をなしてゐる…………… 7
翅は一般に甚だ細長で、横脈は縁脈とは殆んど直角をなしてゐる… 6
6. 第五脈は分叉し、第六脈は第五脈の1枝をなし、爪は無齒である……………コルボジア屬 *Colpodia*
第五脈は單一にして翅縁に達しない…クリノフハエナ屬 *Clinophaena*
7. 第五脈は分枝し、第六脈は第五脈の1枝をなしてゐる…………… 9
第五脈は單1、第六脈は缺如してゐる…………… 8
8. 鬚は4節……………ジョンソノミア屬 *Johnsonomyia*
鬚は2節……………コロミア屬 *Colomyia*
9. 第五脈は後縁に密接し末端部は癒合してゐる…………… 10
第五脈は後縁に密接し基半部近くは癒合し、鬚は3節、抱擁器の端節は短い……………ブリラクリプタ屬 *Bryccrypta*
10. 亜縁脈の基部に過剰脈無く、鬚は4節、爪は有齒、抱擁器の末節は細長い……………ヂタクチロミア屬 *Ditactylomyia*
亜縁脈の基部には過剰脈がある、爪は無齒…………… 11
11. 鬚は4節……………リイベリオラ屬 *Liebeliola*

- 鬚は1節…………アレキソミイア属 Alexomyia
12. 4縦脈を具へ、第五は単1、第六脈は自在……………13
 3縦脈を具へ、第六は第五の1枝、又は缺けてゐる……………16
13. 第五脈の基部は鮮明……………4
 第五脈は基部不鮮明、腹部は長くして他部の倍長である……………
 ………………ヂケルラ属 Dicerura
14. 腹部の後半が腹部上に重つてゐる、爪は無齒、産卵管の葉状體は2
 節より成る……………リブサアメニア属 Rubsaamenia
 腹部の後半部が腹背へ重られない……………15
15. 褥盤は分齒した爪よりも長く、觸角は16乃至より多く、産卵管は
 節をなす……………アシナプタ属 synapta
 褥盤は分齒しなく爪よりも短く、觸角は14節、産卵管は3節より
 なる……………クリノライチス属 Clinorytis
16. 第五脈は分枝してゐる……………18
 第五脈は分枝せず、第六脈は缺けてゐる……………17
17. 爪は有齒で褥盤と同長乃至倍長……………ホロニウルス属 Holoneurus
 爪は小齒を生じ、褥盤の倍以上に長い……………コツコブシス属 Coccopsis
18. 雄蟲の纏繞器は弓狀輪狀をなさない……………20
 雄蟲の纏繞器は2,3纏繞亞族のものに似てゐる……………19
19. 鬚は4節……………ロベシア属 Lopesia
 鬚は1節……………マカエリオビア属 Machaerobia
20. 鬚は4節より成る……………21
 鬚は3節より成る……………ロベシア属 Lopesia
 鬚は1節、雄蟲の尾端節が膨大してゐる……………
 ………………マカエリオビア属 Machaerobia

21. 雄の觸角は甚だ長いか、少くとも有柄……………23
 觸角は兩性に於ても甚しく長くない……………22
22. 雄蟲の尾基節は卵狀、末端は有齒である、端節を缺く……………
 ………………ヂリザ属 Dirhiza
 雄蟲の尾端は常規、雄の觸角は無柄である……………プロヂリザ属 Prodirhiza
23. 腹部は背面へ向ひ彎曲してゐない……………24
 腹部は背面へ彎曲し、細長い……………キャンプトミイア属 Camptomyia
24. 爪は無齒である……………25
 爪は有齒である……………28
25. 褥盤は爪と同長乃至より短い……………26
 褥盤は痕跡的である……………27
26. 雄蟲の觸角は球狀、雌蟲にては長くして中央が縊れてゐる……………
 ………………プロヂリザ属 Prodirhiza
 觸角は兩性に於ても長く圓筒狀である……………
 ………………ファエネピドシス属 Phaenepidosis
27. 雌蟲の觸角節の柄は膨大部の $\frac{1}{3}$ ~ $\frac{1}{4}$ 長、産卵管の葉状體は2節よ
 り成る……………パレピドシス属 Parepidosis
 雌蟲の産卵管の葉状體は短小、觸角節は無柄……………
 ………………ミソコスムス属 Misocosmus
28. 爪と褥盤とは同長……………29
 爪は褥盤の約2倍長……………30
 褥盤は痕跡的である……………31
29. 雄蟲の握器の基端兩節は約同長にして末端は膨れてゐる……………
 ………………ヂクロニユールス属 Dicroneurus
 雄の端節は長楕圓にして基節よりも短い……………シナプテラ属 Synaptella

- 3). 第三第四の兩觸角節は癒合してゐる……シナルツレラ屬 *Synarthrella*
 第三第四の觸角節は癒合せず，雄蟲の握器の端節は直徑よりも少
 少長く，截斷形で縁は有毛である……プロセピドシス屬 *Prosepidosis*
- 31. 爪は甚しく曲り殆んど直角……テトラヂプロシス屬 *Tetradiplosis*

(6) ラシオブテラ(鱗翅瘦蠅)族 LASIOPTERIAE

本族には邦産種が多数ある。顯著なる特徴としては縁脈亞縁脈及び第三脈が皆前縁の基半部に於て接觸し，第三脈は多数の鱗を生じ，是が縁脈と交る部分には白色乃至黄毛の小域がある事，觸角が短い事，爪は單1なる事，腹部の背面には數列の黑色鱗毛が櫛比してゐる事等である。屬は比較的少数である。

鱗翅瘦蠅族の屬の検索表

- 1. 第三脈は縁脈に甚だ近く且つ兩者は基半部に於て相會してゐる… 3
 第三脈は基半部を過ぎて縁脈に會し且つ明瞭に分離し，接觸して
 ゐない…………… 2
- 2. 觸角の第一節は普通にして甚しく長からず，第三脈は甚だしく彎
 上し體及第三脈には鱗が多くない……………
 ……カンプトニューロミア屬 *Camptoneuromyia*
 第一觸角節は普通，第三脈は甚しく彎上せず，第三脈及び體背に
 鱗が多くない……………デアレリア屬 *Dialeria*
 第一觸角は細長くして直徑の約3倍長，第三脈及び體背に黑色又
 は白色の鱗が多い……………トロツテリア屬 *Trotteria*
- 3. 胸部も口具も著しく長くない…………… 5
 胸部と口具とは長く，觸角は10~13節より成る…………… 4
- 4. 3長脈を具へ第五脈は2分してゐる…クリノリンカ屬 *Clinorhyncha*

- 4長脈を具へ第五脈は單1である……オジリンカ屬 *Ozirhynchus*
- 5. 鬚は3又は4節より成る…………… 6
 鬚は1節又は2節より成る…………… 9
- 6. 第三及第四觸角節は合着し，褥盤は顯著…………… 7
 第三第四の觸角節は合着せず褥盤は顯著ならず，鬚は4節，爪は
 分齒しない……………プロタプロニックス屬 *Protaplonyx*
- 7. 3長脈あり，第五脈は2分してゐる…………… 8
 4長脈あり，何れも分支しない……………
 ……ネオラシオブテラ屬 *Neolasioptera*
- 8. 鬚は4節，腹板は2葉をなしてゐる……ラシオブテラ屬 *Lasioptera*
 鬚は3節，彎入部を具へない…ネオラシオブテラ屬 *Neolasioptera*
- 9. 第三第四の兩觸角節は合着し，褥盤は顯著……………
 ……アステロミア屬 *Asteromyia*
 第三第四の兩觸角節は合着せず，褥盤は微小……………10
- 10. 鬚は2節，爪は齒を有するか無齒，産卵管の末節は圓く終り，背
 面に角質の鈎毛を具へる……………ステフハニエラ屬 *Stephaniella*
 鬚は2節，爪は無齒，産卵管は長さ中庸にして有毛の2葉を具へ
 る……………バツチャロミア屬 *Baccharomyia*
 鬚は1節より成る……………11
- 11. 口吻は長く突出してゐる……………12
 口吻は普通，爪は無齒である……………14
- 12. 爪は明瞭に有齒……………13
 爪は微小の1齒を具へ，産卵管は頑丈にして曲り，末端は細長い…
 ……バルドラチオラ屬 *Baldolatiola*
- 13. 産卵管には基半部に鈎刺がある……………バルドラチア屬 *Baldolatia*

- 産卵管は無鈎棘なれ共長き角質の橢状體がある。バルドラチエラ屬
14. 産卵管は針狀……………アプロニクス屬 *Aplonyx*
 産卵管には長く開く葉状體が具はる。バルドラチエラ屬 *Baldratiella*
 産卵管端は斜に截斷され、背面には鈎棘を具へ、頭部は小さく中胸
 下に隠れてゐる……………ステフハニオラ屬 *Stefaniola*
 産卵管は不規則三角状にして、短く曲つた圓錐状の剛毛を生じて
 ゐる……………サルソロミア屬 *Salsolomyia*

(7) ダッシネウラ族 TRIBE DASYNEURIARIAE

本族は鱗翅蠅族と異り第三脈と縁脈とは顯著に分離し、縁脈には鱗を具へる事が稀であり、觸角節は幅よりも長く且一般には有柄であり、爪は齒を生じてゐる。下記検索表に見られる如く、多數の屬があるが、我國から從來知られてゐるものは主にリヤブドフハガ、ダッシネウラ及びヂアルスロミアの3屬である。

ダッシネウラ族の屬の検索表

1. 鬚は4節から成つてゐる……………2
 鬚は3節から成つてゐる……………23
 鬚は2節から成つてゐる……………26
 鬚は1節を數へるだけである……………28
2. 觸角は14節乃至14節以上より成る……………3
 觸角は10, 11, 12 稀に13, 14節より成つてゐる……………16
3. 第三脈は翅頂を越して伸びてゐる……………4
 第三脈は翅頂又は其の近くに於て終つてゐる……………6
 第三脈は翅頂に達せざる前に於て縁脈に會し、概して眞直である……………11

4. 觸角は15節、翅は透明、産卵管は短い……………5
 觸角は13節、翅は有斑、褥盤は爪の約半長……………
 ……………ハロミア屬 *Hallomyia*
5. 爪は普通で甚しく曲つてゐない……………バエオミザ屬 *Baemyza*
 爪は殆んど直角に曲り、褥盤は痕跡的……………ストマトセマ屬 *Stomatosema*
6. 縁脈に鱗が無い……………7
 縁脈には鱗が密生してゐる……………10
7. 第三脈は僅かに曲り、觸角は19節、産卵管は短く、葉状部は楕圓状……………プロミキオラ屬 *Promikiola*
 第三脈は眞直、産卵管は長い……………8
8. 産卵管は末端が角化して刃状である……………
 ……………プロキスチホラ屬 *Procystiphora*
 産卵管は角化してゐない……………9
9. 爪は單齒を生じ、齒は角化してゐる……………
 ……………リヤブドフハガ *Rhabdophaga*
 爪は3小齒を生じ、齒は角化してゐない……………
 ……………コウルトミア屬 *Chortomyia*
10. 觸角は16節、爪は褥盤より短く、産卵管は長い……………
 ……………リバエラエラ屬 *Riveraella*
 觸角は18節、爪は褥盤より長い……………
 ……………トリコバアリシア屬 *Trichoperrisia*
 觸角は21圓筒節、脚は有鱗、爪は褥盤よりも短い……………
 ……………キシロバアリツシア屬 *Xyloperrisia*
 雄蟲の觸角は22球節、雌蟲にては圓筒状、爪は褥盤よりも短か
 い……………フェルネチエラ屬 *Fernettyella*

11. 前脚の爪は有齒，中・後脚の爪は無齒。縁脈を生じ，觸角は 14 節，産卵管は短小……………フェノラウシア属 *Phaenolauthia*
六肢の爪が有齒……………12
12. 翅は有鱗，膜部は多少薄黒い……………13
翅は明瞭なる鱗を缺き，膜部は透明である……………15
13. 體に鱗少く，觸角は 14 節で圓筒狀，或る雄蟲にては纏繞器がある……………ラシオプテリックス属 *Lasiopteryx*
體には鱗が多い……………14
14. 少くとも前爪は有齒にして褥盤の 2 倍長，觸角は圓筒狀で 14 節，産卵管は短い……………ラウシア属 *Lauthia*
六脚の爪は皆有齒，褥毛小少，産卵管は短い……………
……………クリプトラウシア属 *Cryptolauthia*
15. 第五脈は 2 分し，産卵管は長く，時には體よりも長く，纏繞器は顯著でない……………ダツシネウラ属 *Dasyneura*
第五脈は單 1，觸角は 12 節纏繞器は節の中部以下に 1 個ある……………
……………プロウインネルチヤ属 *Prowinnertia*
16. 胸腹兩部には鱗があり，觸角は 10~12 節……………17
胸腹兩部には鱗が明瞭でない……………19
17. 爪は皆有齒にして産卵管は長い……………18
前脚の爪のみ有齒，第五脈は單 1，産卵管は短い……………
……………ブラキネウレラ属 *Brachyneurella*
18. 觸角は球狀の 12 節より成る……………スヘロラウシア属 *Sphaerolauthia*
觸角は 10~12 の準圓筒節，産卵管は突出してゐる……………
……………レドミア属 *Ledomyia*
雌蟲は 12，雄蟲は 14 節で，無柄觸角の長卵狀型，背板は分れ，

- 葉狀體は卵狀，腹板は丸く深く裂け，抱擁器は短小である……………
……………コッコミザ属 *Coccomyza*
19. 第三脈は翅頂近くに於て縁脈に會する……………20
第三脈は翅頂のかなり前に於て縁脈に會し，觸角は 12 節，第三脈は甚しく曲上して縁脈とは前縁の 4 分の 1 域に於て會し，雄蟲の觸角節は有柄である……………ネウロミア属 *Neuromyia*
20. 觸角は 13~14 節，雄の抱擁器の末端は短く且膨れ，産卵管は準球狀にして末端に刺毛が多い……………キスチフォラ属 *Cystiphora*
觸角は 13~14 節，爪は褥盤と同長，雄蟲の抱擁器の末端節は大きい……………ゲオクリプタ属 *Geocrypta*
觸角は 12 節にして兩性のものが有柄である……………21
21. 抱擁器の末端節は太くて膨大してゐる……………マクロラビス属 *Macrolabis*
抱擁器は格別に膨大してゐない……………22
22. 纏繞器は鎌形ならず突出してゐない……………アルノルヂア属 *Arnoldia*
纏繞器は鎌形で大いに突出してゐる……………ハルボミア属 *Harpomyia*
23. 爪は 1 齒を生じてゐる……………24
爪は楕狀である，産卵管は短い……………
……………クテノダクチロミア属 *Ctendactylomyia*
24. 觸角は 16~18 節，雄蟲では有柄，雌蟲では無柄，爪は褥盤よりも短く，雄蟲の生殖器は普通型……………ドリオミア属 *Dryomyia*
觸角は 18 節にして無柄，爪は褥盤の約半長，抱擁器の末端は極めて大……………カロペヂラ属 *Calopedila*
觸角は 15 節，縁脈は有毛，脚は有鱗，産卵管は長い……………
……………スバルチオミア属 *Spaltiomyia*
觸角は 13~14 節より成る……………25

- 觸角は 12 節, 抱擁器の末端は細長い……リゾミア属 *Rhizomyia*
25. 産卵管は短く, 準球状, 末端に棘を具へ, 雄蟲の末端節は短く且つ膨大してゐる……キスチホラ属
産卵管は短く, 末端に棘毛なく, 褥盤は爪の 3 倍長まで伸びて長い……アロミア属 *Allomyia*
26. 産卵管は伸縮性で針状……ラウベルチア属 *Laubertia*
産卵管は然らず……27
27. 觸角は 14~18 節より成り, 両性共に有柄……
……チアルスロミア属 *Diarthronomyia*
觸角は 12 節, 雄にありては有柄である……
……コクシドミア属 *Coccidomyia*
28. 觸角は 3 節以上, 両性共に有柄……フィシオミア属 *Ficiomyia*
觸角は 26 節, 雌蟲にては有柄……ハプロバルプス属 *Haplopalpus*
觸角は 20 節, 雌蟲には無柄雄蟲は有柄……
……シュエウエリア属 *Scheueria*
觸角は雄蟲にて 16 節, 雌蟲にては 18 節, 雄にては有柄, 爪は 3 齒を生じてゐる……30
觸角は雄蟲にては 14 節……アメルハハ属 *Amerhapha*
觸角は 12 節, 雄蟲にては有柄, 雌蟲にては無柄, 翅は廣く, 爪は 1 齒を生じてゐる……カルモニア属 *Calmonia*
29. 第五脈は分れ, 抱擁器の基部は分葉してゐる……
……グアレフィラ属 *Guarephila*
第五脈は退化し基節は明瞭に分葉されてゐない……
……ナブシエラ属 *Navasiella*

(8) オリゴトレフス族 OLIGOTROPHIARIAE

體軀の比較的大きい爪の單純な類であり, 我國の蓬及び菊に蟲瘻を形成する苞瘻蠅屬は本族の代表的なるものである。

オリゴトレフス族の屬の検索表

1. 鬚は 4 節より成る……2
鬚は 3 節より成る……10
鬚は 2 節より成る……19
2. 第三脈は翅頂前に於て縁脈に會する……3
第三脈は約翅頂に於て縁脈に會する……6
3. 觸角は雄蟲にありては 10 節, 雌蟲にありては 9 節。爪は細長く且直角に曲り, 褥盤は退化してゐる……プロベルリシヤ属 *Properrisia*
觸角は 14 節以上より成る……4
觸角は 13 節より成る……5
4. 抱擁器の末節は可なり大きく有毛, 産卵管は長くして有毛である……ジャネチエラ属 *Janetiella*
抱擁器の末節は可なり大きく準橢圓形, 背・腹兩板は 2 葉に分れ, 産卵管は突出性……ジジオビア属 *Zygiobia*
5. 雌蟲の觸角の柄部の長さは節の長さの約 3 分の 2 長。抱擁器の末節は細長い……ナノラウシア属 *Nanolauthia*
6. 觸角は 14 節より成り, 雌雄の生殖器はダッシネッラ属に於けると大同小異……フイトフガ属 *Phytophaga*
觸角は 16~20 節より成る……7
觸角は 20~24 節より成る……9
7. 第三第四の兩觸角節は癒合してゐない……8

- 第三第四の兩觸角節は癒合し，觸角は 18~19 節より成り，柄部は節の 2 分の 1~3 分の 1 長，抱擁器の末節は幾分膨大して後に細まり，背腹の兩板は深く 2 葉に分れてゐる……………フェゴビア屬 *Phegobia*
8. 雄蟲の觸角節の柄部は節の約 3 分の 2 長，抱擁器の末節は寧ろ細長い……………フェゴミア屬 *Phegomyia*
觸角節の柄部は節と約同長……………クラネイオビア屬 *Craneiobia*
柄部は節よりも遙かに長い……………セシドフィラ屬 *Cecidophila*
9. 雄蟲の觸角節は有柄，雌蟲のものは無柄，産卵管は短くして葉状に分れてゐる……………ミキオラ屬 *Mikiola*
10. 産卵管は明瞭に角化してゐる……………11
産卵管は角化してゐない……………12
11. 觸角は 12~24 節，産卵管は針状に長い…サケノミア屬 *Sackenomyia*
觸角は 13 節，産卵管は短くして末端に圓い角質板を着けてゐる……………フィリクチドビア屬 *Phlyctidobia*
12. 抱擁器の末端は準末端を占め，末端は幅廣い末端葉を著けてゐる……………ルゾノミア屬 *Luzonomyia*
抱擁器の末端は正しく末端を占め，産卵管は準截斷型，雄蟲の抱擁器の末端は大ならず，褥盤は爪の約 2 倍大，第四第五觸角節は癒合しない……………オリゴトレプス屬 *Oligotreplus*
産卵管の末端には囊状體があり，褥盤は爪より僅かに長い……………13
13. 雄蟲の觸角節の中廻層中には甚だ長い毛が 2 本生じ，第四第五の兩觸角節は癒合し，雄蟲の抱擁器の末端は甚だ大きい……………ミコミア屬 *Mikomyia*
觸角は上記の如くでない……………14

14. 抱擁器の基節は腹板末に着く程に長い透明の膜状體を具へ，末節は大きく，尖り且つ卵状である……………15
雄蟲の抱擁器の構造が上記の如くでない……………16
15. 腹板は深く葉状體に切れ，第三第四觸角は雄蟲にては癒合し，第三節の膨大部は第四節よりも少々長い……………セムドビア屬 *Semudobia*
腹板は裂けず，第三第四の兩觸角節は癒合せず，第三節の膨大部は第四節の膨大部の約 2 倍長である……………アピオミア屬 *Apiomyia*
16. 觸角の柄部兩性共に短い……………18
觸角の柄部は雄蟲に於て長く，雌蟲に於て短いが無柄である……………17
17. 第三第四兩觸角節は癒合せず，雄の抱擁器の末節は大ならず，幼蟲には胸骨がある……………ブラストミア屬 *Blastomyia*
第三第四兩觸角節は癒合せず，抱擁器の末端は大きく膨大し，幼蟲には胸骨がない……………イテオミア屬 *Iteomyia*
18. 觸角は 22~25 節，縁脈と亞縁脈と第三脈とは鱗を生じてゐる……………ウレイア屬 *Uleia*
觸角は 17 節にして節部には 5~6 個の纏繞器があり，翅には過剩脈がある……………リシミア屬 *Lyciomyia*
19. 産卵管は角化してゐる……………サッケノミア屬 *Sackenomyia*
産卵管は明瞭には角化してゐない……………2)
20. 褥盤は褥毛と約同長……………イツサンダルム屬 *Isosandalum*
褥盤は褥毛の約 2 倍長…:……………21
褥盤は褥毛よりも短い……………22
21. 鬚は 2 節より成る……………プテクトロゼマ屬 *Ptectrosema*
鬚は 1 節を數へるのみ……………ワルシヨミア屬 *Walshomyia*
22. 褥毛は爪と同長，雄蟲の第三觸角節大にして 3 纏繞器を具へ，他

- 節は2層を具へる.....グイゴニア属 *Guigonia*
 褥毛は爪と約同長, 第三觸角節は強大ならず, また他節以上の纏繞器を具へない, 抱擁器の末端は大きく膨れるか若しくは幾分縊れ, 産卵管は準圓筒状にして末端はポケット状を呈してゐる.....23
- 23. 雌雄兩蟲の觸角節は有柄, 纏繞器は網状である.....
リヨパロミア属 *Rhopalomyia*
 雌蟲の觸角は無柄, 纏繞器は網状でない.....24
- 24. 褥毛は爪と同長, 鬚は單1節, 幼蟲には胸板がない.....
ミソスパサ属 *Misospitha*
 褥毛は爪の約倍長ある.....アルセウソミア属 *Areuthomyia*

(9) アスフォンチルス(針尾瘦蠅)族

TRIBE ASPHONDYLARIAE

本族の標型属アスフォンチルス属は我國にも數種産する。體は寧ろ大形であり, 第三脈は縁脈とは明瞭に分離し, 爪は單純にして分齒せず, 觸角は細長で且つ圓筒状無柄であり, 産卵管は概して末端部が針状化してゐるので, 他族のものとは容易に區別が出来る。

アスフォンチルス族の属の検索表

- 1. 産卵管は長くして針状, 抱擁器の末端節は1乃至2齒を生じてゐる.....2
 産卵管は突出してゐて末端には葉状體乃至三角板を着け, 抱擁器の端節は鋸齒状である.....16
- 2. 鬚は4節より成る.....3
 鬚は2節又は3節, 稀には1節.....9
 鬚は1節より成る.....14

- 3. 觸角には長毛が廻層をなして生じ特に雄蟲にては2本の播曲せる纏繞器がある.....4
 觸角には短毛が生じ, 輪層をなしてゐない.....7
- 4. 雌の觸角の末端節は甚だ短い.....5
 雌の觸角の末端節は甚しく短小でない.....6
- 5. 抱擁器の端節は齒を生じてゐる, 産卵管は針状にして末端に葉状體を具へない, 幼蟲の胸骨は2齒を生じてゐる.....
シゾミア属 *Schizomyia*
 産卵管は準針状にして末端には2個の小葉状體を具へ, 幼蟲の胸骨には齒を具へてゐる.....キーフェリア属 *Kiefferia*
- 6. 抱擁器の端節は楕状.....マクロボルカ属 *Macroporpa*
 抱擁器の端節は2齒を生じ爪と褥盤とは約同長である.....
ギソノバシス属 *Gisomobasis*
- 7. 觸角は無柄.....8
 觸角は準無柄にして, 柄部は幹部の長さの約4分の1長, 爪は褥盤より短い.....ゼナスフォンチリア属 *Xenaspohdylia*
- 8. 爪は褥盤より長く, 産卵管の基節には數列の小剛毛がある.....
テトラスホンチリア属 *Tetrasphondylia*
 爪は褥盤と約同長, 産卵管の第1節は筒状を呈し, 短剛毛を缺いてゐる.....パラスホンチア属 *Parasphondylia*
- 9. 第三脈は翅頂近くに於て縁脈に會してゐる.....10
 第三脈は前縁の4分の3域に於て縁脈に會し, 鬚は3節, 抱擁器の端節は細長く, 1齒を生じ, 背腹の兩板は深く缺刻されてゐる.....
アクロエクタシス属 *Acroectasis*
- 10 雌蟲の纏繞器は比較的簡單なる2帶より成つてゐる.....11

- 雌蟲の纏繞器は不規則なる5帯を成し、産卵管は針状である……
 ……………オクザスホンデリア屬 *Oxasphondylia*
11. 雄蟲の抱擁器端は1又は2齒を生じてゐる……………12
 雄蟲の抱擁器端は櫛状である……………14
12. 亞縁室は普通にして不透明でない……………13
 亞縁室は不透明、産卵管の基部は球状で有縞状である……………
 ……………ブルグマンニエラ屬 *Bruggmanniella*
13. 抱擁器は末端を占め、産卵管は準針状にして端節には中部に1群
 の毛が生じてゐる……………アスホンデリア屬 *Asphondylia*
 抱擁器は準末端を占め、産卵管はシゾミア屬に於けると同様で
 ある……………ブルツグマニア屬
14. 抱擁器は準末端を占め、圓錐状……………ハウアルヂエラ屬 *Houardiella*
 抱擁器端は2齒をなしてゐる……………15
15. 亞縁室は顯しく幅廣い……………ザレピドウタ屬 *Zalepidota*
 亞縁室は著しく幅廣からず、抱擁器の末端に長い距毛乃至牛角状
 體がある……………ヂセロミア屬 *Diceromyia*
 抱擁器は甚しく曲りて鉤をなし、觸角は雄蟲にては13、雌蟲にて
 は14節よりなり、雄蟲のものは有柄である……………
 ……………プミロミア屬 *Pumilomyia*
16. 鬚は4節より成る……………18
 鬚は3節より成る……………21
 鬚は1節より成り、觸角は準無柄、腹部には鱗毛を生じ、産卵管
 は短い2節より成つてゐる……………17
17. 雌の觸角は準無柄にして12~14に互り順次に短くなり末端節は
 圓錐状である……………オゾビア屬 *Ozobia*

- 雌蟲の觸角は順次に短くならないが第14節は幾分か短い……
 ……………ステホミア屬 *Stephomyia*
18. 抱擁器の端節は末端下を占め、第四第五の兩觸角節は癒合せず、
 雄蟲の纏繞器は網状を呈し爪は褥盤より長い……………
 ……………ポリステファハ屬 *Polystepha*
 抱擁器の端節は末端で位してゐる……………19
19. 觸角節は圓筒状、纏繞器は雄にありては細かい網状をなし、爪は
 褥盤よりも長い……………シンクチコルニア屬 *Cincticornia*
 觸角は圓筒状、纏繞器は主に横走の線状である……………20
20. 翅は短く廣く、纏繞器は3、産卵管の葉状部は準三角形である…
 ……………カリオミア屬 *Caryomyia*
 翅は狭長、雄の纏繞器は10個以上で各彎曲し、産卵管の葉状部
 は長卵状である……………ゼンホルモミア屬 *Xenormomyia*
 雄蟲の纏繞器は不規則にして1節毎に4~5の横走條をなし、産
 卵器の兩板は三角状である……………フェルトミア屬 *Feltomyia*
 雄の纏繞器は細長にして各節に約18個の横走器をなし、産卵器
 の兩板は圓味を帯びた四邊形を呈してゐる……………
 ……………エオシンクチコルニア屬 *Eocincticornia*

(10) イトニッド(瘰癧)族 TRIBE ITONIDINARIAE

本族はまた下記2亞族に分たれてゐる。

1. 雄蟲の觸角節の結節部は2個にして同大である、各1個の纏繞器
 を具へてゐる……………二纏繞器亞族
 雄蟲の觸角節の結節は形狀大きさを異にする2部より成り、1見3
 結節の觀を呈し、計3個の纏繞器を具へてゐる……………三纏繞器亞族

(イ) 二纏繞器亞族の属の検索表

1. 鬚は4節より成る……………2
 鬚は3節より成る……………24
 鬚は1節より成り、第三脈は翅頂を越して會するクロンデプロシス属
2. 雄蟲の觸角節は皆結節より成る……………3
 圓筒狀の節を混具してゐる……………19
3. 6肢の爪は有齒である……………4
 前肢の爪のみ有齒である……………トキシミア属 *Toxomyia*
 爪は皆無齒である……………6
4. 翅は後方に甚しく廣く突出した部を具へてゐる……………5
5. 抱擁器の内基葉は有毛、産卵管は短く且背面へ曲つてゐる……………
 ……………インドデプロシス属 *Indodiplosis*
 抱擁器の内基葉は無毛平滑、産卵管は腹部の2分の1長にして突
 出してゐる……………エロソミア属 *Erosomyia*
 抱擁器の内基葉は痕跡的にして平滑、産卵管は可なり長い……………
 ……………マンガデプロシス *Mangodiplosis*
6. 縁脈の基部は肥厚して紡錘體をなしてゐ、産卵管は針狀、雄蟲の
 觸角は皆結節を具へてゐる……………ロウオデプロシス属 *Lowodiplosis*
 縁脈の基部は紡錘狀をなす程肥厚してゐない……………7
7. 雄蟲の翅の後部域甚しく突出して廣く圓味を帯びてゐる……………9
 翅は細長くして幅の約3倍長である……………8
 翅は普通にして特に廣くも狭くもない……………10
8. 産卵管は突出して長く角質である……………チュラウイア属 *Thurautia*
 産卵管は短く、葉狀部は肉質である……………
 ……………トウロデプロシス属 *Thorodiplosis*

9. 雄蟲の觸角の柄部は短くして長さは幅の直徑の2分の1、纏繞器
 は角化してゐない……………ロボテロミア属 *Lobopteromyia*
 雄蟲の觸角の柄部は直徑の倍以上に長く、纏繞器は角質化し、旋
 回狀である……………ストレプトデプロシス属 *Streptodiplosis*
10. 縁脈には鱗が多い……………11
 縁脈には鱗が無い……………12
11. 第三脈は翅頂前に於て縁脈に會し、膜質部に細長の鱗を着け、第
 一觸角節上に齒がある……………エンダフィス属 *Endaphis*
 第三脈は翅頂前に於て縁脈に會し、第一觸角節は無齒、中胸背に
 は2條の黄金色の鱗があり、翅には薄い斑紋があり且光輝がある
 ……………ラシオデプロシス属 *Lasiodiplosis*
12. 第三脈は翅頂に於て翅縁と合してゐる……………14
 第三脈は翅頂を越してから翅縁に會してゐる……………13
13. 抱擁器の端節は短大、有毛、雌蟲の第十四觸角節には1個の大な
 る圓錐體が着いてゐる……………ステホデプロシス属 *Stephodiplosis*
 抱擁器の端節の長さは中庸、雌蟲の第十四觸角節は普通型である
 ……………シンデプロシス属 *Syndiplosis*
14. 第三脈は翅縁を中斷してゐる……………15
 第三脈は縁脈に會する點に於て翅縁を中斷してゐない……………18
15. 抱擁器の基節は葉狀をなさない……………16
 抱擁器の基節の基部には三角形葉あり、産卵管は短くして半圓形
 の腹片を具へてゐる……………プロコンタリニア属 *Procontarina*
16. 腹板は深き2葉をなしてゐる……………17
 腹板は廣く、缺刻は淺い……………スヘエロデプロシス属 *Sphaerediplosis*
17. 産卵管は細く長く、翅は透明……………コンタリニア属 *Contarinia*

- 上記の属に同じ、但し翅は有斑……………スチクトデプロシス属 *Stictodiplosis*
- 18. 腹板は背板よりも長からず、2葉をなし、抱擁器の端節は大きく、有毛、産卵管は長い……………セロデプロシス属 *Thecordiplosis*
腹板は絲状、背板よりも格段に長く、缺刻し、抱擁器の端節は細長にして平滑、産卵管は僅かに突出してゐる……………シトデプロシス属 *Sitodiplosis*
- 19. 雄蟲の觸角節は皆圓筒状である……………20
觸角の末端節は圓筒状である……………22
- 20. 6肢の爪は有齒にして約直角をなして曲つてゐる……………ホロブレミア属 *Holobremyia*
6肢の爪は無齒である……………21
- 21. 腹板は背板よりも幾分長く、抱擁器の末端は短く且中央が膨れてゐる……………ゲイセンヘイネリア属 *Geisenheyneria*
腹板は幅1様、末端は缺刻し背板よりも長く、抱擁器の端節は細長い……………モノデプロシス属 *Monodiplosis*
背板は分れて葉状體をなし、之は三角形を呈し、腹板はより長くして圓く終り、抱擁器の端部は幾分肥大し、産卵管は長くない……………ストロプロフィラ属 *Stroblophila*
- 22. 纏繞器は剛毛の約半長、柄部は結節部よりも短く、末端の22節は之を缺き、抱擁器の末端は膨大してゐる……………ハロデプロシス属 *Halodiplosis*
纏繞器は短弓状、抱擁器の端節は細長く、第十三と第十四觸角節とには短い柄部がある……………アメトロデプロシス属 *Ametrodiplosis*
- 23. 纏繞器は痕跡的である。縁脈には基部に紡錘状の肥厚部があり、

- 第五觸角節の基柄部は直径と約同長、腹板は背板よりも遙かに長く、抱擁器の端節は彎上して長い……………キヤアトデプロシス属 *Cyrtodiplosis*
縁脈の基部は肥厚せず、第五觸角節の基柄部は基結節と約同長、抱擁器の端節は細長く且つ曲つてゐる……………アンソデプロシス属 *Anthodiplosis*
- 24. 抱擁器の基節には末端部に顯著なる三角形様體が着いてゐる……………25
斯かる三角状體を具へない……………26
- 25. 葉部は長くして細長三角形をなし、抱擁器の端節は普通である……………デンチフィブラ属 *Dentifibula*
葉状部は廣く圓く終りて突出せず、抱擁器の端節は不規則にして末端は櫛齒状である……………ペクチノデプロシス属 *Pectinodiplosis*
- 26. 抱擁器の端節は頑丈にして幅の約3倍長、腹板は殆んど截断形である……………ミロコミア属 *Myricomyia*
抱擁器の端節は長楕圓で有毛である……………27
- 27. 産卵管は短く、長幅約同長……………ゼウキシデプロシス属 *Zeuxidiplosis*
産卵管は長く、縞状を呈してゐる……………ステノデプロシス属 *Stenodiplosis*

(口) 三纏繞器亞族の属の検索表

- 1. 6肢の爪は皆有齒である……………2
前肢稀には中肢の爪は有齒である……………28
6肢の爪は無齒である……………12
- 2. 鬚は4節より成つてゐる……………3
鬚は3節より成つてゐる……………21
鬚は1節より成つてゐる……………7
- 3. 纏繞器には結節の5~10倍長である輪状體があつて殆んど直角をなして突出してゐる……………4

- 纏繞器は皆殆んど同長で正齊である……………11
- 纏繞器は2個顯著で整齊，遠結節上の基纏繞器は低い帯状をなし
てゐる……………10
4. 各觸角節には3纏繞器がある……………5
- 2個の發達せる正齊の纏繞器があり，遠結節上の基纏繞器は低
い帯状をなしてゐ，褥盤はない……………7
5. 3纏繞器は不整齊・褥毛は痕跡的である……………
- ……………トリブレミア屬 Tribremia
- 2纏繞器は不整齊，他は整齊，基結節上の纏繞器には長く突出し
た準輪狀體あり，遠結節上の纏繞器には1個の低い弓狀體がある
……………6
- 2纏繞器は整齊，他の1個は齊整で1個の長い弓狀をなしたもの
を具へてゐ，爪と褥盤は同長……………アヒドレチス屬 Aphidoletis
6. 爪は褥盤より短い……………イソブレミア屬 Isobremia
- 褥盤は痕跡的である……………クリプトブレミア屬 Cryptobremia
7. 肢は毛を生じてゐる……………8
- 肢は鱗を生じてゐる。腹板は背板より短い……………
- ……………レピドブレミア屬 Lepidobremia
8. 觸角の遠結節は長く，基結節は準球狀……………ブレミア屬 Bremia
- 觸角の結節は共に準球狀である……………9
9. 腹板は細長く直縁で缺刻し杆狀體よりも短い……………
- ……………ホモブレミア屬 Homobremia
- 腹板は幅廣く後方の兩側角よりは細長の分離した突出體が出て杆
狀體の末端に達してゐる……………ヘテロブレミア屬 Heterobremia
10. 口具は突出し長さは頭部の高さよりも大，産卵管は短い……………

- ……………ファクハアソニア屬 Farquharsonia
11. 抱擁器の基節は1個の葉狀體を基部に與へてゐる……………12
- 抱擁器に明瞭な葉狀體が無い……………14
12. 觸角は3結節，端節は長くして基節よりも長く，産卵管は長くし
て楕圓形の葉狀體を具へる……………ユンゴミイア屬 Youngomyia
- 觸角は2結節，端節は甚しくは長くない……………13
13. 産卵管はあまり短くなく，長毛を密生した葉狀體を具へてゐる…
……………テロヂプロシス屬 Therodiplosis
- 産卵管は短い……………ダクテロヂプロシス屬 Dactylodiplosis
14. 爪は殆んど直角を成して曲つてゐる……………15
- 爪は基部に於て甚しく曲らず，従つて直角をなさない……………17
15. 鬚は可なり長い……………16
- 鬚は短く，第二觸角節は幅の1倍半長である……………コリニア屬 Collinia
16. 腹板は曲らず，廣く刻まれ，背板は長く廣く三角狀に刻まれ，纏
繞器は稍や不規則……………プレシヲブレミア屬 Plesiobremia
- 腹板は長さ中庸，廣く刻まれ，背板は長く廣く且つ深く刻まれ，
葉狀體は三角形を呈し産卵管は短い……………
- ……………クレヲヂプロシス屬 Cieodiplosis
- 腹板は長く，末端は狭く圓く，背板は廣く，深く且廣く刻まれ，
葉狀體の末端はかなり狭い……………ヂチヨヂプロシス屬 Dichodiplosis
- 背腹の兩板は短く，廣く且つ深く矢筈形をなしてゐる……………
- ……………トマジア屬 Thomasia
17. 纏繞器は約20個の弓狀をなしてゐる，産卵管は短く，腹板の葉
狀部は曲らず且平行である……………ゲオヂプロシス屬 Geodiplosis
- 纏繞器の弓狀部は短く，毛は倍長，腹板の葉狀部は短く，廣く圓

- く終つてゐる，産卵管は短い……カロヂプロシス属 *Calodiplosis*
 纏繞器は長いが多くない……18
- 雌蟲のみ知られ此部に属するものと思はる属……20
18. ポウリコンドリア亜科に於けるが如くに横脈が發達し且つ縁脈と
 竝行してゐる……ロベシア属 *Lopesia*
 横脈は發達しない……19
19. 抱擁器の末節は細長，背腹兩板の葉狀體は截斷形，産卵管は短く
 して長く狭い卵狀葉體を具へてゐる……レッセルイエラ属 *Resseliella*
 抱擁器の末節は頑丈，背腹兩板の葉狀體は狭く圓く終り，腹板は
 深く矢筈狀，産卵管は長く，葉狀體は不完全に分れてゐる……
 ……ハルマンヂア属 *Harmandia*
20. 産卵管は僅かに突出し，葉體は長く曲り且つ準腹側に 2~3 列の
 鈍刺を具へてゐる……ヂクロヂプロシス属 *Dierodiplosis*
 産卵管は腹部の約半長，葉狀體は幅の約 6 倍長，口吻は長い……
 ……デルホヂプロシス属 *Delphodiplosis*
 産卵管は可なり長い……シヅヂプロシス属 *Scizodiplosis*
 産卵管は短く，8 個の準圓狀葉體を具へ，其の復葉は 2 個の背葉
 より僅かに小さい……カコプレクス属 *Cacoplecus*
21. 抱擁器の基節には明かに葉體がある。雄の觸角節は分節が明瞭で
 なく，前結節は判然せず，纏繞器は可なり短く且つ甚だしく太く
 ない……ペリヂプロシス属 *Peridiplosis*
 抱擁器の基節は明瞭なる葉狀體を具へない……22
22. 雌蟲の觸角節は準圓筒狀である……23
 雌蟲の觸角節は少くとも若干は 2 結節性であり，準圓筒狀の遠結
 節上には低い纏繞器があり，基結節は之を缺いてゐる。産卵管は

- 體長の約半である……エピホルモミア *Epihormomyia*
23. 雄蟲には纏繞器は 3 個あるが，甚だしく突出した弓狀部を成さな
 い事がある……24
 雄蟲には長ハ 2 個の纏繞器があり，第二は痕跡的，褥盤は爪より
 も短く，背腹の兩板は深く且圓く矢筈狀をなして窪んでゐる……
 ……ロウチヤヂプロシス属 *Roachadiplosis*
24. 纏繞器の弓狀部は多數で短く太い。結節は幅よりも短く，褥盤は
 痕跡的。背腹兩板は長く，腹板は深く矢筈形をなし，比較的狭い
 葉體を具へてゐる……カロヂプロシス属 *Calodiplosis*
 纏繞器は弓狀部多けれ共甚だ多數ならず，且太からず……25
25. 結節は直径の約 2 倍長，鬚は甚だ短小，腹背兩板は極めて短く，
 矢筈狀に窪んでゐる……マイコセシス属 *Mycococis*
 結節は直径の 2 倍よりも短く鬚は甚しく退化せず，背腹兩板は可
 なり長く，廣く窪んでゐる……26
26. 産卵管は短く，末端の葉體は長卵狀，背腹兩板は短く，矢筈狀に
 窪んでゐる……カンプトヂプロシス属 *Kamptodiplosis*
 産卵管は腹部の約 3 分の 1 長，基部は長く，頑丈，葉狀體は細長
 ……ヘリオヂプロシス属 *Heliodiplosis*
27. 横脈發達し，縁脈と約竝行，爪は齒を生ず……
 ……アロヂプロシス属 *Alloiplosis*
 横脈はよく發達せず爪は齒を生じ，纏繞器はアスホンヂリア属に
 於けると同様顯著にして低い……
 ……フラウエンヘルヂエラ属 *Frauenfeldiella*
28. 鬚は 4 節より成る……29
 鬚は 3 節より成る……40

29. 纏繞器には1個若くはより以上の甚しく長く突出した弓状部あり、
之等の長さは結節の5~10倍で約直角をなして突出してゐる……30
纏繞器は正規にして、弓状部は甚しく突出してゐない……32
30. 纏繞器には正規のもの1個と不正規のもの2個……31
纏繞器には不正規1個と正規のもの2個あり、褥盤は爪の約半長、
腹板は窪まず、背板よりも甚だ長ハ……モノブレミア屬 *Monobremia*
31. 第三第四の兩觸角節は癒合し、褥盤は爪と約同長、腹板は長く伸
びて尾状をなしてゐる……フェロブレミア屬 *Phaerobremia*
第三第四の兩觸角節は癒合せず、褥盤は爪と約同長、背腹兩板は
約同長……ロンダニエラ屬 *Rondaniella*
32. 抱擁器の基節は葉状體を具へてゐる……33
抱擁器の基節には葉状體が無い……35
33. 葉状體は末端にありて刺を具へ、末端節は準下位を占める……
……ロボヂプロシス屬 *Lobodiplosis*
葉状體は準基部を占め末端節は短くして2齒を有してゐる……
……アンチチリヂウム屬 *Antichiridium*
葉状體は基部を占め幾分有毛である……34
34. 腹板又は弓状體が甚しく角化してゐる……
……コキレットミア屬 *Coquillettomyia*
腹板及び弓状體が甚しく角化しない……フェルチエラ屬 *Feltiella*
35. 抱擁器の末節は準紡錘状、弓状體は著しく角化して甚だ複雑であ
る……カルスチヨミア屬 *Karschomyia*
抱擁器の末節は然らず……36
36. 爪は直角をなして曲つてゐる……37
爪は斯く曲つてゐない……38

37. 腹板は甚だ長く伸びて矢筈状に終り、背板は深く裂け、三角状に
窪んでゐる……38
腹板は圓く終り、背板は深く細長く分れてゐる……
……オリブレミア屬 *Oribremia*
腹板は廣く、廣く圓く窪み、背板と約同長、背板は深く、三角状
に窪んでゐる……プロフェルチエラ屬 *Profeltiella*
38. 腹板は殆んど曲らず且つ背板よりも遙かに長い……
……アカロレテス屬 *Acaroletes*
腹板は甚しく突出せず背板は分れず、雌蟲の觸角節には普通の低
い纏繞器があり、産卵管は短い……39
雄蟲は未知、雌蟲は短く且明瞭なる弓状體を成して突出してゐる
2個の纏繞器のある點でミコダプロシスと異なる……
……キャンプトヂプロシス屬 *Camptodiplosis*
39. 雄蟲の觸角節の中纏繞器は普通型である……
……マイコヂプロシス屬 *Mycodiplosis*
雄蟲の中纏繞器は甚だ短い……トリゴノヂプロシス屬 *Trigonodiplosis*
40. 纏繞器は3層、爪は直角を成して曲らず……41
纏繞器は良く發達せるもの2個、痕跡的のもの1個、爪は直角を
成して曲らず、腹板は窪まず、末端は圓く矢筈状に窪んでゐる…
……チエロブレミア屬 *Chelobremia*
41. 抱擁器の端節は甚しく突出せず、腹板は短く且廣い……
……ヂアヂプロシス屬 *Diadiplosis*
抱擁器の端節は甚しく突出して基節の2倍長、腹板は背板よりも
長く、末端は圓く終つてゐる……
……キシフオヂプロシス屬 *Xiphodiplosis*

42. 鬚は4節より成る.....43
 鬚は3節より成る.....89
 鬚は2節より成る.....111
 鬚は1節より成る.....120
43. 第三脈は翅頂前に於て翅縁に會してゐる.....44
 第三脈は翅頂に於て縁脈に會してゐる.....49
 第三脈は翅頂を過ぎて後に縁脈に會してゐる.....54
44. 前翅は透明である.....45
 前翅は褐色毛を密生し透明部を存し、縁脈は黒色の鱗を生じてゐ、
 胸部には黄色の鱗がある.....クリノヂプロシス *Clinodiplosis*
45. 爪は褥盤と約同長である.....46
 褥盤は爪の2分の1より短い.....48
46. 觸角節の結節部は直径よりも短く、纏繞器は短小、腹板は深く2
 葉に分れ、甚しく突出せず.....アルスロクノダックス屬 *Arthrocnodax*
 結節部は寧ろ長く、纏繞器又相當に長く、腹板は背板よりも遙か
 に長く、細長く、末端は膨れ、基部は幅の約2倍長ある.....
マイクロヂプロシス屬 *Microdiplosis*
 結節部は直径の2倍長以上、纏繞器は相當に長い.....47
47. 背腹兩板は卵状で且つ同長.....アデルギミイザ屬 *Adelgymyza*
 背板は分れ、葉状部は長く、三角形を呈する.....
セシドミイエラ屬 *Cecidomyiella*
48. 抱擁器の端節は膨れ、基部には長毛を生じ、末端部は細長、産卵
 管は突出してゐない.....シルベストリナ屬 *Silvestrina*
 雄蟲は未知、雌蟲の褥盤は爪の3分1長以下.....
プラノヂプロシス屬 *Planodiplosis*

49. 爪は褥盤と約同長.....50
 爪は褥盤よりも長い.....53
50. 翅は透明.....51
 翅は青黒色地に白點を具へてゐる.....
ドクソヂプロシス屬 *Doxodiplosis*
51. 背板は2葉に分れ、葉状部の先は圓い.....52
 背板は分れ、葉部の先は尖り、腹板よりも長く、腹板は短い.....
モレスチエラ屬 *Moreschiella*
52. 腹板は背板よりも稍長く、僅かに彎入してゐる.....
エンドシラ屬 *Endosylla*
 腹板は背板と約同長、廣く且圓く彎入してゐる.....
アスキストニツキス屬 *Aschistonyx*
53. 後板節は第二跗節の約半長、背板は2葉に分れ、腹板は圓く終り、
 産卵管は短い.....ブラギオヂプロシス屬 *Plagiodiplosis*
 後板節は第二跗節の半よりも短く、産卵管は體と約同長、雄蟲は
 未詳.....オルソヂプロシス屬 *Orthodiplosis*
54. 纏繞器は不均齊にして1~數弓が甚しく突出してゐる.....63
 纏繞器には弓部なきか或は短小である.....55
 纏繞器よく發達し、顯著に不整齊ならず、弓状部は結節の直径と
 約同長である.....65
55. 翅は斑紋を具へてゐる、産卵管は短く、抱擁器の端節は無毛にし
 て細長である.....ナノヂプロシス *Nanodiplosis*
 翅は透明である.....56
56. 觸角節には圓筒状のものが若干ある.....57
 雄蟲の觸角は2結節性である、柄は結節部より短い.....58

- 觸角節は雄蟲にては恐らく2結性ならんも未詳……………60
57. 纏繞器は缺如乃至痕跡, 10~14節は圓筒狀, 弓狀部はやや膨大してゐる……………プロヂプロシス屬 *Prodiplosis*
纏繞器は明瞭なれ共低く, 全部乃至末端の觸角節は圓筒狀, 雄蟲のものは體と同長, 産卵管は短い……………キヤリオミア屬 *Caryomyia*
58. 柄部は結節よりも短く, 横走, 觸角は體と同長, 産卵管は短い……………マクロヂプロシス屬 *Macrodiplosis*
柄部は結節よりも短く, 産卵管は長い……………59
柄は結節と同長乃至より長く, 産卵管は短い……………トウロヂプロシス屬 *Thorodiplosis*
59. 翅は甚だ狭くて幅の約4倍長, 觸角の柄部は直径の2倍長に足らず, 抱擁器は大, 産卵管は腹部の約3分の1長である……………デオヂプロシス屬 *Raodiplosis*
翅は甚しく長からず, 第五觸角節の柄部は直径の2倍以上に長く, 抱擁器は長く, 産卵管は長い……………マクロヂプロシス屬
60. 産卵器は短く, 葉狀體には數列の截斷形乃至棒狀の刺毛體がある……………クテノヂプロシス屬 *Ctenodiplosis*
産卵管は短く, 葉狀部に顯著な突出體がない……………61
61. 爪は褥盤と同長……………ヂプレクス屬 *Diplecus*
褥盤は痕跡的である……………
62. 雌蟲の觸角の基部の數節は圓筒狀である……………エオホルモミア屬 *Eohormomyia*
雌蟲の觸角の基部のものは2結節性である……………アンドロヂプロシス屬
63. 翅は黄色にして黒點を具へ, 肢は黒點と鱗を有し, 爪と褥盤とは約同長……………プルトヂプロシス屬 *Plutodiplosis*

- 翅は透明である……………64
64. 腹板は背板よりも甚だ長く, 圓く終つてゐる……………ハドロブレミア屬 *Hadrobremia*
腹板は背板より長く, 2葉に分れてゐる……………アナブレミア屬 *Anabremia*
65. 爪は直角をなして曲つてゐる……………66
爪は直角をなして曲つてゐない……………70
66. 抱擁器の基部は葉狀體に分れてゐる……………67
抱擁器の基部は葉狀體をなして分れてゐない……………69
67. 抱擁器の端節は細長で, 曲り, 腹板は彎入せず細毛を生じてゐる……………オクトヂプロシス屬 *Octodiplosis*
抱擁器の基端兩節は約同長, 端節は膨大し, 先端は2葉に分れ, 腹板は圓く終つてゐる……………トリチヨヂプロシス屬 *Trichodiplosis*
端節は基節よりも短く, 可なり細い……………68
68. 背板は狭く, 圓く終り, 基節の葉狀體は三角狀である……………チャリヂプロシス屬 *Charidiplosis*
背板は三角形をなして彎入し, 基節の葉狀體は長い……………セアトヂプロシス屬 *Theatodiplosis*
69. 腹板は細く長く, 先端は圓く彎入し, 背板は短く三角形をなして彎入してゐる……………ギアルドミア屬 *Giardomyia*
腹板は廣く長く, 甚だ廣く深く彎入し, 背板は深く, 圓く窪んでゐる……………ヒベルヂプロシス屬 *Hyperdiplosis*
腹板は大きく, 甚だ丸く窪み, 背板は2葉をなし, 葉部は斜に截斷されてゐる……………ミセトヂプロシス屬 *Mycetodiplosis*
雄蟲は未詳, 雌蟲の産卵管は短く, 褥盤は痕跡的である……………

-キイトデプロシス属 Chaetodiplosis
70. 抱擁器の基節は葉状體を具へてゐる.....71
抱擁器の基節は著しい葉状體を具へてゐない.....78
71. 葉状體は末端に位してゐる.....72
葉状體は基部を占めてゐる.....73
72. 葉状體は甚だ長く、曲り且有毛、端節は基部が膨れてゐる.....
.....エプデプロシス属 Epdiplosis
葉状體は三角形をなし、端節は短くして且中部が甚だ縊れ且巨大
に肥大となり、先は翻轉してゐる...メタデプロシス属 Metadiplosis
葉状體は小さく、毛を密生し、抱擁器の基節は腹部の約半長、各纏
繞器は 26 弓體を具へてゐる.....シエデプロシス属 Ciediplosis
葉状體は膜質にして基節より背板に及び、端節にも同様の膜質葉
がある.....トリステフエナス属 Tristephanes
73. 葉状體は鈍三角状である.....74
葉状體は三角状である.....75
74. 腹板は長く、廣く圓く終り、爪は褥盤より幾分長い.....
.....オルセオリエラ属 Orseoliella
腹板は短く、深く 2 葉に分れ、爪は褥盤よりも遙かに長い.....
.....イソデプロシス属 Isodiplosis
75. 前肢には脛節と後跗及第二跗節の下面に直立してゐる毛群がある
.....ランプロデプロシス属 Lamplodiplosis
前肢には顯著なる毛群が無い.....76
76. 腹板は狭く圓く終つてゐる.....77
腹板深く且圓く終つてゐ、葉體は長く、有毛.....
.....ラトロフオビア属 Latrophobia

- 腹板は長く廣く圓く終つてゐる、葉體は鈍端的.....
.....シズマトデプロシス属 Schismatodiplosis
77. 翅には斑紋がある.....レストデプロシス属 Lestodiplosis
翅には斑紋が無い.....コプロデプロシス属 Coplodiplosis
78. 3 結節性の觸角の基結節には 2、端結節には 1 層の纏繞器がある
.....キシノデプロシス属 Xenodiplosis
雄蟲の前腿節が肥大して脛節の 3 倍となり、産卵管は長い.....
.....ユウメロソマ属 Eumerosoma
觸角は明瞭に 3 結節性にして背板は分れてゐる.....
.....オボロデプロシス属 Obolodiplosis
觸角節は短大、柄部は横走、結節部は短く廣く、纏繞器は細小で
短く、多數の弓状體を具へてゐる.....
.....レチノデプロシス属 Retinodiplosis
以上の特徴を具へてゐない.....79
雌蟲のみ知れ、雄蟲は不詳.....87
79. 腹板は窪まず、末端は丸く終つてゐる.....80
腹板は長くて匙形、背板は長く廣く、深く三角状に切れ込んでゐ
る.....ヒポデプロシス属 Hypodiplosis
腹板は甚しく突出して葉状體を具へてゐる.....81
腹板は廣く、乃至三角状に切れ込んでゐる.....82
80. 背板は腹板よりも遙かに短く、葉状體は截斷形である.....
.....パラレロデプロシス属 Parallelodiplosis
背板は腹板よりも遙かに長い.....
.....ブラストデプロシス属 Blastodiplosis
- 81 腹板は廣目に且圓く窪み、葉状體は先が開き且廣い.....

-ブラキヂプロシス属 *Brachydiplosis*
腹板は圓く且深く切れ込み、葉狀體は細長く、産卵管は短い.....
-エウヂプロシス属 *Eudiplosis*
- 82. 腹板の葉狀體は彎入せず且つ平行.....83
腹板の葉狀體は切れ込み、平行でない.....84
- 83. 觸角は雄蟲にては 14、雌蟲にては 13 節、爪は褥盤と同長、産卵管は長くて針狀.....デロヂプロシス属 *Delodiplosis*
雌雄共に觸角は 14 節、爪は褥盤と同長、産卵管は太く且長い.....
.....フハエロヂプロシス属 *Phyllodiplosis*
- 84. 背板は深く裂け、葉狀體は細くて圓く終り、端節は廣く角質化した鋸齒状を呈する.....バラヂプロシス属 *Paradiplosis*
背板は深く且圓く裂け、葉狀體は廣く圓く終り、端節は短く頑丈、有齒で鋸齒状でない.....スチラコヂプロシス属 *Styracodiplosis*
背板は裂けてゐない.....85
- 85. 抱擁器は大きくて腹部の 4分の 1 長、腹板葉は細長く且開き、産卵管は短くて三角形の葉狀體を具へてゐる.....
.....プレシオヂプロシス属 *Plesiodiplosis*
抱擁器は小さく、産卵管は上記の如くでない.....86
- 86. 抱擁器の端節は大、中部は膨れて有毛、産卵管は長くして短毛を生じ短葉を具へてゐる.....プレメリエラ属 *Plemeliella*
端節は基節の約半長、産卵管は圓錐形で其の基部の直徑の約半長である.....パキヂプロシス属 *Pachydiplosis*
端節は基節と約同長にして平滑、産卵管は長くして葉狀體を具へてゐる.....イトニダ属 *Itonida*
- 87. 横脈存在し、爪は褥盤の 2 倍長、産卵管は小さく、突出してゐる.....

-ライブリオラ属 *Liebliola*
横脈はよく發達してゐない.....88
- 88. 産卵管は體の數倍長、爪は褥盤の 2 倍長.....
.....キシロヂプロシス属 *Xylodiplosis*
産卵管は體と同長、體は鱗にて覆はれ、褥盤は痕跡的である.....
.....レビドヂプロシス属
産卵管は短く、褥盤は痕跡的...キイトヂプロシス属 *Chaetodiplosis*
産卵管は短く、末端なる葉狀體は細長くして 1 體節と約同長.....
.....オウラヂプロシス属 *Ouradiplosis*
- 89. 纏繞器には短弓があり、之等は結節の直徑の 2分の 1 よりも短い.....90
.....91
弓狀體は結節の直徑と約同長である.....98
- 90. 胸部は頭部を覆ふ程伸びてゐる.....91
胸部は頭部を覆ふ程突出してゐない.....92
- 91. 雄蟲の觸角は 15~27 節、雌蟲にては 14 節、雌蟲のものは縊れてゐる。産卵管は短く。大形種.....ホルモミア属 *Hormomyia*
雄の觸角は 14~15 節、雌蟲にありては圓筒状にして 3 纏繞器を具へ、産卵管は可なり長い、中形種.....
.....トリスホルミア属 *Trishormomyia*
- 92. 雄の觸角は 2 結節性.....93
雄の觸角節中には圓筒状のものがあり、第三脈は翅頂近くに於て翅縁に會し、翅は短く、雄蟲の觸角節は 2 結節性、柄が短きか圓筒状、雄の觸角は體と約同長、産卵器は短い.....
.....キヤリオミア属 *Caryomyia*
- 93. 抱擁器の基節には齒も葉も刺もない.....94

- 基節には中部に刺毛がある.....97
94. 尾杆の末端は肥大せず, 両側は甚しく角化してゐない.....95
尾杆は末端肥大し, 両側は角化し, 背板は三角形をなして彎入し,
腹板は長く廣く彎入してゐる.....マツサロンギア属 *Massalongia*
95. 翅は長く, 第三脈は翅頂を越して縁脈に會してゐる.....96
翅は翅頂又は翅頂前で縁脈に會し, 觸角は2結節性にして柄は極
く短きか又は圓筒形, 雄蟲の觸角は體と同長, 産卵管は短い.....
.....キヤリフミイア属 *Caryomyia*
96. 雌蟲の觸角には3層の纏繞器あり, 産卵管は體と同長.....
.....スドウホルモミイア属 *Pseudohormyia*
雌蟲の觸角には2層の纏繞器あり産卵管は長くない.....
.....ダイオヂプロシス属 *Dyodiplosis*
97. 褥盤極めて小.....マイクロプレクス属 *Microplecus*
褥盤は爪と約同長.....ホロヂプロシス属 *Holodiplosis*
98. 翅は透明.....100
翅には斑紋がある.....99
99. 第三脈は翅頂を超えてから縁脈に會し, 褥盤は爪と約同長.....
.....ステクトブレミア属 *Stictobremia*
第三脈は翅頂に於て縁脈に會し, 横脈を具へる.....
.....アンペロスキウタ属 *Ampeloscuta*
100. 抱擁器の基節は葉狀體を具へてゐる.....101
抱擁器の基節に葉狀體が顯著でない.....102
101. 抱擁器は甚だ長く, 細く, 腹部の約3分の2長.....
.....イツシュノヂプロシス属 *Ischnodiplosis*
生殖器は中庸, 腹板は角質にして有齒.....

-オドントヂプロシス属 *Odontodiplosis*
102. 第三脈は翅頂又は夫以前に縁脈に合してゐる.....103
第三脈は翅頂を越えてから縁脈に合してゐる.....106
103. 各眼の背半は腹半より離れ, 頭頂にて會して第三眼群をなしてゐ
る.....トリソプシス属 *Trisopsis*
複眼はかく廣く分れてゐない.....104
104. 爪は褥盤よりも小さく長い.....105
爪は小さく, 褥盤よりも短く, 産卵管は可なり長い.....
.....ハイグロヂプロシス属 *Hygrodiplosis*
105. 抱擁器の末端節は細長で平滑, 背腹の兩板は各2葉に分れ, 産卵
管は短くして2節より成る葉狀體を具へてゐる.....
.....トリコンタリニア属 *Tricontarinia*
産卵管は大きく短く, 尖らざる葉狀體を具へてゐる.....
.....アトリチヨソマ属 *Atrichosoma*
106. 雌蟲の第五觸角節には幾分膨大せる部分があつて中部に特異なる
感覺器を具へてゐる.....トリソヂプロシス属 *Trissodiplosis*
第二觸角節は腹面へ突出して鈍端葉狀體を成し, 産卵管は短くし
て2個の長葉を具へてゐる.....アコヂプロシス *Acodiplosis*
觸角節は普通にして異常器突出體等を具へない.....107
107. 背板は深く三角形をなして窪んでゐる.....108
背板は深く細長く裂けてゐる.....109
雌蟲のみ知られ, 臨時に此部へ加へたるもの.....11)
108. 腹板は三角形, 廣く圓く窪み, 産卵管は長く, 長葉を具へてゐる
.....タフオヂプロシス属 *Taphodiplosis*
腹板は窪まず, 産卵管は相當長く, 長葉を具へてゐる.....

-ハプロデプロシス属
 腹板は曲らず、圓く窪み、産卵管は針状で眞直.....
セントロデプロシス属 *Centrodiplosis*
109. 腹板は廣くして圓く終り、雌蟲は未詳...アデプロシス属 *Adiplosis*
 腹板は細長く彎入し、産卵管は可なり長く、瓣状部は深く2葉を
 なしてゐる.....ロウイオラ属 *Lowiola*
110. 纏繞器は2、各6~8短弓を具へ、爪と褥盤は同長.....
プレコホルス属 *Plecophorus*
 2個の纏繞器は扁平である.....アプレクス属 *Aplex*
111. 翅は透明..... 112
 翅には黄、黒の斑紋があり、第五觸角節の柄部は基結節の長さの
 約半長、基結節は直径の約4倍長、第三脈は翅頂を越して縁脈に
 合し、産卵管は短い.....スコポデプロシス属 *Scopodiplosis*
112. 纏繞器は短い..... 113
 纏繞器は相當長い..... 115
113. 胸部は頭上にまで伸びてゐない..... 114
 胸部は頭上にまで伸びてゐる、第三脈は翅頂を越えて縁に會し、
 爪は褥盤の倍長.....デスホルモミア属 *Dishormomyia*
114. 纏繞器は雌雄共に2重になり、第三脈は翅頂に於て縁に會し、爪
 と褥盤とは同長、産卵管は短くして3葉を具へてゐる...デクロナ属
 纏繞器は2重でなく、低くして8~10個の小弓體を具へ、第三脈
 は翅頂を越して縁に會し、産卵管は大にして圓錐形、2葉を具へ、
 雄蟲は未詳.....ペロデプロシス属 *Perodiplosis*
115. 觸角基部の1~數節が異常發達をなし、或は有齒である..... 116
 觸角基部の數1/2節が異常發達をなさず、無齒である..... 117

116. 第二觸角節には側面に大形の圓錐状突起體があり、胸部は圓錐状
 に突出するが頭を覆はない.....コノデプロシス属 *Conodiplosis*
 第二觸角節は腹面へ鈍葉體をなして伸びてゐる.....
ネウロデプロシス属 *Neurodiplosis*
 雄蟲の第一觸角節には中部に1個の側齒がある、腹板は背板より
 も長い.....オレセオリア属 *Oreseolia*
117. 背板は幅廣く、且圓く窪み、腹板は廣く、三角状で僅かに窪み、
 産卵管は短く横列に棘毛を具へてゐる卵狀葉を2個具へてゐる...
ブラウエリエラ属 *Braueriella*
 産卵管は短くして2個の槍狀葉を具へてゐる.....
コムブソデプロシス属 *Compsodiplosis*
 背板は三角状に分れ、腹板は長く、且窪んでゐる..... 118
 雄蟲は未詳..... 119
118. 腹板は多少窪み、尾杆は長く、圓く終り、産卵管は長くして2個
 の槍狀葉を具へてゐる.....マツサロンギア属 *Massalongia*
 腹板は深く且圓く切込み、尾杆は長く、産卵管は短く、葉狀體は
 基部が膨れてゐる.....アナデプロシス属 *Anadiplosis*
119. 産卵管は短くして角質化したる鎌狀の刀を具へてゐる.....
ジオルゲンセニア属 *Jorgensenia*
 産卵管は相當に短く、2葉は細長い.....
コウルティア属 *Courteia*
120. 纏繞器は兩性に於て1見二重觀を呈し、産卵管は短くして3葉を
 具へてゐる.....デクロナ属 *Dichrona*
 纏繞器は兩性に於て1見二重觀を呈しない..... 121
121. 翅は透明..... 122

- 翅は黒黄の斑をなしてゐる，雄蟲の觸角の基結節は球状と圓筒状である……………アストロデプロシス屬 *Astrodiplosis*
122. 纏繞器は兩性共に二重になつてゐる，爪と褥盤とは同長，産卵管は短くして3葉を具へてゐる……………デクロナ屬 *Dicrona*
纏繞器は兩性共に二重でない…………… 123
123. 兩性の觸角第十四節は結節部を有し，雄蟲のものは不等である…124
雌蟲にては觸角は13節，第三と第四節とは癒合し，雄蟲の基結節は球状，端結節は卵状，背腹兩板は2葉をなし，産卵管は角質で短くて，針状……………シストデプロシス屬 *Cystodiplosis*
124. 背腹兩板は深く切れ込み，産卵管は短く，角質2叉状……………
……………モンアルスロバルプス屬 *Monarthropalpus*
背板は深く，腹板は廣く切れ込み，産卵管は頭丈にして體の半長にして後半部は細毛を密生してゐる……………
……………オノデプロシス屬 *Onodiplosis*
背板は三角状に切れ込み，腹板は截斷形，産卵管は短くして，2個の細長い葉状體を具へてゐる……………
……………グネシオデプロシス屬 *Gneciodiplosis*
背板は深く，廣く，丸く切れ込み，腹板は廣く切れ込み，産卵管は頭丈にして體の3分の2長である……………
……………ホルデプロシス屬 *Hordiplosis*

第六 果實蠅科の特徴

頭部

頭部の最も顯著なる部分は複眼であつて，之は雌雄の兩個體に於て共に接

近する事なくして相當に離れてゐる。次に顯著なるは觸角である。勿論1對あつて，其の各々は所謂蠅型即ち歪形で，3節より成り，第一節は小形，第二節は長幅約同大にして，多くの場合には上面より1刺を生じてゐる。第三節は最大にして，一般には準圓筒状乃至準圓錐形で，基部に近く1穎を生じてゐる，穎には兩側に刺毛を生ずるもの，1側のみに刺毛のあるもの乃至僅かに基部近くにのみ刺毛を生じ，残部は裸出のもの等あつて，分類學上必要な特徴をなしてゐる。

前額は概して兩複眼間を占め，一般には内眼縁に沿うて1對の前額皺と共に上方なる左右の縦走皺と，2縦走皺を連ねる横走皺とを有するものであるが，1乃至2皺の明瞭ならざる例もある。何れの場合にも縦走皺間には小形の單眼丘（三角丘とも云ふ）がありて，其の三頂點に各1個の單眼が具はつてゐる。

顔面は前額の下方を占める部分にして，一般には扁平である。此部の兩側部は窪みて觸角溝をなしてゐる。顔面の最下片は圍口片であつて，口具を連結せしめてゐる。

口具は概して家蠅のものに似，鬚は2節より成つてゐるが，分節状態は明瞭ならざる事が多い。

頭頂は甚だ狭い横走帯をなし，前額の場合に述べた三角丘を含み横走帯に及んでゐる。此部の後方を成す後頭には常に1乃至數列の剛毛を具へてゐる。

胸部

構造上他の一般蠅形のものである。

背板と云ふのは普通には中背板の事であり，之は完全乃至不完全なる横走皺襞によつて前後の2半に割せられ肩甲楯板，背側楯板，翅上楯板，皺前楯

板, 中位楯板, 側位楯後楯板が多くの場合に顯著である。

側板には前, 中翅, 後, 下の各側板が顯著であり, 前側板は第一氣門の前面を占めて小さく, 中側板は大形にして略方形, 後側板は長幅約同大, 前側板は中, 後の兩肢の直上に在り, 後側板は上記2板の背後部を占める準三角形の小板を爲してゐる。

胸板は側板と基節との間の部分を占め, 前, 中, 後の3小片から成つてゐる。

腹部

腹部は雄蟲にては常に5節, 雌蟲にては6節より成り1及2兩節は一般に癒合してゐる。雄蟲にては第五節は最長且最大であり, 雌蟲にては第六節が最小である。

産卵管は角質にして3節より成り, 末端の2節は一般には基節内に收められてゐる事が多い。

翅と脈相

翅の形状大小は1定でないが, 概して暗褐色乃至黒色の斑帯若しくは圓狀紋を具へてゐるが, 準透明のものもある。

縁脈(C)は翅基より生じ, 翅の前縁を走つて R4+5 に達し, 一般には絨毛を生じてゐる。之に次ぐ。

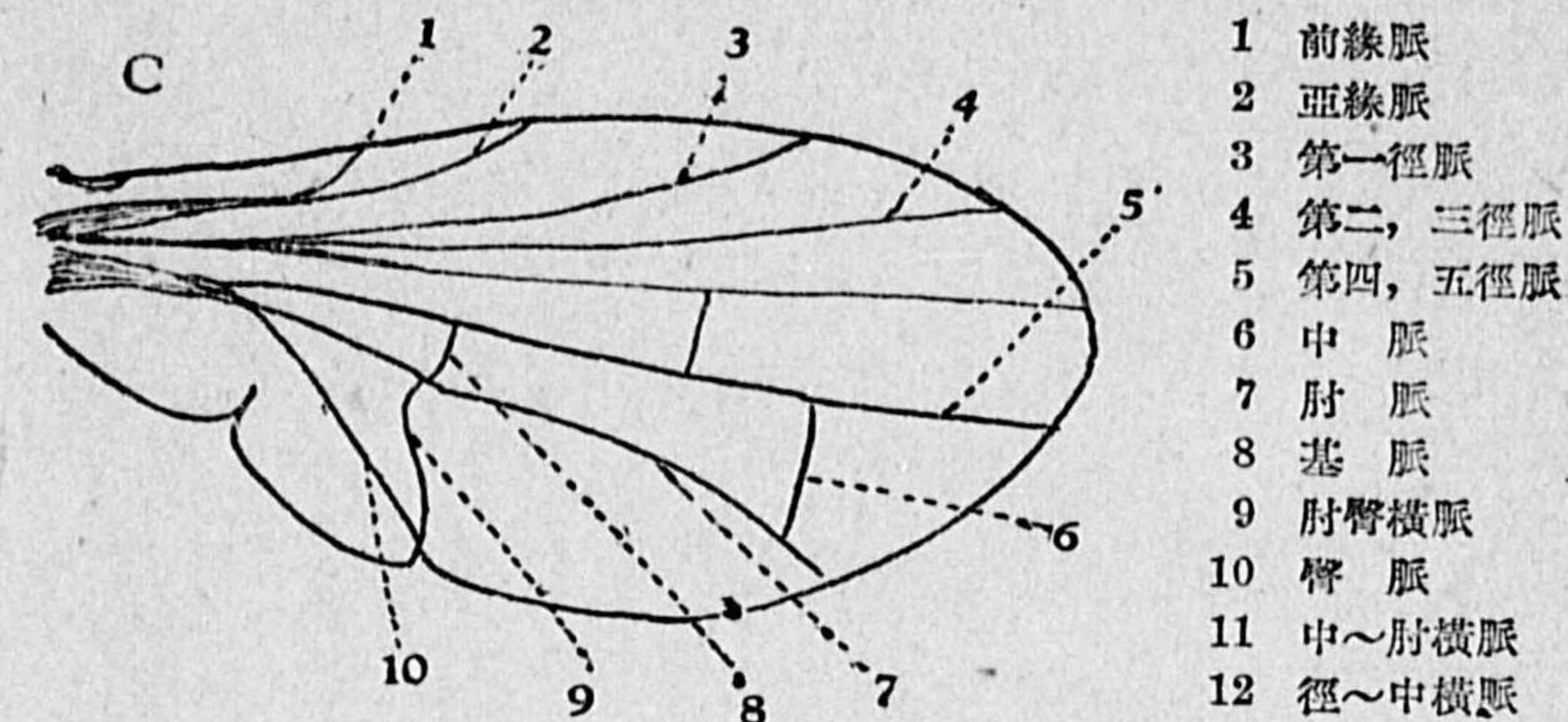
亞縁脈(Sc.)は短小にして R1 近くで終つてゐる。

第一徑脈(R1)は翅基から前縁へ斜走し, 徑中横脈附近で終つてゐる。全長に互り剛毛を生じてゐる。

第二三徑脈(R2+3)は第二縱走脈とも云はれ, 前縁端附近で終つてゐる。

第四五徑脈(R4+5)は第三縱走脈とも稱ばれ, 略1直線に走つて殆んど翅端に達してゐる。剛毛を生ずる部域の如何は分類學上必要な特徴をなしてゐる。

第1圖 果實蠅科の脈相



中脈(M)は上記に次で縦走する長脈で, 翅の中央部に於て横走脈即ち徑中脈と交つてゐる。

肘脈(Cu)はもまた縦走脈であつて, 翅の外縁の中程で終つてゐ, 茲から上方中脈へ走つてゐる横走脈は中肘脈(MCu)である。

臂脈(An)は第六縱走脈であつて, 概して後縁に達してゐる。之に次ぐ, 屢々不鮮明な1脈は補脈(Aux)乃至第三臂脈(An3)と云はれ, 翅縁に達する事はない。

横脈としては既記徑中, 中肘兩大脈の外に, 翅基横脈(Be)が縁脈と亞縁脈とを結び, 盤狀横脈(Dc)が中脈と肘脈との基半部に横走し, 肘臂横脈がBeと約竝行して肘臂兩脈間を横走してゐる。此の脈相の結果として下記の翅室を與へてゐる。

縁室Cは翅基に近く存在し, 縁脈と亞縁脈との間域であつて, 縁横脈によつて2部に分たれ夫々第一及第二縁室と稱ばれる。

亞縁室(Sc)之はSc脈とR1に圍まれてゐる。

第一徑室 R1 は R1 と R2+3 で包まれた域であり、

第三徑室 R3 は R2+3 と R4+5 脈とに挟まれ、徑中横脈で終つてゐる。

徑室(R)は徑中脈より翅基に互る上記中脈と R4+5 間の部域であり、第

五徑脈(R5)は R4+5 と中脈との間域で中徑横脈より翅端に横はる部域であつて、Rの延長に過ぎない。

中室(M)は中脈と肘脈との中間部にして、翅基横脈より翅基に至る部域を云ふ、

第一中室とは中・肘兩脈間にして翅基横脈と中肘横脈間の部域であり、

第二中室(M2)は中肘兩脈間にして中・肘横脈より翅縁に互る部域である。

肘室(Cu)は中室の直下で、肘・臀兩脈間を占め、肘臀横脈から翅縁に互る部域であり、之よりも基部は

臀室(An)を成してゐる。尙ほ第一肘室(Cu1)が臀脈と後縁との間にある事もあるが一般的ではない。

剛毛配置

蠅類特に本科のもの頭胸部には剛毛が生じてゐ、夫等の性状と配列状態とは分類學上甚だ重要な特徴をなしてゐる。

額眼剛毛 Front-orbital bristles は前額域の兩複眼の接する部分に生ずる剛毛であつて、上位額眼群と下位額眼群とに區別し得られる。共に本來は3對にして、上位群は垂直に、下位群は前額に生じてゐ、之は1乃至4對存するものである。

單眼剛毛 Ocellar bristles は單眼三角域に生じ、1~2 對ある。

頭頂剛毛 Vertical bristle: は頭頂なる頭頂痕上に生ずる2對の剛毛にして、内對は常に黒色で且つ長く、外對は短くして、屢々灰白色である。

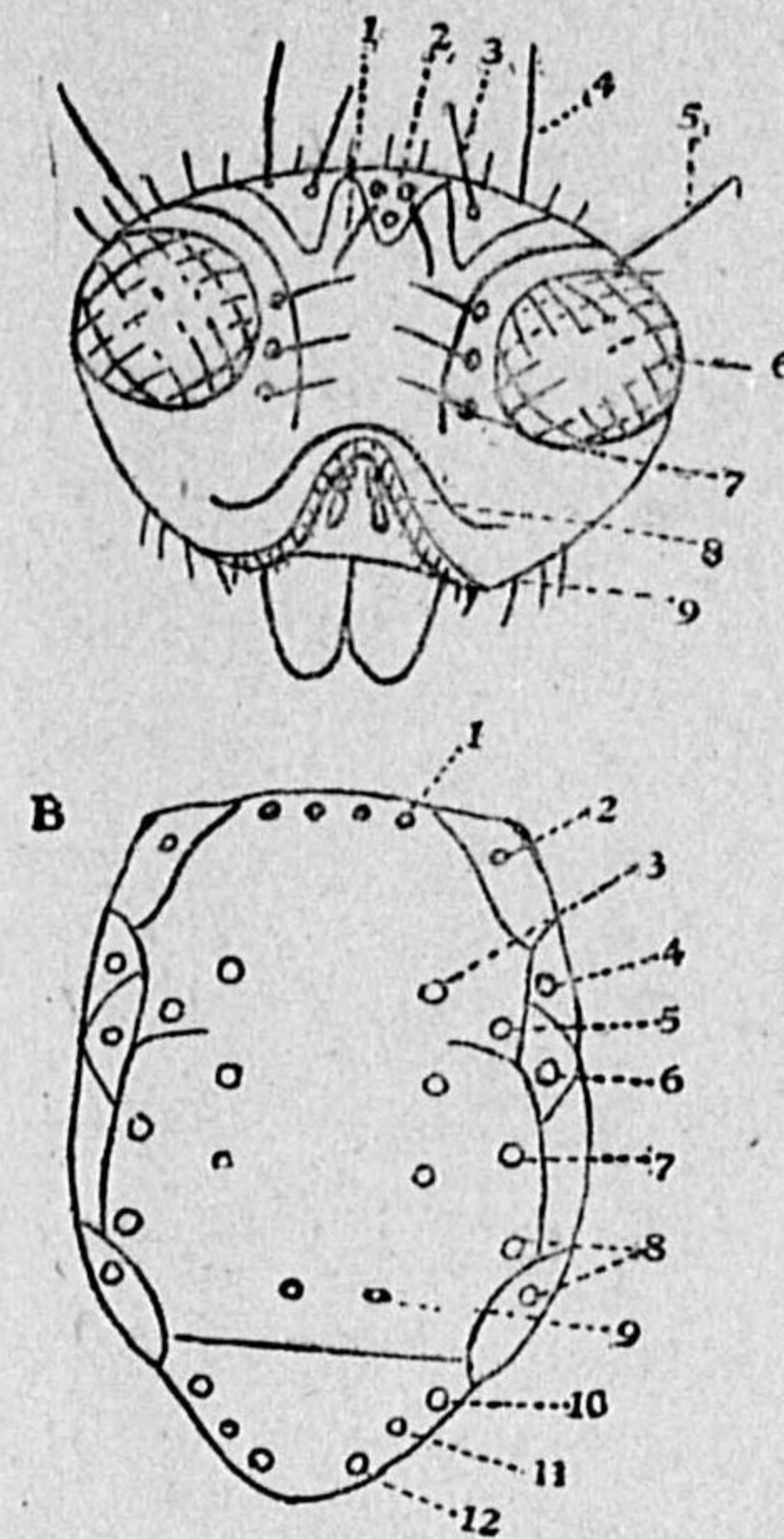
頭頂後剛毛 Post vertical bristles は單眼三角域の後方なる頭頂に生じ、

普通には1~2 對で、短く且つ黒色乃至灰白色である。

頬剛毛 Genal bristles は頬に生ずる1~3 對である。

後頭剛毛(Occipital bristles)又は後頭列 Occipital row 後頭縁に沿うて生ずる寧ろ短大な、屢々鈍頭剛毛で黒色乃至灰白色である。

第2圖 果實蠅科の剛毛配置



- | A 頭部 | B 胸部背面 |
|---------|----------|
| 1 單眼三角域 | 1 背前剛毛 |
| 2 單眼域剛毛 | 2 肩甲剛毛 |
| 3 内頭頂剛毛 | 3 背中剛毛 |
| 4 後頭頂剛毛 | 4 前背剛毛 |
| 5 頭頂剛毛 | 5 皺前剛毛 |
| 6 複眼 | 6 後背側剛毛 |
| 7 額眼剛毛 | 7 前上翅剛毛 |
| 8 觸角 | 8 後上翅剛毛 |
| 9 頬毛 | 9 楯前剛毛 |
| | 10 基小楯剛毛 |
| | 11 中小楯剛毛 |
| | 12 端小楯剛毛 |

以上は頭部の剛毛であり、以下は胸部のものである。

肩甲剛毛 Scapular bristles は胸部の前縁に生ずる寧ろ小形の剛毛で、2對あるのが本體である。

背中剛毛 Dorso-central bristles は胸背の中央部に生じ、多き場合には3對まで數へられる。一般には横走皺褶と小楯との間に生じ、内1對は横皺褶の前に在る。

前小楯剛毛 Praescuteller bristles は小楯板に接する後縁に生ずる1乃至2對である。

翅基上剛毛 Humular bristles は翅基上に生ずる1對である。

背側剛毛 Notopleural bristles は背側窪溝の背側皺褶の上位に生ずる2對であつて、後對前對と稱せられる事がある。

前位皺襞剛毛 Praesutural bristle は背側窪溝の上位で且つ皺褶前に在る1對である。時に全く缺けてゐる事がある。

翅上剛毛 Supra-alar bristles は3對を成してゐ、前位のものは缺如する事があるが、中位即ち翅の直上のものは一般に存在する。

前胸側剛毛 Prothoracic bristles は0~2對あつて、前胸部の氣門前に在る。

中胸側剛毛 Mesopleural bristles は1,2乃至より多くあつて中胸側の後縁に生じてゐる。

翅胸側剛毛 Pteropleural bristles は翅胸側なる翅基下より生じ、概して2對である。

側腹剛毛 Sterno-pleural bristles は胸側板で胸側皺襞下に生じてゐる。

小楯剛毛は Scutellar bristles 小楯板の後縁に沿うて生じ、2對あつて基小楯剛毛と端小楯剛毛對とに分つて稱ぶが、稀には中小楯剛毛が生じてゐる事がある。

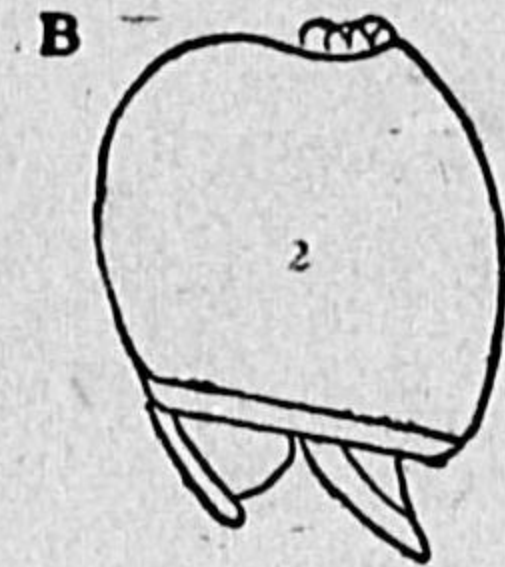
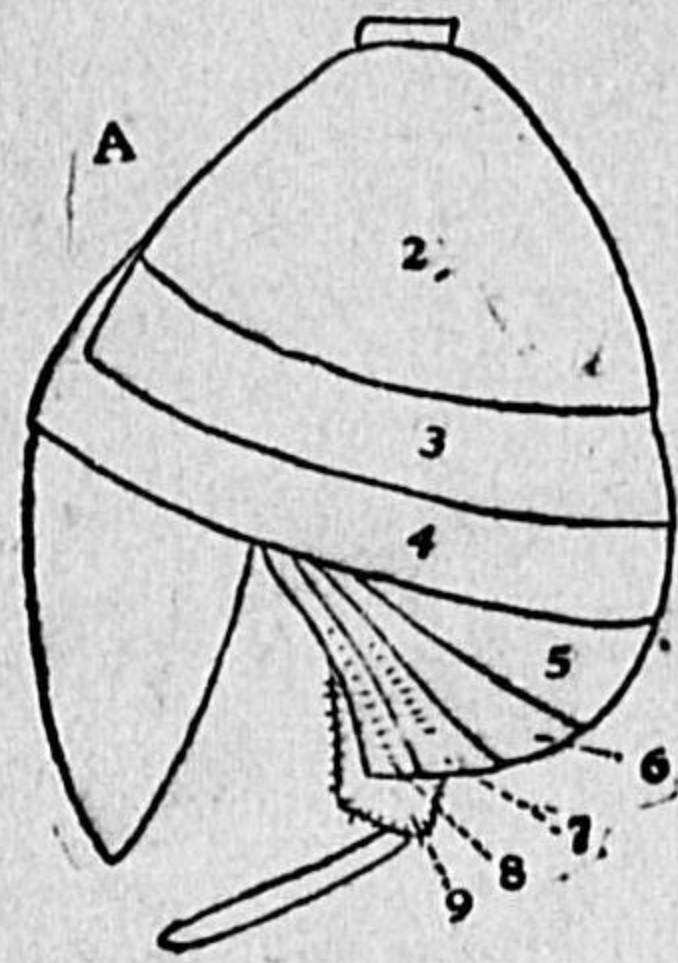
第七 膜翅目の分類

(1) 膜翅目の科の検索表

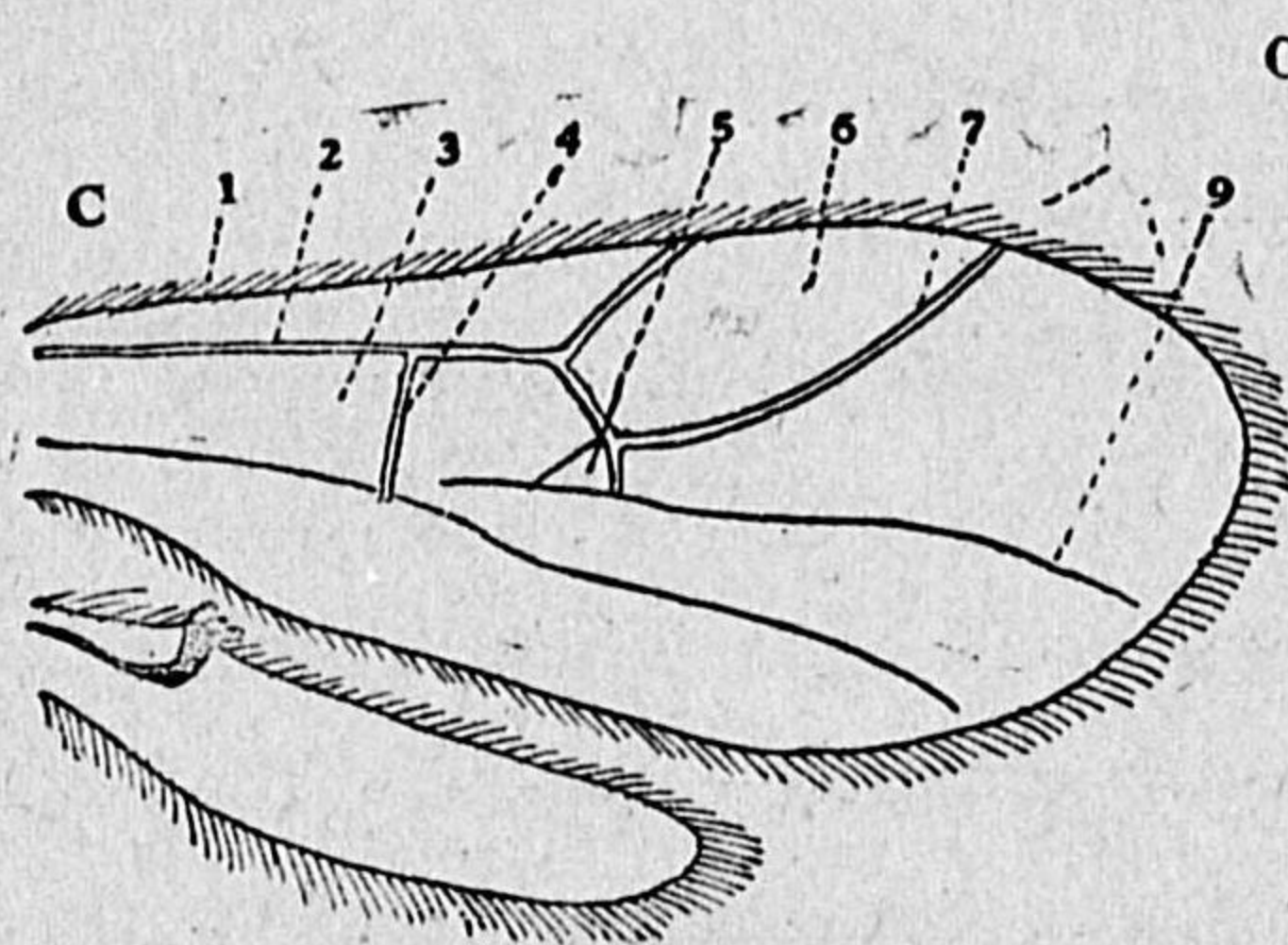
- 1. 後肢の轉節は2節より成り、尾端には顯著なる産卵管がある(無劍類) 2
- 後肢の轉節は1節にして尾端には劍(刺)を有してゐる(有劍類) ... 9
- 2. 胸・腹兩部の接續する所は甚しく狹隘でない 3

- 胸・腹兩部が接續する所は甚しく狹隘である 4
- 3. 前肢の脛節には棘を生じ、雌の尾端には鋸状の附屬器がある 葉蜂科 TENTHREDINIDAE
- 前肢の脛節端は距刺を生じ、雌の尾端には産卵管がある 樹蜂科 SIRICIDAE
- 4. 腹部は後胸部の背面に連續するが如く見える...細蜂科 EVANIDAE
- 腹部は後胸部の尾方の中央より出てゐる 5
- 5. 前翅には閉室を缺くか、若しくは閉室が少數である 6
- 前翅には多數の閉塞がある 7
- 6. 産卵器は尾端より生じてゐる 卵蜂科 PROCTOTRIPIDAE
- 産卵器は尾端より生じてゐない 小蜂科 CHALCIDIDAE
- 7. 前翅は翅斑を缺いてゐる 没食子(癭)蜂科 CYNIPIDAE
- 前翅には翅斑がある 8
- 8. 前翅の第一及第二中脈(VI, VII)は癒合してゐない、翅斑は顯著 姬蜂科 ICHNEUMONIDAE
- 前翅の第I及第II中脈(VI, VII)は癒合し、體は小さい 小菌蜂科 BRACONIDAE
- 9. 體は青綠色にして腹部は4,5環節より成り、頭胸部よりも長くない 青蜂科 CHRYSIDAE
- 體は青綠色ならず、腹部は頭胸部よりも長い 10
- 10. 腹部には第I節若しくは第II節にも小突起體を有してゐる 蟻科 FORMICIDAE
- 腹部第I節の背面には小突起體が無い 11
- 11. 胸部は羽状の細毛をつけ、第1跗節は扁平である 12
- 胸部は無毛、若しくは單毛を着け、第1跗節は扁平でない 13

- 12. 舌は長く實に下顎の基節よりも長い…………… 蜜蜂科 APIDAE
舌は短い…………… 擬蜜蜂科 COLLETIDAE
- 13. 静止の時に翅を疊む…………… 花蜂科 VESPIDAE
静止の時に翅を疊まない…………… 14
- 14. 前胸板は後方へ斜走して瓦状片に達してゐる…………… 15
前胸部は短くして後方瓦状片に達しない…………… 細腰蜂科 SPHECIDAE
- 15. 腹部の第一第二兩節間は狹隘である…………… 16
第一第二兩腹環節間は狹隘でない…………… 鼈甲蜂科 PONPILIDAE
- 16. 中脛節端は2刺を有し, 中基節は密觸し, 雌は無翅である……………
…………… 蟻蜂科 MUTILIDAE



第3圖
瘦蜂の術語圖解
A. パラタマバチ屬の腹部
2~8 は第一~第八
腹環節を示す
B. スネルグス屬の腹部
數字2等は二腹環節を示す



C. アンドリクス屬の翅脈相
1. 緣脈
2. 亞緣脈
3. 亞緣室
4. 基脈
5. 小室
6. 徑室
7. 徑脈
8. 肘室
9. 肘脈

中脛節端に1刺を有し, 中基節は接することなく, 雌も有翅である

…………… 土蜂科 SCOLIIDAE

(2) 瘦蜂科の亞科の檢索表 [ダ・ラ・トア氏による]

- 1. 前翅の翅斑は濃厚にして且つ大…………… Pycnostigminae
前翅に斯様な翅斑を缺いてゐる…………… 2
- 2. 後翅の腿節は末端近くに1距刺を具へ, 肘脈は基脈の前半部より
生じ, 腹柄は短くして後肢の基節の上半部より起り, 第二乃至第
四腹環節は舌形, 觸角は雌にては13節, 雄にては14節より成
つてゐる…………… Oberthürellinae
後肢の腿節は棘刺を具へない…………… 3
- 3. 腹部は長き柄状部を有し, 全く中環節上に起り, 舌状, 觸角は雄
14節, 雌13節…………… Liopterinae
後肢の基節間の腹部は固着してゐる…………… 4
- 4. 後肢の第二跗節は筆状の突起體を具へ, 肘脈は基脈前半部より生
じ, 3個の完全肘室を具へ, 觸角は雌にては13, 雄にては14節
より成る…………… Ibalinae
後肢の第二跗節には突起體無く, 肘脈は基脈の中部又は後半部よ
り生じ, 一般には2個の完全肘室を有してゐる…………… 5
- 5. 菱状部には多數の杯状窪が在り, 肘脈は基脈の根基より生じ, 第
二腹環節は第一腹環節よりも長く, 觸角は11~16節より成り,
多くの場合には♀13, ♂15節…………… Euccilinae
菱形部には隆起體が無い…………… 6
- 6. 第二腹環節は甚だ小にして舌状, 第三環節よりも短小, 肘脈は基
脈の根基より生じ, 觸角は♂にては14節, ♀にては13節より
成る…………… Aspicelinae

- 第二腹環節は舌状ならざるか、若くは舌状にして第三環節よりも遙かに長い……………7
7. 第二腹環節は腹部の半長よりは短く、肘脈は基脈の根基より生ずるか、若くは之を欠き、觸角は♀ 13, ♂ 14 節……………8
- 第二腹環節は少くとも腹部の半長、若くは半長以下にして肘脈が基脈の中部から生じてゐるかである……………9
8. 腹部は有柄、第二腹環節は第三腹環節よりも長い……………Anacharitiae
- 腹部は有柄固著、第二腹環節は第三腹環節よりも短い……………Eigitinae
9. 體には彫刻無く、小房は不完全、觸角は♀にては13, ♂にては14節より成り、體長2耗以下……………Charipinae
- 體には彫刻部有り、稀に無き時にも小房室は完成してゐる、觸角は12~18節より成る……………Cynipinae (マタバチ亞科)
- 本邦産のものは皆タマバチ亞科に屬する。

(3) 瘿蜂亞科 SUBFAM. CYNIPINAE の屬の檢索表

1. 翅側溝は後方へ向け接近し、菱形の前端に於て會合してゐる。北米にて柏に蟲癭を形成する……………バラテラス屬 Parateras
- 翅側溝は後方が會合せず、又、屢々缺如してゐる……………2
2. 菱形部は1箇の鈍尖棘に終つてゐる……………3
- 菱形部は後方が圓く終るか、若くは截斷形である……………4
3. 無翅又は短翅、前胸板は絲狀に細小。北米にて柏に蟲癭を形成する……………アクラスピス屬 Acraspis
- 翅は常規の發達をなし、前胸板は絲狀でない。米國産にて雜草に蟲癭を營む……………ゴナスピス屬 Gonaspis
4. 翅は多少短いか、若しくは全く無翅……………5

- 翅は常規である……………9
5. 全く翅側溝を欠き、胸部は平滑にして光輝に富み菱形部は前方に横窪を有し、爪は單純である、北米にて柏に蟲癭を形成する……………キストテラス屬 Xystoteras
- 翅側溝を有する……………6
6. 頭胸兩部には毛多く、觸角は12~14節、米國にて柏に蟲癭を形成する……………トリコテラス屬 Trichoteras
- 頭胸に毛少数、觸角は13~14節……………7
7. 翅側溝は完通し、複眼後の後頭は廣濶となり、額には觸角間に隆起部がある……………8
- 翅側溝は完通せず、複眼の後方は廣からず、額には隆起部が無い……………トリゴナスピス屬 Trigonaspis
8. 爪は單純、無翅のものにありては兩觸角間の額に隆起部があるが短翅型には隆起が無い……………ビオリザ屬 Biorhiza
- 爪は強齒を具へ、翅は短く、額に隆起部がある……………キサントテラス屬 Xanthoteras
9. 最初の4腹節は不等大にして、第二節が最長である……………10
- 最初の4腹環節は等大……………53
10. 基脈は徑室に注ぎ、肘脈は第一部を欠き、菱形部は前方に溝と窪とを欠き、額には2縦溝にて隔たる觸角窩があり、外生殖器は犁頭形。南米にてアカシアに寄生する……………エスカトケルス屬 Eschatocerus
- 基脈は基部が徑室より遠く亞縁脈に注ぎ、肘脈の第一片は存在してゐる……………11
11. 菱狀部は前部に窪部と横溝とを具へ、中央には屢々圓形の陥落部

- がある……………12
- 菱状部は前部に2窩又は1横溝を具へてゐる……………14
12. 12節より成る觸角の末端節は紡錘状に膨大し且つ3近接節の和と同長に長く、爪は2裂し、徑室は閉じてゐる……………
……………ハラウラツクス屬 *Paraulax*
- 14~16節より成る觸角の末端節は紡錘状ならず、また、長からず、爪は單純……………13
13. 徑室は開き、菱形部は中背板よりも高くない。薔薇科に蟲癭を形成する……………リエベリア屬 *Liekelia*
- 徑室は閉ち、菱形部は中背板よりも高い。楓に蟲癭を形成する……………
……………ペヂアスピス屬 *Pediaspis*
14. 中胸板は背面に於て前胸板を全く覆うてゐる……………
……………バツセチア屬 *Bassetia*
- 前胸板は上面1様に肥厚してゐる……………15
15. 觸角は14節より成り、末端節は3個の肥厚せる節より成つてゐる。北米にて柏に蟲癭を形成する……………ユウマイリア屬 *Eumayria*
- 觸角の末端節は肥厚した3節より成つてゐない……………16
16. 第一腹環節には太い縦溝があり、顔には縞條が無い、翅側溝は缺如し、菱状部は前部に横溝を有する……………ポンキイア屬 *Poncyia*
- 輪状の第一腹環節に太い縦溝があり、第二第三背板には縫合線成長せず、顔は扇状に皺襞を有し、腹刺は短い、菱形部は前部に2窪を有する……………17
- 腹環節は平滑にして、中胸部の短き柄状突起にて代へられてゐない……………18
17. 徑室は閉ち、觸角は歐洲型にありては14節、亞米利加型にありて

- は13~15節。柏蟲癭内に同居する……………シネルグス屬 *Synergus*
- 徑室は前縁に於て開き、觸角は13節。柏の蟲癭内に客員生活をする……………サホネクルス屬 *Saphonecrus*
18. 觸角は12~13節より成り、菱形部は2箇の窪を有し、徑室は閉ち、第二及第三腹環節は肥厚してゐるが細い接合線を有する。顔には2個の隆起部が觸角の基部より前額片に至る部域に互つて走つてゐる。柏の蟲癭の客員である……………ケロプトレス屬 *Ceroptres*
- 顔面には斯かる隆起部が無い……………19
19. 外部生殖器は犁頭状、爪は單純……………20
- 外部生殖器は徐々に細く鋭くなる代りに急に短小となり時には甚だ短い、棘化する事がある……………22
20. 菱形部は窪を缺き、徑室は前縁に開き、腹部は微小の皺を有して居る……………リトロウヂテス屬 *Lytrohodites*
- 菱形部は窪を具へ、腹部には彫刻が無い……………21
21. 徑室は閉じてゐる。薔薇科に蟲癭を作る……………リオヂテス屬 *Rhodites*
- 徑室は開いてゐる、北米産、柏に蟲癭を形成する……………
……………コムブソドリオクセヌス屬 *Compsodryoxenus*
22. 前肢の脛節には長刺毛があり、之は相對立してゐる距毛と同長である。肢側溝は明瞭、菱形部は前部に廣い横溝を具へ、徑室は前縁に開き、爪は單純。米國に於て柏に蟲癭を形成する……………
……………ベロノクネマ屬 *Belonocnema*
- 前肢の脛節は1小刺を有するか若くは無刺……………23
23. 中背片と菱状部との中間には縫合線が在り、稜状部には肥厚したる前縁が無く、中背片の後縁は弓形に彫刻され、菱状部は前方に彎曲せる横溝を具へ小窪を缺いてゐる。側翅溝は缺如せるか若し

- くは明瞭に走つては居ない。柏に蟲癭を形成する……………
……………**ネウロテルス属 Neuroterus**
中胸背片と稜状部との間の縫合線は多少肥厚して稜状部の前縁よ
りも高い……………24
24. 腹部は無毛, 第二腹環節の最上部は側面に多小の毛を具へ, 稜
状部と中背片とには縦線が無い, 第二環節よりの各腹環節は皆残
餘の體部と同じく有毛, 背面の最高部は多少とも裸出, 複眼の後
方の頭部は著しく幅大に, 徑室は開き, 胎生性生殖をなす……………25
- 腹部は無毛, 前額が高く且つ1個の縦線によりて2縦窪に分たれ,
中胸腹片には3縦走線があり, 徑室は開いてゐる, 柏蟲癭内にす
む……………**フィオリエラ属 Fioriella**
25. 爪は単純, 側翅溝は前方が刻出されず, 中胸背片には皺襞が點刻
され, 稜形部は長幅約同大, 前方には中央にて中絶せる横溝があ
り其の側面は閉ぢてゐない。柏に蟲癭を形成する……………
……………**アフエロニツクス属 Aphelonyx**
爪は2爪に岐れ, 側翅溝は貫通, 稜形部は長いよりも幾分幅廣く,
前方には常に兩側が隆縁にて閉された窪がある。柏に蟲癭を形成
する……………**シニプス属 Cynips**
26. 徑室は閉ぢ, 前胸背片は中部が小でない……………27
徑室は少くとも前縁に於ては大部分開き, 前胸背板は屢々中央が
線状に細くなつてゐる……………34
27. 顔には溝無く, 頬は複眼の半よりも長く, 爪は単純である……………28
顔には扇状に溝があり, 稜形部には前方に區劃された唇がある……………30
28. 稜形部には2個の多少三角形乃至圓状の顯著なる相互に區劃せら
れた唇がある……………**アウラシデア属 Aulacidea**

- 稜形部の前方は中部に於て中絶してゐる1小横溝を具へてゐる……………29
29. 觸角は13節より成り, 中胸背片は幅よりも長く, 稜形部の横走
溝は中絶されず, 側縁閉ざされず, *Centaurea-Stengeln* に蟲癭を
形成する……………**フナキス属 Phanacis**
觸角は14節より成り, 中胸背片は幅よりも短く, 稜形部の横溝
は短くして中部が中絶され, 高く上背へ隆起せる三角形側唇を1.
縦走隆起によりて分つて居る, 菊科植物に寄生……………
……………**チマスビス科 Timaspis**
30. 中胸背は全く平滑……………31
中胸背は全く平滑で無い……………32
31. 爪は単純, 前胸背には中央近くに2個の唇があり, 第二第三腹環
節の背板には皺溝のなきものあり, *Potentilla* に蟲癭を形成する
……………**クセストフハネス属 Xestophanes**
爪は齒を有し, 前胸背には唇が無い, 第二第三腹環節の背板上は
發達しない。Rubus, potentilla 及び Smilax に蟲癭を營む ……
……………**デアストロフス属 Diastrophus**
32. 第一及び第二腹環節は癒合して殆んど全腹部を覆ひ, 爪は多少明
瞭に齒状を呈してゐる……………33
第一及び第二の兩腹環節は分離し, 爪は単純, 種々の雑草及び灌
木に蟲癭を營む……………**アウラシデア属 Aulacidea**
33. 觸角は12節, 前胸背は中央に2個の織線を具へ, 中胸背は皮革
状。薔薇科及び柏科蟲癭内の同棲類……………**ペリクリスツス属 Periclistus**
觸角は13節, 前胸背には織線が無い, 中胸背には横走皺褶があ
る。亞弗利加にてスルデに蟲癭を形成する……………
……………**ルーフィルス属 Rhoophilus**

34. 稜状部は長さよりも幅広く、1個の甚だ明瞭ではあるが粗い皺縞ある中軸縦走溝を具へ、前方には2個の深い厩を有し、爪は2齒を具へ、頭胸兩部は粗い皺を具へ、頬は少くとも複眼の半長。亞米加で柏に蟲癭を形成する……アムヒポリプス屬 *Amphibolips*
稜形部は中軸縦走溝を缺く、稀に之を有するものにありては爪は普通の如くで齒を有しない……35
35. 頬は眼の半よりも長い、前胸板は中央が殆んど挟まれず、腹棘は殆んど幅よりも長くない……36
頬高は眼の約半大、前胸は中央が狭く、主に絲狀、腹棘は幅よりも遙かに長い……44
36. 頭長は頭幅の約1 $\frac{1}{2}$ 大、頬は複眼と約同長、中縁は額片より兩觸角間に亘つて居る、*Valerianella* に蟲癭を營む……ケツコニア屬 *Jecconia*
頭部は長幅約同大、顔には中軸縦走縁が無い……37
37. 爪は1齒又は多齒を有す……38
爪は單1である……40
38. 爪の分齒は強からず、中胸背には縦走縁があり側翅溝は甚だ短く且つ不鮮明、第二觸角節は第三節と約同長、*Phlemis* に蟲癭を形成する……パンテリエラ屬 *Panteliella*
爪は2齒を具へ、顔は明かに扇形皺を有し、中胸には決して縦走皺縁が無い……39
39. 中胸部は粗い有皺、側翅溝は貫通せず、小室は完全に形成され、頭部には分離したる前額片が無い、頬は殆んど眼と同長、柏に蟲癭を形成する……シノフィルス屬 *Synophirus*
中胸背は革皮狀、側翅溝は貫通し終らず、小室は不完全にして僅

- かに遠脈のみを具へてゐる……シノフロモルフハ屬 *Synophromorpha*
中胸背は全く若くは部分的に平滑、側翅溝は全く通り、顔には明瞭に分離せる前額片があり、頬は複眼の半よりは長く無い *Rhus* 及び *Potentilla* に蟲癭を形成する……デアストロフス屬 *Diastrophus*
40. 中胸背と中胸側とは全く平滑、前胸背は前方に中部近くに2厩を具へ、稜形部は前方に強く皺褶したる2厩を有し、顔には著しき皺がない *Potentilla* に蟲癭を形成する……クセストフハネス科屬 *Xestophanes*
中胸は全く平滑で無い、前胸背に厩が無い……41
41. 稜形部は前方に2個の強い皺寄れる多少三角狀若しくは圓狀の厩を具へ、側厩は常規の如くに稜形部の斜面上に在り、顔は横に皺を具へ、前胸背は中部に2個の平行した縦走皺縞を有してゐる。諸屬の草木竝に灌木に蟲癭を營む……42
稜形部は前方に1個の屢々中斷せる横溝を具へ、顔には皺無く、前胸背に縁がない……43
42. 頭部は前方より見れば、前額片高が複眼高よりも僅かに狭く且つ直ちに上顎の關接に至るまで狭まり、頬は茲より弓形を呈する、複眼は甚だしく弓形にして顯著、稜形部は膨大するが中胸の高さまで突出してゐる……アンチストロフス屬 *Antistrophus*
頭部は前方より見れば複眼より上顎の關接に至るまで殆んど1様に彎曲して狭まり、顔は此所より殆んど彎入せず、複眼は顯著に突出、稜状部は中胸背の高さまでは突出してゐない……アイラツクス屬 *Ilyx*

43. 稜形部には中縦走隆起部が無い，稜形部の前位横走溝が中部に於て分離し，稜状部の側窪は稜形部から抽出してゐる。菊科植物……**チマスビス**属 *Timaspis*
稜形部は半圓形にして光輝ある中走隆起部を具へ，前方には唇が無く分離せる横溝も無い。Solanum に蟲癭を形成する……**トリバリア**属 *Tribalia*
44. 第二腹環節は後方へ狭まつて舌状をなし，側翅溝は鋭く完通し，稜形部は前方に彎曲せる横溝を具へ，中胸背の皺褶は甚だ彎曲し，爪には2齒がある……**チプロレビス**属 *Diptolepis*
腹部の背片には甚だ深く陥没したる後縁がある……45
45. 爪は單純，稀に2齒を具へる場合には觸角の後部の3分の1が中部よりも細く，且つ中部の環節の皺縁は側部へ角をなして突出してゐる……46
爪は2齒を具へ，觸角の末端にして全長の3分の1域のものは中部の關節よりも小ならず，後胸背の皺褶は直線で，平行にして角状でない……52
46. 稜形部分には2個の顯著なる境界溝がある……49
稜形部には窪なく屢々中央に於て分離せる横走溝がある……50
47. 後胸背片には中軸縦走隆起が2皺褶間がない……48
後胸背板には2箇の角状に彎曲せる縦走皺褶と1箇の中軸縦走隆起部とがあり，中胸背は皮革状，側翅溝は前方へ明瞭に膨れてゐる，柏に癭を造る……**ブラギオトロクス**属 *Plagiotrochus*
48. 中胸背片は平滑，側翅溝は鮮明且つ完通し，中環節皺褶は角状に側方へ彎曲してゐる……49
中胸背は平滑でなく，粗く横皺を示し，側翅溝は屢々前方が多少

- 不鮮明である。柏の蟲癭内に棲む……**カリライチス**属 *Callirhytis*
49. 觸角は後部3分の1が中部よりも細くなく，爪は明かに單純，柏の蟲癭……**ビオリザ**属 *Biorhiza*
觸角の後方3分の1は中部よりも細く，爪は明かに2齒を具へる。柏の蟲癭内に棲む……**トリゴナスビス**属 *Trigonaspis*
50. 頭部は全く平滑にして強き光輝を放ち，側翅溝は強く，完通してゐる，柏に癭を造る……**キラスピス**属 *Chilaspis*
少くとも中胸部又は稜状部は平滑でなく有皺である……51
51. 側翅溝は極めて不鮮明，頬は眼の4分の1長，中部環節の皺褶は平行にして之等の間には多少明瞭なる1箇以上の中軸縦走隆起線がある。亞米利加に於て柏に蟲癭を形成する……**ロクサウルス**属 *Loxaulus*
側翅溝は顯著にして完通，頬は眼の約2分の1長，中部環節の皺褶は兩側へ角状をなしてゐる。柏に蟲癭を形成する……**ドリオコスムス**属 *Dryocosmus*
側翅溝膨れ後方は鮮明前方は明かに之を缺いてゐる**バクシニウム**に蟲癭を形成する……**ソレノゾフエリア**属 *Solenozopheria*
52. 稜形部は前方に彎曲せる横溝を具へ，側翅溝は前方消滅し，頭胸兩部は豊富に有毛，亞米利加にて柏に蟲癭を形成する……**ヂシヨオカスピス**属 *Dishocaspis*
稜形部は前方に2個の唇を具へ，側翅溝は完通してゐる。柏に蟲癭を形成する……**アンドリクス**属 *Andricus*
53. 最後位の中背板は最初の4背板よりも長く，中胸背板には縦走溝なく，中部環節には2個の縦走皺褶がある……**メゾシニツプス**属 *Mesocynips*

背板は皆同長，中胸背板には3個の縦走皺褶があり，中央環節には常規の縦走皺褶が無い……………トリチャガルマ属 Trichagalma

上記は雌蟲による属の検索表であり，内ゴチック字體にて記せるものは我國に発見せられるものである。

• 第八 鞘翅目の分類

(1) 鞘翅目の亞目の検索表

- 1. 附節は前・中・後肢共に5節より成り，觸角は主に絲狀，マルピギ氏管は4個，肉食性，幼蟲は主に衣魚型…肉食亞目 ADEPHAGA
附節數竝に觸角の形態は1様でなく，マルピギ氏管は4個又は6個……………多食亞目 POLYPHAGA

(2) 多食亞目の首科の検索表

- 1. 觸角は絲狀又は棍棒狀，鞘翅は尾端に達しない……………隱翅蟲首科 STAPHYLINOIDES
觸角の形狀は1様でなく，鞘翅は尾端に達してゐる……………2
- 2. 頭部は伸びて吻鼻をなし，附節は4節の觀を呈する……………象鼻蟲首科 RHYNCHOPHORA
頭部は伸びず，吻鼻をなさない……………3
- 3. 觸角は鰓葉狀である……………鰓葉角首科 LAMELLICORNIA
觸角は鰓葉狀でない……………4
- 4. 附節は前・中・後共に1見4節より成つてゐる……………草食首科 PHYTOPHAGA
附節は皆4節より成つてはゐない……………5

- 5. 附節は3~5節より成つてゐる……………異角首科 DIVERSICORNA
前・中・後肢中には附節數を異にするものがある……………
……………異節首科 HETEROMERA

(3) 象鼻蟲亞目の科の検索表

- 1. 下唇鬚は比較的長くして曲折し，上唇は明瞭に存する…長角象蟲科
下唇鬚は短くして曲らず，上唇を缺如してゐる……………2
- 2. 頭部は長鼻を成さず，脛節は鋸齒狀である……………小蠹蟲科
頭部は(少くとも雌にては)吻管をなし脛節は鋸齒狀でない……………3
- 3. 觸角は一般に膝狀・棍棒狀又は球杆狀である……………象鼻蟲科
觸角は一般に球杆狀でなく，膝狀でも無い……………三錐象蟲科
- 6. 前胸部の基部は鞘翅の基部よりも幅小である……………7
前胸部の基部は鞘翅の基部よりも幅小でない……………花蚤科
- 7. 爪は分裂してゐる……………地膽科
爪は分裂してゐない……………8
- 8. 觸角は概して鋸齒狀又は櫛齒狀である……………赤翅蟲科
觸角は概して絲狀である……………一角蟲科

(4) 異節亞目の科の検索表

- 1. 前肢の基節窩は後方が閉ぢてゐる……………2
前肢の基節窩は後方が開いてゐる……………4
- 2. 附節の爪は鋸齒狀である……………圓刺蟲科
附節の爪は鋸齒狀でない……………3
- 3. 前基節は顯著でなく，末端より2節目の附節は2葉に分れてゐる
……………偽步行蟲科

- 前基節は球形で顯著，末端より第二節目の跗節は2葉に分れてゐない……………偽葉蟲科
- 4. 頭部は基部に於て縊れてゐない……………6
- 頭部は基部に於て顯著に縊れてゐる……………5
- 5. 中基節は顯著でない，胸側に縁がある……………長朽木蟲科
- 中基節は顯著，胸側は縁をなさない……………擬天牛科

(5) 異角亞目の科の檢索表

- 1. 後跗節は他の跗節と同數の環節より成つてゐる……………2
- 後跗節は4節より成り，前・中兩跗節は主に5節より成つてゐる……………4及び11
- 2. 後跗節は5節より成つてゐる……………3
- 後跗節は4節，若しくは4節にして第三節が短小である……………(隱四節即ち草食首科)
- 3. 觸角は膝狀で且つ球杆狀である……………4
- 觸角は膝狀でなく球杆狀でもない……………5
- 4. 鞘翅は尾端の2~3節を覆はない……………闊魔蟲科
- 鞘翅は尾端節をも覆うてゐる……………標本蟲科
- 5. 下顎鬚は觸角と同等以上に長い……………牙蟲科
- 下顎(下腮)鬚は觸角よりも短小である……………6
- 6. 爪は大きく，第一・第二・第三腹環節の腹板は癒合してゐる…泥蟲科
- 爪は普通，腹環節は自在なるか，若しくは第一・第二が癒合してゐる……………7
- 7. 腹板は5環節を數へる……………8
- 腹板は6環節以上である……………19

- 8. 前基節は圓形若しくは横置せられ基節窩へ突出してゐない……………9
- 前基節は圓錐形にして基節窩へ突出してゐる……………17
- 9. 前基節は横置せられ，多少圓筒形である……………10
- 前基節は球形である……………12
- 10. 後基節は中溝を有して腿節を容れられ得……………圓花蚤科
- 後基節には中溝がない……………11
- 11. 跗節は多少膨大し，其の第一節は特に短くはない……………出尾蟲科
- 跗節は細長くして其の第一節は短い……………穀盜科
- 12. 前胸の腹板には突起體がありて後方へ伸び中胸腹板の溝に達してゐる……………13
- 前胸の腹板には中胸腹板溝に容るべき突起體が無い……………14
- 13. 第一・第二兩腹環節の腹板は癒合してゐる……………吉丁蟲科
- 第一・第二の兩腹板は癒合すること無く前胸と中胸とは關係密接ならず，前基節窩は全く前胸腹板内にあり，前胸側は後方へ突出してゐる……………叩頭蟲科
- 14. 體は扁平，中肢の基節窩は中・後兩胸の腹板にて閉鎖されてゐない……………扁蟲科
- 體は扁平ならず，中基節窩は兩胸腹板にて全く閉込められてゐる……………15
- 15. 前胸の腹板は後方へ伸びてゐない……………小草蟲科
- 前胸の腹板は後方へ伸びて中胸腹板に接してゐる……………16
- 16. 前基節窩の後方は開いてゐる……………葦蟲科
- 前基節窩の後方は閉ぢてゐる……………大葦蟲科
- 17. 後基節は肥大にして腿節の基部を覆護し，觸角末端の3節は球杆狀である……………鏗節蟲科

- 後基節は甚しく肥大してゐない.....18
- 18. 後基節は扁平にして小さく、體は1見蟻に似てゐる.....郭公蟲科
後基節は卵狀にして小さく、普通に鞘翅は稍々短い.....出尾草蟲科
- 19. 鞘翅には縁毛が生じてゐる.....20
鞘翅には縁毛が無い.....21
- 20. 跗節は4節より成る.....瑣微蟲科
跗節は3節より成る.....竜草蟲科
- 21. 第二跗節は大、爪は鋸齒狀でない.....擬瓢蟲科
爪は鋸齒なるか、他に附屬體を伴つてゐる.....瓢蟲科

第九 鱗翅目の分類

(1) 鱗翅目の亞目の検索表

- 1. 晝間に飛翔し、觸角は球杆狀乃至棍棒狀である.....
.....蝶亞目 RHOPALOCERA
夜間に飛翔し、觸角は絲狀又は羽狀、球杆狀なる事稀である.....
.....蛾亞目 HETEROCERA

(2) 蛾亞目の科の検索表

- 1. 前翅の第二中脈は圓盤の中央、若しくは第三中脈よりも第一中脈
に近く生じてゐる.....2
前翅の第二中脈は圓盤室の下隅若しくは第一中脈よりも第三中脈に
近く生じてゐる.....11
前翅の室よりは4脈が殆んど同距離より生じてゐる.....6
- 2. 抱翅は微小である.....尾蛾科
抱翅を缺いてゐる.....9

- 刺抱は顯著である.....6
- 3. 口吻を有し、肢には距がある.....4
口吻を缺き、肢には距がない.....5
- 4. 後翅の亞縁脈と徑脈とは相離れてゐる.....6
後翅の亞縁脈と徑脈とは相接近してゐる.....水蠟蛾科
- 5. 後翅の亞縁脈は1個である.....天蠶蛾科
後翅の亞縁脈は2~3個である.....家蠶科
- 6. 觸角は紡錘狀である.....天蛾科
觸角は紡錘狀でない.....7
- 7. 口吻を缺いてゐる.....帶蛾科
口吻を有してゐる.....8
- 8. 後翅の亞縁脈は曲りて徑脈に近づいてゐる.....尖蛾科
後翅の亞縁脈は徑脈に接近しない.....9
- 9. 跗節と脛節とは約等長にて且有毛である.....天社蛾科
跗節は長くして長毛を生じてゐない.....10
- 10. 前翅の亞縁徑の兩脈の距離は大きい.....双尾蛾科
前翅の徑脈は亞縁脈より生じ距離短いか、又は缺けてゐる.....
.....尺蠖蛾科
- 11. 後翅は8脈以上を有し、且翅垂を有してゐる.....蝙蝠蛾科
後翅は8脈以下を有する.....13
- 12. 後翅の亞縁・徑の兩脈は圓盤室前に於て離れてゐる.....13
後翅の亞縁・徑の兩脈は相接してゐる.....22
- 13. 抱刺を具へてゐる.....14
抱刺は缺けてゐる.....枯葉蛾科
- 14. 後翅の徑脈は退化してゐる.....鹿子蛾科

- 後翅に徑脈がある……………15
15. 前翅の第二臀脈は基部にて2分してゐる……………16
前翅の第二臀脈は基部にて2分してゐない……………19
16. 後翅の亞縁脈は徑脈と分離してゐるか、小横脈によりて接続してゐる……………17
後翅の徑脈と亞縁脈とは基部に於て接し、口吻は發達してゐる……………刺蛾科
17. 口吻を具へる……………斑蛾科
口吻を缺いてゐる……………18
18. 鬚を有し雌蟲は有翅である……………木蠹科
鬚を缺き、雌蟲は無翅にして巢繭を出ない……………避債蛾科
19. 後翅の亞縁脈は横脈によりて徑脈と連続されてゐるか、室の中央に於て徑脈に連つてゐる……………20
後翅の亞縁脈は徑脈より分岐してゐる……………燈蛾科
後翅亞縁の兩脈は基部近くに於て接し、口吻は大きい……………21
20. 下唇鬚の第三節は裸出して頭頂を超え、口吻は顯著である……………擬燈蛾科
下唇鬚の第三節は裸出して頭頂に達せず、口吻は顯著でない……………毒蛾科
21. 觸角は絲狀である……………夜蛾科
觸角は末端が多少膨大してゐる……………虎蛾科
22. 後翅は第一臀脈を缺いてゐる……………23
後翅は第一臀脈を具へてゐる……………25
23. 後翅の亞縁脈は基部に微小なる前縁距を有してゐる……………錨紋蛾科
後翅の亞縁脈は基部に微小なる前縁距を缺いてゐる……………24

24. 後翅の第一臀脈は缺けてゐるか若しくは微小である……………鉤蛾科
後翅の第一臀脈は大きくて殆んど臀角に對してゐる……………窓蛾科
25. 後翅の内縁部は大きく、前翅には透明部がない……………螟蛾科
前翅には透明なる部分がある……………硝子蛾科
26. 翅は小翼狀に分裂してゐない……………29
翅は小翼狀に分れてゐる……………28
27. 後翅の亞縁脈と徑脈とは殆んど同所より生じてゐる……………硝子蛾科
後翅の亞縁脈は獨立し、第二・第三の兩臀脈は基部に於て分岐してゐる……………穀蛾科(竝に29)
28. 前翅は2分し、後翅は3分してゐる……………烏羽蛾科
前・後の兩翅共に3分してゐる……………多翼蛾科
29. 鬚の末端は尖つてゐる……………30
鬚の末端は尖つてゐない……………33
30. 後翅は廣く、前縁脈は横脈によりて中室と聯絡されてゐる……………麥蛾科
後翅の前縁脈は横脈により聯絡されない……………31
31. 徑脈Vと中脈1とは殆んど平行してゐる……………32
徑脈Vと中脈1とは平行してゐない……………柿實蛾科
32. 鬚は絲狀、後(内)翅は細くして尖つてゐる……………細蛾科
鬚は絲狀でない、後翅は廣い……………茶蛾科
33. 前翅の前角は上下何れへか曲つてゐる……………潜翅科
前翅の前角は上下の何れへも曲つてゐない……………34
34. 後翅は細く、末端は尖つてゐる……………筒蛾科
後翅は廣く、末端は尖つてゐない……………巢蛾科

第十 同翅亞目の分類

(1) 同翅亞目の首科の検索表

- 1. 口吻は1見胸部より生ずるが如くに見える……………蚜蟲首科
- 口吻は明瞭に頭部より生じてゐる……………蟬首科

(2) 蚜蟲首科 APHIDIOIDEA

蚜形首科はまた二節類(Dimera)とも稱せられ、觸角は絲狀にして3~10節より成り、跗節は2個より成り、翅には脈が少く且つ横脈が無い。普通には下記6科に分つてゐる。

(3) 蚜蟲首科の科の検索表

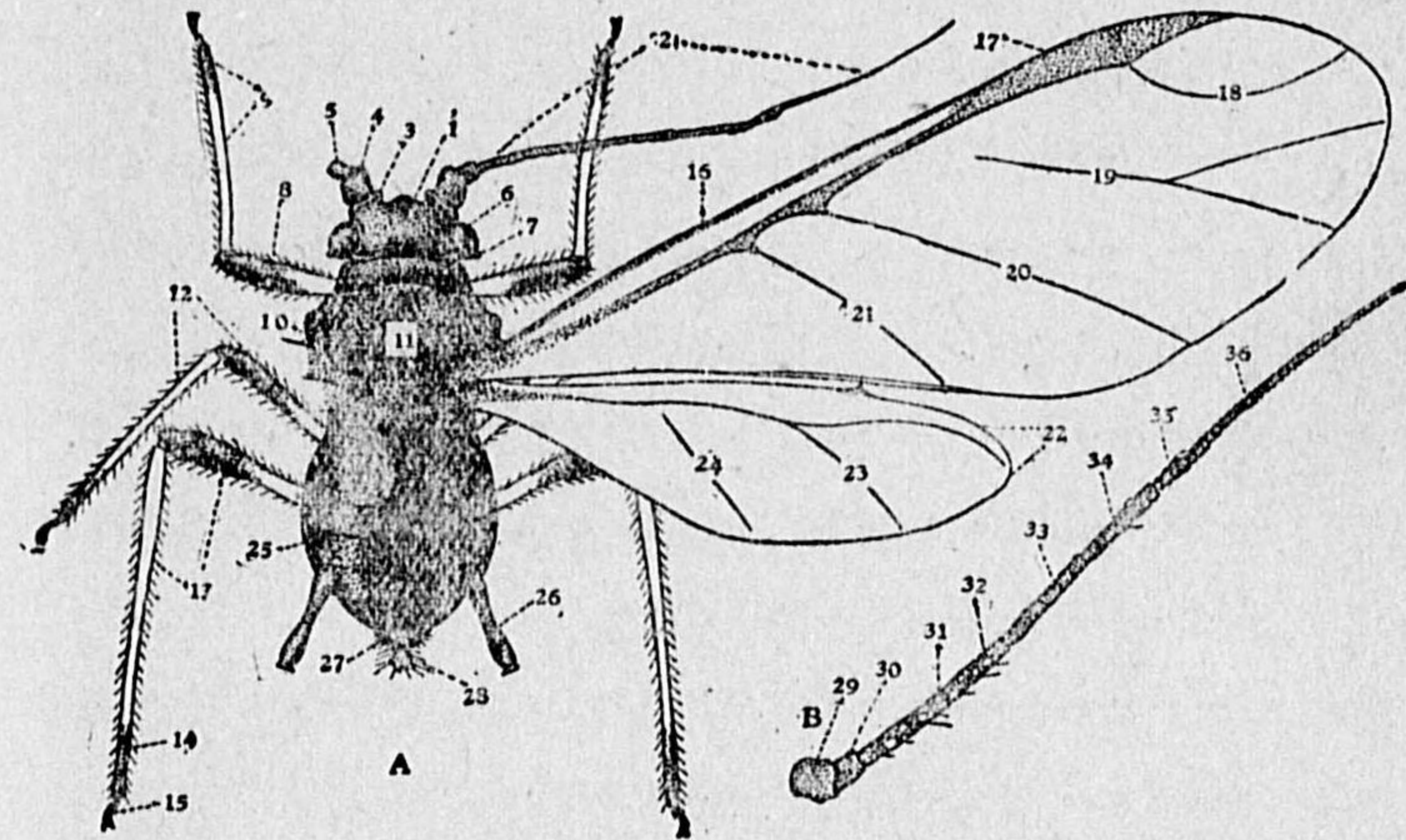
- 1. 肢脚が跳躍に適してゐる……………木蝨科 (Psyllidae)
- 肢脚は跳躍に適してゐない……………2
- 2. 幼蟲の體は極めて扁平にして葉面に附着してゐ、體を移動せず、蠟質物を分泌して體を蔽うてゐる……………粉蝨科 (Aleurodidae)
- 幼蟲は自在に運動し、概して分泌物で蔽はれてゐない……………3
- 3. 雌蟲は卵子を産し、之が孵化して幼蟲となる……………4
- 雌蟲は4月~10月には幼蟲を産し、晩秋の候にのみ、しかも1年に1回だけ卵子を産する……………蚜蟲科 (Aphididae)
- 4. 有性の個體には口吻もなく、肛門も無い……………瘡蝨科 (Phylloxeridae)

(4) 蚜蟲の外貌

蚜蟲には無翅のものと有翅のものとの2形があるが、概して云へば無翅のものは有翅の個體の翅を失つたもの、有翅のものは無翅のものに發達して翅を生じたものと見られ得る。故に本書に於ては有翅蟲につき一般外形を記す

ことにする。

頭部は是を背面より見れば略々正三角形を呈し、底邊に接する左右の兩角には各1箇の複眼があり、此の部は突出して眼瘤 Ocular tubercle を成してゐる。頂點に相當する部分は口吻をなし、是は下(腹)面へ曲り、3節より成つてゐる。此の頂點の兩側は概して前方へ突出して、額瘤 Frontal tubercle をなし、是の有無・大小・形狀は分類學上緊要な特徴をなしてゐる。此の額瘤は屢々觸角基とも稱せられる。蓋し觸角はこの額瘤端若しくは額瘤端に相當する部より生ずるからである。觸角は3~5節よりなる例もあるが、普通の蚜蟲即ち蚜亞科 APHIDINAE のものにありては6節よりなり、第6節は基部 Base と鞭狀部 Filament とより成り、兩部の接觸點には1群の原生感覺



第4圖 蚜蟲類外形の術語圖解

1 頭部	10 前胸部	19 中脈	28 尾片
2 觸角	11 中胸部	20 肘脈	29 觸角第一節
3 額瘤	12 中肢	21 臂脈	30 同第二節
4 觸角第一節	13 後肢	22 後翅	31 感覺器
5 觸角第二節	14 脛節	23 中脈	32 觸角第三節
6 複眼	15 跗節	24 肘脈	33 同第四節
7 眼瘤	16 前緣脈	25 腹部	34 同第五節
8 脛節	17 翅斑	26 角狀管	35 第六節基部
9 脛節	18 徑分(翅斑)脈	27 尾板	36 第六節鞭狀部

器 Primary Sensoria がある。額瘤に續く第一節は一般には最短片であり、之に繼ぐ第二節は第一節と約同長であるが、幅は更に小である。第三節は普通には最長片にして且つ2個以上感覺器を有してゐる。第四節は第三節よりも短く第五節よりは概して短い、之と逆なる例もある。第五節には末端に近く常に1個の後生感覺器がある。額瘤の基部には兩複眼があり、兩複眼の内側には單眼がある。或屬にては頭部兩眼瘤間に1對の大形なる腺がある。

胸部は無翅蟲にては充分發育を遂げずして腹部とは判然せざる事多けれども、有翅蟲にありては顯著の發達を遂げ、前方は胸部、後方は腹部と明瞭に區別され得る。前胸部は幅に於て頭幅よりも甚だしく大ならず。横走帯をなし、腹面よりは1對の前肢を生じてゐる。ハマキワタムシ屬のものには此部でも1對の大形なる腺がある。中胸部は胸部の大部分を占め、側面よりは1對の前(大)翅を生じ、腹面よりは中肢を生じてゐる。中胸部にもまた或屬時にハマキワタムシの場合には1對の大形腺がある。後胸部は割合に小さく、側面よりは後翅を、腹面よりは後肢を生じてゐる。

前・中・後の肢は同型なれ共、後肢は前2者に比し甚だしく大きい。各肢ともに基・轉・腿・脛・跗の5節より成り、末端には2爪を着生してゐる。基・轉の兩節は小形にして、長幅約同大、腿節は是も長大なる部分にして、體側面へ突出してゐる。之に次ぐ脛節もまた長い、腿節程には肥厚してゐない。跗節は2節より成り、第一節は短小、第二節は第一節の約2倍長にして末端に2爪を着けてゐるが、ツメナシアブラ屬等にありては跗節乃至爪を缺如してゐる。

翅は2對あつて共に膜質、前翅は後翅よりも大きい。前翅の後縁には翅懸があり、後翅の前縁にある翅鉤がここに挿入されて兩翅は連結せられる。前翅の前縁脈は前縁を占めてゐる。是に次ぐは亞縁脈にして翅の基部より生じ全翅長の約 $\frac{1}{3}$ 部に於て前方へ曲り、前縁脈に合してゐる。徑脈は亞縁脈に次で翅基に生じ、亞縁脈に沿ひ且つ其の下部を走り、全翅長の約 $\frac{2}{3}$ 點に於

て前方へ曲り、前縁脈と合する。亞縁脈と脛脈との間域は一般には少々黒色不透明となつてゐる。是を翅斑 Pterostigma と云ふ。徑脈が翅斑に接する部分より生じ翅頂を過ぎたる部分の外縁にて終る脈は徑分脈又は徑切脈 Radial sector である。徑脈と殆んど同所より發し徑脈の下を之と平行して走る脈は中脈にして、之は翅斑の直下に於て下方へ曲り1回乃至2回分岐して3枝をなすけれども全然分岐しない類もある。之が分岐するときは第一及び第二中脈と稱ばれ、3回分岐する時には最後の脈を第三中脈と云ひ、分類學上必要な特徴をなしてゐる。中脈に次ぎ且つ之に平行して走るは肘脈及び臀脈で是等中・肘及び臀の3脈は何れも斜脈 Obiques と稱せられる。後翅にあつては斜脈は2個にして何れも中・肘の兩脈に相當するものである。

腹部は10環節より成り、第七腹環節の背面からは1對の角狀管(蜜槽・蜜管) Cornicle が生じてゐる。此の角狀管は曾つては甘味に富む蜜を分泌する器官ならんと考へられたが、實は尿管とも云ふ可きものにして、其の分泌する液は水様液にして甘味に乏しく、蟻・蜂等を誘引する蜜は實は糞にして、尾端なる肛門より排泄せられるところである。角狀管の大小形状は屬別の分類には緊要なる特徴をなしてゐる。是はメンチウ・ハマキワタムシ等では單なる開口に過ぎず。オホアブラ屬等では有毛の圓錐體基上にある輪狀體であり、マダラアブラ屬では截斷形にして、基部が大きく、アブラムシ屬では長くして全長に互り覆瓦狀を呈し、ヒゲナガアブラ屬では長くして後半部が網狀を呈してゐる。更にツトアブラ及びトックリアブラ屬では後半乃至末端部が膨大し、フクレアブラ屬では1側へのみ膨大してゐる。肛門の直上なる尾端は概ね三角形をなして突出し、こゝよりは3~5對の長き剛毛と多數の毛とが生じてゐる。是を尾片 Cauda と云ふ。是の下方には半月形の1體がありて毛を生じてゐる。之を臀板 Anal plate と云ふ。更に尾片の上には屢々上尾板と稱する1片があり、之はフタヲアブラ等に於て特に顯著である。

(5) 蚜蟲の分類

アメリカの Baker 氏は蚜蟲科を下記亜科に分けてゐる。

- 1a. 雄蟲と産卵性雌蟲とは口吻を缺き、産卵性雌蟲は1卵を産するのみであり、角狀管は退化し、或は全くこれを缺くものがある。蠟腺は良く發達し、従つて幼蟲・成蟲共に白色の綿絮物で覆はれてゐて坊間の所謂綿蟲をなしてゐる……………綿蟲亞科 ERIOSOMATINAE
- 1b. 有性個體もまた良く發達した口吻を具へてゐ、産卵性雌蟲は常に多數の卵子を産する……………(2)
- 2a. 徑分脈は翅斑特に翅斑の中部から發する……………(3)
- 2b. 徑分脈は翅斑の直前から生じ、産卵性個體は數卵を産する……………葉綴織蟲亞科 MINDARINAE
- 3a. 多くは蟲癭を營むが、或るものは樹上若しくは葉上に固着して介殼蟲などに似、翅脈は減退し、中脈は一般には單1にして分枝せず、觸角の感覺器は輪狀であり、雄蟲と産卵性雌蟲とは共に無翅であり、小さい……………扁平蚜蟲亞科 HORMAPHIDINAE
- 3b. 完全なる閉塞蟲癭を形成せず、翅脈は殆んど常規にして、前後の兩翅共に中肘の兩脈を具へ、前翅の中脈は一般には2回分れて3枝を成し稀に1回分れて2枝をなすが單1なることなく、2, 3屬以外の屬にては蠟腺が發達してゐず。觸角の感覺器は半圓狀または橢圓形で輪狀をなすことなく、角狀管は顯著で、雄蟲は有翅又は無翅である……………蚜蟲亞科 APHIDINAE

(6) 蚜蟲亞科の族の檢索表

1. 角狀管は扁圓錐臺上を占めてゐる……………2
角狀管は準截斷形である……………3

2. 角狀管臺及び觸角には毛が多い……………オホアブラ族 Lachnini
角狀管及び觸角には毛が少く、觸角第六節の鞭狀部は細長い……………トゲアブラ族 Setaphidini
3. 角狀管には長毛が多數生じてゐる……………ケクダアブラ族 Greenedini
角狀管は無毛なるか或は少數の毛を生じてゐる……………4
4. 有翅個體の胸部は良く發育せず、大なる蠟腺を具へてゐる……………ムレアブラ族 (Thelaxini)
有翅個體の胸部の發育よく、蠟腺は之を缺いてゐる……………5
5. 管狀管は截斷形又は長く、長い場合には尾片が瘤狀を呈し、尾板は2分してゐる……………マダラアブラ族 (Callipterini)
角狀管は截斷形ではなくして長く、尾片は瘤狀を呈せず、觸角には剛毛が少い……………アブラ族 (Aphidini)

(7) ムレアブラ (群蚜) 族 TRIBE THELAXINI

體には剛毛を生じ、觸角も有毛で半月狀の感覺器を少數具へ、尾片は圓形若しくは瘤狀、有性個體は無翅である。

(8) 群蚜族の屬の檢索表

1. 尾片は瘤狀に終つてゐる……………ムレアブラ屬 Thelaxes
尾片は瘤狀でなく、稍半圓狀である……………ミツアブラ屬 (Glyphina)

(9) マダラアブラ (斑蚜) 族 TRIBE CALLIPTERINI

角狀管は截斷型、尾片は瘤狀、尾板は2分して彎入し、觸角の感覺器は橢圓形乃至圓形である。

(10) 斑蚜族の亞族の檢索表

1. 複眼は眼瘤を具へ、頭部は細長くない……………2

- 複眼は眼瘤を欠き，頭部は屢々細長である……………ミヅギワアブラ亞族 *Saltusaphidina*
- 2. 觸角は顯著なる長毛を生じてゐる…………… 3
- 觸角は僅かに短毛を生じてゐる…………… 5
- 3. 角狀管を缺いてゐる…………… フラワアブラ亞族 *Fullawayeina*
- 角狀管は顯著である…………… 4
- 4. 角狀管は圓筒狀若しくは瓶狀である……………
- …………… コナフキケアブラ亞族 *Pterocemmia*
- 角狀管は截斷形である…………… ケアブラ亞族 *Chaitophorina*
- 5. 角狀管は上面よりは見得られない……………
- …………… クダナシケアブラ亞族 *Monaphidina*
- 角狀管は上面よりも見得られる…………… 6
- 6. 角狀管は退化して輪狀體を成し，腹背の兩側部には蠟腺を具へてゐる…………… ハアブラ亞族 *Phyllaphidina*
- 角狀管は輪狀でなく，體には蠟腺が無い…………… 7
- 7. 角狀管は長大なるか，若しくは基部が膨大してゐる……………
- …………… カマガタアブラ族 *Drepanaphidina*
- 角狀管は短くして且截斷形である…マダラアブラ亞族 *Callipterina*

(11) ハアブラ (葉蚜) 亞族 SUBTRIBE PHYLLAPHIDINA

體は中形の大蠟腺を具へてゐ，架綿吻を分泌する。觸角は6節より成り，長毛を生じてゐる。感覺器は長橢圓形又は準圓狀である。前翅の中脈は2回分枝し，翅斑脈を缺くものもある。後翅には中・肘の兩脈がある。角狀管は準截斷形にして長さは幅の3倍を越す事が稀である。尾片は瘤狀である。

(12) 葉蚜亞族の屬の檢索表

- 尾片は深く縦裂してU字形を呈する……………ワタフキアブラ屬 *Sivaphis*
- 尾片は2分する例に於てもU字形をなさない…………… 2
- 2. 尾片も尾板と共に圓く終つてゐる…………… 3
- 尾片は瘤狀，尾板は2分してゐる……………ハアブラ屬 (*Phyllaphis*)
- 3. 有翅の雌蟲は輪環狀の感覺器を具へてゐる……………
- …………… シンハアブラ屬 *Neophyllaphis*
- 有翅の雌蟲は小形の横走感覺器を具へてゐる…………… 4
- 4. 無翅個體は體に白粉を着けてゐる……………
- …………… ニセワタフキアブラ屬 *Phyllaphoidea*
- 無翅の個體は白粉を装着しない……………アメリカハアブラ屬 *Tamalia*

(13) ケアブラ (毛蚜) 亞族の屬の檢索表

- 1. 尾片は顯著に瘤狀である…………… 2
- 尾片は瘤狀でなく，圓く終つてゐる…………… 3
- 2. 觸角は5節より成つてゐる……………ニセケアブラ屬 *Sipha*
- 觸角は6節より成つてゐる……………ケアブラ屬 (*Chaitophorus*)
- 3. 體は長く，夏季には微小扁平な個體を産する……………
- ……………ニタイケアブラ屬 (*Periphyllus*)
- 夏季にも普通の個體を生ずる…………… 4
- 4. 觸角は5節より成る……………ゴセツケアブラ屬 *Atheroides*
- 觸角は6節より成つてゐる…………… 5
- 5. 尾板は全きか，僅かに彎入する……………トマスクアブラ屬 *Neothomasia*
- 尾板は2個の分離片を成してゐる……………バツチケアブラ屬 *Patchia*

(14) アブラ (蚜) 族の亞族の檢索表

1. 體は肉質の長い毛を生じてゐる…トゲトゲアブラ亞族 *Cervaphidina*
體には肉質の突起體を缺き、毛のみが生じてゐる…………… 2
2. 頭部には顯著な額瘤が無い……………アブラ亞族 *Aphidina*
頭部の額瘤は顯著である…………… 3
3. 前翅の翅斑脈は第一中脈に接するか、若しくは後翅が退化してゐる……………コバネアブラ亞族 *Pentalonina*
前翅の翅斑脈は普通型である……………
……………ヒゲナガアブラ亞族 *Macrosiphina*

(15) アブラ(蚜)亞族の属の検索表

1. 角狀管を缺いてゐる……………ツボナシアブラ属 *Asiphonaphis*
角狀管を具へてゐる…………… 2
2. 角狀管は膨大であるが、圓筒狀又は圓錐形でない…………… 3
角狀管は準圓筒狀、稀には輪狀である…………… 4
3. 角狀管は煙管形、上尾板は大きく、前翅の中脈は2枝をなす……………
……………キセルアブラ属 *Vesiculaphis*
角狀管は煙管狀でなく、前翅の中脈は2回岐れて3枝をなしてゐる…………… 4
4. 後翅には肘脈が無い……………カロリナアブラ属 *Carolinaia*
後翅には中・肘の兩脈がある…………… 5
5. 腹部の背面には尾端の上背部に1大突起體がある…………… 6
腹部の背面・尾端の上部には突起體が無い…………… 8
6. 腹背突起體は甚だ大きくして體の後端部を全く蔽ひ、角狀管は小さくして側面に開口する……………カヒガラアブラ属 *Aspidaphis*
突起體は中庸で、無翅蟲のものは尾片と約同大、角狀管は準圓筒

- 狀にして外側へ扁して開口してゐる…………… 7
7. 觸角は5節より成つてゐる……………シンフトラアブラ属 *Neocavariella*
觸角は6節より成つてゐる……………フトラアブラ属 *Cavariella*
8. 角狀管は長く、且つ急に膨大してゐる……………
……………ツトアブラ *Liosomaphis*
角狀管は徐々に膨大するか若しくは圓筒狀である…………… 9
9. 尾片は短く且つ急に圓錐狀をなし、角狀管は尾片と同長で中部が膨大してゐる……………コナフキアブラ属 (*Brevicoryne*)
尾片は甚だ短く、角狀管は準圓筒形である…………… 10
10. 角狀管は尾片の基部の幅と同長乃至より短い…………… 11
角狀管は尾片よりも長い…………… 14
11. 角狀管は微小にして疣狀である…………… 12
角狀管は其の直徑よりも長く、尾片、特に無翅個體のものは大きく且つ長い……………フトラアブラ属 (*Hyalopterus*)
12. 尾片は角狀管と同長である……………スカシアブラ属 *Hyadaphis*
尾片は角狀管よりも短い…………… 13
13. 體の背面は龜甲狀を呈し、角狀管は甚しく長い……………
……………スナヨセアブラ属 *Hydronaphis*
體背は龜甲狀を呈せず、角狀管は幾分膨れ、末端は縊れてゐる……………
……………クビレアブラ属 (*Rhopalosiphum*)
14. 跗節は退化して認め得られない…………… 15
跗節は普通型である…………… 16
15. 觸角は6節より成り、角狀管は短小である……………
……………ユビナシアブラ属 *Atarsos*
觸角は5節より成り角狀管は甚だしく細長い……………

-ゴセツツメナシアブラ属 Mastopoda
16. 尾片は1見缺如するか、若しくは圓錐状である.....23
尾片は常規型である.....17
17. 前翅の中脈は1回分れて2枝を成してゐる.....24
前翅の中脈は2回分れて3枝をなしてゐる.....8
18. 觸角は5節より成つてゐる.....25
觸角は6節より成つてゐる.....19
19. 角状管は小さくして尾片の基部の幅と同長.....20
角状管は尾片よりも長い.....21
20. 無翅個體の尾片は甚だ長大である.....
.....ヲナガアブラ属 (Pergandeida)
尾片は甚だしく短小にして準圓錐状である.....
.....コクダアブラ属 Microsiphum
21. 尾片は短く卒然と圓錐状をなしてゐる.....
.....ヲマルアブラ属 (Anuraphis)
尾片は長く且つ基部近くで縮してゐる.....22
22. 後翅には中・肘の兩脈がある.....アブラ属 (Aphis)
後翅には僅かに1斜脈がある.....ヒトスヂアブラ属 Carolinaia
23. 角状管は微小で幅よりも短い.....クダナシアブラ属 (Cryptosiphum)
角状管は長さ中庸である.....ヲナシアブラ属 Atarsos
24. 觸角は6節より成つてゐる.....フタマタアブラ属 (Toxoptera)
觸角は5節より成り、頭頂の中央に高著な突起體がある.....
.....セダカアブラ属 Siphonatrophia
25. 角状管は長くして蚜属のものと大同小異である.....
.....ゴセツアブラ属 (Cerosipha)

- 角状管は甚だ短く、無翅個體の背面は甚だ隆起してゐる.....
.....セダカアブラ属 Siphonatrophia
26. 有翅個體の角状管は中央部が膨れ、基部と末端部とが縊れてゐる
.....チビクダアブラ属 Brachycolus
有翅個體の角状管は基部が末端部よりも廣い截断形である.....
.....ミツフキアブラ属 Brachysiphonella

(16) トゲトゲアブラ(肉毛蚜)亞族の属の検索表

1. 角状管は體長の半よりも短い.....2
角状管は體と約同長である.....エダトゲトゲアブラ属 Cervaphis
2. 角状管は甚だ短小である.....トゲトゲアブラ属 (Tubercorpus)
角状管の中部は膨大してゐる.....フトトゲアブラ属 Anomalaphis

(17) ヒゲナガアブラ(長角蚜)亞族の属の検索表

1. 後翅には中脈と肘脈とがある.....2
前翅には中脈と肘脈とがある、後翅には中脈のみで肘脈が無く、
無翅個體の角状管は剛毛を生じてゐる.....
.....ケクダヒゲガアブラ属 Trichosiphonaphis
2. 肢の跗節は微小で且つ末端に爪を缺いてゐる.....
.....ツメナシヒゲナガアブラ属 Microtarsus
肢の跗節は常規で2節より成り、末端には爪がある.....3
3. 有翅無翅兩個體の觸角は5節より成つてゐる.....
.....ゴセツヒゲナガアブラ属 Pseudocerosipha
有翅・無翅兩個體の觸角は6節より成つてゐる.....4
4. 腹部の背面には指状突起體がある.....5

- 腹部の背面には大形の指状突起體は無い…………… 6
5. 第二觸角節の内端は疣状を成して突出し、腹部各節上には有對の角状突起體がある……………マツムラアブラ (Matsumuraja)
第二觸角節の内端は疣状でない。腹環節中の尾片に近いもの3個のみ指状突起體を生じ、3個中の中央のものは所謂上尾板をなして尾片上へ突出してゐる……………ヨツヲヒゲナガアブラ屬 Akkaia
6. 體特に無翅個體のものは漏斗状の剛毛を生じてゐる……………
……………クギケアブラ屬 Capitophorus)
體に生ずる毛は漏斗状でない…………… 7
7. 頭頂には中央に大なる突起體がある……………カンムリアブラ屬 Francoa
頭頂の中央には大なる突起體が無い…………… 8
8. 角状管の中部若しくは中部以後が膨大してゐる…………… 9
角状管の中部乃至中部以後が膨大してゐない…………… 10
9. 角状管の中部が膨大して徳利状をなし、額瘤は内側へ傾いて突出し、角状管は尾片よりも長い……………
……………トツクリアブラ屬 (Rhopaloshiphoniella)
角状管は中部若しくは其の後方が一側へ偏して膨れ、額瘤は外方へ傾いてゐる…………… 10
10. 角状管は尾片よりも著しく長い……………
……………フクレアブラ屬 (Amphorophora)
角状管と尾片とは約同長である……………
……………ヲナガヒゲアブラ屬 Megoura
11. 角状管は尾片よりも著しく端小である……………
……………ニセフトヲヒゲナガアブラ屬 Hyalopteroides
角状管は尾片と同長、若しくはより長い…………… 12

12. 額瘤は外方へ傾いてゐる…………… 13
額瘤は内方へ傾いてゐる…………… 16
13. 角状管は末端に近い部分が網状を呈してゐる…………… 14
角状管は網状の部分をも具へない…………… 15
14. 角状管は尾片よりも遙かに長い……………
……………ヒゲナガアブラ屬 (Macrosiphum)
角状管は尾片と約同長である……………
……………ヒメヒゲナガアブラ屬 (Macrosiphoniella)
15. 角状管は尾片と約同長である…………… 17
角状管は尾片よりも遙かに長い……………
……………アミナシヒゲナガアブラ屬 Acyrthosiphum
16. 額瘤の内側端は瘤状である……………コブアブラ屬 (Myzus)
額瘤の内側端は疣状を成して突出してゐる……………
……………イボアブラ屬 (Phorodon)
17. 角状管は尾片の數分の1の幅を有する……………
……………フトヲヒゲナガアブラ屬 Macrocaudus
角状管の幅は尾片の幅よりも甚だしく小さくない……………
……………ニセヲナガヒゲナガアブラ屬 Hyalopteroides

(18) メンチュウ(綿蟲)亞科の族の検索表

1. 角状管は、少くとも有翅個體には存在し、屢々輪環状なる例がある…………… 4
角状管は缺如してゐる…………… 2
2. 樹瘿乃至偽樹瘿を形成する…………… 3
蟻の巢内若しくは地中に棲み、蠟腺を具へ、有翅個體の觸角は短

- 大にして稍卵状の感覚器を具へてゐる……………チチュウワタムシ族 Fordini
3. 蟲瘻内に棲み、頭・胸部には蠟腺が無いが、蠟板は存在する。有翅蟲は中夏又は初秋に蟲瘻を去る……………シロアブラ族 Melaphidini
偽蟲瘻内稀には眞蟲瘻内に棲み、有翅個體の頭胸兩部には顯著なる蠟板があり、有翅蟲は春季に瘻乃至春秋宿主より夏期宿主へ轉ずる……………ハマキワタムシ族 Prociphilini
4. 蟲瘻内に棲むものと、偽蟲瘻を形成するものと、植物體上に自在生活をなすものとあるが、蠟腺は發達し、有翅個體の觸角上の感覚板は輪環状である……………メンチュウ族 Eriosomatini
概して眞蟲瘻内に棲み、蠟腺及び蠟板の發達は充分でなく、有翅個體の觸角節上の感覚器は輪環状でなくして横走溝乃至長卵状である……………ワタムシ亜族 Pemphigini

(19) メンチュウ(綿蟲)族の屬の檢索表

1. 有翅個體の前翅の中脈は1回分枝して2枝をなしてゐる……………3
有翅個體の前翅の中脈は單1である……………2
2. 後翅には中肘の兩脈がある…ゴバイシメンチュウ屬 (Gobaishia)
後翅には中脈のみ存する……………ヨスヂメンチュウ屬 (Tetraneura)
3. 後翅には中脈と肘脈とがある……………メンチュウ屬 (Eriosoma)
後翅には中脈のみがある……………4
4. 幹母の觸角は4節より成り、有翅個體の觸角は短大である……………
……………ヨンセツメンチュウ屬 Colopha
幹母の觸角は5節より成り、有翅個體の觸角は細長である……………
……………ゴセツメンチュウ屬 Georgia

(20) タマワタムシ(瘻蟻)族の屬の檢索表

1. 第六觸角節の鞭状部は長い……………
……………モルドビルタマワタムシ屬 Mordwilkoja
第六觸角節の鞭状部は短小にして瘤状である……………2
2. 前翅の中脈は1回分枝して2枝を成してゐる……………3
前翅の中脈は單1で分枝しない……………4
3. 有翅個體の觸角には後生感覚器無く、休止の時には翅は體背上に水平に保たれる……………アナナシタマワタムシ屬
有翅蟲の觸角は後生感覚器を具へ、静止の時には翅は水平でなく直角に保たれる……………ヨスヂタマワタムシ屬 Pachypapella
4. 後翅には中肘の兩脈がある……………5
後翅には中脈を缺いてゐる……………ヒトスヂタマワタムシ屬 Dryopeia
5. 有翅個體の觸角各節には後生感覚器無く、休止の時には翅は體背上に水平に保たれる……………ネギワワタムシ屬 Rhizoctonus
有翅個體の觸角には後生感覚器があり、翅は静止時直角に保たれない……………6
6. 幹母の觸角は4節より成り、有翅個體の觸角は比較的短大である……………タマワタムシ屬 (Pemphigus)
幹母の觸角は5節より成り、有翅個體のものは細長である……………
……………イボタマワタムシ屬 Cornaphis

(21) シロアブラ(白蚜)族の屬の檢索表

1. 後翅には中脈と肘脈とがある……………2
後翅には中翅のみが存する……………ヒトスヂシロアブラ屬 Plouneura

2. 前翅の翅斑は末端に於て尖り、稍長く伸びてゐる……………シロアブラ属(Melaphis)
 ……………シロアブラ属(Melaphis)
 前翅の翅斑は末端尖らず且つ長く伸びてゐない……………3
 3. 觸角は5節より成つてゐる……………ハナフシアブラ属(Nurudea)
 觸角は6節より成つてゐる……………ヒメワタムシ属

(22) ハマキワタムシ(葉巻蟻)族の属の検索表

1. 中脈は2枝に分れ、幹母には蠟板が無い……………
 ……………ワタムシヒドキ属 Asiphum
 中脈は単1、幹母には蠟板が數列をなして存在する……………2
 2. 蠟板は大きく、特に頭・胸兩部にあるものが良く發し、幹母と其の
 子孫とは同所に寄生する……………3
 蠟板の發達は顯著で無く、幹母は一般に1蟲癭内に棲んでゐる…
 ……………ニセハマキワタムシ属 Thecabius
 3. 感覺板は細長である……………ハマキワタムシ属 (Prociphilus)
 感覺板は卵形で、有毛ではない……………
 ……………シンハマキワタムシ属 Neoprociphilus

(23) ヒラタアブラ(扁平蚜)亞科の族の検索表

1. 粉蝨様の形態をした幼蟲を生ずる……………2
 粉蝨態の幼蟲を生産しない……………ツノアブラ族 Oregumini
 2. 角状管を具へず、一般に蟲癭を形成するものが多い……………
 ……………ヒラタアブラ族 Astegopteryni
 角状管を具へ普通には蟲癭を形成しない……………
 ……………カタアブラ族 (Hormaphidini)

(24) ツノアブラ(角蚜)族の亞族の検索表

1. 頭頂は1對の牛角状突起體を生じ、無翅胎生雌蟲の觸角は5節よ
 り成つてゐる……………ツノアブラ族 Oregma
 頭頂は牛角状突出體を生じてゐない……………
 ……………マヒアブラ属 (Astegopterycina)

(25) マヒアブラ(舞蚜)亞族の属の検索表

1. 前翅の中脈は1回分れて2枝を成してゐる……………
 ……………エゴアブラ属 (Astegopteryx)
 前翅の中脈は単1であつて、分枝してゐない……………
 ……………マンサクアブラ属 (Mansakia)

(26) カタアブラ(堅蚜)族の属の検索表

1. 粉蝨態幼蟲の觸角は5節より成り、體側は頭・胸・腹の3部を示し
 てゐる……………コナジラミモドキ属 (Aleurodaphis)
 粉蝨態幼蟲の觸角は4節を示してゐる……………カタアブラ属 Cerataphis
 粉蝨態幼蟲の觸角は3節より成つてゐる……………
 ……………ムネアブラ属 (Thoracaphis)

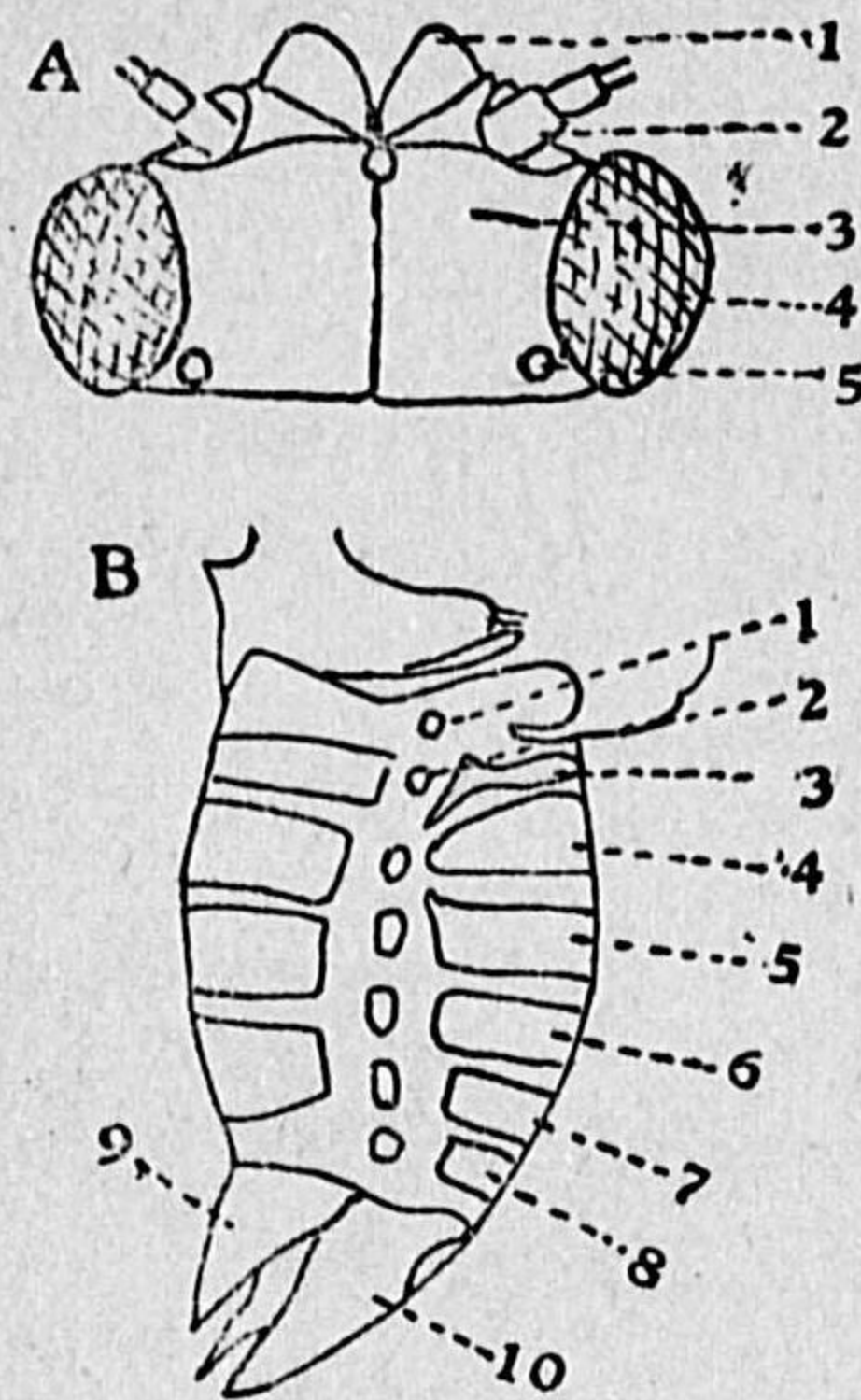
(27) ヒラタアブラ(扁平蚜)族の属の検索表

1. 有翅蟲の觸角は3節より成り、後翅には中脈のみが具はる……………
 ……………ヒトスヂヒラタアブラ属 (Doraphis)
 有翅個體の觸角は5節より成り、後翅には中・肘の兩脈がある…
 ……………ヒラタアブラ属 (Hamamelistes)

木蝨科 PSYLLIDAE

木蝨の頭部の大部分を成すは頭頂である。之は一般には中溝によつて左右兩部に劃されてゐる。此の部の形状は様々にして一様でなく、或は三角形、菱形或は方形をなしてゐる。額は概して鮮明でなく、單眼3個は頭頂と頰との間に位してゐる。頰は何れの場合にも顯著にして頭部の下方の大部分を成してゐ、頭頂と前額片との間を占めてゐる。事實上此の部より突出する1對の圓錐形ものは普通には額錐と稱び分類學上緊要なる特徴をなしてゐる。後頭は或種では鮮明でないが、前額片は顯著である。

木蝨の下唇は基半部が兩前基節間に固定されてゐ、僅かに後半部のみが可動性であつて所謂吻管をなしてゐる。複眼は多少とも球形で頭側に突出してゐる。觸角は通常10節より成り稀に、9節若しくは11節のものがある。第一、第二の兩節は他よりも幅廣く、長幅約



第5圖 木蝨類外形の術語圖解

- A 頭部正面
1 額錐
2 觸角

同大、第三節は一般に最長片であり、第十節は末端に2本の剛毛を生じてゐる。此の剛毛は或場合には全觸角長の半に達する事がある。

翅は前後の兩對より成り、長卵狀乃至菱狀であり、之の形態及び比較長幅は分類上緊要なる特徴の1をなしてゐる。脈相は何れの場合にも簡單である。翅基に於ては中・肘の兩脈は徑脈と癒合してゐて單1の徑中肘脈を成し、之は後にキジラミ屬に於ける如くに徑脈と中肘脈とか分けるが如くに徑・中・肘の3脈に同一點になれるか、若しくはトガリキジラミ屬

- 3 複眼
4 頭頂
5 後右單眼
B 腹部側面
第一~第十腹環節

於て分枝する。前者の場合には肘脈柄は更に分れて中肘の兩脈を成すものである。徑脈は翅縁へ達する中程に於て分れて徑切脈を生じてゐる。徑脈は緣脈と直接に癒合する例があり、また緣脈とは或距離間並走して後に合一する例もある。而して此の場合に成る部域を翅斑と云ふ。中脈は1回分れて2枝をなし次で翅縁に達する。I+II 中脈とIII中脈とに因つて生ずる室を第二緣室と稱ぶ。肘脈はI肘脈とII肘脈とに分れ、かくして生ずる室は第一緣室である。

臂脈は只條あるのみである。後翅に於てはI徑脈は缺如し、従つて緣脈に次ぐは徑切脈である。中脈は單一であるが肘脈はI及びII肘脈に分れる。臂脈は具はる例とない例とがある。

肢脚に就て言へば、基節は2部より成り、後基節が良く發達してゐる事が第一に注意される所である。轉節は普通であり、腿節は長大、脛節は腿節と約同長であるが、より細い。距毛を有するものと有せざるものがあり、また多くの場合脛節端には3個以上の黒く強固な剛毛が生じてゐる。跗節は2節より成り、末端には2爪と1褥毛とを具へてゐる。トガリキジラミ以外の屬にありては基跗節には2個の大なる爪狀棘が各側へ1個づつ、突出してゐる。

腹部は雌蟲は5節、雄蟲は生殖節に加ふるに6節を以てしてゐる。之は本來の第四~第八節に相當するものである。雌蟲の場合の第九節は腹下位瓣によりて代表せられ、第十一節は背上位瓣が代表すると云はれてゐる。

第十四 木蝨科の分類

桑山茂氏は「日本産木蝨類」に於て邦産種を1905年に下記6亞科に分つ

てゐる。

1. 前翅の徑脈は分岐しない……………圓木蝨亞科 Phacoseminae
前翅の徑脈は分岐する…………… 2
2. 前翅の肘脈は有柄である…………… 3
前翅の肘脈は無柄である……………尖木蝨亞科 Triozinae
3. 肘脈の柄は副前縁脈の中片より長い、或は同長…………… 4
肘脈の柄は副前縁脈の中片より遙かに短い……………木蝨亞科 Psyllinae
4. 複眼は頭の兩側より半圓形に凸出し頭頂の長さは幅より短い……………
……………班木蝨亞科 Aphalarinae
複眼は頭の兩側より突出せず頭頂の長さは幅より長い……………
……………扁木蝨亞科 Liviinae

1914年北米合衆國の DAVID L. CRAWFORD 氏は A Monograph of the Jumping Plant-Lice or Psyllidae of the New World に於て北米産のものを下記 6 亞科に分つてゐる。

1. 頭部は前面が深く裂け、此の 2 分裂部の末端の截斷狀をなす部に觸角が生じてゐる。頬は伸長し圓錐體を成す事は稀である。中脈の分岐は對生的で無く、後翅は末端に屢々 1 距を具へてゐる……………
…………… Carsidarinae
頭部は上記の如くでない（時に分裂せるが如き觀を呈する事あるも之は額錐の然らしめる所であり）觸角は之の先端に在るのでは無い…………… 2
2. 額が頬にて覆はれない。頬は伸長せず、又圓錐體を成さない。前位單眼は額の末端を占めて居る…………… 3
額が頬にて覆はれ、頬は一般には伸長して圓錐體を成し（額錐）、前位單眼は頭頂と頬との間にある…………… 4

3. 頭頂は扁平にして水平、額は其の下部にありて小狹片を成し、前額片より前位單眼に互つてゐる。翅は屢々多少肥厚し且つ斑紋を具へてゐる。頭頂は前面では下方へ圓く終り、水平でない Liviinae 額は明瞭にして普通には頭頂及び頬と共に一樣なる平滑面を成し、翅は膜質である…………… Pauropsyllinae
3. 前翅には通常の 2 室以上の室があり、之等過剰室は徑分脈若しくは徑分脈より中脈に互る横脈によりて形成される… Ceriacreminae
前翅には常規の 2 室あるのみにして中、肘兩脈の分枝によりて形成せられ、徑分脈は分岐せず又中脈に及ぶ横脈をも有しない… 4
4. 後肢の第一跗節には末端に黒色爪狀の距毛が 1 個有り、徑・中・肘の 3 脈は同一點に於て基脈より分生し、翅は末端が尖つてゐる……………
…………… Triozinae
後肢の第一跗節には末端に黒色爪狀の距毛が 2 個あり、翅の 3 脈は同一個所より分生せずして中・肘兩脈は共通柄を有し、翅の末端は殆んど尖る事が無い…………… Psyllinae

以上二つの分類式の異なる主なる點は扁木蝨亞科 LIVIINAE の範圍に關する部分であつて、クローフォード氏は氏の扁木蝨亞科中に Livia, Rhinocola, Aphalara, Aphalaroida の 4 屬を含ましめてゐるに反し、桑山氏は Livia 屬のみを以て Liviinae をなさしめてゐるのである。本書に於ては以下桑山氏の分類法による事にした。

扁木蝨亞科 LIVIINAE

邦産種としてはヒラヅキジラミ Livia jesoensis MATSUMURA 1 種のみが報告されてゐる。

班木蝨亞科 APALARINAE

本亞科は桑山氏により下記 3 屬に分たれる。

1. 前翅は菱形で質が硬い…………… Euphyllura
前翅は革質若しくは膜質である…………… 2
2. 前翅の翅端は圓い…………… Aphalara
前翅の翅端は尖つてゐる…………… Tenaphalara

(1) 木蝨亞科 PSYLLINAE の分類

大多数の木蝨は本亞科に屬する。本邦産のものは桑山茂氏によりて下記の如く8屬に分類されてゐる。

木蝨亞科の屬の檢索表(桑山氏より)

1. 觸角は細くして絲狀…………… 2
觸角は多毛である…………… Homotoma
2. 前翅は末端が尖つてゐる…………… 3
前翅は末端が圓く終つてゐる…………… 4
3. 前翅は幅の3倍長、觸角は長い…………… Mesohomotoma
前翅は幅の2倍半長以下、觸角は短い…………… Macrohomotoma
4. 觸角は頭幅よりも長くない…………… 6
觸角は頭幅よりも長い…………… 5
5. 觸角は體よりも長い…………… Epipsylla
觸角は體よりも長くない…………… Psylla
6. 前翅の徑脈は1直線形若しくは少しく屈曲してゐる…………… 7
前翅は菱形にして徑脈は末端が屈曲してゐる…………… Metapsylla
7. 前翅の底室は長くして前縁の半に達して居る…………… Daphorina
前翅の底室は短くして前縁の3分の1に達してゐる…………… Calophya

第十五 總翅目の科の檢索表

1. 觸角は9節より成つてゐる…………… 綳薊馬科 AELOTHRIPIDAE
觸角は8節乃至8節以上よりなつてゐる…………… 2
2. 産卵管は長くして背方へ曲り得られる…………… 管薊馬科……………
…………… PHILOTHRIPIDAE
2. 産卵管は腹面へのみ曲る…………… 薊馬科 THIRIPIDAE

第十六 蜘蛛綱

(1) 蜘蛛綱の目の檢索表

4. 腹部は環節を示してゐる…………… 2
腹部は環節を示さない…………… 8
2. 寄生性でない…………… 3
蠕蟲狀にして脊椎動物の腸に寄生する…………… 舌蟲目 Lingulida
3. 長く且つ有節の腹部を有するか若しくは有節尾絲を具へてゐる… 4
後腹部には尾毛を具へない…………… 6
4. 後腹部には尾毛を備へてゐる…………… 蝎目 Scorpionida
尾毛を備へてゐる…………… 5
5. 體は小形、尾毛には有節の棘が生じてゐる…………… 鬚脚目 Palpigrada
體は大形、尾毛ある時にも平滑である…………… 脚鬚目 Pedipalpida
6. 頭部は胸部とは明瞭にして3對の脚を具へてゐる 避日目 Solfugida
頭部は明瞭でない…………… 7
7. 脚鬚は鉗を具へ且つ長い…………… 偽蝎目 Pseudoscorpionida
脚鬚は鉗を具へず、脚は甚だ長い…………… 盲蛛目 Phalangida

- 8. 一般に陸棲である…………… 9
- 一般に水棲する…………… 10
- 9. 頭胸部と腹部とは明瞭に分れてゐる…………… 蜘蛛目 Arachnida
- 頭胸部と腹部とは明瞭に分劃されてゐない…………… 蟬目 A. arina
- 10. 顕微鏡的に微小である…………… 緩歩目 Tardigrada
- 大形にして海棲, 脚は細長い…………… 夢蟲目 Pontopoda

(2) 蟬目 ACARINA

頭胸部も腹部も概して關節を示さず, 前者は一般に極めて小さく, 腹部は多少卵状乃至橢圓形である。附屬肢は6對共に良く發達し, 1對の上顎と1對の脚鬚と4對の胸脚とより成るが, 瘦蟬には2對しか無い。脚は一般に5節より成り, 2爪を具へてゐる。有眼のものと無眼の類とがある。

本目のものは大抵は陸棲であつて, 約半数は寄生性である。人畜以外に, 他の昆蟲特に蟻, 甲蟲類, 椿象類, 蚜蟲等に外部寄生をなし, 海豚の氣管, 猿猴の肺等に内部寄生をなすものもある。非寄生性のものには小動物乃至相互に相食むものがあり, 腐敗植物を喰ふものあり, 植物上に蟲癭を形成するものもある。

(3) 蟬目 ACARINA の科の檢索表

- 1. 體は長く, 蠕蟲形にして, 後部は環節を示し, 微小である…………… 2
- 體は長く伸びず, 蠕蟲形でない…………… 3
- 2. 營癭性にして, 4肢を有してゐる…………… 瘦蟬科 ERIOPHYIDAE
- 8肢を有し, 哺乳動物に寄生する…………… 面皰科 DEMODOCIDAE
- 3. 氣門も氣管も無く, 體は極めて小さい…………… 4
- 氣門と氣管とを具へてゐる…………… 6

- 4. 哺乳動物若しくは鳥類に寄生する…………… 5
- 果實, 穀類, 乾酪の類竝に或植物に寄生する……………
- …………… 粉蟬科 TYROGLYPHIDAE
- 5. 哺乳動物の皮膚内に寄生する…………… 皮癬蟬科 SARCOPTIDAE
- 鳥類の羽毛に寄生する…………… 羽毛蟬科 DERMANYSSIDAE
- 6. 甲角質無く, 1對の棍棒狀剛毛を頭部に生じてゐる…………… 甲蟬科
- 棍棒狀剛毛を生じてゐない…………… 7
- 7. 各氣門は第四對肢近くの1氣門板上にある…………… 8
- 各氣門は氣門板上に在らずして, 上顎の基部又は第四對肢近くに
- 在る…………… 10
- 8. 氣門板は第四對肢の前に在る…………… 9
- 氣門板は第四肢の後に在る…………… 壁蝨科 IXODIDAE
- 9. 鳥類に寄生する…………… 絲蟬科 GAMASIDAE
- 鳥類に寄生しない…………… 姬蟬科 ARGASIDAE
- 10. 水棲である…………… 11
- 水棲でない…………… 12
- 11. 淡水産である…………… 淡水蟬科 HYDRACNIDAE
- 鹹水産である…………… 海水蟬科 HYGRORACHKNIDAE
- 12. 上顎は長くして吻狀を呈してゐる…………… 吻蟬科
- 上顎は長くなく, 體は赤色である…………… 13
- 13. 上顎は有鉗にして, 眼は有柄である…………… 毛蟬科 TROMBIDIIDAE
- 上顎は刺通型にして, 眼は無柄である…………… 14
- 14. 背中線を具へ, 巢網を造營しない……………
- 背中線を具へず, 巢網を造營する…………… 葉蟬科 TETRANICHIDAE

(4) 瘦蟬科の分類

Alfred Nalepa 博士は其著 Das Tierreich Eriophyidae (Phytoptidae), に於て瘦蟬科を下記の如く長瘦蟬亞科 Eriophyinae と圓瘦蟬亞科 Phyllocoptinae との2亞科に分つてゐる。

- A. 腹面半圓輪と背面半圓輪との數は殆ど同大, 腹部は従つて同數の半圓輪を具へてゐる。腹面は常に, 背面は正規的に, 點刻されてゐる……………長瘦蟬科
 - B. 背面半圓輪の數は腹部のものよりも明瞭に輪をなし, 従ひて腹部の背面と腹面とは陥没して異なるに至つてゐる。背面の半圓輪は多少とも廣く, 一般には平滑, 腹面の半圓輪は常に, 點刻されてゐる……………圓瘦蟬科
- 長瘦蟬はまた次の2屬に分たれてゐる。

- A. 腹部は背面中皺を缺いてゐる……………長瘦蟬屬 Eriophyes
 - 腹部は背面中皺を有してゐる……………單毛蟬屬 Monochetus
- 邦産種は皆長瘦蟬にして單毛蟬屬のものは未だ報告されてゐない。

長瘦蟬屬 gen. Eriophyes SIEB., em. NAL.

Eriophyes, 1850 C. TH. SIEBOLD in: Jahresber. Ges., 23 P. 89

Phyloptus, 1851 DUJARDIN in: Ann. Sci. nat., ser. 3 v. 15, 166

Eriophyes 1898, NALEPA in Das Tierreich, Eriophyidae, Berlin P. 5

SUBFAMILY ERIOPHYINAE

背・腹兩板の數は相等しく従つて腹部の環節數もまた相同じである。背・腹兩板は刻點を有し, 従つて平滑ではない。體は圓筒狀にして稍々紡錘狀, 胸甲後は著しく幅廣くない。

長瘦亞科の屬の檢索表

- 1, 腹部には背面中溝がある……………長瘦蟬屬 Eriophyes.
- 腹部に背面中溝がない……………單毛蟬屬 Monochetus

長 瘦 蟬 屬

Genus Eriophyes SIEB., em. NAL.

Eriophyes. C. TH. v. SIEBOLD, Jahresber. Schles. Ges.,

XXIIX, P. 89 (1850); NALEPA, Das Tierreich Eriophyidae, P. 5 (898)

Phytoptus, DUJARDIN, Ann. Sci. Nat. Ser. 3, XV, P. 166 (1851)

體長く, 圓筒狀にして稍々紡錘狀, 胸楯は一般に小さくして略三角形を呈し, 頭部の基部のみを覆うてゐる。

瘦蟬の大部分は茲に屬する。

單 毛 蟬 屬

Genus Monochetus NAL.

NALEPA, Das Tierreich, Eriophyidae, P. 44 (1898).

MONAULAX NALEPA, Anz. Ak. Wien, XXIX, P. 191 (1895).

腹部には背面に1縱走背溝が貫いてゐる。1種 M. sulcatus (NAL) が中歐のブナノキ *Fagus sylvatica* から知られてゐるに過ぎない。

圓瘦蟬亞科 PHYLLCOPTINAE

本亞科には (1) Paraphylcoptus NAL. (2) Callyntrotus NAL. (3) Anthocoptes NAL. (4) Phyllocoptes NAL. (5) Oxyleurites NAL. (6) Epitrimerus NAL. (7) Tegonotus NAL. の7屬があるが, 本邦産のものに就ては良く知られてゐない。

第四篇 蟲癭昆蟲の記載

第一章 雙翅目 DIPTERA

第一 ハムグリバへ(葉潜蠅科) AGROMYZIDAE

(1) 葉潜蠅科 (Agromyzidae) の特徴

體は幅廣く。觸角は短小にして第三節は概して圓く、屢々長いものがある。穎は必ず具はり、毛を生じてゐるものと無毛のものがある。生殖外器は顯著ではない。翅は幅廣く、補助脈は不鮮明。第二基室と臀室とは必ず小さく、屢々圓盤室と合同してゐる。

邦産種の多くは次の2屬のものである。

1. 後部横脈が無く、口吻と鬚とは短い…………… *Phytomyza* 屬
後部横脈を具へ、口吻は短い…………… *Agriomyza* 屬

(2) ヤナギカハムグリバへ(柳皮潜蠅) *Agriomyza schineri* GIR.

體は金屬性光輝を有する濃青色。頭部は濃青色なれども頬及び鬚は淡綠色乃至黄色。複眼は淡紅色。前翅の亞縁脈は甚だしく下方へ曲りて後に前縁の約3分の1點に於て前縁に交り、徑脈竝に中脈は共に翅頂前に於て翅脈に交つてゐる、肘脈は前方よりは寧ろ後方へ曲つてゐる。肘臂横脈は中肘横脈の2倍以上に長い。體長5耗内外、翅の開長11耗内外。(第322圖)

第二 果實蠅科

(1) エゾノアザミミバへ *Euribia cardui* LINNÉ

(雌・雄) 頭部は淡黄色、觸角及び口具は幾分銚色を呈し、複眼は黒色、後頭部には中央に近く1對の黒色剛毛を生じ、額部の中央には淡褐色の1縦線が

ある。胸部は腹・背兩面が木炭黒色、側面は美麗なる黄色である。菱狀部は倒正三角形にして末端は丸く終り、頂點に近く1雙と、基底に近く1對との都合4個の黒色長剛毛を生じてゐるし、胸部の背面には黒色の短毛と1乃至2對の黒色長剛毛とを生じてゐる。腹部は木炭黒色にして短毛を粗生してゐる。肢脚は總べて茶褐色、平均棍は淡黄色である。翅は概して灰白色地であるが、翅基附近は銚色を呈し、前縁には黒色の淡毛が生じてゐる。翅の約中部には前・後兩縁を連結する幅1耗弱の1黒色帯があり、之とは約半耗を隔て且つ翅の後半部を幾分斜に走る1耗弱の他の1黒色帯があり、是は内縁附近では細まつてゐる。此の準斜帯は約45度の角度を成し且つ前縁にして前記準横脈の交點より翅縁に沿ひ翅端を過ぎて後縁角に及んでゐる黒色の1斜帯があり、また、中央横帯は前縁に於て直角に曲りて翅基方向に伸び約半耗の白色帯を隔て、中央横脈と平行に走りて翅の内縁に達してゐる別の1横帯に癒合してゐる。

體 長 4耗内外

宿主植物 エゾノアザミ

(2) ヨモギシロボシミバへ *Xyphosia sunctigera* COQUILLET

雌雄兩成蟲

體の腹部は全體としては黄色乃至汚黄色にして黄色毛を密生してゐるが、背板は横置六角形をなして黒色(雄)、僅かに縁部のみが黄色である。頭部は汚灰黄色。胸部は背腹共に汚黄色の短毛を生じ、菱形部は倒三角形にして末端は圓く終り、淡黄色の短毛を生じてゐる、黒色の剛毛を缺いてゐる。肢脚は汚黄色、平均棍は黄色である。

前翅は幅廣く、脈は黄色、地色は黄色と云ふが可ならんも、黄、白、黒褐の3色が斑紋をなすを以て何れが地色なりとも云ひ得られる。概して黒褐色地に無数の小圓狀黄色紋を散在せしめ且つ内縁隅には四列の橢圓狀白色紋が

縁に沿うて1列に走り、又、中部よりは少しく翅基に近く約2列12個の白色斑紋が横に走り、此の部の前縁にして縁脈と亜縁脈との間に約5個の白色紋があり、中部を過ぎたる1帯には前縁と肘脈間に2列約10個の準楕圓状斑紋があり、翅端近くには約2個の同様な白色紋が内外両縁にある。

體 長 4耗内外

蟲 瘻

本種はヨモギ *Artemisia vulgaris* var. *indica* の莖特に其生長端近くに長径14、短径約8耗の紡錘状蟲瘻を形成し、瘻の内部は廣く、1瘻1個體、成蟲は4月初旬に羽化し出る。本邦にては九州の都城・鹿兒島・静岡・東京・仙臺・盛岡の諸地方に見られる。

(3) ヨモギミバへ *Oedaspis japonica* SHIRAKI

雌雄成蟲

頭部は淡黄色であるが、觸角及び口具は少しく銜色を呈し、額は約6個の黑色剛毛を生じてゐる。尚ほ兩複眼間の後頭部にも3個の長い黑色剛毛がある。其他の短毛は淡黄色である。複眼は黑色。胸部は雄蟲では黄色地に幾分薄黑色の3縦走線を具へ、黄色短毛を密生する外に、正中線と亜背線と背線とに沿うて各3個の黑色剛毛を生じ、菱形部は準倒三角形にして末端は圓く終り、頂點近くと基底近くとは各1個づつの黑色準圓状の斑紋がありて各1個の黑色剛毛を生じてゐる。胸側は胸背と同長、翅基部には3個の剛毛を生じてゐる。肢脚の腿節には1側に黑色の剛毛が生じてゐる。爪は黑色で甚しく外方へ曲らず、無齒である。腹部は雌では末端の數節が背側腹の四板が共に黑色を帯びてゐる。産卵管は準圓筒状にして3節を成し、末端へ向ひ尖り、角質にして銜色乃至少しく黑色味を帯びてゐ、腹部と約同長である。腹部は第一、第二兩節は黄色、第四乃至第七節は前半は黑色であり後半は濃黄色にして黑色毛を密生してゐる。雄蟲の腹部は概して黄色にして黑色毛を生

じてゐる。

前翅は準白色地に約5帯の暗褐乃至茶褐色の斑帯を具へ、脈は黄色、帯紋は黄色にして兩縁が黒褐色に縁どられてゐる。第一横走帯は翅端を過ぎ且つ内外兩縁に亘るものにして帯の内部も黑色であり、第二帯は第一とは約2分の1耗の白色帯を隔てゐるものであり且つ内外兩縁に終り第一とは外縁に於て癒合する。第四帯は翅の中部を通りて内外兩縁を結び、第一第二とは翅の外縁に於て癒合してゐて、準横斷状で幾分斜に傾いてゐる。第三帯は第二及び第四の成す準三角形の底邊の中點より發し、頂點よりは少しく翅基に近き部分に於て第四を通過し縁脈に平行して走り、第五脈に會して是と癒合する。第五脈は第四脈よりも翅基に近く生じ、第四と平行にして内外兩縁を連絡してゐる。尚ほ翅の前縁に近く縁脈と亜縁脈との相會する部分には3個の準楕圓状なる黑色點が1列に具はり、其の内中位のものが大である。翅の胸部に接する部分の三角域はまた黄色を呈してゐる。

體 長 4耗内外

寄生植物 フトコヨモギ

標型地 岩手縣盛岡市

蟲瘻 前種に似たる蟲瘻をヨモギ及びヤマヨモギの莖に形成する種であつて、蟲瘻は前種のものと同大で表面は紅色を呈し、瘻壁は薄き方にして約1耗を測り、内に幼蟲を1個含む。成蟲には10月初旬に出現するものと翌春4月に出るものがある。

(4) ヲケラマダハへ *Platensia okera* SHINJI

原記述 *Platensia okera* SHINJI. *Insect World*, XLIV, P. 2—4 (1940)

體中型にして地色は黑色なれども、全體が鶯色乃至黄綠色の粉状體と細毛とにて覆はれて黄綠色觀を呈してゐる。額部は幅よりも長く、黄色にして灰白色を添へ、頭頂は黄色、鬚と口具とは黄色、觸角は黄色にして額は黑色且

つ短毛を生じてゐる。單眼刺毛は長大にして黒色，額眼刺毛は 2.3，上額眼刺毛は長大にして基部は黄色後半部は黒色，下額眼刺毛は黒色にして比較的短小，内頂刺毛は長大，外頂刺毛は比較的短小にして黄色，頬刺毛は頭丈後頭列のものは黄色にして短大である。

中胸部は黒色であるが黄緑色の粉と白色の細毛とを着けてゐる。背側刺毛は白色，背中刺毛は 1 對にして皺溝近くに在り。菱狀部刺毛は 2 對にして基部のものは末端部のものゝ約 2 倍長である。菱狀部は中央部は黄緑色なれ共兩側縁は黄色味に富んでゐる。平均棍及び方鱗片は黄色である。肢脚は後腿節が幾分黒色なるを除けば全長に互りて黄色にして黄色の刺毛を生じてゐる。

翅は準透明にして脈は黄褐色，前縁の基部にして全長の約 3 分 1 の點域には輕微の缺刻ありて 2 本の黒色刺毛を生じてゐる。地色は黒褐色にして白色の彎入部と同色の圓狀部とを具へてゐる。彎入部としては縁室に 2 個あり，第一徑室に接する部に於ては合一してゐる。第一徑室には 3 個ありて翅端に近きものが最小，亞縁室に近きものが最大である。第三徑室には 2 個ありて，末端に近きものが大きく，之は第三徑脈を過ぎて第五徑脈の中部に達してゐる。第五徑室には翅端に近く 1 個の三角形の大形のものがあり，第二中室には翅縁に沿うて 3 個の大形のもの，肘室には同じく 3 個の大形なるもの，第一肘室には 5 個ある。準圓狀の白色點としては第三徑室の黒色部の中部に 1 個，第五徑室に 2 個，内基部のものが大きい。第二中室には中肘横脈に沿うて 2 個の癒合よりなるもの 1 個，第一中室には約 18 個，肘室には大形なるもの 11 個，また黄褐色の斑點は皆小形にして第三徑室に 1 個，第五徑室には徑中横脈に沿つて 4 個，徑室にも同横脈に近く 4 個，第二中室には中肘横脈に沿つて 2 個，第一中室には同横脈に沿つて 1 個あり，また翅の基部近くは概して黒色である。

體長約 4 耗 前翅長約 4.5 耗

本種は盛岡地方に於ては 7 月 5 日前後にヲケラ *Atraetylis ovata* THUNBERG の生長端なる總狀花内に産卵し，幼蟲の状態にて花内に越冬する。

標型地 岩手縣盛岡市，東京高尾山附近には特に多い。

第三 ハナバへ(花蠅)科 ANTHOMYIDAE

家蠅に酷似してゐるが金屬性光澤を缺く蠅である。觸角の穎は羽狀乃至無毛，腹部は 4~5 節を示し，雄蟲の外部生殖器には尾下附屬器があり，第一後室は廣く開け，體背刺毛は甚しく剛直でない。鱗狀瓣は概して大きい。

(1) ヨシハナバへ *Lipara lucens* MEIGEN

體は全體として木炭黒色。頭部は黒色。單眼は 3 個にして灰白色，複眼は小豆赤色。觸角溝は赤褐色にして觸角また赤褐色，穎は黒色にして剛毛は比較的短小である。胸部は中線竝に側線部域に黄色毛を密生し，小楯板また

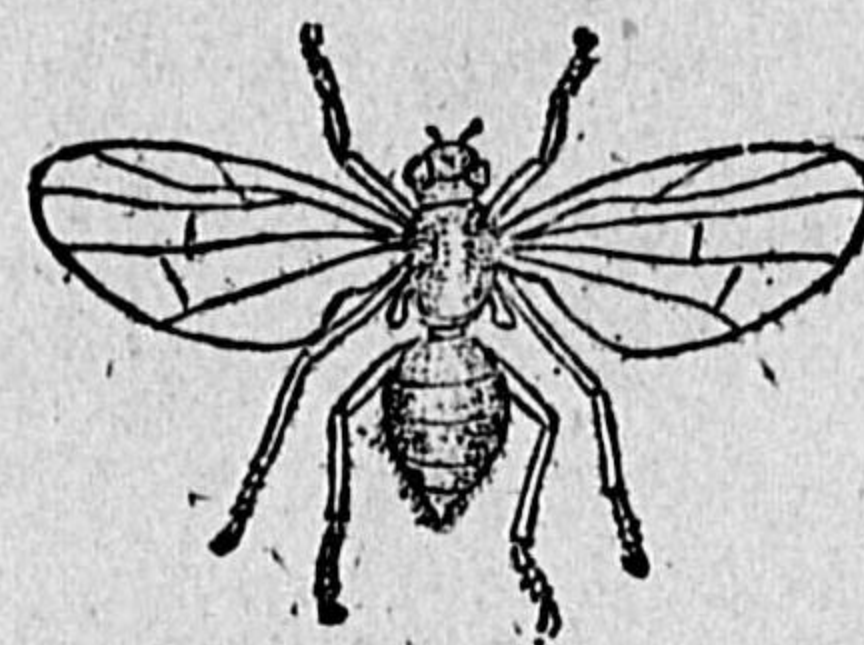


圖 6 第 ヨシハナバへ

黄色毛を密生し，末端は尖らない。肢は腿節端と脛節端との赤褐色なる以外は概して黒色にして白色の細毛を生じ，腿節は肥厚し，脛節は腿節よりも短小，跗節の第一節は第二節の約倍長，第三節は第二節よりも短かく，第五節は第二節よりも稍や長い。

翅は灰白色準透明にして幅廣く，亞縁脈はあまり顯著ならざれ共翅の前縁の約 3 分の 1 の處にて縁脈に合し，第三徑脈は殆んど直走し，翅端前に於て縁脈に合し，第四五徑脈は前縁端の直前に於て縁脈に合する。中脈と第四五徑脈とは並行し，肘脈は後縁の 3 分の 2 點に於て終り，徑中横脈は中肘横脈の約 2 分の 1 長である。腹部は 6 環節を示し，第一節が最大，他節は約同長である。

體長4耗がアシの生長端に寄生する。

(2) シダハナバハ *Anthomyia signata* BRSCHEK.

體は蒼鉛色。頭部は概して蒼鉛色なれども單眼三角域は黒色にして剛毛は顯著、額脈は白色にして剛毛は完備してゐる。後頭剛毛列は黒色、鬚は黒色である。胸部は鉛灰白色にして横走皺は明瞭である。肢脚は黒色にして多數の剛毛を生じ、褥盤は白色にして顯著である。小楯、基楯剛毛と末端小楯剛毛とは甚だ長く中位楯剛毛は短かい。前翅は準透明にして脈は黄色なれども縁脈は多數の黒色剛毛を生じてゐる。亞縁脈は斜走して縁脈に合し、第一徑脈は最も肥大にして前縁の2分の1よりも基部に近く生じ、第二、三徑脈は縁脈に平行して走り、第四、五徑脈も亦縁脈に並行して走り翅端直前に於て縁脈に合する。中脈は後半部は第四、五徑脈と殆んど平行し、肘脈は中脈とは平行でない。従つて第二中室の中、肘横脈は中肘横脈の約2分の3大である。臀脈は肘、臀脈の縁部と約同長である。平均棍は白色である。

腹部は蒼白色にして第一及び第六環節が最長である。各節は多數の長い黒色の剛毛を生じてゐる。

體長8耗内外。シダの葉に寄生する。

第四 癭(沒食子)蠅科 *CECIDOMYIDAE* (*ITONIIDAE*)

外觀大蚊科に似てゐるが皆小形にして體長7耗(産卵管を除く)以上に達するものはなく、頭部は小さく、單眼は之を缺如し、觸角は連鎖状又は絲状にして13—36節より成り、前翅は長大なれども脈數少く、一般には3—4縦脈を具へるが横脈を缺き、従ひて閉室を具へない。肢脚は長く、特に附節が長くして、此部は5節の外に後附節を具へ、之の長短は分類學上の1特徴をなしてゐる。概して植物の芽、花、枝、漿果、根等に寄生して蟲癭を形成するが、否らざる種類も稀でない。本邦に産するもの100種内外ある。

レストレミア亞科 *Lestremiinae*

レストレミア屬 *Lestremia*

- 1775 *Tipula*. FABRICIUS, Syst. Ent., p. 775.
 1798 *Hirtea*, FABRICIUS, Syst. suppl. p. 553.
 1804 *Cecidomyia*, MEIGEN, Klassif. Ins. vol. I, p. 41.
 1826 *Lestremia*, MACQUART, Recueil Soc. Agricult. Lille, p. 173.
 1844 *Cecidogona*, H. LOEW, Stett. Ent. Zeit, vol. V, p. 324.
 1846 *Furcinerya*, RONDANI, Nuovi Ann. Sc. Nat. Bologna (2), V. 3,
 1846 *Mimosciara*, " ibid. v. 6, p. 369.
 1860 *Monobraea*, " Atti Soc. Ital. Soc. Nat. Milano, v. 2,
 p. 287.

ヤマイモヨコスデタマバハ

Lestremia yasukunii, SHINJI, n. sp.

體は概して橙黄色。頭部は黄色なれども、複眼は黒色。顔頰兩部は橙黄色、鬚は甚だ長くして節より成り、各節は十數個の長毛を生じてゐる。第一節は長幅約同大、第二節は幅の約2倍長、第三節は第二節よりも幾分長い、幅は小、第四節以後の各節は第三節よりも短小である。觸角は52節より成り、第一第二の兩節は黄色、第三乃至第十二節は黒色にして、基部は長毛を生じ、後半部は短毛を生じてゐる。第一第二の兩節は約同大にして黄色、第二節は球形に近い。第三乃至第十二節は約同大、各槌形にして2部より成り、基部は幅の2倍よりも幾分長く、柄部は基部の半ばよりも短く且つ幅よりは長い。第十一節は他部と約同長なれども幾分は中央部縊れ、第十二節は瘤状にして約5個の長毛を生じてゐる。

前中兩胸背は黒色、腹面は橙黄色である。前翅は幅よりも長く、全面に褐

色毛を生じ、第一第二の兩脈は翅の4分の3域に達し、黄色にして黒色の縁毛を密生し、約中部には兩脈間を斜走する1小横脈がある。第三脈は翅の中部に於て2枝に分れ、前枝は翅端に達し、後枝は之と並行してゐる。第五脈は翅の殆んど基部近くに生じ僅かに少數の毛を生じ、殆んど1直線に走りて後に内縁の中程に達してゐる。平均棍は黄色である。肢は長く、腿・脛兩部は黄色味を帯び、他節は黒色毛を密生してゐるために薄黒色を呈してゐる。腿・脛兩節は約同長、第一跗節は脛節の半ばよりも長く、第二跗節第三跗節よりも短く、第五跗節は第四跗節よりも短い。爪は黒色にして齒を生ぜず爪間毛は爪よりも短くして黄色である。

腹部は肥大し、橙黄色にして背・腹兩面共に褐色毛を粗生するが、黒色帯を成すことがない。各節は逐次短小となり、第十環節は黒色を帯び、尾板は2分して黒色。各葉は數本の毛を粗生してゐる。

體長3耗、前翅長2.8耗内外。

宿主植物 ヤマノイモ

ポウリコンヂラ族 *Porricondylia*

ポウリコンヂラ族 *Porricondyla* RONDANI

1913 Lestrem

7 *Fipula*? (SAUTER), *Beschr. L. Getreideschänders.*

1840 *Porricondyla*? RONDANI *Memo. 2 per servire alla Ditterologia italiana, Parma, p. 14.*

93 — KIEFFER, *Cecidomyidae: p. 271.*

エゴスネナガタマバへ *Porricondylia acanthopanici* SHIN. n. sp.

體は橙黄色にして中形。頭部は黄色にして複眼以來の部分よりは黒色の長毛を生じてゐる。單・複兩眼は黒色。鬚は4節より成り、各節は數本の毛を生じてゐ、黄色である。第一節は幅よりも僅かに長く、第二第三兩節は約同長

にして共に第一節の約倍長、第四節は第三節よりも短い。觸角は節より成り、全長に亘りて黒褐乃至黒色。第一第二の兩節は幅よりも幾分長く、第三乃至第十四節は幅よりも長く、幅は長さの2分の1よりも小、各節の末端は柄状をなせども柄は幅よりも幾分長い。幹部よりは約8本の長毛を生じ、末端よりは約同數の短毛を生じてゐる。

胸部の背面は黒色、側面は概して橙黄色。前翅は前縁に沿うて縁毛を生じ、前縁脈は稍や肥厚してゐ、第二脈は第一脈の中程に於て第二脈に會し、第三脈は翅頂に達し、第四脈の後半部は第五脈に殆んど相接し、第五脈は直角に枝を生じてゐる。肢は黄色にして黄色毛を生じてゐ、腿脛兩節は約同大、第一跗節は第五跗節と約同長、第二跗節は脛節と約同長、第三跗節は第二跗節の半長よりも幾分長い。爪は單純にして齒を生ぜず、褥毛は黄色にして爪よりも短い。

腹部は背・腹兩面共に長毛を生じ特に腹面のものは叢毛束をなすが、背面のものは黒色帯を成さない。

體長約3耗 前翅長2.8耗内外。

宿主植物 エゴノキ

ハグロタマバへ屬 *Lasioptera* MEIGEN

原記述 1818 MEIGEN, J. W. *Dipt. Besch.*, 1888.

副記述 1834 MACQUART, J. M. *Hist. Nat. Ins. Dipt.*, 1:162.

1840 WESTWOOD, J. O. *Introd. Class. Ins.* 2, sup., p. 126.
(*Diomyza*)

1853 WINNERTZ, J. *Monog. Gallmucken*, p. 191.

1862 OSTEN SACKEN, C. R. *Dipt. N. Amer., Monog.*, 1:
175.

1864 SCHINER, J. R. *Fauna Austriaca, Dipt.*, 2:406.

- 1876 BERGENSTAMM, J. E. & LOW, Paul. Syn. Cecidomyidarum, p. 24
 1877 KARSCH, F. A. F. Rev. der Gallmucken, p. 14.
 1888 INCHBALD, PETER, Entomologist 21:195.
 1888 SKUSE, F. A. A. Linn. Soc. N. S. Wales. Proc., 3: 127.
 1892 RUBSAAMEN, E. H. Berl. Ent. Zeitsch. 37:344-46.
 1892 THEOBALD, F. V. Account British Flies, p. 50, 88.
 1897 KIEFFER, J. J. Syn. Cecid. de europe et d'Algeria, p. 22.
 1908 FELT, E. P. N. Y. State Mus. Bull. 124, p. 323.
 1911 " N. Y. Ent. Soc. Journ. 19:42.
 1913 KIEFFER, J. J. Genera Insectum, fasc. 153, p. 30.
 1917 FELT, E. P. N. Y. State Mus. Bull. 194 p. 107.

體は中形乃至大形にして、鬚は4節より成り、觸角は30節内外より成り、第三脈は翅の頂點乃至頂角附近に於て縁脈と交り、直線狀にして曲らず、縁脈は鱗毛を生じない。産卵管の末端は角質ならず、爪は1齒を生じて2齒となり、共に甚しく角質化してゐる。

(3) フトコヨモギウロコタマバへ *Lasioptera artemisifoliae* SHINJI

原記述 *Lasioptera artemisifoliae* SHIN., Plants and Animals(植物及動物) VII, 2, P. 389 (1939).

雌 蟲

體は濃赤色にして肥大。頭部は薄黒くして後頭部には黒色の鱗と毛とを生じ、複眼は黒色。鬚は短大にして薄黒く、2節より成り、各節には數個の鱗が生じて居る。觸角は16節より成りて體の約半長、全長に亙りて薄黒く、

第一、第二の兩節は黒色の鱗と毛とを生じ、第三～第六節は幅の約2倍長、第七節以端の各節は幅の約2分の3長、各節は若干の剛毛を生じ、纏繞器は龜甲狀の配列をなしてゐる。

胸部は背腹共に黒色にして若干の剛毛を生じ、前翅は薄黒くして前縁には黒色の鱗が密生し、第三脈は前縁脈に近く走り、前縁の約中程に於て之と合し、第四脈は不明、第五脈は分枝しない。平均棍は赤色にして黒色の鱗が密生してゐる。肢脚は寧ろ肥大の方にして黒色の鱗を密生して黒色を呈して居る。爪は單純にして分齒せざるか若しくは極めて小さい1齒を生じ、黒色。褥盤は爪の約4分の3長にして黄色である。

腹部は背腹の兩面が黒色にして黒色の鱗が発生し、産卵管はあまり長からず。腹部の末端の上下には黒色の鈎狀剛毛が若干生じてゐる。

體長 1.8 耗 前翅長 1.7 耗内外

宿主植物 フトコヨモギ *Artemisia japonica*

(4) シラヤマギクウロコタマバへ *Lasioptera astericola* SHINJI

原記述 *Lasioptera astericola* SHINJI, Insect World, 502, P. 2 (1939).

雌 蟲

體は中形にして赤色。複眼は黒色。鬚は四節より成り全長に亙りて淡黄色、第一節は最短片、第四節が最長片、第二第三の兩節は約同長である。觸角は2節より成り全長に亙りて黄色を帯び、第二節以後は末端へ向つて細まり、概観は珠數狀。第一節は倒圓錐狀、第二節は幅よりも幾分短く、第三乃至第二十節は無柄にして幅よりも幾分短く、龜甲狀に配列せる小穿孔器と若干の剛毛と中軸の方向へ曲つてゐる黒色の鱗とを生じてゐる。

胸部は背腹兩面共に黒色にして黒色の鱗を密生してゐる。前翅は薄黒くして、第三脈は前翅の約中程に於て前縁脈に會し、此の會合部には灰黄色の鱗

が生じ、他の前縁部には黒色の鱗を密生してゐる。平均棍は白色地に赤色を添へてゐる。肢脚は寧ろ細長にして黒色の鱗を生じ、爪は黒色、褥盤は黄色にして爪の半長よりも短く、腿・脛兩節には特に多数の鱗が生じ、従つて他部よりも著しく黒色を呈してゐる。

腹部は赤色にして、背面には各節毎に黒色の横走帯があり、此の部よりは黒色の鱗毛が恰も胡蜂の腹部背面に於けると同様の斑紋をなして生じ、他の部分には白色の毛が生じてゐる。産卵管は甚だ長く、第一、第二の兩節には50個内外の頑丈なる毛を生じ、之等の若干は鈎状をなして曲つてゐる。開口部を越した部分は薄黒く、残部は黄色である。

體長 1.2 耗 前翅長 1.2 耗 觸角長 0.4 耗

蟲癭及生活史

本種はシラヤマギク *Aster scarber* THUNB. の莖に寄生する。寄生された莖は生長するにつれて其部が膨大するのみでなく、全體として蜿蜒する。幼蟲房は概して單1で、皮層下に始まり内部の髓質部まで斜に走つてゐる。幼蟲は赤色で、其の儘越年し、翌春4月中旬に羽化し出て成蟲となり、第二世代のものは7月10日前後に成蟲化して先端の生長部に産卵し、之の幼蟲が癭内にあつて越年する。

標型地 栃木縣黒磯驛附近

(5) キツネアザミウロコタマバへ *Lasioptera azami* SHIN.

Lasioptera azami SHIN, *Insect World* XLIII, 8, P. 5 (1939).

(雌 蟲)

體は大きく帯黄赤色。頭部は概して黄色なれども複眼は黒色。前額は黄色にして黄色の毛を生じ、後頭部は幾分薄黒くして黒色の鱗と毛とを生じてゐる。鬚は4節より成り、第一節が最短片、第四節が最長片にして、第二第三兩

節は約同長、各部は短毛を粗生してゐる。觸角は22節より成り、第一節より順次に末端へ向ひ細まり、全長に亘りて黒色にして、第一節は幅の約2倍長、第二節以後の各節は黒色の剛毛と鱗とを生じ、纏繞器は網状且龜甲状である。

胸部は背腹の兩面が共に黒く、側面は概して赤色。前翅は薄黒く、脈は黄色である。各脈は基部に近く黒色の鱗を生じ、第三脈は基半部内に於て前縁脈と合し、此の合1部には黄色鱗が生じてゐる。第四脈は直線をなし、第五脈は不明瞭である。平均棍は赤色にして短毛を生じ、肢は腿節が黒色、基節は黄色、殘節は黄色地に黒色の鱗を生じ、爪は單純にして分齒せず、黒色である。

腹部には各背板上に黒色の横走帯があり、此の部には蜂背状に黒色の鱗が密に列生してゐる。腹板上には黄色毛が生じてゐる。尾端節には黒色の鋸状刺毛と若干の鈎状刺毛とが生じ、産卵管は開口部の上面に多数の鋸状剛毛を生じ且つ約6個の鈎状刺毛が生じてゐる。末端部は針状にして黒色、短毛を生じてゐる。

體長 1.4 耗 前翅長 1.1 耗 觸角長 0.6 耗

蟲癭及び生活史

本種はキツネアザミ *Saussurea affinis* SPLENG. の主莖上に長紡錘形の蟲癭を形成する。蟲癭は主莖の甚しく膨大したるものにして徑13耗内外、長さ3.4耗内外、表面は概して平滑にして綠色。内部は準漿質にして多数(1例にては24個)の幼蟲を含んでゐる。幼蟲は赤色にして8月15日前後に羽化し出て成蟲となる。

(6) ヤナギハキノコヅチウロコタマバへ *Lasioptera achyranthii* SHINJI

(雄 蟲)

體は雌蟲よりも幾分小さく、黄樺色である。頭部は背面黒色を帯び、多数の長短兩毛を密生してゐるが、額及頬は淡黄色。鬚は2節より成りて短小、淡黄色にして同色の短毛を粗生してゐる。觸角は十六節より成り、前腿節と約同長にして、第一第二の兩節は黄色にして黄金色の毛を密生し、第三乃至第十六節は準鞭狀にして黒色、各節は長幅約同大にしてあまり長からざる直毛と黒色の彎曲せる鱗とを生じてゐる。

胸部は良く發達し、背面は概して黒色であるが、菱形部は黄色。兩側面及下面は黄色。平均棍は黄色乃至白色に近い。肢脚は細長にして黄色の鱗と毛とを生じ、爪は黒色にして基部より各1齒を生じ、褥盤は爪より短く、黄色である。翅は準透明にして少しく薄黒味を帯び、脈は概して薄黒いが基部は黄色、前縁には鱗を具へてゐる。第三脈は前縁脈に沿うて走り翅頂に達せざる内に前縁脈に合する。第四脈は直線をなしてゐる。腹部の地色は黄樺色であるが、各環節の背面には黒色の鱗毛が密生して横走帯をなし、腹面には横走黒色斑を缺いてゐる。抱擁器は短大にして剛毛を多数生じ、末端節は黒色にして無毛、末端は尖つてゐる。

(雌 蟲)

體は小形の部に屬し、美麗なる橙黄色乃至黄金色である。頭部特に背面は概して薄黒いが頬及額は黄色。複眼は黒色。觸角は22節より成りて頭・胸兩部の和よりも長く、各節は無柄にして長幅同大若くは幅が少しく優り、白色の長毛と黒色の鱗毛とを生じてゐる。胸背は概して黒色なれども菱形部は黄色にして黒色の縁を有し、多数の黄色毛を生じてゐる。鬚は3節より成り、黄色にして剛毛を粗生してゐる。

前翅は幅大にして、縁脈には多数の黒色鱗毛と毛とを生じ、他脈は黒色、第三脈は前縁の基半部に於て前縁脈に合し、第四、第五の兩脈は顯著であ

る。肢脚は長く、地色は黄色なれども腿節乃至脛節は黒色の鱗と毛とを密生して黒色觀を添へてゐる。後脛節は第五跗節の約半長。爪は基部に於て各1齒を生じ、黒色である。平均棍は黄色にして長毛と鱗とを生じてゐる。腹部の地色は紅黄色なれども、背面は恰も胡蜂の腹背に於けるが如くに黒色の横走帯を具へ、此部には極めて多数の黒色鱗が密生して黒色の斑紋を顯著ならしめてゐる。産卵管の末端は指狀をなして短毛を粗生し、基部は剛直毛を軸とは直角方向へ生じてゐる。黄色である。

體長 2.9 耗。前翅長 2.7 耗。觸角長 0.7 耗。

(蟲 瘻)

本種はヤナギキノコヅチ *Achyranthes bidentata* BL. var. *longifolia* MAKINO の莖節部に寄生し、該部の肥大を致して蟲瘻を形成する。蟲瘻は準球狀にして直徑は5乃至8耗、表面は平滑にして毛茸を生ぜず、綠色又は少しく紅色を帯びてゐる。幼蟲は黄金色にして、其儘越年し翌年の5月15日頃より羽化して成蟲となり始める。主に山間の溪谷に産する。盛岡地方に普通である。

(7) ムラサキシキブウロコタマバへ *Lasioptera callicarpae* SHINJI

Culopedia callicarpa: SHINJI, Zool. Mag., vol. 50, no. 7, p. 372 (1938).

(雌 蟲)

體は帶樺黄色。頭部は黄色にして黒色味を帯び、後頭部には長く且つ前方へ彎曲せる長毛多数生じてゐる。複眼は黒色にして大、鬚は淡黄色にして毛を生じ、第一第二の兩節は約同長、第三節はより長く、第四節は第三節の2倍以上に長い。觸角は14節より成り、準絲狀にして各節は幅の3倍以上に長く、全長に互り黒色にして各節は基部より長毛を叢生して居る。各節はまた

約同長にして第十、第十一、第十二節は順次に短小となり、第十一節は第十二節の約半長である。尚ほ第四節は3小節より成つてゐる。

胸部特に菱形部は長毛を多數に生じてゐる。肢脚は黄色にして黄色毛を生じてゐるが、脛節及び跗節に生じてゐるものは黒色である。第一跗節は短小にして第四跗節よりも短く、第二跗節は第四節の約2倍長ある。爪は黒色、分齒しない。前翅は準透明、第三脈は翅端近くに於て終つてゐ、第四脈は少しく曲りて外縁へ達し、第五脈は基部より3分の1程の點にて直角に下方へ曲り翅の後縁へ達してゐる。腹部は概して樺赤色であるが、腹面よりは長き黄色毛を生じ、背板よりは黒き長毛が叢生してゐる。

(8) ヒヨドリバナウロコタマバへ *Lasioptera Euphobiae* SHIN. n. sp.

體は黄金黄色にして肥大。頭部は黄色地に黒色を帯び、複眼は黒色。鬚は黄色にして3節より成り、第三節が最長、第二、第一節が之に次ぐ。觸角は雌蟲にては24節より成り、第一第二の兩節は黄色にして毛を密生し、第三節以後は準球状にして長幅約同大、少數の鱗毛を生じてゐる。

胸部は側面は概して黄色、背腹の兩板は黒色を帯びてゐる。肢脚は黄色にして長く、腿・脛兩節には黒色の鱗毛が生じてゐる。第一跗節が最長にして、第二第三兩節が之に亜いでゐる。各節は黒色の鱗毛を生じてゐる。翅は準透明にして幅廣く、第三脈は基半部に於て前縁と合し、第四脈は殆んど1直線をなしてゐる。

腹部は背腹側の4板とも黄色地に黒色の斑を具へてゐる。雌蟲の産卵管は黄色にして基部と末端節とは太き剛毛が生じ、基部のものは鈎状に彎曲してゐる。

體長 1.5 耗。翅長 0.8 耗

(9) シラヤマギクウロコタマバへ *Lasioptera gibaushi* SHINJI

Lasioptera gibaushi SHINJI, Vol. Jubil. Pro. Prof. S. Yoshida,
p. 567, (1939).

(雌 蟲)

體は小形にして地色は黄色である。頭部は背面は黒色を帯び黄金色の毛を生じ、複眼は黒色。額及頬は淡黄色。鬚は淡黄色にして3節より成り黄色毛を生じ、各節は觸角節よりも幾分長い。觸角は、21節より成り、全長に互り薄黒く、第一、第二の兩節は幅最も大にして黄色、黄色の鱗と毛とが密生してゐる。殘節の和は頭胸の和と約同長にして、各節は幅よりも幾分短く、無柄にして黒色の鱗と白色の剛毛とを輪生してゐる。

胸部は背面は概して薄黒いが、菱状部は黄色、側面は黄色である。前翅の基部に近く1對の黒色なる斑紋がある。腹面は黄色地に黒色部を具へてゐる。前翅は薄黒いが準透明にして脈と周縁とは黒く、前縁脈には黒色の鱗と毛とが生じ、脈間部には黒色の細毛が多數に生じてゐる。第三脈は亞縁脈に密接して生じ、翅端以前に於て亞縁脈に合してゐる。第四脈は殆んど1直線を成し、第五脈は約中央に於て急に曲りて翅の内縁へ向つて居る。肢脚は基・轉兩節が黄色、腿脛兩節は多數の黒色なる鱗を生じ、全長が黒色を呈してゐる。爪は基部に於て各1齒を分生し、褥盤は爪よりも短い。

腹部は概して汚黄色地であるが各環節毎に横走帯を具へ、黒色の鱗毛が此部の背面にある。側面も黒色の環状帯を有し、黒色の鱗を生じ、腹面もまた黄色の毛と黒色の鱗とを生じてゐる。産卵管は黄色にして基半部よりは多數の顯著なる彎曲剛毛を生じ、末端部には中軸とは直角をなして短剛毛を生じてゐる。

體長 1.6 耗。前翅長 1.4 耗。觸角長 0.8 耗。

(蟲 瘻)

本種はシラヤマギク *Aster scaber* THUNB. の花穂の總狀花序の複合花に

産卵して其内の1小花を變形せしめて擬寶珠状蟲癭を形成する種である。成蟲の羽化し出るは毎年5月中旬にして、幼蟲は數個1ヶ所に棲む。

(10) イチゴウロコタマバへ *Lasioptera ichigo* SHINJI

Lasiopteraichigo SHINJI, Vol. Jubil. Pro. Prof. S. Yoshida,
p. 561, (1939).

(雌 蟲)

小形にして體の地色は帶樺黄色、多數の白色長毛を生じてゐる。頭部は背面が黑色にして多數の黑色毛と鱗とを生じ、額及頬は淡黄色。鬚は三節より成り、概して淡黄色にして圓筒狀、第二節は最短片、第三節が最長片にして白色毛を粗生してゐる。複眼は黑色。觸角は18節より成り、第一、第二の兩節は幅に於て他節の約2倍大、黄色にして黄色の鱗と毛とを密生し、第三乃至第十八節は幾分薄黒く、黑色の鱗毛と白色の毛とを具へ、末端へ向ひ順次に細小となり、準鞭狀を呈してゐる。

胸部は良く發達し、背面は概して黒いが菱形部は黄色、兩側は黄色である。前翅は幅割合に廣く、長き黑色の縁毛を並生し、準透明にして脈は黒く、黑色の剛毛を生じてゐる。前縁及亞縁脈は黑色の鱗と毛とを密生し、第三脈は前縁の基半部に於て縁脈に合し、第五脈は單1にして2分しない。平均棍は淡黄色にして白色の毛を粗生してゐる。肢脚は細長、地色は淡黄乃至白色なれども各節には黑色の鱗毛密生して黑色の觀を添へる事が多い。爪は基部に於て1齒を生じ、黑色である。

腹部は帶赤樺色にして各腹環節の背腹兩面には黑色の鱗毛が密生して黑色の横走帶を形成し且つ著しく長き剛毛束が生じてゐる。産卵管は短小にして黄色、角化せず、短毛を粗生してゐる。

體長 2.1 耗。 前翅長 1.8 耗。

(雄 蟲)

體は寧ろ小形にして地色は黄色である。頭部の背面は概して黒く黄色毛と鱗とを生じ、額と頬とは淡黄乃至白色、鬚は3節より成り、全長に互りて白色乃至淡黄色にして短毛を粗生し、第三節が最長片、第二節が之に次ぎ、第一節が最短片である。複眼は大にして黑色。觸角は18節より成り、第一第二の兩節は他節よりも幅大に、幅よりも短く、黄色にして黄金色の毛と鱗とに蔽はれ、第三乃至第十八節は薄黒く、各節は準圓筒狀にして無柄なれども幅よりは幾分短く、白色毛と少數の黑色鱗とを生じ、之等の長さは節の直徑と約同大である。觸角全體としては第三節より順次に末端へ向ひ細まる準鞭狀にして各節は約20本の短毛を生じてゐる。

胸部は良く發達し、背板は多數の黑色毛を生じ、側面、特に翅の基部の部分は淡黄乃至黄色である。前翅は寧ろ幅廣く、準透明にして白色毛を密生し、脈は黑色、前縁脈には多數の黑色なる剛毛と毛とがあり、周縁には甚だ長き黑色の縁毛が多數生じてゐる。第三脈は前縁脈の基半部内に於て合一し、第四脈は殆んど1直線をなし、第五脈は弧をなして後方へ曲つてゐるが2分しない。前縁の中部には黄色の部分がある。平均棍は淡黄色にして殆んど無毛に近い。肢脚は細長にして地色は白色に近い淡黄色であるが、腿脛兩節には黑色の鱗毛を生ずるありて黑色觀を添へてゐる。爪は黑色にして基部より各1個の齒を生じ、褥盤よりも長い。

腹部は細長く、各環節の背面には胡蜂類のものに於けるが如き倒V字形の黑色斑紋を具へ、此部よりは黑色の鱗が密生してゐる。兩側は黄色、腹面には黑色帶ありて長き黑色毛を生じてゐる。抱擁器は2節より成り、基節は黑色の鱗と白色の剛毛とを多數に生じ、端節は割合に短小にして殆んど無毛、共に黑色である。

體長 2.0 耗。 前翅長 1.8 耗

(蟲 瘻)

本種はナハシロイチゴ *Rubus pervifolius* L. の蔓莖に寄生して準球状の蟲瘻を形成する。蟲瘻は直径8乃至9耗にして表面は平滑、概して蔓と同色の林檎赤色。瘻壁の厚さ1乃至2耗、内部は漿質にして棒色の幼蟲數個を容れてゐるが、後には漿質部は乾燥して1大空室を形成する例が多い。幼蟲の有様にて越年し、翌年の5月10日乃至5月25日頃に成蟲が羽化し出て、雌蟲は新蔓莖の節間に産卵する。

標型地 岩手縣盛岡市。宿主植物 ナハシロイチゴ。東京府下に多い。

(11) イノコヅチウロコタマバへ *Lasioptera inokozuchi* SHINJI, n. sp.

體は黄棒色にして鱗を着けてゐる。複眼は黒色。鬚は2節より成りて黄色、少數の毛を生じてゐる。觸角は14節より成り、第一、第二の兩節は長幅約同大にして黄色且黄色の毛を生じ、第三~第十四節は鞭状を呈し、各節は數珠状にして長幅約同大且黒色、若干の剛毛と鱗とを生じてゐる。胸部は幾分



第 13 圖
イノコヅチハグロタ
マバへの雄蟲の抱擁
器の右半

黒く、翅は準透明にして脈は黄色である。前翅の第三脈は前縁の基半部に於て縁脈に合し、此の部には黄色の鱗毛が生じてゐるが、其他の前縁部には薄黒き長毛が生じ且つ此の部と翅基との間の前縁には黒色の鱗が密生してゐる。第四脈は翅端近くに於て縁脈に合し、第五脈は單1にして分枝しない。平均棍は黄色にして白色毛と鱗とを生じてゐる。肢脚は長大にして黄色なれども黒色の鱗毛を生じて薄黒乃至黒色觀を呈してゐる。爪は黒色にして單1、褥盤は爪よりも遙かに短い。腹部は黄色にして背面には黒色帯を具へ、黒色帯は各環節に在つて黒色の鱗の密生したるものである。雌蟲の産卵管は體の約3分の1長あり、黄色にして剛毛を生じ、剛毛の或物は曲つて鈎状を呈してゐる。

寄生植物 キノコヅチ。標型地 東京府下府中町

(12) キツリフネサウウロコタマバへ *Lasioptera impatiensis* (O. S.)*CECILOMYIA IMPATIENSIS* (O. S.)

- 原記述 1862 OSTEN SACKEN, C. R. Mon. Dipt. N. A. 1, 204
1869 WALSH, B. D. Amer. Ent. II, 63
1874 GLOVER, TOWNSEND, MS. Notes My. Journ. Dipt.,
PL II, fig. 16.
1892 BEUTENMUELLER, WILLIAM. Am. Mus. Nat. Hist.
Bull, IV, 269.
1904 COOK, M. T. Ohio State Univ. Bull. VIII, XIII, 140
1907 BEUTENMUELLER, WILLIAM. Amer. Mus. Nat.
Hist. Bull. XXIII, 392
1907 COOK, M. T. Acad. Sci. Proc. Sept. p. 9
1910 STEBBINS, F. A. Springf. Mus. Nat. Hist. Bull. 11,
4.
1912 COSEDS, A. Can. Inst. Trans IX. 319
1925 FELT, EPHRAIM P. N. Y. State Mus. Bull. CCX-
XXXXVII, 56.
1938 SHINJI, O. Annot. Zool. Jap., XVII, nos. 3, 4, p. 482

(雌 蟲)

頭部は背面が黒色にして多數の剛毛と鱗とを生じ、額・頬及び口具は淡黄色にして少數の毛を生じてゐる。觸角は22~23節より成り、準圓筒状にして、第一、第二の兩節は黄金色にして同色の毛を生じ、第三~第二十二節は黒色にして黒色毛を生じ、各節は概して幅よりも短く、黒色毛と曲つた鱗とを生じてゐる。胸部は發達良く、背面は黒色にして長毛と鱗とを具へ、兩側

は黄色である。前翅は幅廣く、準透明なれども暗色なる微毛を全表面に生じ、脈は薄黒乃至黒色である。前縁には黒色の鱗毛が多数生じ、第三脈は縁脈と並行に走り、縁脈の中程に於て夫れと合してゐ、第四脈は直走し、第五脈は下方へ曲れども分枝せず、肢脚は細長にして黄色、薄黒色の鱗を生じ、ために、或標本にありては全肢に黒色觀を與へてゐる。爪は單1齒性にして黒色。褥盤は爪よりも短く、黄色である。腹部は肥大にして尾方へ向ひ細まり、各環節の背面には5列より成る黒色鱗の1帯がある。腹面には長き黄色剛毛群がある。産卵管は長いがキチン質化してはゐない、末端節は指状にして剛毛が軸とは直角をなして粗生してゐる。尙ほ基部には5~6毛より成る數列の鈎狀棘が生じてゐる。

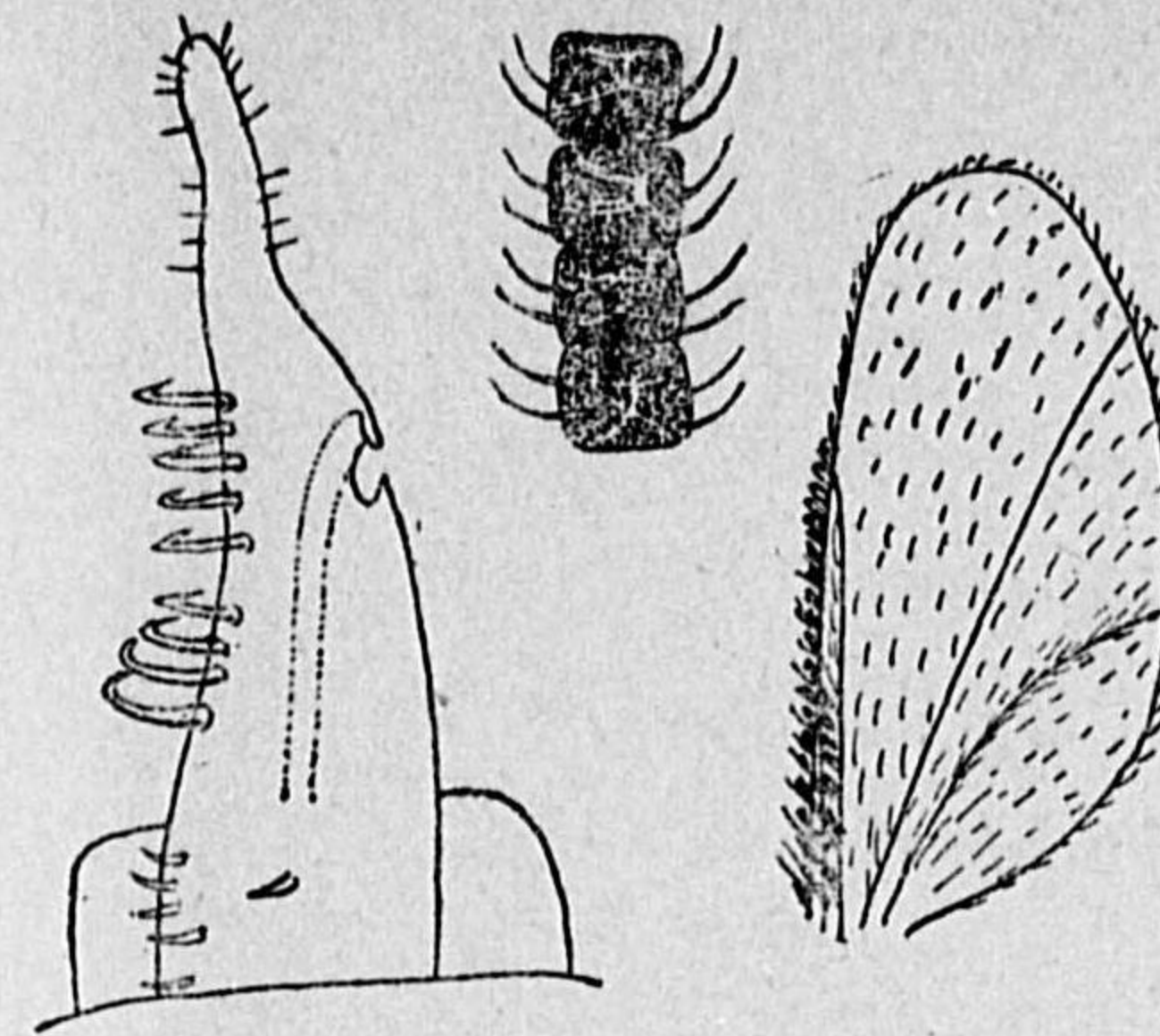
(13) ハギウロコタマバへ *Lasioptera lespedezae* SHINJI

原記述 *Lasioptera lespedezae* SHIN., 昆蟲世界 XLIII, 500 號 p. 4 (1939).

(雌 蟲)

體は中形中の大形にして帶淡赤黄色乃至黄金黄色である。頭部は黄色にして、後頭部には長毛を生じ、額と頬と口具とは何れも黄色、鬚は4節より成り、第四節は最長片、第一節は最短片、第二、第三の兩節は約同長、全長に互り短毛と鱗とを粗生してゐる。複眼は黒色。觸角は24節より成り、各節は幅よりも幾分長く、全長に互りて黒色であるが、第一第二の兩節は黄金色にして幅よりも幾分短く、末端は前節の約二倍長であり、各節は約8個の長剛毛と數個の内方へ曲れる鱗とを具へてゐる。

胸部は後小楯板を含む背腹兩面が黒色、側面は帶赤黄色である。前翅は薄黒乃至黒色にして前縁には黒色の鱗毛密生し、第三脈は前縁脈の約3分の2の點に於て前縁に會合し、此の會合部は黄色の鱗毛を生じてゐる。前縁脈は



第 14 圖

ハギウロコタマバへ

尾端部(上) 觸角第四~第七節(中), 翅(下) 腹部の地色は美麗なる赤色なれ共兩側面は1直線をなして黄色、腹面は概して黒色にして黒色の鱗と毛とを生じ、背面は胡蜂乃至蜜蜂の背面の如くに人字形の黒色斑帯を具へ、此部よりは多數の黒色なる鱗毛が數廻層をなして覆瓦狀に配列し、人字形の中空部は白色を呈してゐる。産卵管は長く突出し、準圓筒狀にして概して黄色、基部と中央部とには十數個の羊齒狀剛毛を生じてゐる。

體長 2.2 耗。 前翅長 2.1 耗。 觸角長 0.9 耗。

(雄 蟲)

體は雌蟲よりも小さく、地色は帶淡赤黄色乃至黄金色である。複眼は黒色。觸角は第一第二の兩節が黄金色、殘餘の24節は黒色にして、全體としては數珠形にして各節は殆んど無柄、若干の剛毛と内方へ彎曲せる黒色の鱗とを具へてゐる。平均棍は概して黒色にして短毛を粗生し、前翅は薄黒くして脈相は雌蟲に於けると同じ。肢脚も雌蟲に於けると同じ。腹部は雌蟲に於けるが如くには赤色ならず、背面には黒色の鱗毛を具へたる事は雌蟲に於けるが如くである。抱擁器は短大にして黒色、基節は多數の長毛を生じ、端節は無毛である。

翅頂を超して伸び、第四脈は殆んど1直線をなし、第五脈は曲つて後縁に達してゐる。平均棍は肥厚部が帶赤黄色にして黒色毛を具へてゐる。肢脚は細長にして、前方へ向へる半面は黒色、殘部は概して黄色、爪は1齒を生じ、黒色である。

體長 2.0 耗。 前翅長 2.0 耗。 觸角 0.8 耗。

(蟲 瘻)

本種は萩 *Lespedeza bicolor* の直立莖に寄生して紡錘形の蟲瘻を形成する。蟲瘻は樹幹の膨大せるものなれば表面は樹皮面と異なる。長さ 70 耗内外、幅 12 耗内外。蟲房は皮層より木質部へ「へ」字形に横たはり、髓質には亘らない。1 蟲瘻内には數個乃至十數個の黄金色の幼蟲が棲み、之等は幼蟲の有様にて木質内にて越年し、翌年 7 月 10 日前後に成蟲となりて現はれる。

(14) クズウロコタマバへ *Lasioptera puerariae* SHINJI

原記述 *Calopedia puerariae* SHINJI, *Insect World*, 492, p. 3 (1938).

體は中形にして黄金色である。頭部は黄色にして後頭部竝に頤下には長毛を若干生じ、額・頬及び口具は淡黄色。鬚は 3 節より成り、第一節は最短片、第二、第三の兩節は約同長、共に黄色にして長毛を粗生してゐる。複眼は黑色にして頭背に於ては相接觸して居る。觸角は 20 節より成り、第一、第二の兩節は黄色にして同色の毛を密生し、第三乃至第二十節は薄黒く、各節は長幅約同大にして若干の剛毛と中軸方向へ彎曲せる黑色鱗とを生じ、工字形の感覺板を具へてゐる。

胸部は良く發達し、前中兩胸部の背面は筋葉が黑色、菱状部淡黄色、側面は概して黄色、腹面は黑色を呈してゐる。平均棍は黄色にして薄黒色の毛を粗生してゐる。前翅は薄黒にして、内縁には長毛を生じ、前縁及脈には多數の黑色鱗毛を密生してゐる。第三脈は前縁脈の約中程に於て癒合し、従つて翅端に達しない。第四脈は直線状、第五脈は曲り、或標本にては後縁へ達してゐる。肢脚は寧ろ肥大にして地色は黄色なれど第一乃至第五跗節は多數の黑色鱗を着けて爲めに黑色觀を呈してゐる。爪は黑色にして各 1 齒を生じて

ゐる。

腹部は黄色若くは少しく樺色味を帯び、各環節には背腹兩面に黑色乃至薄黒色の横走帯ありて此の部よりは多數の黑色鱗が數廻層の櫛齒状に配列して腹部全體に黑色觀を與へてゐる。抱擁器は比較的短大にして、第一節は多數の長毛を密生し、第二節は黑色にして顯著なる黑色毛を缺いてゐる。

體長 2 耗。 前翅長 2 耗。 觸角長 0.7 耗。

(雌 蟲)

體は雄蟲よりも幾分肥大にして且つ幾分か樺色味を呈してゐる。頭部は後頭額頬及口具共に淡黄色。複眼は黑色。鬚は 3 節より成り、黄色にして若干の長毛を粗生してゐる。觸角は 26 節より、第一、第二の兩節は黄色にして同色の毛を密生し、第三乃至第二十六(稀に二十五)節は薄黒くして各節は無柄且長幅約同大にして若干の彎曲せる黑色鱗と剛毛とを粗生してゐる。觸角全體としては基部より末端へ向ひ順次に細くなつてゐる。

胸部は良く發達し、背面の筋葉面は黑色、菱状部は白色、兩側面は黄色である。前翅は薄黒く、脈は薄黒、前縁部には多數の黑色鱗を密生し、第三脈は前縁脈に密接して走り、前縁脈の基部より 5 分の 3 點に於て之と會合して居る。第四脈は殆んど 1 直線をなし、第五脈は分枝しない。平均棍は黄色にして黑色の鱗と毛とを生じてゐる。肢脚は寧ろ短大にして腿節は特に肥厚してゐる。全長に亘り概して多數の黑色鱗を生じて黑色觀を呈して居る。爪は 1 齒を基部より生じ、共に黑色にして、少しく彎曲して居る。褥盤は黄色である。

腹部は雄蟲に比し肥大にして従つて準紡錘状であり、幾分樺色味を添へてゐる。各節の背腹兩面には薄黒色の横走帯があり、此の部からは黑色頭丈なる鱗が數廻層の櫛状體をなして配列してゐる。産卵管は寧ろ長大にして其部竝に指状部には鈎状乃至棘状の頭丈短大の剛毛が生じ、末端の指状部には短

毛が粗生してゐる。全長に亘り黄色である。

體長 2.2 耗。前翅長 2.2 耗。觸角長 0.8 耗。

蟲癭及生活史

本種は「クズ」*Pueraria Thunbergiana* BENTH の莖莖に寄生して其部を肥厚膨大せしめて蟲癭を形成する類である。蟲癭は莖莖の大小によりて異なるが、形状は常に準紡錘状で両端が細く中部へ近づくに順つて肥厚して居る。短徑の大なるものは 35 耗、此の場合の長徑 80 耗であるが、普通には短徑 10 耗内外、長徑 40 耗内外のものが多い。表面は微細の毛茸を生じ、内部は最初は準漿質であるが後に乾燥して準纖維質となり、内に 30 個内外の蟲室を有し、幼蟲は白色にして臓器は黄色である。幼蟲のまゝ越年し、翌年 6 月 3 日乃至 13 日間に蛹が蟲癭面より突出し、羽化して成蟲となる。

標型地——盛岡市

(15) ウコギウロコタマバへ *Lasioptera ukogi* SHINJI

Lasioptera ukogi SHINJI, The Insect World XLIV, no. 2
(510), p. 2 34 (1940).

體は帯紅樺色にして比較的大、頭部は概して黒色なれ共前額、頬及び口具は黄色、複眼は黒色。鬚は 4 節より成り全長に亘りて黄色、各節は 3~12 個の毛を生じ、第四節は最長片にして細長く、中部が幾分膨れてゐる。第三節は第二節よりも幾分長きか、若しくは約同長にして第一節は最短片である。觸角は 19 節より成り、第一、第二の兩節は他節よりも大、殘節は長幅約同大にして黒色、剛毛と鱗とを生じてゐる。胸部は地色は帯赤樺色なれども背板と腹板とは黒色、菱形部は基半部が黒色、後半部は紅樺色である。平均棍は體と同色。肢脚は基部の基半部が黒色を帯び、後半部及び轉節は體の地色にして白色の剛毛を多数生じ、殘餘の部分は雌蟲にありては黄色にして黒色

の鱗と若干の長毛とを生じ、雄蟲にありては薄黒色にして黒色の鱗を生じてゐる。爪は單純にして分齒せず、黒色である。

前翅は地色は準透明なれども脈は黄色乃至黄褐色にして、前縁は基半部が黒色の鱗を密生し、後半部は長き縁毛を生じ、全表面には黒色の細毛を密生してゐる爲に黒色觀を呈してゐる。第三脈は縁脈に密接して走り、前縁の中部に達せざるに先ちて之と合一し其の末端部には黄色の毛を生じたる部分を具へてゐる。

腹部は雌雄の兩個體共に帯赤樺色にして背・腹・側の 4 板共に黒色の鱗を密生して黒色觀を呈してゐる。腹板は 2 葉をなし、各背板の後端部よりは黄色の剛毛と細毛とが生じてゐる。産卵管は基部長く平滑にして樺色、後半部は幾分黒色を呈し且つ若干の短毛を生じ、中部は側面へ約 20 個の黒色剛毛を、背面には約 3 個の長大にして且つ黒色なる剛毛を生じてゐる。雄蟲の把握器は基部が準截斷形にして多数の毛を生じ、端節は黒色乃至薄黒くして角質且つ無毛で細長い。

體長約 2.0 耗。前翅長 2.1 耗。

標型種は昭和 13 年 10 月 16 日岩手縣盛岡市外厨川村にて採集せる蟲癭竝に昭和 14 年 5 月 2 日盛岡市内高松池畔より採集せる蟲癭より羽化し出たものである。

ツトタマバへ屬 *Rhabdophaga* WESTWOOD

Dichelomyia RUBSAAMEN in part

Bertiera KIEFFER

Type *Cecidomyia viminalis* WESTWOOD. (This species is considered by KIEFFER as a synonym of *R. salicis* SCHRANK)

1847 WESTWOOD, J. O., Gardener's Chronicle, p. 588.

1850 LOW, H. Dipt. Beitr. 4:20, 21 (*Cecidomyia* in part)

- 1361 RONDANI, C., Soc. Sci. Nat. Milano, Atti, 2:286 (Cecid. in part)
- 1864 SCHINER, J. R. Fauna Austriaca Fliegen, 2:369 (Cecidomyia in part)
- 1876 BERGENSTAMM, J. E. & LOW, Paul. Syn. Cecidomyidarum, p. 24
- 1892 RUBSAAMEN, E. H. Berl. Ent. Zeitsch., 37:346 (Dichelomyia in part)
- 1892 THEOBALD, F. V. Account British flies, p. 50 (Cecid. in part).
- 1900 KIEFFER, J. J. Soc. Ent. France Ann. 69, 444.
- 1897 " Syn. Cecid. de Europe et d'Algeria 5 (Bertiera)
- 1896 " Soc. Ent. France Bull., p. 188, 189 (Bertiera)
- 1908 FELT, E. P. N. Y. State Mus. Bull., 124, p. 31.
- 1909 " Ent. Soc. Ont. 39th Report, p. 45.
- 1910 RUBSAAMEN, E. H. Zeitsch. Wissensch. Insectenbiol. 15, 337.
- 1911 FELT, E. P. N. Y. Ent. Soc. Journ. 19:43.
- 1914 " N. Y. S. Mus. Bull. 175 p. 81.

多数の種があつて KIEFFER は既に 68 種を挙げてゐる。

鬚は 4 節。觸角は 14 節。前翅の第三斜脈は翅頂にて終り、翅縁には鱗を缺き、第三斜脈は曲らず、産卵管は長くして角化してゐる。肢の爪は 1 箇の齒を生じてゐる。

(16) ヤナギシントメタマバへ *Rhabdophaga rosaria* LOW

- 1850 H. LÖW, Dip. Beitr., IV, 35, 23 (Cecidomyia).
- 1847 BREMI, Beitr. einer monog. d. Gallmücken, tab. II, fig. 23 (Ced.).
- 1851 LOW, H. Linnaea Entomol., V, 373 (Cecidomyia).
- 1853 WINNERTZ, Linnaea Entomol., VIII, 213, 1 tab. II, fig. (Ce-

- cidomyia)
- 1856 GIRAUD, Verh. zool.-bot. Ges. Wien., XI, 481-5 (Cecid.).
- 1864 SCHINER, Fauna Austriaca, Dipt. II, 370, 3 (Cecid.).
- 1874 WEYENB, Tijdschr. v. Entomol., XXVII, 15, 4 (Cecid.).
- 1874 KALTENBACH, Pflanzen Feiende 583, 355 (Cecid.).
- 1876 BERGST. et P. LOW, Verh. zool.-bot. Ges. Wien, XXVI, 67, 368 (Cecid.).
- 1886 LIEBEL, Zeitsch. f. Naturwiss., ser. 4, V (LIX) 567, 257 (Cecid.).
- 188 NEUHAUS, Dipt. Marchica, 12, 1 (Cecid.).
- 1890 RUBSAAMEN, Verh. Naturh. v. d. Preuss Rhinl. etc., XLVII, 48, 165 (Cecidomyia)
- 189 MEIJERE, Tijdschr. v. Entomol. XXXIII, Versl. XXVII (Cecid.).
- 1891 KIEFFER, Feuille jeun Natural., XXI, 209, 132 (Cecid.).
- 1892 " Berlin. Entomol. Zeit. XXXVI 1891. 246, tab. IX, fig. 3 (Cecid.).
- 1892 THEOBALD, An account Brit. flies, Dipt. I, 65 (Cecid.).
- 1892 RUBSAAMEN, Berl. Entomol. Zeitsch, XXXVII, 350, 3. tab. VIII, fig. 1, tab. 15, fig. 4; tab. XVIII, fig. 21 (Dichelmyia).
- 1892 LIEBEL, Entomol. Nachricht, XVIII, 280226 (Cecidomyia).
- 1892 STROBL, Mitteil. Naturwiss. ver. Steiermark, 1894, 126.
- 1892 WULP, v. der. et MEIJ. Nieuve Naamlist v. Nederl. Dipt. I, (ce) 1898
- 1896 KIEFFER, Synopsis d. Cecid. d'Europe et D'Algeriae (Cecid.).
- 1899 SZEPL., Fauna Regni Hung., Dipt., 16. 7 (Dasyneura)
- 1899 RUBSAAMEN, Entomol. Nachricht., XXV, 247, 57 (Cecid.).
- 1899 KIEFFER, Bull. Soc. Amis Sc. Rouen. XXXIV, 96, 40 (Cecid.).

(雌 蟲)

體は寧ろ大形にして地色は帶紅赤色である。頭部は黒色。複眼黒色。鬚は4節より成りて淡黄色、第二節が最大、他は約同大にし短毛を粗生してゐる。觸角は20節より成り、全長に亘りて薄黒い。第一節は幅が最大、第二節は第十九節の約2倍長ありて2節の合したるものなるかの觀を呈する。各節は無柄にして長さは幅の約1倍半長、短毛を多數生じてゐる。

胸部は背腹兩面が黒く、側面は紅赤色である。前翅は幅大に、縁脈は黒色の鱗と毛とを生じて黒く、他脈は薄黒い。第三脈は翅頂に達せずして縁脈に合し、第五脈は2分して1枝は殆んど直角に曲りて後縁の中部に達してゐる。平均棍は赤色にして長毛を粗生してゐる。肢脚は概して淡黄色であるが跗節には他節以上に多數の黒色鱗片と毛とが生じてゐる。爪は基部に於て1小齒を生じ、黒色にして、褥盤は爪よりも幾分短く、淡黄色である。

腹部は赤色であるが第一乃至第七環節の背面には黒色の鱗片が覆瓦状をなして密生して黒色觀を與へてゐる。産卵管は角化せず、淡黄色である。

體長 4.0 耗。 前翅長 3.6 耗。 觸角長 1.7 耗。

(雄 蟲)

體は多數の長毛を生じ、地色は帶赤橙黄色なれども黒斑を具へたるを以て一般には黒色に見える。頭部は黒色。複眼も黒色。觸角は20節より成り全長に亘りて黒色にして、長き白基の剛毛を生じ、第一乃至第七節の各節は準球状にして長・幅約同大且柄部を有しない。第八以後の諸節は基部と柄部とより成り、基部は幅よりも幾分長くして約20個の長き剛毛を主軸とは直角に生じ、柄部は基部の約2分の1長にして長毛を缺いてゐる。鬚は3節より成り黄色又は白色にして末端節が最長である。

胸部は背・腹の兩面が概して黒色、側面特に前翅の基部は黄色である。翅

は幅大にして黒色の細毛にて被はれ且長き縁毛を生じてゐる。脈は黒色。第三脈は少しく上(前)方へ曲りて後に翅頂前に於て縁脈に交つてゐる。肢脚は細長、基節は黒色、殘節は概して黄橙色であるが、多數の鱗毛と剛毛とを生じ、之等が黒色なるが爲に黒色觀を呈してゐる。

腹部は概して黒色。抱擁器は2節より成り、黒色である。

體長 3.7 耗。 前翅長 3.6 耗。

(蟲 瘻)

本種はカハヤナギ・タチヤナギ(稀に)の生長端の部分に寄生する。寄生された部分は生長止まり、數十枚の葉は殆んど1小部より簇生する事となりて1種花状の蟲瘻を形成し、之等變態せる花瓣状葉に圍繞されて其の中心部に於て且つ枝の生長端をなす部には1個の幼蟲室在りて單1の紅色なる幼蟲を容れてゐる。幼蟲は3月20日頃より4月23日頃までの間に羽化し出で、成蟲となり、之等の交尾後、雌蟲は其頃開舒し初める枝芽の末端に産卵する。本邦各地の外に歐洲諸國にも産する。

(17) ヤナギツトクマバへ *Rhabdophaga sali-yonai* SHIN.

原記述 *Rhabdophagasali yonai* SHIN., Insect World, no. 491, p. 3

(1938).

體は寧ろ大形の部に屬し白色の長毛を生じ、地色は赤色である。頭部は黒色、後頭部には白色の長毛を生じてゐる。鬚は4節より成りて各節は約同長。第二節が幅最大、全長を通じて白色。額及後頭部には白色の長毛が多數に生じてゐる。觸角は21節より成り、全長に亘りて薄黒く、各節の周縁は黒色を呈する。第三節以後の各節は約同大なれども、幾分かは順次に細まつてゐる。各節はまた幅の約1/2長にして20~30個の長く白き剛毛を生じてゐる。胸部は背板が概して黒く、正中線の兩側に各1條と、前縁より翅基を通

る各1條との縦走白毛條があり、後胸の小楯板は紅色にして周縁は幾分黒く、白色の長毛を密生してゐる。兩側板は紅色、腹板は黒色である。翅は幅大に、後縁は長毛を並生し、前縁脈は黒色にして鱗片と毛とを密生し、他脈は薄黒く、第三脈は翅頂に達せずして縁脈に合し、第四脈は單1、第五脈は2分し、其後枝は殆んど直角に曲りて後縁に達する。平均棍は赤色。肢脚は紅色なれども酒精標本にては赤色脱退して白色となる事多し、跗節は黒色の鱗及毛を生じ、薄黒色の觀を呈する。腹部は赤色なれども各環節の背面は黒色の鱗片を覆瓦狀に生じ、爲に黒色を呈する。白色の長毛を束生する。兩側及び腹面は赤色。腹部の第八～第九兩節は赤色にして、背板にも鱗毛を欠き、産卵管は望遠鏡狀にして角化せず、殆んど白色に見える。

體長 2.4耗。 前蟲長 2.4耗内外。

(雄 蟲)

體は雌蟲よりも遙かに小さく、地色は橙黄色にして多數の長毛を生じてゐる。頭部は黒色にして後頭部には白色の長毛が生じてゐる。複眼は顯著にして黒色。頤は白色。鬚は4節より成り、白色にして短毛を粗生し、第二節が肥大、他は約同大である。觸角は21節より成り、第一、第二、第二十及第二十一節は準球狀、他節は基部なる準球狀部と後半なる柄部とより成り、前者には10~20個の長き剛毛と數個の環狀感覺器とがあり、後者は前者の約1/2長にして細小且無毛である。胸部は良く發達し、背面は概して黒く、兩側は黄色である。翅は幅寧ろ大に、準透明にして白毛を多數に生じ、前縁脈は黒色にして黒色の鱗片と長毛とを密生し、他脈は薄黒い。第三脈は翅頂に達せずして縁脈に合し、第五脈は後半2分して、1枝は後縁へ殆んど直角に曲つてゐる。肢脚は概して黄色なれども、跗節には黒色の鱗と毛とが多くして薄黒き觀を呈する。爪は黒色にして基部に於て1小齒を生じ、褥盤は黄色にして爪よりは幾分短く、三角形を呈してゐる。

伸長 2.0耗。 前翅長 2.0耗

(蟲 瘻)

本種はオホサルヤナギ *Salix brachystachys* の枝に寄生して其部を苞形乃至紡錘形に膨大する。蟲瘻は幅10耗内外、長さ30耗内外。幼蟲室は數個にして木質部にあり、白色の薄膜にて被はれてゐる。幼蟲は黄色である。成蟲は盛岡地方にては4月17~25日に現はれる。

標型地 岩手縣盛岡市。全國的の分布をなす。

宿主植物 オホサルヤナギ *Salix brachystachys* BENTH.

(18) ヤナギエダタマバへ *Rhabdophaga salicivora* SHINJI n. sp.

原記述 進士、昆蟲世界 488號、第2頁(1938)。

(雌 蟲)

本種は形態竝に其誘致する蟲瘻に於て歐洲産に似る所が多いが、また別種とす可き特徴が多い。

體は大形にして顯著なる長毛を具へ、地色は淡赤色、體毛及鱗は白色である。頭部は黒色にして白色の長毛を生じ、複眼は顯著にして黒色、單眼の周縁もまた黒色である。觸角は24節より成り、頭胸兩部の和よりも僅かに短く、概して黄色であるが各節の基・末兩端部は黒く且つ白色の長き剛毛を生じて居る。第一節は幅よりも長く、第二節は準球形にして縦徑は横徑よりも幾分小さい。此兩節は黒色にして長毛を不規則に生じてゐる。第24節は幅の約2倍長にして末端は圓錐狀をなして尖り、全長に互りて長毛を生じてゐる。第三~第二十三節は準圓筒狀にして約12個の白色剛毛を生じてゐる。第三節は最長片にして長さは幅の約1³/₄大、以下順次に短小となり、第十節に於ては長さは幅の約1¹/₂大である。羽化後時經たるものありては全觸角が黒色である。鬚は4節より成り、第一第二の兩節は長幅約同大、第三節は幅より

も遙かに長く、第四節は最長片にして幅の約2倍長、各節は黄色にして白色の長毛と鱗を生ぜり。前胸部は長幅甚だ小、中節部は良く發達して背面へ隆起し、白色の長毛を生じてゐ、背腹兩面は黒色、兩側面は淡赤色である。後胸部は赤黄色地に黒色の縦線を通じ、小楯板は後方圓く終り、白毛を生じ、黄赤色。前翅は幅廣く、縁・亞縁の兩脈は黒色の鱗を密生して黒色を呈し、他脈は黄赤色、脈間部は透明にして薄黒色の毛を生じてゐる。第三脈は少しく曲りて翅端に達し、第四脈は仄かに分枝してゐる。平均棍は概して黄色であるが準球部は黒色の毛を生じてゐる。肢脚は長く、全長に亘り概して黄色なれども薄黒色の剛毛を生じて薄黒色の觀を呈し、特に腿節の後半部以後には黒色の毛と鱗毛とが密生する爲に黒色なるかの觀を呈してゐる。腹部は準紡錘形に肥大し、地色は赤色であるが、各環節の背板上には廣潤なる黒色の横走帯があり、此帶上には黒色の鱗毛が生じてゐる。末端の2環節は準圓筒状をなして幅よりも長い。産卵管は長く、角化せず、黄色にして後半部には白色の端毛を生じてゐる。

體長(但産卵管を除く) 4.2 耗。 産卵管長 1.1 耗。 前翅長 4.1 耗。

(蟲 瘻)

本種の蟲瘻は「シダレヤナギ」*Salix babylonica* Li.及び「コリヤナギ」*Salix purpurea* L. の小枝の中軸部に造られ、準球形乃至紡錘形にして、概して長徑15耗内外、短徑10耗内外。初期には綠色なれども順次に褐色を呈し來るものである。蟲瘻の中軸髓部にして幅約1耗の所に1耗×3耗大の圓筒状蟲室があり、茲に白色の薄膜にて被包せられた赤色の蛹(又は幼蟲)を發見する。蟲瘻の形狀は歐洲産の *Rhabdophaga-salicis* SCHRANK. のものに似てゐるが邦産のものにありては蟲室は1個即ち單室性にして1蟲瘻よりは1成蟲が羽化し出るに反し、歐洲産のものは多蟲性にして従つて多數の成蟲が1蟲瘻から羽化し出るものである點が異つてゐる。成蟲は盛岡地方にありては

3月18日頃に顯れて柳の芽蕾に産卵する。

(19) ヤナギカツガワタマバへ *Rhabdophaga yanagi* SHIN.

原記述 *Zygiobia yanagi*, SHIN *Insect World*, no. 490, p. 1 (1938).

(雄 蟲)

體は準苞状にして長き剛毛束を生じ、地色は帶赤橙色乃至銚赤色である。頭部は黒色。複眼は黒色。鬚は短くして2節より成り、淡黄色、若干の短毛を生じてゐる。觸角は16節より成り、第一、第二の兩節は黒色味を帯び、殘節は白色である、第一節は幅よりも長く、第二節は幅よりも幾分短い。第十六節は最長片にして中部は幾分縊れ、第三乃至第十五節は準槌状にして、後端部の柄部と基部の幹部とより成り、柄部は無毛、幹部は26本内外の長き剛毛を生じ、柄部の4倍長である。後頭部には長い剛毛を生じてゐる。前胸部は小輪状を成して黒く、中胸部は背板が黒色にして長毛を生じ、側面は朱赤色にして黒色の鱗と毛とを生じてゐる。後胸背も黒色、側面は帶赤黄色、肢脚は基・轉兩節が黒色、殘部は灰白色地に黒色の鱗と毛とを密生してゐる。爪は黒色にして、單1、小齒を生ぜず。翅は幅大に、前縁脈其他の脈には黒色の鱗を密生し、第三脈は少しく曲り、翅端前に於て縁脈に交つてゐる。後翅即ち平均棍は柄部が少しく黒色を帯び、膨大部は黄色である。腹部は割合に短く、第一乃至第八節の背面の地色は銚赤色にして、背板には黒色の鱗と長毛とが横走帯をなして簇生し、黒色觀を與へてゐる。腹側は橙黄乃至銚赤色にして、第一乃至第八節には黄色の縦線がある。抱擁器は薄黒くして短大、若干の毛を生じてゐる。

體長 2.6 耗。 前翅長 2.5 耗。

(雌 蟲)

體は準苞状にして兩端細く、胸部は良く發達してゐる。地色は帶赤橙色乃

至銚赤色。頭部は黒色。複眼は黒色。鬚は短く、2節より成り、淡黄乃至灰白色、若干の短毛を生じてゐる。觸角は16節より成り、第五節は最短片、以下順次に短小となるが、長さは常に幅の1/2。内外、第十六節は中央が屢々縊れ、各節は剛毛を生じてゐるが、柄部を有さない。翅は準透明にして脈は概して灰白色、縁脈には鱗を生じてゐる。第三脈は辛うじて翅頂に達し、鱗毛を生じ、第四脈は分枝せず、大部分は不鮮明である。平均棍は基部幾分黒色を帯び、後半なる扁平部は灰白色にして短毛を生じてゐる。後縁には多数の長毛を生じてゐる。肢脚は概して灰白色であるが、黒色の鱗と毛とを生じ爲めに薄黒き觀を呈してゐる。後附節は短い。腹部は銚赤色であり、背面は各節毎に薄黒色の横走帯を具へ、此部域よりは黒色の剛毛束が簇生してゐる。産卵管は淡黄色にして2節より成り、末端部は葉状にして圓く終り、短毛を生じてゐる。

體長 3.4 耗。前翅長 3.1 耗。

(蟲 瘻)

シダレヤナギ、コリヤナギ等の樹皮の木質部に寄生して樹皮面を半球形乃至瘤狀に隆起せしめた蟲瘻を形成する。本邦各地に普通に見られる。

標型地 岩手縣盛岡市上田

(20) ササオホタマバへ *Hasegawaia Sasacola* MONZEN

原記載 *Hasegawaia Sasacola* MONZ., Kontgu vol. XI, nos. 1—2, p. 191

(1937)

原記載 *Rhabdophaga sasae* SHINJI, Zool. Mag. vol. 5, no. 4, p. 234

(1938)

(雌 蟲)

體は大形にして地色は橙黄色乃至淡赤黄色。觸角は 27 節より成り蠶繭狀

にして頭胸兩部の和よりも長く、全長に亘り黒色にして、各節は基部と後部との2域に分れ、若干の寧ろ短き剛毛を生ぜり、第一節は木枕狀にして第二節の幅の約2倍大、第二節は準球形にして幅よりも短く、第三乃至第十節は蠶繭狀にして幅の約2倍長、第十二乃至第二十六節は順次に幾分宛短くなり、第二十六節に於ては長幅約同大か若くは前者が幾分大、第二十七節は幅よりも幾分長くして末端は尖つてゐる。鬚は4節より成り、地色は黄色にして下面には黒色の細毛を生じてゐる。第一節は他節よりも短い。前胸部は黄色にして長幅共に割合に小さく、中胸背は黒色にして淡黄色の細毛を生じ、小楯板は黒色にして白色の細毛を生じ、側板は黄色。後胸背板は黒色にして白色毛を生じ、側板は橙黄色である。前翅の地色は準透明なれども黒色乃至黒褐色の剛毛を密生して爲めに黒色斑を具ふるが如き觀を呈する。亞縁脈は縁脈の中部に於て終り、徑脈は殆んど翅端に達し、中脈は内縁に達してゐる。肢脚は長くして後附節は短い、全長に亘りて黄色なれども、一般には黒毛の毛及鱗毛を生じて爲めに黒色を呈する。平均棍は黄色なれども末端なる球狀部は黒色毛を生じてゐる。腹部は概して橙黄色なれどもI—III環節の背面には薄黒き横帯を具へ且此黒色部には短き黒色の剛毛を密生して全背面を黒色化してゐる。IV乃至X環節の背板は黄色にして黒色斑紋乃至黒色毛を缺き、IX—X兩節は顯著に收縮性を示し且つ圓筒狀にして長く、産卵管と約同長、産卵管は甚だ長く、黄色にして幾條かの皺縞を示し、尾端の2腹環節を合すれば體と約同長、末端よりは單1の指狀體を生じ、之に短毛が若干生じてゐる。

(21) ヤナギハツツタマバへ *Rhabdophaga salicifoliae* SHIN. n. sp.

體は帶赤橙黄色にして寧ろ細長。頭部は概して黄色なれども、單・複兩眼は黒色。鬚は4節より成り、全長に亘り黄色にして短毛を粗生してゐる。

觸角は 14 節より成り全長に亘り薄黒色にして第一第二の兩節に限り黄色に

して約同大、共に長幅約同大。第三～第十四節は逐次に短小となれども、何れの節も幅よりは長く、最長なる第三節は幅の約2倍長、中央には網状の感覚器を具へてゐる。

胸背は黒色を呈し、胸側は橙黄色。肢は黄色地に黒色の鱗と毛とを密生して黒色味を添へてゐる。第一跗節は第五跗節よりも幾分短く、第三跗節は第二跗節の半よりも稍長く、第四跗節は第三跗節よりも短い。爪は1齒を生じ、黒色である。翅は準透明にして割合に毛少なく、第二脈は前縁の基部より約3分の1域に於て縁脈に會し、第三脈は翅頂に達し、第四脈は不明、第五脈は直角に1枝を生じ、本幹は其れ以後不鮮明となる。腹部は帯赤橙黄色にして、背腹兩枝共に長毛を生じてゐるが、黒色の鱗毛體を具へてはゐない。

體長 3.4 耗。 前翅長 2.4 耗。

宿主植物 ヤナギ *Salix* sp. (ハスヂフシ)

(22) シラヤマギクヒゲナガタマバへ *Rhabdophaga asteriae* SHIN. n. sp.

(雄蟲) 體は帯赤橙黄色にして寧ろ大形。觸角は22節より成り有柄にして薄黒く柄部は幹部と約同長にして毛を生ぜず、幹部よりは約10個の長き剛毛と短毛十數個とを生じてゐ、各節は約同長にして幹部の中央部には突出性圓状の感覚器を具へてゐる。第一第二の兩節は長幅約同大にして柄を具へず、末端節は一般に他節よりも小さい。頭部は概して橙黄色、單複兩眼は黒色。鬚は節より成り全長に亘りて黄色なれども黒色の鱗と毛とを生じてゐる。單複兩眼は黒色。前胸部は輪状にして短く、黒色。中・後兩胸部の背面は黒色にして少數の毛と鱗とを生じ、胸側は橙黄色である。肢は黄色なれども黒色の鱗と毛とを生じ薄黒第一跗節は第五跗節と同長若しくはより短く、第三跗節は第二跗節の半よりも長く、第四跗節は第三跗節の半よりも長い。爪は概して1齒を生じ、盤と褥毛とは約同長。翅は多數の纖毛を生じ、亞縁脈

は前縁の中程に達せざる内に縁脈に合し、第三脈は翅頂に於て縁脈に會し、第四脈は不明、第五脈は中程に於て1枝を生じ、これは内縁と殆んど直角に交つてゐる。

腹部は肥大にして帯赤橙黄色、背面には長毛を生ずれども黒色の鱗毛帯を賦き、腹面は各節共に長毛束を具へてゐる。抱擁器の基部は準截斷形にして薄黒く、長毛を生じ、端節は短毛を生じ其の末端は爪状に尖つて黒い。

體長 3.2 耗内外。 前翅長 2.2 耗内外。

宿主植物 シラヤマギク *Aster scaber*. (カハリメフシ)

班癩蠅族 TRIBE DASYNEURIARIAE

第三縱脈と亞縁脈とを連結する横脈無く、觸角各節は一般に直徑よりも長く、爪は分齒し單1なる事は稀である。觸角は各節共に準圓筒状にして、雄蟲にありても2節式でない。

マダラタマバへ屬 Genus *Dasyneura* RONDANI

Perrisia RONDANI

Neocreata COCKERELL

Dichelomyia BUSAAMEN in part

1846 RONDANI, Camillo Nouv. Ann. Sci. Nat. Bologna, s. 2, 6, 371.

Footnotes *Perrisia* (proposed type *C. urticae*)

1850 LOW, H., Dipt. Beitr., 4:20 (*Cecidomyia*).

1861 RONDANI, C. Atti. Soc. Ital. Sci. Milano, 2, 2.

1862 OSTEN SACKEN, C. R., Dipt. N. Amer. Monog., I, 175 (*Cecidomyia*).

1864 SCINER, J. R., Fauna Austriaca Dipt., 2:369 (*Cecidomyia*).

1876 BERGENSTAMM, J. E. & LOW, PAUL., Syst. *Cecidomyia*-

- rum, 23.
 1877 KARSCH, F. A. F., Revis Gallmucken, 15.
 1838 SKUSE, F. A. F., Linn. Soc. N. S. Wales, Proc., 3:37, 38, 42, 43, 60 (Cecidomyia).
 1892 THEOBALD, F. V., Acct. British flies, 50, 52 (Cecidomyia).
 1895 KIEFFER, J. J., Wien Ent. Zeit, 15:86.
 1896 " Soc. Ent. France Bull., 65. 189 (Bertiera).
 1897 " Syn. Cecid. Brex. Ann., 38:13 (Perrisia).
 1908 FELT, E. P., N. Y. S. Mus. Bull, 124, 340, 342.
 1910 RUBSAAMEN, E. H., Zeitsch. Wissensch. Insectenbiol. 15, 337.
 1911 FELT, R. P., N. Y. Entom. Soc. Journ., 19:43.
 1915 " N. Y. S. Mus. Bull. 175, 115.

Type: *D. luteofusca* RONDANI.

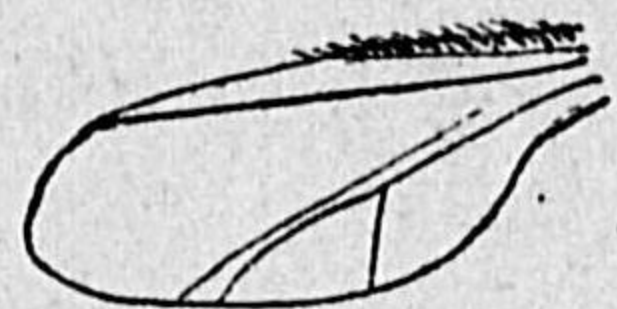
體は中形なるもの多く、觸角は 16 節内外より成り、前翅の第三脈は翅頂の前部即ち翅頂に達せざる内に縁脈に合し、概して直線をなしてゐる。各肢の爪は齒状にして單 1 ならず、翅は準透明にして脈には多數の鱗を生ぜず、第五脈は分枝し、雌の産卵管は長く、體よりも長き例がある。

(23) ヨモギヒメツボタマバへ *Dasyneura fulvicola* SHIN.

原記載 *Dasyneura fulvicola* SHIN., Insect World, XLXX (738).

(雌 蟲)

體は寧ろ小形にして黄色。頭部の頬・額・後頭竝に口具は淡綠色、複眼は黒色である。鬚は 4 節より成り、第一節は最短、第四節は最長、第二、第三の



第 15 圖

ヨモギヒメツボタマバへの前翅

兩節は約同大、全長に亘り淡黄色にして同色の鱗を粗生してゐる。觸角は 14 節より成り、體の約半長、第一、第二の兩節は短小にして黄色、黄色の毛を生じ、第三乃至第十四節は黒色にして黒色の毛を生じてゐる。第二節は長幅約同大、第三乃至

第十四節は無柄にして各節は幅の約 2 倍大、約 2 輪の長い剛毛を生じてゐる。後頭部には黒色の毛が多い。

胸部は背面が黒色、其他の部分は概して帯赤黄色。肢脚は細長にして地色は黄色。腿、脛、跗の三節には黒色の鱗と毛とが生じてゐる。前翅は準透明にして幅の約 3 倍長、脈は薄黒く、第三脈は翅頂に達せずして前縁脈に合し、若干の黒色鱗毛と長毛とを生じてゐる。第四脈は不明、第五脈は直線を成して走つてゐる。平均棍は黄色にして薄黒色の長毛を生じてゐる。肢端の爪は 1 齒を出し、黒色、褥盤は爪の約 3 分の 2 長である。

腹部の背板には薄黒色の横走帯があり、此部よりは黒色の鱗と毛とが簇出してゐる。産卵管は長く、指状に終り、黒色を呈してゐない。

體長 1.9 耗。 前翅長 1.8 耗。 觸角長 1.5 耗

蟲癭及生活史

本種はヨモギツボタマバへの羽化後に其の蟲癭内に棲息する種にして 1 蟲室内には普通數個體が同棲する。8 月 5 日前後に羽化して成蟲となる。幼蟲は帯赤黄色である。

(24) ヘクソカヅラマダラタマバへ(新種)

Dasyneura paederiae SHINJI n. sp.

(雌 蟲)

體は濃黄色にして中形、頭部は幾分薄黒い。複眼は黒色にして割合に小。鬚は 4 節より成り、黄色にして褐色の毛を粗生し、第一節は長幅約同大、第二節は幅よりも長く、第三節は第二節よりも長く、第四節は最長片にして他節よりも細い。觸角は 6 節より成り、第一、第二の兩節は長幅約同大、黄色にして黄色毛を生じ、第三~第十六節は準圓筒状にして幅の 2 倍長以上且つ黒色であるが、第十五、第十六節は長幅約同大である。各節は概して數本の剛毛を基半部に具へてゐる。後頭部には多數の長毛が生じ、前方へ向つてゐる。

胸部は背面が幾分薄黒く、側・背兩板は黄色である。肢脚は黄色にして薄黒色の鱗と毛とを生じ、爪は黒色にして基部に1齒を生じてゐる。前翅は準透明にして脈は黄色、第三脈は翅頂よりも遙かに前で縁脈に合し、亞縁脈は翅の基半部に於て縁脈に合し、縁脈は黒色の長毛と鱗とを生じてゐる。

腹部は肥大にして黄色、背・腹兩面には黄色の長毛を生じてゐる。産卵管は割合に長く、黄色である。

宿主植物 ヘクゾカヅラ

(25) クサフヂマダラクマバへ(假稱) *Dasyneura viciae* KIEFFER

1888 KIEFFER. Verh. zool.-bot.-Ges. Wien, XXXVIII, 105 (Cecidomyia).

1889 RÜBSAAMEN. Berl. Entomol. Zeitsch., XXVIII, 66, 8 (Cecidomyia).

1339 LIEBEL, Entomol. Nachricht., XV, 299, 328 (Cecidomyia).

1890 RÜBSAAMEN. Verh. Naturh. ver. d. preuss. Rheinl. etc., XLVII, 55, 224, tab. 11, fig. 6 (Cecidomyia).

1891 KIEFFER, Feuille jeun. Natural., XXI, 198 (Cecidomyia).

1892 " Entomology. Nachricht XVIII, 8), 559 (Cecidomyia).

1892 MIK, Wien. Entomol. Zeitz., XI, 306 tab. III, fig. 1-3 (Cecidomyia).

1898 KIEFFER, Synopsis d'Cecid. d'Europe et d'Algeriae, 14.

1899 KIEFFER, Bull. Soc. Ames. Sc. Rouen, XXXIV, 97. 53.

1938 *Dasyneura viciae* SHINJI, Insect World, 493, p. 4

(雌 蟲)

體は中形にして赤色、頭部は黄色にして後頭部は長毛を生じてゐる。複眼は黒色、顔面及び口具は黄色。鬚は4節より成り全長に亘りて黄色にして短毛を粗生し、第一節は最短、第四節が最長にして、第二第三の兩節は約同大

である。觸角は16節より成り、全長に亘り黒色を帯び、第一節は倒圓錐狀、第二節は幅よりも幾分短く、第三乃至第十六節は幅よりも幾分長くして數珠狀を呈し、各節よりは10個内外の長剛毛が生じてゐる。

胸部は良く發達し、背面は菱形部を含み黒色にして側面は黄色である。前翅は薄黒くして幅廣く、前縁には黒色の鱗を密生してゐる。第三脈は前縁の約4分の3の點に於て前縁脈と會合し、第四脈は不鮮明、第五脈は曲つて後に後縁に達してゐる。平均棍は柄部薄黒く、肥厚し、扁平部は赤色を帯びてゐる。肢脚は細長にして1齒を分生し、褥盤は爪よりも短い。

腹部は赤色にして背腹の兩面には各環節毎に黒色の横走斑紋帯があり、此の部には黒色の痣が數層の櫛齒狀をなしてゐる。産卵管は腹部と約同長に長く、末端は指狀に終り、概して黄色なれども末端は幾分薄黒い。

體長 1.0 耗。 前翅長 1.1 耗。 觸角長 0.5 耗

(蟲 瘻)

本種は「クサフヂ」*Vicia cracea* L. var. *japonica* MIQ. の生長端の小葉が中肋に沿うて折重なり且つ肥厚したる蟲瘻を形成し、蟲瘻は外面黄色乃至帶赤黄色にして、2折片間には帶赤黄色の幼蟲が6個内外棲息し、之等は7月1日前後に羽化して成蟲となる。盛岡市外厨川驛附近の鐵道線路傍乃至平原のクサフヂに多數見られたが、東京市郊外にも普通である。

(26) オホバクサフヂマダラクマバへ

Dasyneura vicicola SHINJI

Dasyneura vicicola SHINJI, The Insect World XLIII, no. 4 (500), p. 3 (99) (1989).

(雄 蟲)

本種は歐洲産のクサフヂウロコタマバへ *D. viciae* KIEFFER に酷似す

るが、單に雌蟲の場合に就いて見るも、本種の觸角は 15 節より成り、クサフヂウロコタマバへのものは 16 節より成るを以て、こゝには別種として記載する事にした。

體は中形にして赤色。頭部は概して黄色にして後頭部には長毛を生じてゐる。額・頬及び口具は黄色。鬚は 4 節より成り、全長に亘りて黄色、短毛を粗生し、第四節は最長、第一節が最短片にして、第二第三の兩節は約同大である。觸角は 15 節より成り、全長に亘りて薄黒く、第二節は長幅約同大、第三乃至第十五節は幅よりも長く、殆んど無柄にして各節は 10 個内外の剛毛を粗生してゐる。

胸部は良く發達し、概して帶赤黄色であるが、背板は楯板と共に黒色を帯びてゐる。前翅は稍や薄黒く、前縁には黒色の鱗毛を密生し、第三脈は前縁の約 4 分の 3 の點に於て會合し、第四脈は缺如し、第五脈は曲りて後縁に達してゐる。平均棍は基部白色、肥大部は帶赤黄色にして短毛を粗生してゐる。肢脚は寧ろ細長にして薄黒色の鱗と毛とを生じ、爪は 1 齒を生じ、黒色である。

腹部は赤色にして背面には各環節毎に 1 大横走黒色帯を有し、此の部よりは黒色の鱗が數列をなして生じてゐる。産卵管は黄色にして體(腹部)と約同長、末端は指狀を成して突出してゐる。

體長 2.1 耗。前翅長 1.7 耗。觸角長 0.9 耗。産卵管長 1.6 耗内外

本種はオホバクサフヂ *Vicia pseudo-orobus* FISCH の生長端なる嫩葉の表面なる中筋脈に寄生し、其の葉を中軸脈に沿うて折り重ね且つ肥厚せしめて縦に開口部を有する蟲癭を形成する。蟲癭は隣接の普通葉とは異りて黄色又は赤色を帯びるに至るものであり、内に 8—16 個の帶赤黄色乃至褐色の幼蟲が棲息する。幼蟲は癭内若しくは地中に入りて白色の擬繭を營み、約 12 日間の蛹期を経て 7 月 1 日前後に羽化して成蟲となる。本邦各地に普通なる種

である。

ヨモギタマバへ屬 Genus *Rhopalomyia*

鬚は 1~2 節。觸角は 17~19 節より成り、雄にては有柄、雌にては圓筒狀にして柄は甚だ短い。雌蟲の産卵管は長く突出し得られる。

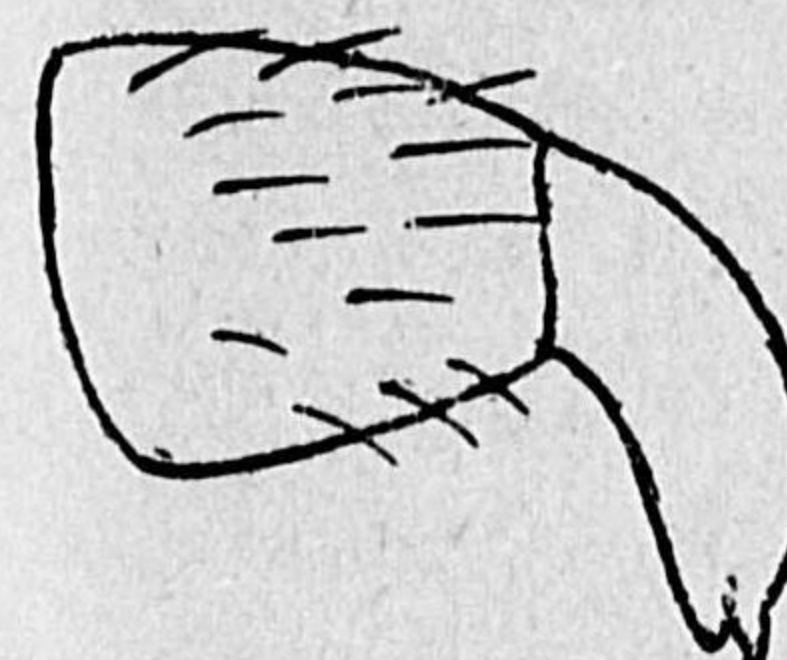
1 般にはイツセツタマバへ屬をもこゝに屬せしめるが Kieffer 氏は僅かに 3 種のみを本屬に残し、大多數の種はイツセツタマバへ屬に含ましめてゐる。

(27) ヤマヨモギシントメタマバへ *Rhopalomyia abdominalis* SHIN.

原記述 *Rhopalomyia abdominalis* SHIN., 昆蟲世界第 42 卷, 495 號 p. 7 (1938).

(雌 蟲)

體は小形にして赤色。前翅は準透明にして前・後の兩縁には鱗を缺き、細毛を並生してゐる。第三脈は少しく曲りて後に翅頂に達し、第五脈は分枝せず、肢脚は細長にして黄色地に黒色の鱗と毛とを生じ、爪は單純にして分齒せず、彎曲し、黒色。褥盤は爪と約同長にして黄色。腹部は赤色にして背・腹兩面には長毛生じてゐる。産卵管は體の半長よりも長く黒色である。



第 16 圖 ヤマヨモギシントメタマバへの雄蟲の右側抱擁器

る。

體長 1.3 耗。前翅長 1.3 耗。

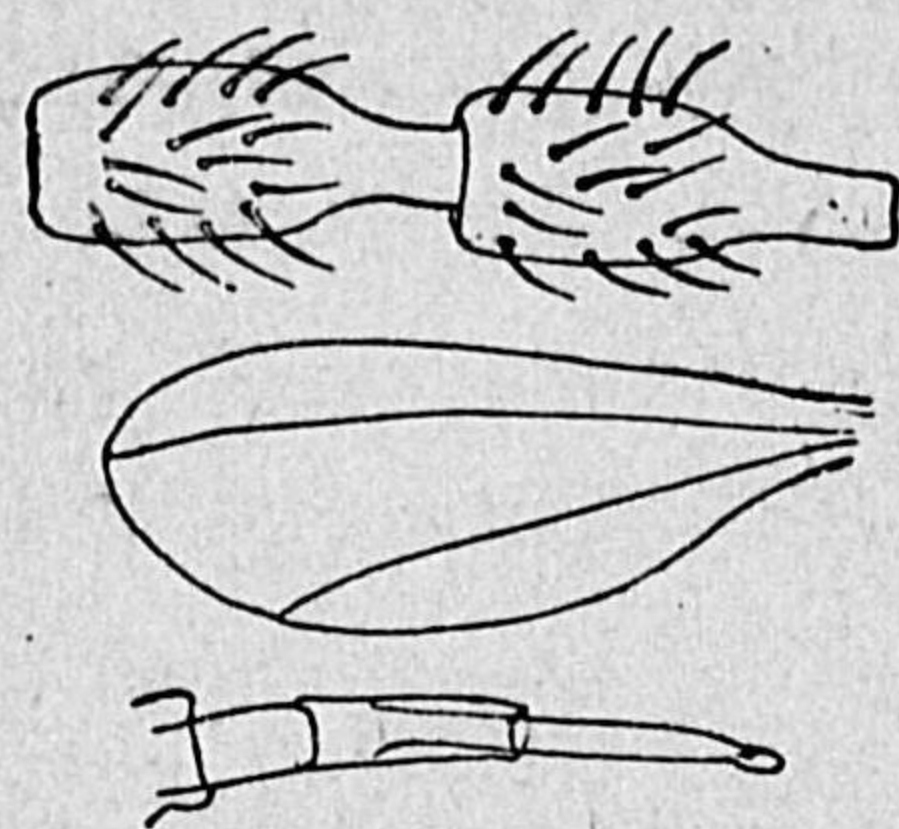
(28) ヨモギマルタマバへ *Rhopalomyia baccarum* WACHTL.

原記述 *Cecidomyia baccarum* WACHTL. Centrbl. f. & Ges. Forstwesen, p. 477 (1883).

異名記述 *R. Cinerarius* MONZEN, Kontyu, vol. XI, nos. 1~2, p. 187 (1937).

(雌 蟲)

體は寧ろ小形にして帯赤橙黄色，黑色の長毛を生じてゐる。頭部は黑色にして黑色の長毛を粗生してゐる。複眼は顯著にして黑色。觸角は18節より成り，體よりも短く，薄黒乃至黑色である。第一節は第二節よりも幾分大，第二節は長幅約同大にして黑色毛を不規則に生じ，第三節以後の諸節は有柄の槌形にして柄部は基部なる膨大部の約 $\frac{1}{2}$ ，長にして幅よりも長く顯著なる剛毛を缺いてゐる，膨大部は概して各節共に24個の長さ黑色の剛毛を準基部と準末端部との2輪層をなして生じてゐる。第三，第四，第五の三節は幅約同長にして且つ最長片で，以下順次に短小となり，第十七節にては長幅約同大となつてゐる，第十八節は幅よりも長く，末端は準圓錐状をなして終つてゐる。鬚は二節より成り淡黄色。胸部は背・腹兩面が黑色にして側面は概して黄色乃至橙黄色。後胸部も背腹兩面黑色。側面橙黄色，小楯板は黑色，3~4束の



第17圖

ヨモギマルタマバへの雌蟲の觸角第四，第五節(上)と前翅(中)と産卵管(17)

長毛を生じてゐる。前翅は準透明にして，縁・亞縁の兩脈には多數の長毛を生じ，鱗を缺き，第三脈は少しく曲りて翅端に達し，黑色毛を生じてゐる。肢脚は赤色の地色であるが，黑色の鱗と剛毛とを生じて黑色を添へてゐる，爪は褥盤よりも長く，黑色にして單1。平均棍は赤色にして黑色の鱗と毛とを粗生してゐる。腹部は準圓筒状にして概して赤橙色なれども，各環節の背・腹兩面には黑色部ありて，黑色の長毛を生じてゐる。第九環節は圓筒状にして産卵管の約 $\frac{1}{2}$ 長ある。産卵管は第九腹環節よりも長く，長圓錐状にして

稍角質化してゐる。

體長(産卵管を除き) 1.7 耗。

前翅長 1.7 耗。

(雄 蟲)

體は雌蟲よりも小さく，細毛を粗生し，地色は黄色乃至淡黄色であるが赤色で無い。頭部は小さく，黑色。複眼は大きく，黑色。鬚は二節より成り，黄色，短毛を生じてゐる。觸角は十八節より成り，地色は黄色にして薄黒く，第一節は幅より長く黑色。第二節は準球形にして幅よりも僅かに短く，黑色である。第三節以後の各節は二節より成り，基部は膨大し後半部は柄状にして細い。膨大部は幅の約 $\frac{1}{2}$ ，長で約10個の長さ剛毛を殆んど1廻をなして生じ，柄部は基部よりも短くして且つ剛毛を缺いてゐる。胸部は隆起し，背腹兩面は黑色，側面は黄色である。前翅は準透明にして黑色毛を生じ脈は薄黒い。縁脈・亞縁脈には鱗なく，第三脈は翅頂に達し，第四脈は短小である。平均棍は黄色にして末端の膨大部には黑色毛が生じてゐる。肢脚は黄色にして幾分薄黒き鱗片と毛とを生じて黑色觀を與へ，後附節は末端附節と約同長，爪は褥盤よりも長くして單1，黑色である。腹部は準圓筒状にして各側の兩側縁よりは長毛束を生じ，地色は淡黄色である。抱擁器は黑色である。

體長 1.7 耗。 前翅長 1.7 耗。

(蟲 瘻)

「ヨモギ」*Artemisia vulgaris* var. *indica* の葉の裏面なる中筋に蒼白色，徑5耗内外の漿果状球形蟲瘻が見られるは本種のものである。表面は1様に短き毛茸を生じ，内部には1個の幼蟲室があり，幼蟲は橙赤色である。成蟲は3月16—21日頃に出現する。1葉には數個乃至數十個の蟲瘻が營まれるものである。

(29) ヨモギエボシタマバへ *Rhopalomyia florum* KIEFFER

189) KIEFFER, Entomol. Nachricht., XV, 37 (Cecidomyia).

1891 " " " XVII, 222, 412 (Cecidomyia)

(雄 蟲)

體は前種に似て小形，地色は黄色，細毛を粗生してゐる。頭部は顔面部を除けば黒色にして細毛を粗生し，複眼は顯著にして黒色。觸角は十八節より成りて頭胸兩部の和よりは長く，第一第二の兩節は黒色にして剛毛を粗生し，前者は幅よりも長く，後者は準球形にして幅よりも稍短い。第三乃至第十七



第 18 圖
ヨモギエボシタマバへ雄蟲の觸角
第一～第六節

節は各二部より成りて地色は黄色乃至淡赤色にして薄黒く，基半部は膨大して略球形を呈し約10個の剛毛を1廻層に生じ且つ幾多の小圓孔を有し，後半部は所謂柄部をなして細長く，剛毛を缺いてゐる。胸部は背面隆起し，背腹兩面は黒色，兩側面は橙黄色である。前翅は準透明にして薄黒き毛を生じ，縁脈にも亞縁脈にも鱗片無く長毛のみを生じ，第三脈は少しく曲りて翅頂へ達してゐる。平均棍は黄色にして肥大部には黒色の長毛を生じてゐる。肢脚は長く，地色は黄色なれども黒色の鱗と毛とを生じて薄黒色を與へ特に跗節端には之等が密生して黒色觀を呈してゐる。爪は褥盤よりも長く，單1にして分齒せず，黒色である。

體長 1.5 耗。前翅長 1.7 耗。

(蟲 癭)

「ヨモギ」 *Artemisia vulgaris* var. *indica* 及びフトコヨモギ *Artemisia japonica* の葉の表面並に裏面に烏帽子形帶赤紅色の蟲癭を營むものが本種にして，蟲癭の基部の直徑約3耗，高さ6耗内外にして末端より細き部分が開

口する。内部には1幼蟲室ありて橙黄色の幼蟲を藏し，年には數回の發生をなす，10月10日以後になれば羽化する事稀となり，従つて幼蟲の有様にて越年し，翌年の3月10日前後に第1回の成蟲が羽化し出でて産卵する。歐羅巴，亞弗利加及び亞細亞に分布してゐる。

(30) ヨモギシントメタバへ *Rhopalomyia iwatensis* SHIN.

原記述 *Rhopalomyia iwatensis* SHIN., 昆蟲世界第42卷, 495號, p. 6 (1938)

(雌 蟲)

體は赤色，複眼は黒色。頬・額及び口具は黄色，鬚は2節より成り，全長に亘り黄色にして，細毛を粗生してゐる。觸角は13節より成り，全長に亘り薄黒く，第一・第二の兩節は長幅約同大，第三乃至第十三節は準卵狀にして無柄，幅の約2分の3長にして基部に約8個，其他の部には若干の長き剛毛を輪生してゐる。

胸部は背・腹兩面が黒色を帯び，有毛，側面は黄色。前翅は前後の兩縁に長毛を生ずれども，鱗を缺き，第三脈は少しく曲りて後に翅頂に達し，第四脈は不明，第五脈は1直線に走り，分枝せず。肢脚は細長にして地色は黄色なれども薄黒き鱗と細毛とを生じ，爪は單純にして分枝せず，黒色。褥盤は爪の約3分の2長で黄色である。

腹部は赤色にして背・腹兩面に長毛が生じてゐる。産卵管は體の約2分の1長にして黄色且つ角質にして螺旋狀を呈してゐる。

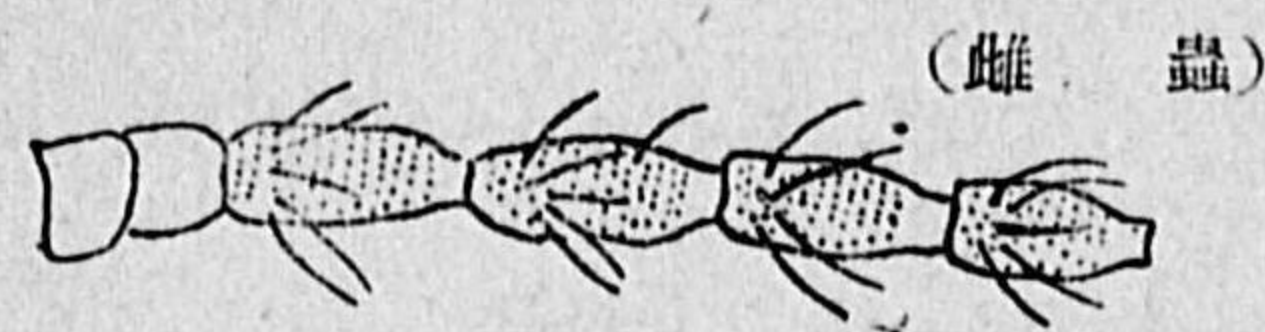
體長 1.2 耗。前翅長 1.2 耗。

蟲癭及び生活史

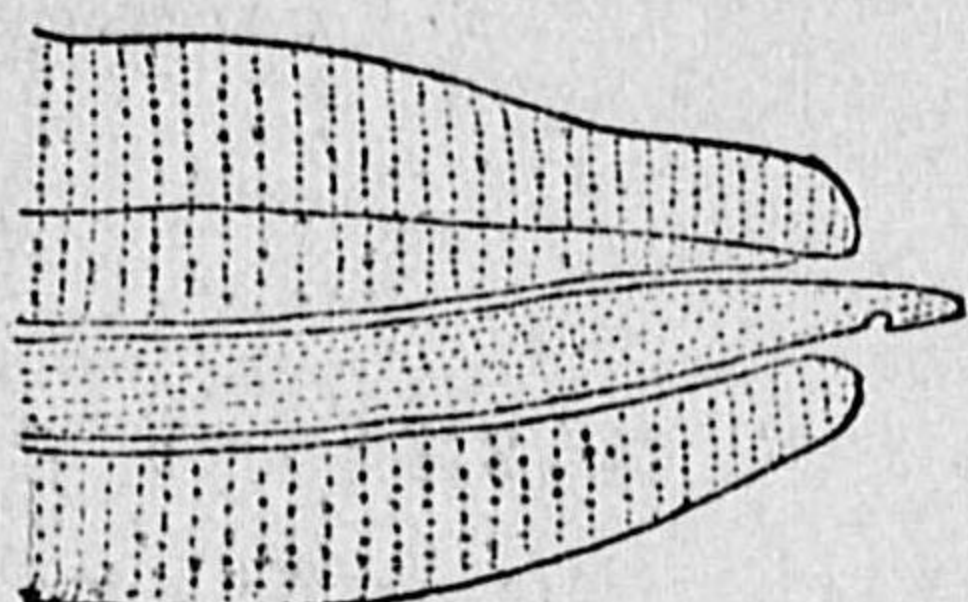
本種は前種と同様に「ヨモギ」 *Artemisia vulgaris* L. var. *indica* MAXIM. の主莖又は倒莖端部に寄生して倒圓錐形の蟲癭を形成する。蟲癭は隣接部の

約2倍の直径を有し、1-8頭の幼虫を容してゐる。

(31) ウメモドキタマバへ(新種) *Rhopalomyia ilexifoliae* SHINJI n. sp.



(雌 虫)



第 19 圖

ウメモドキタマバへの雌
虫の觸角(上)と尾端(下)

體は帶赤樺色にして肥大。頭部は黑色にして後頭部には長毛が生じてゐる。複眼は黑色にして大きい。觸角は14節より成り、第一第二の兩節は長幅約同長、第三~第十四節(鞭狀部)は黑色であり各節は管狀にして幅の2倍以上に長く、基部及び末端部より各12個内外の長毛を生じてゐる。

胸部は背面は薄黒乃至黑色、側板及び背板は概して黄色である。前翅は幅廣い。第三脈は前縁脈に近く走り、前縁の3分の1程の點に於て之と合する。第四脈は直走して翅端を過ぎて翅縁と交り、第五脈は1回分枝するが上位分脈の基部は不明瞭。平均棍は樺色にして黄色の長毛を密生してゐる。肢脚は黄色にして黑色の甚だ長き毛を密生し、爪は黑色にして單1、分齒しない。跗節の第一節は最短片にして第五節の約3分の1長、第二跗節は第三、第四及び第五跗節の和と約同長である。腹部の第一~第六節は約同長、各節は長毛を生じてゐる。

(雄 虫)

觸角は雌虫に於けると同様3節より成り、各節は有柄にして2部より成り、各約12個の長い毛を生じてゐる。體全體としては雌虫よりも淡い樺色にして且つ小形。尾端の把握器の末節は無毛にして長く、基節は有毛にして幅廣

い。

宿主植物。ウメモドキ及びサハフタギ *Ilex* spp. 標型地 東京

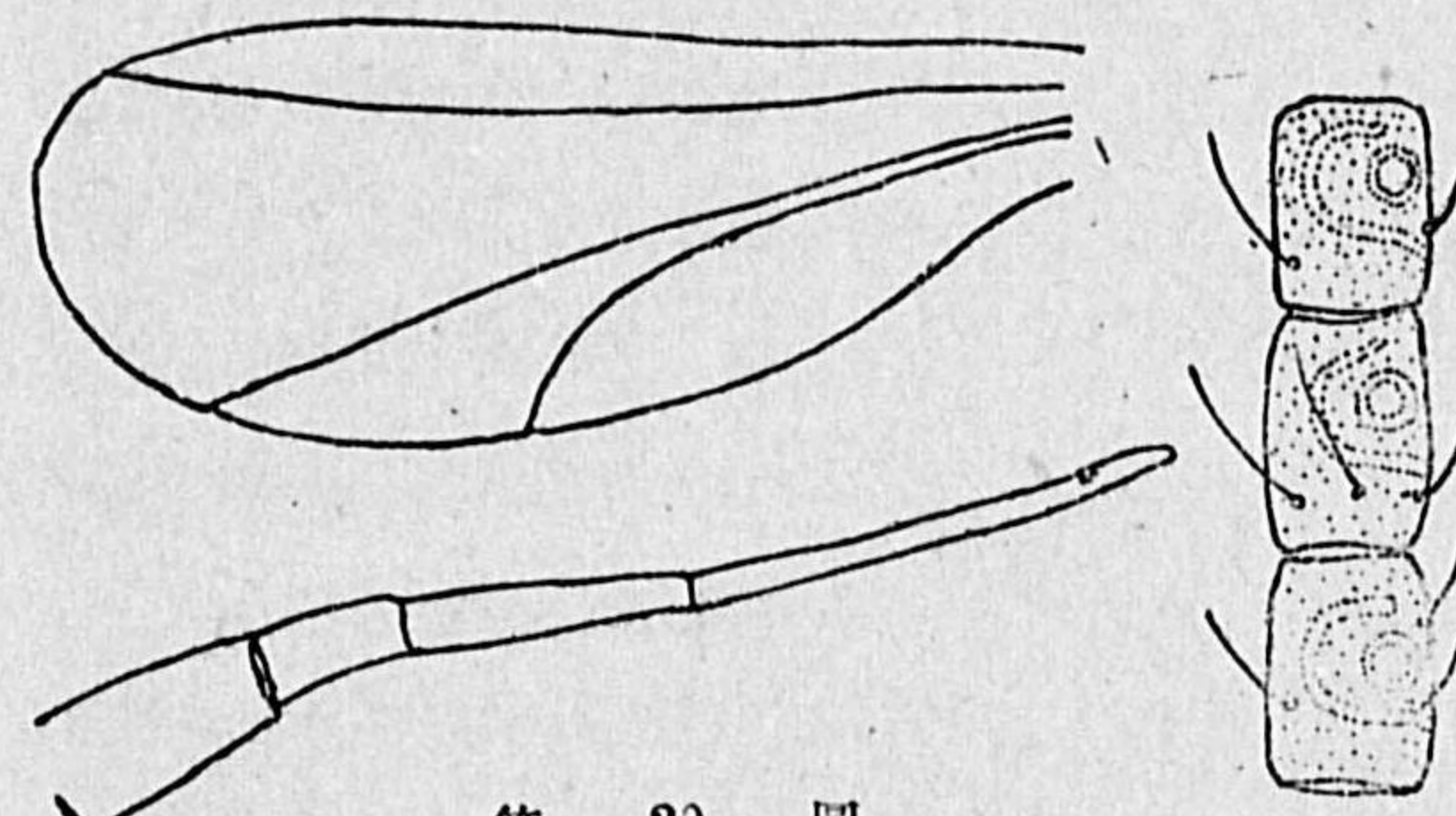
(32) ヨモギナガツボタマバへ *Misopatha longitubifix* SHINJI

原記述 *Misopatha longitubifix* SHINJI, *Plants and Animals*, VII, 2, p. 382 (1939)

本種は「ヨモギ」*Artemisia vulgaris* var. *indica* の莖の葉腋即ち、稚芽蕾に寄生し、之を變態せしめて壺狀の蟲癭を形成するものである。蟲癭は15耗×4耗内外、準圓筒狀にして下端即ち莖に接する部分は閉ぢ、末端部には白色の毛茸が多數に生じて中腔室を閉塞し、壁は2耗内外にして内部には1幼蟲室があり従つて通常1個の幼蟲が棲んでゐる。もと幼芽が變形して成れる蟲癭であるが故に、外部には數個の小葉狀體を着け、綠色である。幼蟲の有様にて癭内に越冬し、翌春四月10~2)日には雌雄の兩成蟲が羽化し出で、交尾後に、其頃僅かに發芽せる宿主に産卵する。卵子は長橢圓形にして少しく樺色を帯びたる黄色である。本種の蟲癭はヨモギオホツボフシ即ち門前教授のヨモギツボタマフシ(齋藤報恩會事業報告第五, 昭和三年度, 298頁)のものよりは細長にしてより長く且つ基半部はあまり太くない(2頁参照)。

(雌 虫)

體中形にして長毛を生じ地色は帶赤樺色である。頭部は背面が黑色を帯び、頬及び額は淡黄色。鬚は2節より成りて短小、淡黄色である。觸角は21節より成り、全長に亘り薄黒く、各節は殆んど無柄である。各節



第 20 圖

ヨモギナガツボタマバへの雌虫の 翅(上) 産卵管(下)
觸角 4~6 節 (右)

には 30 個内外の剛毛が約 3 層をなして生じてゐる。

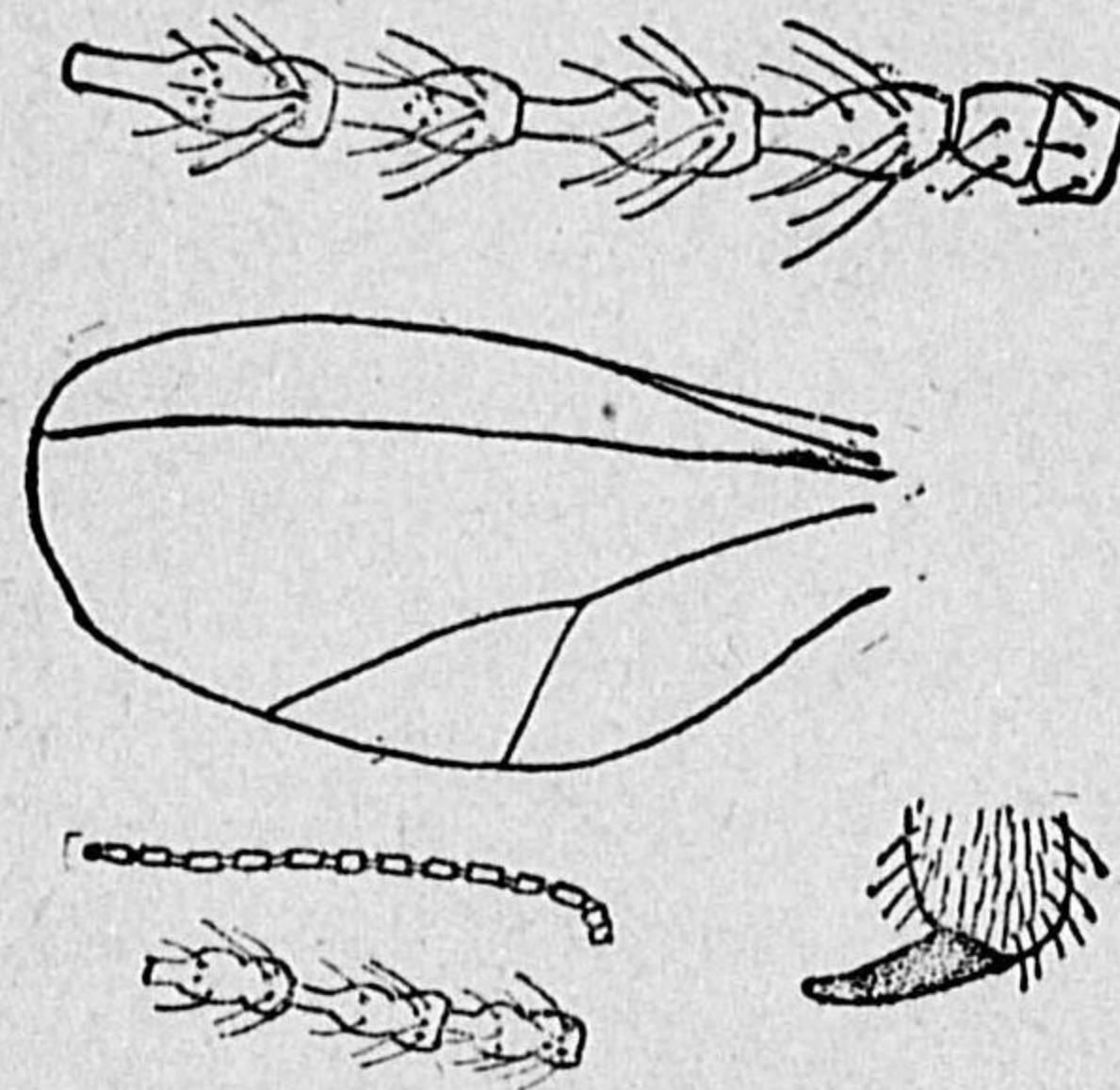
前翅は準透明にして前縁には鱗毛を欠き、第三脈は殆んど翅頂に達し、第四脈は基部以外は不鮮明である。胸部の背面は概して黒色を帯びてゐるが、菱形部は黄色、両側面は黄色、平均棍は黄色地に薄黒き毛を生じてゐる。

(33) ヨモギコブタマバへ *Rhopalomyia yomogi* SHINJI

原記述 *Rhopalomyia yomogi* SHIN., 昆蟲世界第42巻 495號, p. 4(1938).

(雌 蟲)

體は中形にして赤色。頭部は複眼のみ黒色、頬額及び口具は黄色。鬚は二節より成り、全長に亘り黄色にして短毛を粗生してゐる。觸角は 15 節より成り、末端節は第十四節の約 2 倍長なるが、稀には 16 節より成りて末端節は特に第十四節よりも長くないことがある。全長に亘り黒色乃至薄黒く、各節は準楕圓状にして無柄、幅の約 2 倍長、基部と末端部との二輪をなして剛毛が生じ、前者には約 8 毛、後者には 6 毛を數へる。額部には約 20 個の黒色剛毛が生じてゐる。鬚は短小にして 2 節より成り、黄色にして若干の剛毛を生じてゐる。



第 21 圖

ヨモギコブタマバへの雌蟲の觸角(上)と右側
相握器(下右) 前翅(中) 雌蟲の觸角(下左)

胸部は背・腹兩面が黒色、側面は黄色である。前翅は準透明にして前縁には鱗を缺きて長毛を生じ、第三脈は少しく曲りて後に翅頂に達し、第四脈は不明、第五脈は 1 直線に走り、曲つてゐない。平均棍は帶赤黄色にして薄黒き細毛を生じてゐる。肢脚は細長にして地色は黄色、薄黒色の鱗と毛とを生じ、爪は分齒せず、黒色である。

腹部は準紡錘形にして赤色、背・腹兩面よりは薄黒き長毛を生じてゐる。産卵管は長大にして腹部の半長以上、黒色にして角化してゐるが、末端は指状に終り、黄色である。

體長 1.7 耗。 前翅長 1.6 耗。 觸角長 0.7 耗。

(雄 蟲)

體は雌蟲に比し遙かに小さく、幾分か赤色味を有する黄色である。頭部の複眼は黒色、其他の部分は黄色。鬚は 2 節より成り、全長に亘り淡黄色にして短毛を粗生してゐる。觸角は 16 節より成り、第一第二の兩節は約同長にして共に幅よりも幾分短く、第三節以後は各基部なる膨大部と末端なる柄部とより成り、柄部は幅の約 2 分の 3 長、膨大部もまた幅の約 2 分の 3 長にして基部には約 2) 個の長き剛毛を輪生し、末端に近く尙多數の剛毛が生じてゐる。

胸部は背面黒色、側腹の三面は黄色。平均棍は黄色にして薄黒色の細毛を生じ、前翅は準透明にして第三脈は殆んど翅端に達して前縁脈に合し、第四脈は不明、第五脈は單 1 にして分枝せず、前・後兩縁には鱗無く、長い剛毛が生じてゐる。

腹部は概して黄色にして、背、腹兩面には黄色の斑紋ありて薄黒色の長毛を生じてゐる。抱擁器は短大、基節は準截斷形にして長毛を生じ、末節は角質、黒色にして無毛である。

體長 1.5 耗。 前翅長 1.5 耗。 觸角長 0.9 耗。

蟲癭及び生活史

本種は「ヨモギ」*Artemisia vulgaris* LINNE var *indica* の地上幹莖乃至枝莖上に準球形乃至半球形の蟲癭を形成する。蟲癭は大小一様ならずして、小なるものは大豆大、大なるものは直徑 8 耗内外、表面は平滑にして綠色、若しくは綠色地に赤色を添へてゐる。内肉は準漿質にして内に數個の蟲室があ

り、幼蟲及び蛹は赤色である。8月10日前後より引續き9月下旬頃まで順次に羽化し出て成蟲となり、成蟲は羽化後赤色の卵子を生長端部の莖に産し、最後世代の幼蟲は蟲癭を脱出して地中に入りて越冬し、翌年4月2日前後に羽化し出て、第一世代のものを産卵する。各地に極めて普通である。

ヨモギツボタマバへ *Rhopalomyia tubifex* BOUCHE,

- 1847 BOUCHE' Steltin. Entomol. Zeitz., VIII, 144, 14 (Cecidomyia)
 1850 H. LOW, Dipt. Beitr., IV, 36, 31 (Cecidomyia)
 1861 SCHINER, Fauna Austriaca Dipt. II, 379 (Cecidomyia)
 1874 KALTENBACH. Pflanzen-Feide, 359, 76 (Cecidomyia)
 1875 RUDOW, Zeitschr. f. d. ges. Naturwiss., N. F. XII (XLVI)
 281, 2.
 1876 BERGST. et LÖW, P., Verh. zool.-bot. Ges. WIEN XXVI, 80,
 436 (Cecidomyia)
 1886 NEUHAUS, Dipt. Marchica, 13, 3 (Cecidomyia)
 1892 RUBSÄMMEN. Berlin Entomol. Zeitsch., XXXVII, 3714, tab.
 IV, fig. 4, tab. XI, fig. 6, tab. XIII, fig. 41
 1898 KIEFFER, J. J. Synopsis d. Cecido d'Europe et d'Algeria 22
 19 2 KERTE'SZ, C. Catalog. Dipt. Mus. Nat. Hung. 171 (Rhopalomyia)

(雌 蟲)

體中形にして長毛を生じ、地色は帶赤樺色である。頭部は背面が黒色を帯び、頬及び額は淡黄色、鬚は2節より成りて短小、淡黄色である。觸角は16節より成り、全長に亘り薄黒くして殆んど無柄に近い。第一節は幅よりも長く、第二節は長幅約同大、第三乃至第十六節は各準卵状にして幅の3分の2長、殆んど柄節を缺き、約30個の剛毛を略2廻層をなして生じてゐる。前

翅は準透明にして鱗を缺き、第三脈は殆んど翅頂に達し、第四脈は基半部以外の部分は霞みて後半部は不鮮明である。平均棍は黄色にして薄黒色の鱗毛を生じてゐる。胸部の背面は黒色を帯びてゐるが、菱形部は樺色、側面また樺色である。肢脚は細長にして薄黒色の鱗と毛とを生じてゐるが黒色觀は著しからずして黄色を呈する例が多い。

腹部は帶赤樺色にして長紡錘形に膨大し、背腹の両面には各環節上に黒色乃至薄黒色の横走黒色帯があり、且つ剛毛束を生じてゐる。産卵管は甚だ長く、末端節は指状にして少しく薄黒く、短毛を粗生してゐる。

(雄 蟲)

體は小形にして地色は黄色、頭部の背面は黒色、額及び頬は淡黄色である。複眼は黒色。觸角は18節よりなりて體と約同長、全長に亘り幾分薄黒く、各節は柄部と軸部とより成り、兩部は共に長く且つ約同大、軸部に多數の長毛を生じてゐる。鬚は短小にして2節より成り、淡黄色にして長毛を生じてゐる。

胸部は背面は黒色、長毛を生じ、側面は黄色。前翅は幅大に、鱗を缺き、前縁には剛毛多く、脈間は準透明にして多數の薄黒き細毛を生じ、脈は薄黒い。第三脈は少しく曲りて後に翅端に達し、第四脈は顯著ならず、第五脈は基部鮮明、後半部は明瞭でない。肢脚は細長、地色は黄色又は樺色であるが薄黒き毛と鱗とを生じて薄黒味を添へてゐる。

腹部は準圓筒形にして細長、各環節の背・腹両面には黒色の横走帯があり、且つ長毛束を側面から生じてゐる。抱擁器は大きく、黒色である。

(35) ムラサキシキブタマバへ *Rhopalomyia callicarpae* SHINJI

原記述 *Rhopalomyia callicarpae* SHINJI. vol. Jubil. Pro. Prof. S.
 YOSHIDA p. 563, 1939.

(雄 蟲)

體はむしろ小形にして長毛を生じ、地色は帯赤樺色乃至淡赤樺色である。頭部は背面黒色を帯び、額及び頬は白色。鬚は3節より成り、全長に亘り白色にして少數の短毛を粗生し、第二第三の兩節は約同長、第一節は最短片である。觸角は15節よりなり、全長に亘り灰白色にして頭胸兩部の和と約同長、前腿節よりは幾分長く、準鞭状である。第一第二の兩節は幅に於て他節よりも大に且つ幅よりも短く黄金色の鱗と毛とを密生してゐる。第三乃至第十四節は各節共に準圓筒状にして、長さは幅の約2分の3大、無柄にして各基部よりは20乃至30個の白色毛を前方へ向けて生じてゐる。第十五節は準圓錐状を成してゐる。

胸部は良く發達し、羽化後間も無き個體にありては黄色、時日を經過せる個體にありては黒色を帯びてゐるが、菱形部は黄色、兩側面は黄色である。前翅は幅大きく、準透明にして少しく薄黒味を帯び、前縁には鱗毛少く、脈は黄色である。前翅の第三脈は少しく前方へ曲りて後に約翅頂に於て縁脈に合し、第五脈は微かに2分してゐる。肢脚は地色は淡黄色。基・轉の兩節には黒色の長毛多く、腿・脛兩節には濃褐色の鱗と毛とが密生してゐる。爪は基部に於て1小齒を生じ、甚しく曲り、黒色である。褥盤は黄色にして爪の約2分の1長である。

腹部の地色は赤淡樺色で黄色に近い、各環節の背面には黒色の鱗が覆瓦状に櫛比してゐる。産卵管は長く、殆んど白色にして角化せず、末端節の背面部は指状を成して突出してゐる、彎入部即ち末端と背部突出體との接觸點が開口してゐる。基部よりは短き剛毛が軸と直角に生じてゐる。

體長 2.3 耗。前翅長 2.1 耗。

(雄 蟲)

體は雌蟲のものよりも小さく、地色は淡黄色にして長毛を生じてゐる。頭

部は背面黒色を帯び、前額及び頬は白色。鬚は3節より成り短小、白色にして若干の毛を粗生してゐる。觸角は15節より成り前腿節よりは幾分長く、準數珠状である。第一第二の兩節は黄色にして白色毛を生じ、第三乃至第十五節は各2部より成り、後半部は細長く柄と成る。柄部は基半部となり軸部の約半長、軸部は幅の約2分の3長弱、各節は全長より白毛を輪生してゐる。複眼は黒色である。

胸部の背面は頭部の背面と同様に鱗と毛とを生じてゐ、概して黒色なれども菱形部と兩側面とは黄色である。前翅は幅廣き方にして準透明、脈は黄色である。第3脈は翅頂よりは少しく前方に於て縁脈に會し、第四脈は曲らずして殆んど1直線に走り、第五脈は中部より急に下方へ曲るが後縁には達しない。前縁には鱗毛が少くない。肢脚は細長にして地色は淡黄色乃至白色であるが基轉の兩節以外の諸節には多少とも黒色の鱗を具へてゐる。爪は黒色で曲り、基部に於て各1小齒を分岐してゐる。腹部は細長く、各環節は長幅約同大。腹面は長き剛毛を生じてゐる。抱擁器は短大にして黒色、第一節は準矩形、第二節は末端が幾らか尖つてゐる、共に黒色にして多數の剛毛を基部に生じてゐる。

體長 2.0 耗。前翅長 1.9 耗。

(36) ヨモギシラガタマバヘ *Phopalomyia lütkeülleri* THOMAS.

原記述 *Rhopalomyia lütkeülleri* THOMAS. Verh. Zool.-bot. Ges. Wien, vol. XLIII, p. 306 (1893).

體は寧ろ小形にして準圓筒形、地色は帯赤黄色なれども、赤色味は酒精標本となす時は脱出するが常である。觸角は普通17節より成れども稀に16節よりなる個體がある。體の約半長にして概して數珠状、全長に亘り薄黒い。第一節は倒圓錐状にして幅よりも長く、第二節は幅よりも幾分短い。第三乃

至第十七節までの各節は無柄に近けれども短き柄を有し、柄部は主部の5分の1長にして10個内外の長き剛毛を基部と後半部との2ヶ所より輪生してゐる。

胸部は良く發達し、背面は黒色、兩側面は帶赤黄色である。前翅は準透明にして脈は黄色、前縁は鱗毛を缺き、第三脈は殆んど翅端に於て前縁脈に合し、第四脈は直線をなして走り、第五脈は微かなれ共存在し、2分する事なくして下方へ曲つてゐる、縁毛は薄黒い。平均棍は黄色にして薄黒い長毛を生じてゐる。肢脚は細長にして地色は黄色、多數の鱗と毛とを生ずれ共黒色を呈する事がない。爪は單1にして黒色、分齒しない。

腹部の地色は帶赤淡樺色にして黄色に近く、各環節の背面には黒色の鱗が覆瓦狀に櫛比してゐる。産卵管は長く、殆んど白色にして角化せず、末端部の背面部は指狀を成して突出し、彎入部即ち末端と背部突出體との接觸點が開いてゐる。基部よりは短き剛毛が軸とは直角に生じてゐる。

體長3耗。前翅長2.8耗。

(雄 蟲)

體は雌蟲のものよりも小さく、地色は淡黄色にして長毛を生じてゐる。頭部は背面黒色を帯び、前額及び頬は白色。鬚は3節より成りて短小、白色にして若干の毛を粗生してゐる。觸角は15節より成り前腿節よりは幾分長く、準數珠狀である。第一第二の兩節は黄色にして白色毛を生じてゐ、第三乃至第十五節は各二部より成り、後半部は細長にして柄を成す。柄部は軸部の約半長、軸部は幅の約2分の3長弱。各節は全長より白毛を輪生してゐる。複眼は黒色である。

胸部の背面は頭部の背面と同様に鱗と毛とを生じ、概して黒色なれども菱狀部と兩側面とは黄色である。前翅は幅廣き方にして準透明、脈は黄色である。第三脈は翅頂よりは少し前方に於て縁脈に會し、第四脈は曲らずして殆

んど1直線に走り、第五脈は中部より急に下方へ曲るが後縁には達しない。前縁には鱗毛が少ない。肢脚は細長にして地色は淡黄色乃至白色であるが基轉の兩節以外の諸節には多少とも黒色の鱗を具へてゐる。爪は黒色にして曲り、小齒を分岐してゐない。

腹部は細長く、各環節は長幅約同大。腹面は長き剛毛を生じてゐる。腹部の末端節は背面へ1對の指狀體を生じてゐる。抱擁器は短大にして黒色、第一節は準矩形、第二節は末端が幾分尖つてゐる、共に黒色にして多數の剛毛を基部に生じてゐる。

體長2.8耗。前翅長2.7耗。

(蟲 瘻)

ヨモギ *Artemisia vulgaris* L. var. *india* MAXIM 及びヤマヨモギ *A. vulgaris* L. の地上主莖竝に側枝面上に徑1糎乃至2.5糎の球狀にして白色綿絮物にて蔽はれた蟲瘻が形成される。此の綿塊の中下部で蟲瘻が莖面に接する部分は厚き準木質部をなし、其内部に1乃至數個の黄色の幼蟲が棲む。蟲瘻は7,8の兩月間には各1個づつ羽化して成蟲となるが、9月20日以後のものは蛹化することなく、従つて成蟲化せずして、幼蟲の儘で越年し、翌年5月15日前後(盛岡地方)に羽化し出でて産卵する。我が國のみならず滿洲國及び歐羅巴に分布してゐる。

イッセツタマバへ屬 Genus *Misopatha*

鬚は1節よりなり、觸角は雄にては有柄、雌にては柄はあれども短小。翅脈はヨモギタマバへ屬のものと同じ、雌の産卵管またヨモギタマバへ屬のものに似て長く突出し得られる。

ハリヲタマバへ族 TRIBE ASAHONDYLARIAE

縁脈には甚しき鱗毛を叢生せず、觸角節は其直徑よりも長く、雄蟲にあり

ても2節型ならず、爪は單1にして分齒せず、觸角各節は準圓筒狀にして長く、柄部を缺いてゐる。産卵管は突出性である。

ハリヲタマバへ屬 Genus *Asphondylia* LOW

Phyllophaga RONDANI

Cylindr cęra LIOY

- 1850 LOW, H. Dipt. Beitr., 4:20, 21.
 1856 RONDANI, Prodrum I, p. 199 (*Phyllophaga*, *C. fusca* type)
 1861 " Soc. Ital. Sci. Nat. Milano, Atti, 2:2, 5, 7.
 1862 OSTEN SACKEN, R. Dipt. N. America. Mon. 1:176.
 1863 LIOY, Atti del Institut. veneto. S. 3:503 (*Cylindrocera*).
 1864 SCHINER, J. R. Fauna Austriaca Dipt., 2:395.
 1869 OSTEN SACKEN, R. Amer. Ent. Soc. Trans. 2:301.
 1876 BERGENSTAMM, J. and LOW, Paul syn. Cecidomyridarum, p. 22
 1877 KARSCH, F. A. F. Resis d. Gallmucken, 15.
 1888 SKUSE, Linn. Soc. N. S. Wales Proc. 3:37, 39, 43, 10.
 1892 KIEFFER, J. J., Wien Ent. Zeit., 11:220 (*A. sarothamni*)
 1892 RUBSAA MEN, E. W. Bep. Ent. Zeitsch. 37:367.
 1892 THEOBALD, F. V., Acct. British flies p. 1, 85.
 1895 KIEFFER, J. J., Wien Ent. Zeitsch., 14:10.
 1897 " Syn. Cecid. de Europe et d'Algeria p. 11, 1.
 1900 " Soc. Ent. France Ann., 49:446, 447 (*Phyllophaga*) pl. 16
 1908 FELT, E. P. N. Y. S. Mus. Bull, 124:375—376.
 1911 " N. Y. S. Ent. Soc. Journ. 19:47, 48.
 1913 KIEFFER, J. J. Genera Insectrum, fasc 152, p. 91.
 1913 FELT, E. P. U. S. Nat. Mus., Proc 41:197.

Type *Cecidomyia salothamni* H. LOW

鬚は2~3節より成り、複眼は頭頂に於て殆んど接觸し、觸角は14節より成り、第1節は第2節よりも遙かに長く且つ圓錐形、第三~第十四節は長圓筒形にして細長毛を密生してゐる。肢脚の爪は褥毛よりも長く、分齒してゐない。雌蟲の産卵管は甚だ長く、體内に保持され得、基部は割合に廣く、末節は針狀にして甚だ長い。

KIEFFER (1913) 氏は Gen. Ins. pp. 92—95 に於て 108 種を揚げてゐる。其の 31 號、*A. diervillae* FELT は Bull. New York St. Mus., CX, p. 165 (1907) のものであり、其記述には合致せざる點あれども、こゝには本種を此の種と同定する事とした。

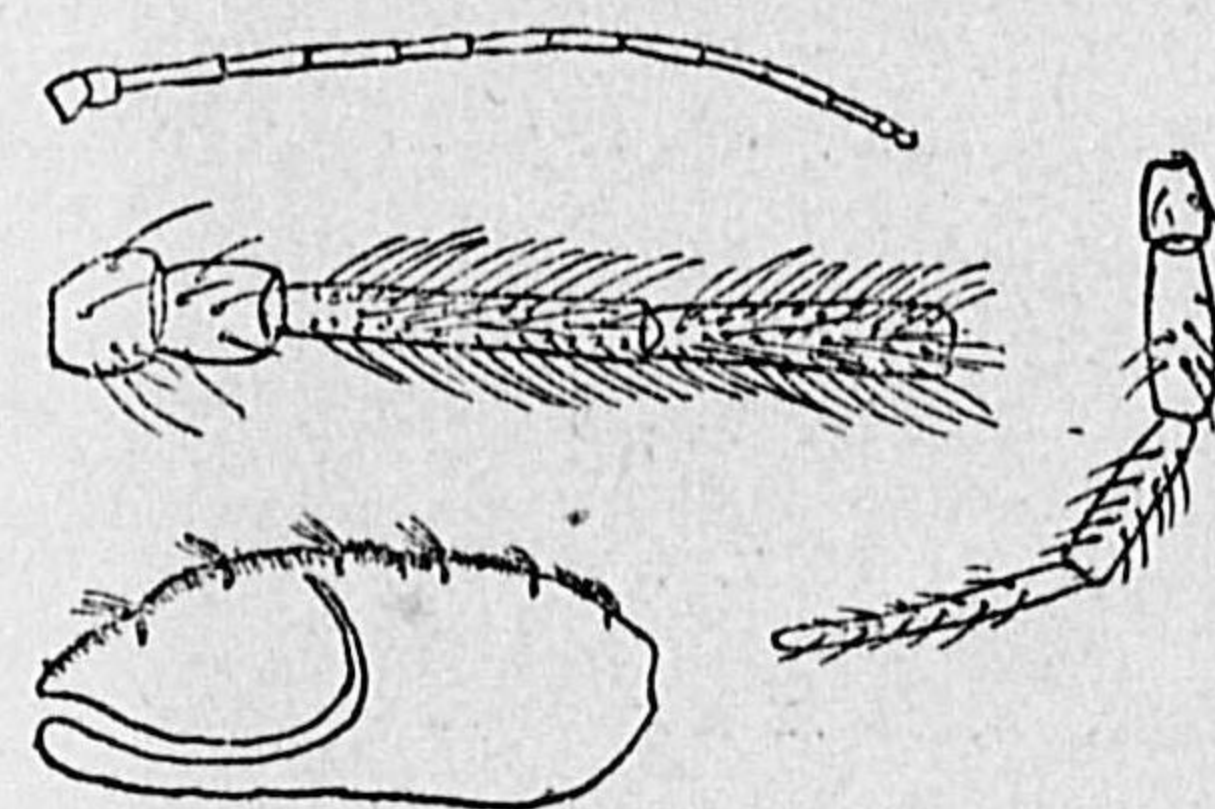
(37) タニウツギハリヲタマバへ

Asphondylia diervillae FELT

原記述 *Asphondylia diervillae* FELT, N. Y. S. Mus. Bull. 183, p. 140 (1916).

副記述 *Asphondylia diervillae* SHINJI, Insect World, 493, p. 1 (1938)
(雌 蟲)

體は寧ろ大形にして赤色、頭部は黄色にして黑色の長毛を生じ、額・頬及び口具は黄色、複眼は黑色。鬚は2節より成り、薄黑色にして長毛を粗生し、



第 22 圖

タニウツギハリヲタマバへの雌蟲の觸角(上)と其の第1—4節の擴大(中)と鬚(右)と腹部(下)

第一節は短小、第二節は第一節の約3倍長である。觸角は15節より成り概して薄黑色であるが、第二節は木炭黑色にして小さく幅よりも短い、第三乃至第十二節は長圓筒狀にして各直徑の約4倍長にして短き微毛を密生してゐる、第十三節は幅の約2倍長、第十二節は長幅約同大、

第十五節は幅の約2分の1長である。

胸部は背、腹共に黒色、側面は概して黄色である。肢脚は細長にして黄色地に黒色の鱗を生じて黒色の外観を添へ、爪は單純にして分齒せず、褥盤は爪よりも短くして黄色である。前翅は薄黒くして薄黒色の細毛を生じ、前縁脈には鱗なく、第三脈は殆んど1直線をなして走り、翅頂に達してゐる。第四脈は明瞭、第五脈は直角に曲りて後縁に達してゐる。平均棍は柄部白色、肥大部は赤色にして黒色毛を生じてゐる。

腹部は背、腹の兩板が赤色にして黒色の横走帯を具へ、黒色の剛毛を多數に生じてゐる。産卵管は短小にして光らず、黒色である。

體長 3.8 耗。前翅長 3.6 耗。觸角長 2.5 耗。

(雄 蟲)

體は帶赤黄色、頭部は黄色、觸角は11節より成りて黒色、第二節は短小にして黒色、第三乃至第十一節は殆んど無柄にして幅の5倍以上に長く細毛を密生してゐる。鬚は2節より成りて薄黒く、第二節は第一節の約3倍長で長毛を粗生してゐる。

胸部は腹、背の兩面が黒色、側面は黄色、前翅は薄黒く。第三脈は殆んど1直線に走り、第四は明瞭、第五脈は分枝せず曲つて後縁へ達してゐる。平均棍は柄部が黒色、肥大部は白色である。肢脚は基・轉・腿の3節は黒く他は概して黄色、爪は單純にして分齒せず黒色である。

腹部は地色は黄樺色にして背腹兩面には殆んど全環節に互りて黒色の横走帯があり、僅かに關接部のみが線狀に黄色。背腹の兩面及び關接部には長毛が多い。抱擁器は寧ろ短大にして黒色、末節は光らず。基部には多數の黒色長毛が生じて居る。

體長 3.6 耗。前翅長 3.4 耗。觸角長 2 耗。

標型地 秋田縣小豆澤。東京高等農林學校境内のタニウツギも此の蟲癭を

生ずるが形は遙かに小さい。

偽針尾癭蠅屬

ニセハリヲタマバヘ屬 Genus *Parasphondylia* KIEFFER

Parasphondylia KIEFFER, Bull. Soc. Nat. Hist. Soc. Metz, XXVIII, p. 93 (1913).

" " Gen. Ins. p. 95 (1913).

鬚は長くして4節より成り、觸角は第一、第二兩節が長短約同長、第三～第九節は長楕圓、以下順次に短い。雄蟲にありては柄部は甚だ短く、纏繞器はくしは針尾で左右へ突出すれ共前後へ彎曲しない。翅の脈相と肢脚と爪とは前屬のものと同じである。産卵管は體よりも長く、抱擁器の基節は肥大長有毛、末節は有毛にして2叉をなしてゐる。

標型種 *P. varicornis* KF., Bull. Soc. Hist. Nat. Metz, XXIIX, p. 93 (1913)

KIEFFER は只1種 *P. varicornis* を前出文獻中に記載し、其の標型種は亞弗利加産のものである。

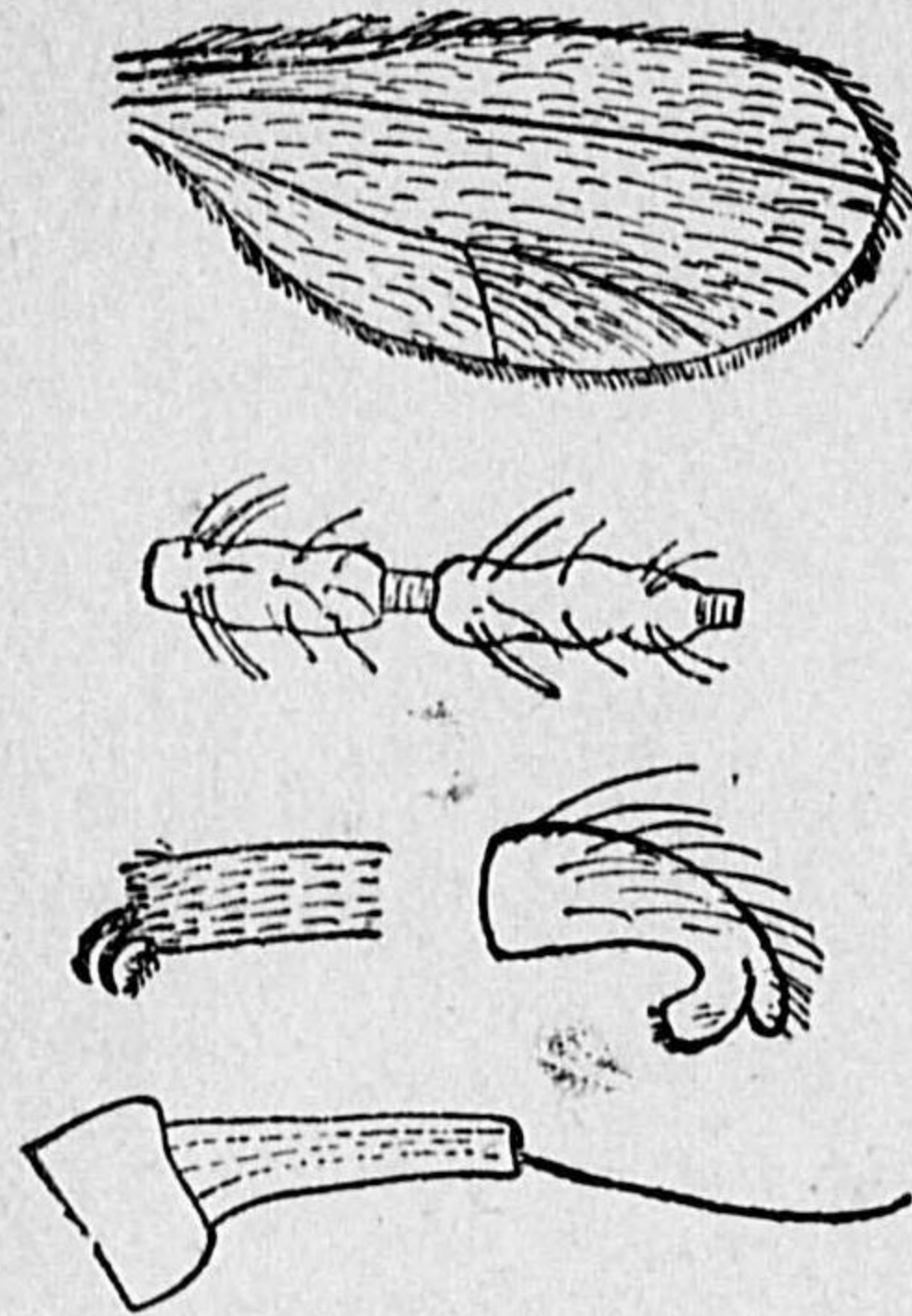
(38)カナムグラニセハリヲタマバヘ *Parasphondylia humuli* SHIN.

原記述 *Asphondylia humuli* SHIN., Kontyu XLIII, 8, p. 2 (1939).

(雌 蟲)

體は中形にして美麗なる朱赤色。後頭部は薄黒くして5個内外の剛毛を生じ、額は淡赤色にして短剛毛を生じ。複眼は大きくして黒色。鬚は4節より成り全長に互りて黄色、第一節は最短片、第二第三の兩節は約同長、第四節は最長片にして第二第三兩節の和と約同長、各數個の黒色短毛を生じてゐる。觸角は14節より成り、第一第二の兩節は黄金黄色、殘節は黒色であ

る。第一第二の兩節は概して長幅約同大，第三乃至第十一節は準圓筒状にして第三節は幅の約5倍長，以下末端になるにつれて順次に短小となり，第十二節は幅の約三倍長，第十三節は2分の3長，第十四節は長幅約同大。各節は殆んど全長に亘つて長毛を生じてゐる。



第 23 圖

カナムグラニセハリヲタマバへの雄蟲の翅(上)，觸角(中上)，跗節端(中左)，把握器(中右)及び雌蟲の産卵管(下)。

胸部は良く發達し，赤色にして背面は小楯板を含み黒色にして黒色毛を粗生してゐる。前翅は黒色を帯び，脈は黒色乃至黄色，前縁には鱗を缺き，長毛を生じ，表面には黒色の微毛が密生してゐる。第三脈は翅頂に達し，第四脈は僅かに毛列によりて，代表せられ，第五脈は2枝に分れ，第一枝は後縁に達してゐる。平均棍は淡赤色にして薄黒き微毛を基部に密生してゐる。肢脚は寧ろ短大，基・轉並に腿節の基半部は黄赤色，殘部は黄色地に黒色の鱗を密生してゐる。爪は單純にして分齒せず，褥盤は爪の約3分の2長にして羽状を呈し，黄色である。

腹部は朱赤色にして肥大，背・腹兩面には長毛を生じてゐる。産卵管は針状にして體の約半長，全長に亘り黄色にして殆んど無毛である。

體長 2.3 耗。前翅長 2.5 耗。觸角長 1.4 耗。

(雄 蟲)

雌蟲に似てゐるが，主なる相異特徴を挙げると，觸角は14節より成るが，第一・第二の兩節は赤色にして薄黒き毛を生じ，第三乃至第十四節は準圓錐状にして有柄，柄部は長幅約同大，幹部は幅の約4倍長にして全長に亘り長き毛

を生じてゐる。腹部の背・腹兩面は朱赤色にして長き黄色毛を密生してゐる。抱擁器は鋏形を呈し，第一節の約3分の2域より第二節が生じ，基節は黄色にして長き黄色毛を密生し，末端は短大にして薄黒く，之また有毛である。

體長 1.9 耗。前翅長 1.7 耗。觸角長 1.0 耗。

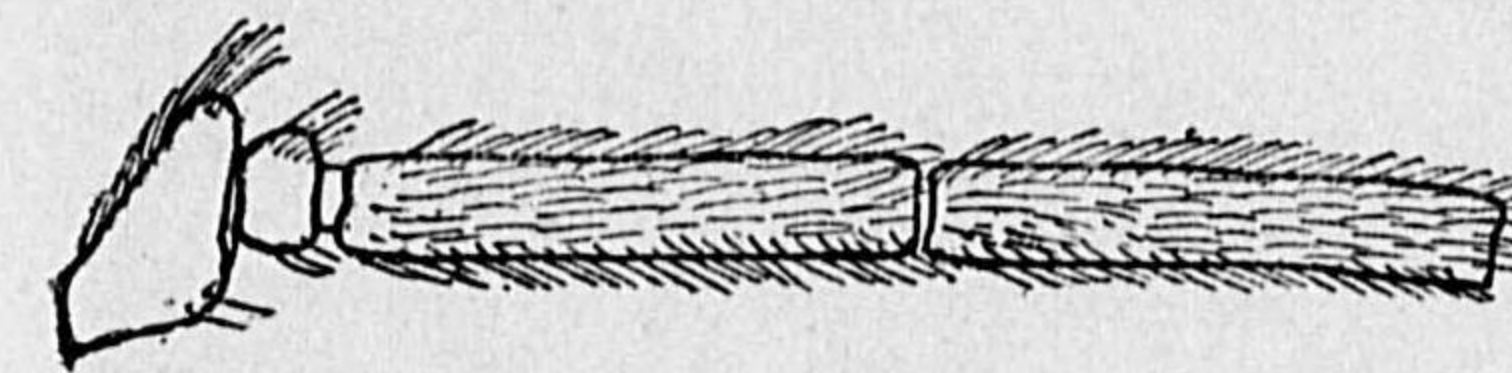
(39) イヌツゲタマバへ *Paraspondylia sasakii* MONZEN

原記述 *Paraspondylia sasakii* MON., Kontyu vol. XI, nos. 1—2, p. 191 (1937).

異名記述 *Shizomyia ilexicola* SHINJI, Insect World, 492, p. 1 (1938).

(雄 蟲)

體は概して帶赤黄色にして長毛を生じてゐるが，鱗は顯著でない。頭部は



第 24 圖

イヌツゲニセハリヲタマバへの雌蟲の觸角第一～第四節

黄色にして後頭部は長き毛を生じてゐる。額，頬及び口具は黄色。鬚は10節より成り，全長に亘りて淡黄色，若干の長毛を生じ，第一，第二の兩節は長幅約同大，第三第四の兩節は約同長にして共に幅の數倍長である。觸角は14節より成り，第一，第二の兩節は黄色，殘節は黒色にして各々約同大，第一節は準三角形を呈し，幅よりも長く，第二節は長幅約同大，第三乃至第十四節は各幅の約3倍長にして約20個の剛毛を二層をなして輪生し，無柄である。

胸部は良く發達し，中胸部の筋葉は黒色，菱状部は淡黄色，兩側面は黄色，腹面は黒色を帯びてゐる。前翅は準透明なれ共薄黒味を帯び，薄黒色の微細なる毛を生じてゐる。前縁には鱗なくして剛毛を生じ，脈は黒色，第三脈は少しく曲りて後に翅頂に達し，第四は明瞭ならず，第五脈は明瞭，分枝せ

す。平均棍は黒色を呈し、若干の長毛を生じてゐる。肢脚は細長にして地色は黄色なれ共黒色の鱗と多数に生じて黒色觀を呈し、爪は單1にして分齒せず、黒色、褥盤は爪の約3分の1長にして黄色である。

腹部は黄色なれ共、背腹の両面には各節に薄黒色の横走帯ありて此部よりは多数の長き剛毛簇生して黒色觀を與へてゐる。抱擁器は黒色、第一節は長き剛毛を密生し、第二節は比較的短小にして若干の短毛を生じてゐる。

體長 2.2 耗。前翅長 2.3 耗。觸角長 1 耗。

(雌 蟲)

體は概して黄色なれども腹部は赤色味を帯びたる黄色である。頭部は黄色にして後頭部及頤には剛毛が生じ、額、頬及口具は淡黄色。鬚は4節より成り、全長に亘りて黄色にして長毛を粗生し、第一、第二の兩節は約同大にして幅よりも僅かに長く、第三、第四の兩節は約同長にして、共に幅の數倍長である。觸角は雄蟲と同じく14節より成り、概して黒く且つ無柄であるが、雄蟲の場合と異りて第十三及第十四節は共に短小にして長、幅約同大である。

胸部は良く發達し、前、中兩胸部の筋葉は黒色、菱狀部は白色、殘部は概して黄色であるが、腹面は薄黒い。前翅は1見黒色であるが、實は準透明にして黒色の微毛を密生し、脈は黒色、前縁には鱗を缺き、長き剛毛を密生し、内縁には薄黒色の長き縁毛が生じてゐる。第三脈は翅端に達し、第四脈は不明瞭、第五脈は單1にして分枝せず、後縁へ曲つてゐる。肢脚は細長にして地色は黒色なれども黒色の鱗毛を多数に生じ、爪は單純にして分齒せず、黒色。褥盤は爪よりも短く、黄色である。

腹部は帶赤乃至帶樺黄色にして肥大し、紡錘狀を呈する。各錘節には薄黒色の横走斑紋帯ありて此の部よりは多数の黒色なる長剛毛密生して黒色觀を與へてゐる。産卵管は針狀に細長く黄色にして剛毛を缺いてゐる。

體長 2.3 耗。前翅長 2.3 耗。觸角長 1.4 耗。

(蟲 瘻)

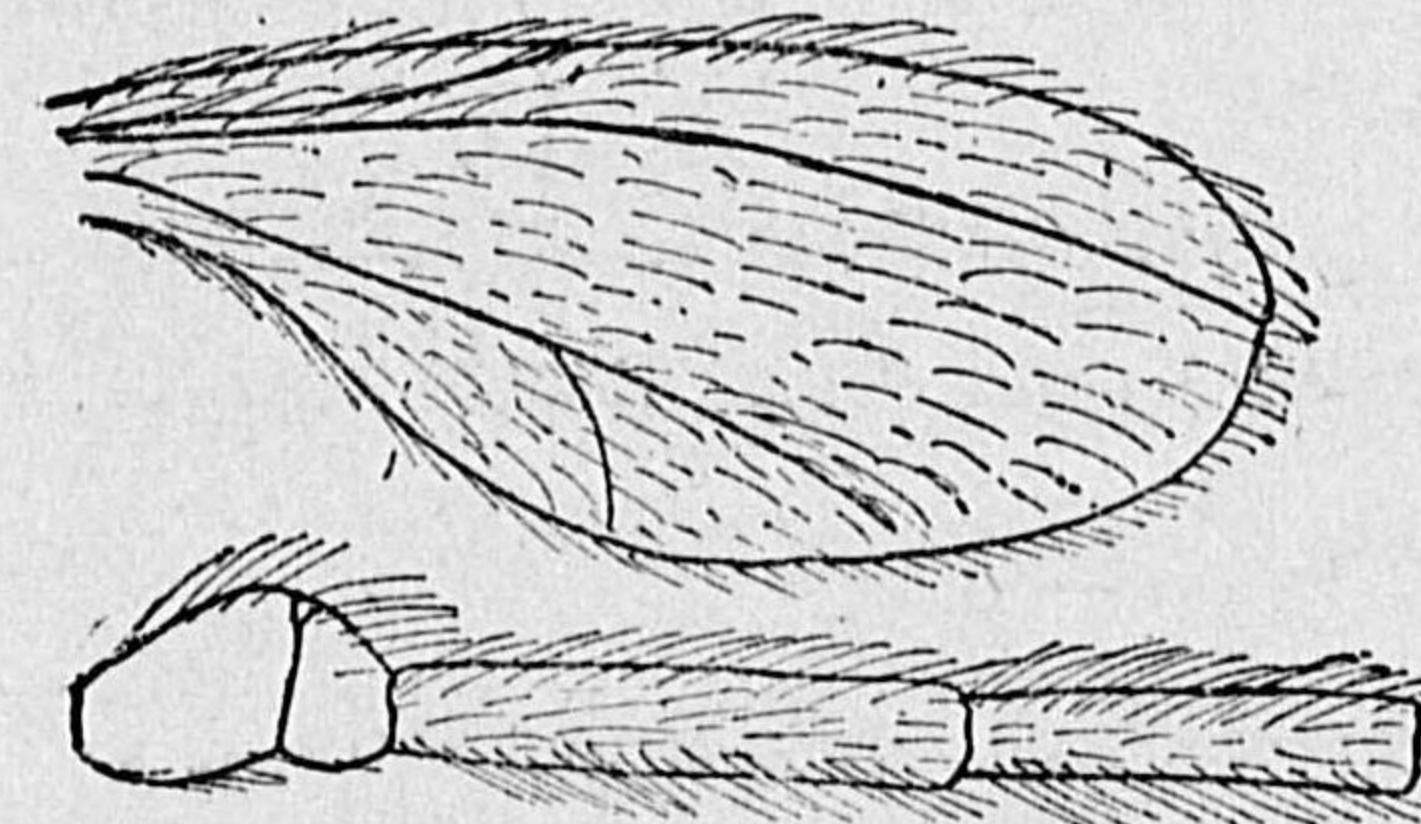
本種は「イヌツゲ」*Ilex crenata* THUNB. Var. *typica* LOES の芽特に葉腋のものに寄生して直径5乃至9耗大の準球狀蟲瘻を形成するものである。蟲瘻の外面は綠色にして平滑、内部は準漿質であり、此の部には縦(中軸に沿うて)に圓筒狀の蟲室が數個あり、幼蟲乃至蛹を容れてゐる。蟲瘻は屢々數葉乃至小枝を側面、末端等より生ずる事あり、多くの場合には昆蟲の飛去後は黒化して枯死するものである。幼蟲又は蛹の有様にて越年し、翌年6月3日—6月12日(盛岡にて)間に蛹は瘻皮より突出して羽化して成體となり、蛹皮を蟲瘻面に殘留せしめるものである。本邦本州、四國、九州の各地に亘りて汎く分布してゐる。

(40) ノブダウミタマバへ *Asphondylia baca* MONZEN

原記述 *Asphondylia baca* MONZ., Kontyu vol. XI, no. 1—2, p. 189 (1937).

(雄 蟲)

體は黄色で少しく朱色を帯びてゐる。頭部は寧ろ小さく、黄色。複眼は大きく



第 25 圖
ノブダウニセハリヲタマバへの雄蟲の翅(上)と觸角
1~4節

して黒色。鬚は薄黒く共第三第四の兩節は約等長である。觸角は15節より成り、全長に亘り黒色である。第一、第二及第五の3節を除けば殘節は略同大で各2旋廻の長毛を具へてゐる。即ち前方の

一旋廻には約8個、基部のものには約12個の長毛があり、加之顕微鏡的小毛は各節に多数あるが長毛の如く直立してゐない。第一第二の兩節は約等長で他節の約半長。第十五節は短い。胸部は黒色。肢は黄色で黒色の長毛と鱗とを生じてゐる。翅は準透明。腹部は準圓筒状で黄色、各環節の背面には1個の黒色なる横走帯がある。

(41) ヲトコヘシタマバヘ *Asphondylia partrinae* SHINJI new species

(雄 蟲)

體寧ろ小形にして帶赤樺色である。頭部は背面薄黒く、額及頬は黄色である。鬚は4節より成り、第4節が最長、第1節が最短にして長幅約同大、第二第三の兩節は約同長にして各節は長き剛毛を粗生してゐる。觸角は14節より成りて體よりも短く、第一第二の兩節は長幅約同大、第三乃至第十四節は黒色を帯び、各節は殆んど無柄にして幅の3倍以上に長く、節長と同長の毛と蔓延たる纏繞器とを具へてゐる。肢脚は細長、概して黄色にして薄黒色の鱗と毛とを生じ、爪は黒色にして單純。平均棍は赤樺色にして黒色の鱗と毛とを生じてゐる。前翅は準透明にして薄黒き細毛を全面に生じ、脈は概して黄色。第三脈は殆んど翅端に達し、第四は缺如し、第五脈は單1にして分枝せず且翅端に達しない。

腹部は肥大にして準紡錘形。背・腹の兩面には黒色の横走斑紋帯があり、且長い剛毛を生じ。抱擁器は2節より成りて黒色。末端節は2分して内外の兩葉をなし共に多数の毛を生じてゐる。

(42) エゴハリヲタマバヘ *Asphondylia styraci* SHIN. n. sp.

(雌 蟲)

體は概して黒色。頭部は薄黒く、頬及び顔は薄黒く、單・複兩眼は黒色。鬚

は4節より成りて薄黒く、1側へ多数の黒色毛を生じてゐる。觸角は14節より成り、第一節は倒圓錐状、第二節は準球形、第十四節は球形、第三乃至第十三節は圓筒形にして各節は殆んど同長同大なれども第十二節は他よりも幾分短く、各節は全長に亘りて長毛を密生し、全長に亘りて黒色。胸部はよく發達し、背面は黒色である。前翅は幅の約2倍長、外角は圓味を帯び、内縁は著しく圓く膨出してゐる。全面に亘り黒色にして黒色の纖毛を密生してゐて爲めに甚だしき黒色觀を呈してゐる。第一脈は翅頂に達し、第二脈は前縁の殆んど中程に於て第一脈に會し、第三脈は翅頂に達し、第四脈は外縁の中程に至り、第五脈は直角に1枝を出し、これは外縁に達してゐる。平均棍は棍棒状にして大きく、毛と鱗とを密生してゐて黒色である。肢には黄色地に黒色の鱗と毛とが生じてゐて爲めに全長に亘りて黒色觀を呈してゐる。腿・脛兩節は約同長、第一跗節は短小にして第五跗節と約同長、第二跗節は脛節よりも短く、第三跗節は第二跗節の半ばよりも幾分短く、第四跗節は第五跗節の2倍よりは幾分短い。爪は黒色。褥毛は黄色にして爪よりも短い。

腹部は各環節共に黒色にして、背面には黒色帯が殆んど全部を覆ひ、こゝには黒色の鱗と毛とが密生してゐ、腹面には黒色の長毛が叢生してゐる。産卵管は針状にして長く、黄色、第十腹環節また黄色である。

(43) ウチハトコロタマバヘ *Rhabdophaga dioscoreae* SHINJI

原記述 *Riveraella dioscoreae* SINJI, *Insect World*, 500, p. 2 (1939)

(雌 蟲)

體は中形にして赤色。頭部は概して黄色、複眼は黒色、口具、額及頬は黄色。鬚は四節より成り全長に亘りて黄色にして黒色の短毛を粗生してゐる。觸角は14節より成り、淡黄色にして、第一第二の兩節は無柄、第三乃至第十四節は各柄、幹の二部より成り、幹部なる肥大部は幅の約2分の3長にして